全国の“道の駅”完全制覇の旅

[東北編]

よしだやすお

シリーズの紹介

★☆★　シリーズのご紹介　★☆★

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [東北編]　2011/01/23出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [四国編]　2011/02/07出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [北海道編]　2011/03/03出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [中国編]　2011/03/25出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [近畿編]　2011/06/14出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [北陸編]　2011/11/29出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [九州編]　2011/9/27出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅［中部・前編］　2013/9/9出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅［中部・後編］　2013/9/9出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅［関東前編］　2014/1/7出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅［関東後編］　2014/8/26出版

※中部と関東は、アップできる容量を越えた為、前編、後編の２冊に分割しました。

【ブログ】

「全国の“道の駅”完全制覇の夢！」　http://ameblo.jp/rs-trip/

【ホームページ】

～新しい旅のスタイル～

「全国の“道の駅”完全制覇を目指す旅！」　http://www.rs-trip.com

東北のスタンプラリー

東北地方の道の駅スタンプラリーは、「期間」としては厳しい条件があります。

たとえば２０１０年度の場合、「２０１０年４月２４日～２０１０年１２月６日」までの期間に東北６県の道の駅を回り終えないと「完走証明書」は貰えません。

期間が４月下旬から１２月初めまでに限定されているのは、冬場には閉鎖される道の駅が東北にはいくつもあるからなんですね。

私たちのように九州からはるばる出かけて行く者にとっては、この短い期間に全部を回り終えるのは現実的に困難です。

でも、東北のスタンプラリーには有難い事に、「夕日ライン道の駅完走賞」と「朝日ライン道の駅完走賞」というのが、別に設けられています。
つまり、青森県、秋田県、山形県の日本海側３県を期間中に回り終えると「夕日ライン道の駅完走賞」
岩手県、宮城県、福島県の太平洋側３県を回り終えれば「朝日ライン道の駅完走賞」となります。

ですから私は、２０１０年度で青森県、秋田県、山形県を回り、２０１１年度に岩手県、宮城県、福島県を回って２年間で東北地方を制覇する計画です。

2011/01/30
朝日ラインの完走証明書が届きました。

2012/5/30

２０１２年度のスタンプラリーから、「夕日ライン」「朝日ライン」という完走証明がなくなりました。

但し、完走については、２年間の猶予があるようになりました。

雨と寒さの洗礼！“なみおか”

今日から“青森シリーズ”をスタートしたいと思います。
回ったのは２８か所、少し長くなりますが、飽きずにお付き合いをお願い致します。(^▽^;)

福岡空港を7：05に飛び立ち、羽田で乗り継いで青森空港に到着したのは11：05です。
残念ながら天気予報で青森地方は“雨”気温１１度となっていました。

でも着いてみると、気温は“８℃”、空港の出口を出たとたん、“寒っ！！”
あわてて服を取り出して重ね着しました。
そしてこの日、これ以上気温が上がることはありませんでした。

今回は「日産レンタカー」でしたが、送迎も手続きもすばやくて、１１時２０分には走りだすことができました。

今回の相棒はこれ、“日産マーチ”です。
３０００ｋｍ程しか走っていない新車です。(^ ε ^)ﾂｲﾃﾙ!

そして向かった先は、空港からわずか１０キロほどしか離れていない
道の駅なみおか　です。

道の駅
東北
Touhoku
すぐそこ
1日目
五所川原宿泊
青森空港着
むつ市
つがる市
五所川原市
横浜町
深浦町
弘前市
黒石市
十和田市
八戸市

道の駅
なみおか
Namioka
アップルヒル
Apple Hill

アップルヒル

青森の道の駅を回って気がついたのですが、東北の道の駅にはすべて “別名” がついているようです。

ここの場合、正式名称は “道の駅なみおか” ですが、標識にも書いてあるように通称は “アップルヒル” と呼ばれています。

“アップルヒル” 直訳すれば 「リンゴの丘」 、そう言えば青森は “リンゴ” が最も有名ですね。

この道の駅、しょっぱなからすごくでかい施設なんですが、上の図の 「Ｌ」 の部分がリンゴ園なんです。
これが “アップルヒル” の名前の由来ですね。

この “リンゴ園” このあと至るところで見かけましたが、今丁度花が咲いている時期でした。
その中の１枚をご紹介！

さて、道の駅の話に戻りましょう。

ご覧の通りあいにくの雨、傘をさして写真を撮る難しさを痛感しました。

実は今年の初め頃から私も “デジイチ” を使うようになったのですが、これだと両手が必要なんです。
傘を首と脇で押えてカメラを構えるのは至難の業です。（笑）

上の写真の建物が、レストランと情報コーナー、休憩室などがあります。

駐車場を挟んだ向かい側の細長い建物は “こみせ横町” と言います。

ここには、定食屋、りんごのお焼き、せんべい、大福などそれぞれ特徴のあるお店が並んでいます。

そして正面にはイベント広場があり、それを囲んでお土産コーナーと農産物直売所があります。

アップル
友の会
特産物直売所

実はこの道の駅、空港に近いことと、土産コーナーが充実していた為に、５日目の最終日に再び立ち寄り、最後のお土産を揃えました。

この初日も車が一杯だったんですが、最終日は日曜日、ものすごい混雑ぶりで、結局路上に駐車せざるを得ませんでした。
その時の、“晴れた日”のこの道の駅を最後にお見せしておきます。

まるで雰囲気が違いますね。（笑）

Appu Hill
「道の駅」
アップルヒル
〒038-13
青森県青森市浪岡大字女鹿沢字野尻2番地3
TEL 2-62-1170 FAX0172-62-1171

弥生の里！“いなかだて”

青森県の２か所目は、一部高速を使って２５分で到着した
道の駅いなかだて　です。

ここは、“弥生の里” という 「別名」 がついています。

相変わらずの “雨” です。
このどんよりとした空をご覧ください。(Ｔ▽Ｔ;)

この駐車場の奥に見える、左側が“産直センター”右側が、“レストラン”です。

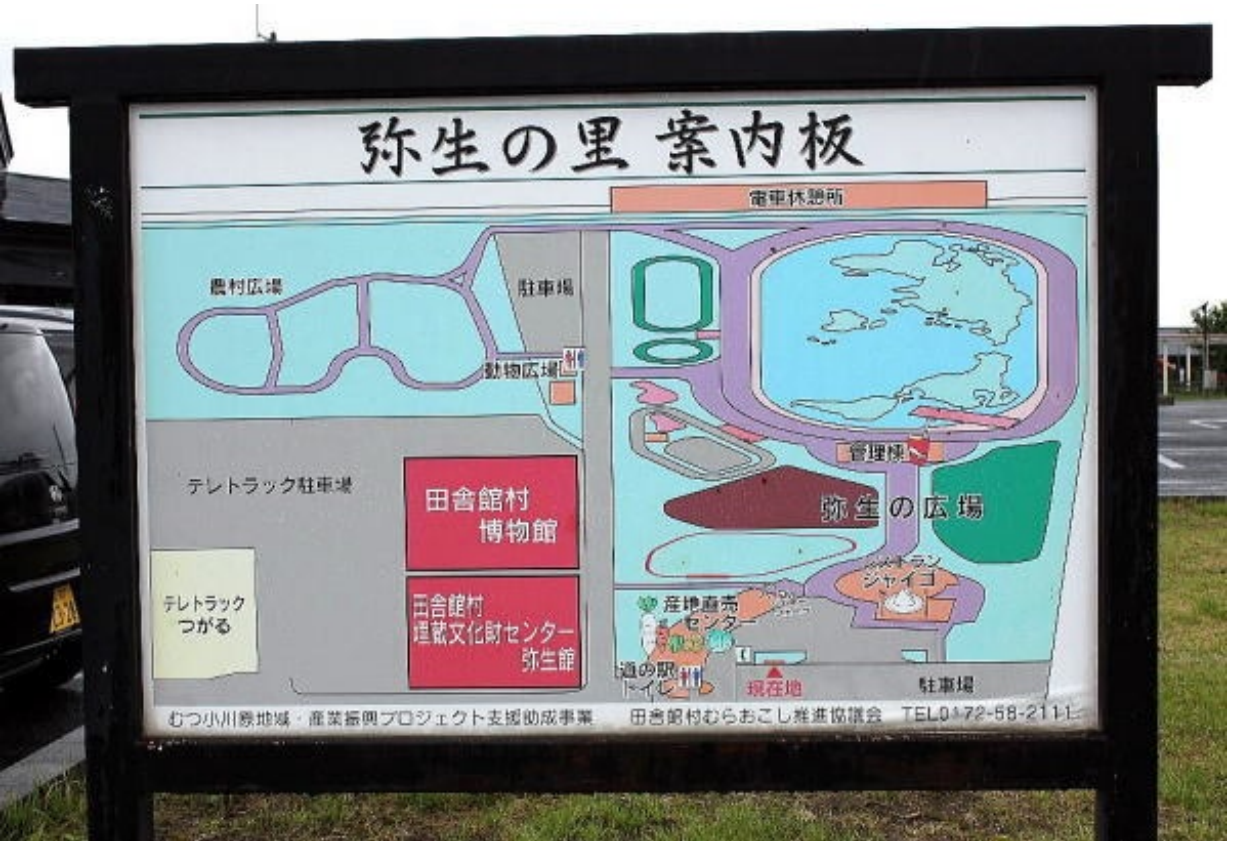
そしてついでに、この“松の木”、風の影響でしょうかね！？

しっかり耐えています。（笑）

産直センターの方に入ってみました。

結構広い売り場です。
この端の部分が情報コーナーになっていて、スタンプもそこに置いてありました。

さて、この道の駅がなぜ “弥生の里” と名付けられているかということですが、
この地区には、“北限の弥生時代水田跡” と言われる 「垂柳遺跡」 というのがあるのです。



これがここ “弥生の里” の全体案内図なのですが、道の駅自体は右下のほんの一部で、いろんな広場があり、そして画面左下には、“田舎館村博物館” と “埋蔵文化財センター” があります。

この埋蔵文化財センターには、垂柳遺跡で発掘されたさまざまな土器などが展示してあります。

時間の余裕もないし、この雨の中ですから実際には行かなかったのですが、私は日ごろから道の駅に置いてあるその土地のパンフレットやチラシを持ち帰ってこの記事の材料に使わせて貰っています。

ということで、この埋蔵文化センターのチラシも貰ってきたのですが・・・・・・

間違って “英語版” を持ち帰ったので　・・・・　意味はわかりません！。(´д｀lll)

道の駅 いなかだて
田舎館式土器
稲文化の村 弥生の里

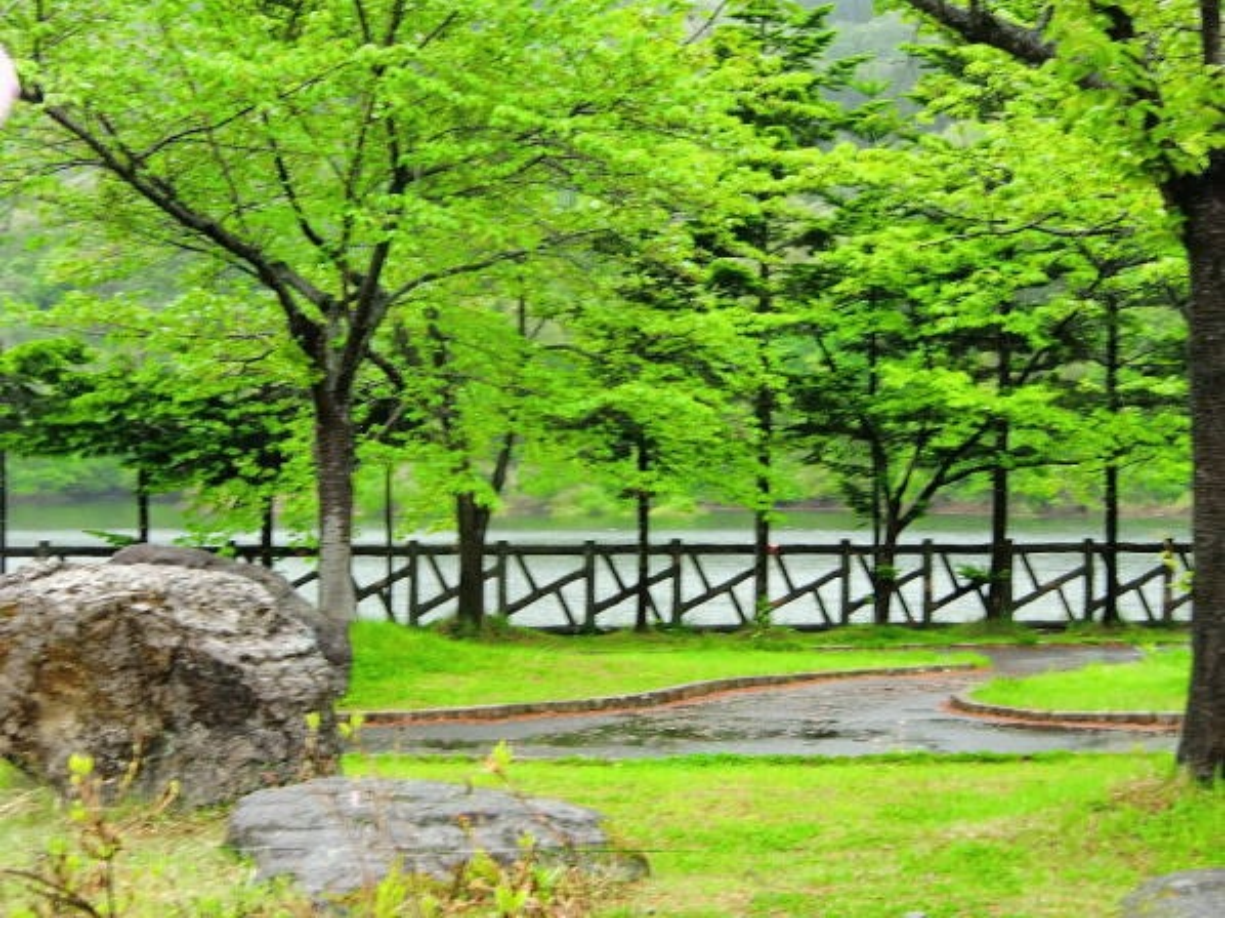
ダム湖に浮かぶ！“虹の湖”

３か所目に訪れたのは、十和田湖と弘前のほぼ中間に位置する
道の駅虹の湖　（にじのこ）です。

ここは“浅瀬石川ダム”の ダム湖に浮かぶ形の“虹の湖公園”の中にあります。
ダム工事に伴う工事用沈殿地跡を利用して作られた公園なのだそうです。

公園全体としてはこんなに広いのです。

そしてこの日、まだ雨は止みませんが、雨の日や雨上がりっていうのは、樹木がとっても綺麗なんですね。



この木々の先にある水面がダム湖です。

ここには、“管理棟・物産販売所” があり　・・・・・

また、別の方角に “レストハウス” がありました。

この二つが道の駅のメインの建物らしく、“スタンプ”は、その両方に置いてありました。

更に公園の中を先へ進むと、こんなものがありました。

これは “加伊寿（かいず）の泉” といって、泉自体はイタリアの “トレビの泉” をかたどったものだそうで、中央に立つこの女性は、“加伊寿御前” と言います。

“加伊寿御前” は鎌倉末期の方で “暗がりでも明るくなるような美人” と伝えられ、ここ 「黒石美人」の典型なのだそうです。

現代風にアレンジされているとはいえ、とても魅力的な女性ですね。

さて、レストハウスに入ってみました。

そこで発見したものがこれ・・・・・・！

丁度お昼ごはんも食べてなかったし、“おっ！これは旨そう！”と覗いていると、中の女性が早速話しかけてきました。

“これはね～、ここでしか食べられないんですよ～”
“ほら、この本にも紹介されますよ！”

と奥から取り出してきたのがこの本！

確かに、「人気Ｎｏ．１」として大きく載っています。
そして、この黄色くマルをつけたのが、その話しかけてきたおねえさん！（笑）

“このあいだ取材に来てね、そのあと出来上がったからってこの本、持ってこられたんですよ！
　コンビニでこの本、売ってますよ”

早速この人気Ｎｏ.1の“もちもちドーナツ”と 人気Ｎｏ.2の“虹の湖コロッケ”を買い、テーブルに座ってこのおねえさんと話しながら頂きました。

このドーナツ、本当にもちもちしてて、すっごく美味しいのです。(￣▽+￣*)

ドーナツを食べながらのおねえさんの解説によると、ここは古いダムが台風で破壊されてしまったので、新しく作り変えられたのだそうです。

そして、湖の周りの木々は“桜”　で、丁度弘前城の桜が終わった頃から咲き始め、今年はゴールデンウィーク明けが最も見ごろだったそうです。

この公園が、特に夏場などすごく賑やかなことなどを色々と話してくれました。

この後、早速途中のコンビニに立ち寄ってこの本を買い求めました。

青森県だけのローカル誌なのですが、青森県の道の駅２７か所すべての説明が詳しく掲載されており、この後の道の駅巡りにすごく役にたったことは言うまでもありません。

そして、この “道の駅虹の湖” 、この日はほとんどお客がおらず、少し寂しげなイメージだったのですが、最終日の日曜日に再びこの道路を通ったとき、駐車場がぎっしりクルマで埋まっているのをみて本当に驚きました。

道の駅(国道102号)
虹の湖
2003
Nijinoko
P
虹の湖公園ふれあいの広場
Nijinoko Communication Park

津軽藩関所跡！“いかりがせき”

虹の湖から山越えして再び国道７号線に戻り、青森県南玄関に位置する
道の駅いかりがせき　へ向かいました。

青森県の道路は山越えであってもきちんと中央線があり走り易いのですが、なにせこの雨の中、道路には落ち葉も散乱しています。
到着するころには、白いクルマはすっかり泥にまみれていました。

ここ “青森県平川市碇ヶ関” はかつて津軽藩の頃に関所が置かれていた場所です。
ですから、この道の駅の正面入口にも、その雰囲気が残されています。

建物の方は “庄屋屋敷” をイメージした純和風造りで統一されていますね。

この道の駅の配置図を先に見て頂きましょう。

正面に大きな建物が二つあり、左が “文化観光館”　・・・・

右側が “特産品販売所” になります。

そしてその後ろにあるのが “関所資料館” と “温泉交流館「御仮屋御殿」” の建物です。

鎌倉時代に開湯したという“碇ヶ関温泉”がこの地域にはあり、ここの温泉交流館は、
貸切の「殿様風呂」、屋根つきの「大名足湯」、足つぼを刺激する「足軽足湯」などがあるそうです。

さて、“文化観光館”に入ってみました。

入口は吹き抜けになっています。

津軽 関の庄
津軽 関の庄
津軽 関の庄
津軽 関の庄
津軽 関の庄

青森県の道の駅の売り場に共通するのですが、このような大凧がよく飾ってあります。

そして一番奥は展示室になっていて、丁度この “津軽凧” の展示会があっていました。

今回この４か所目の道の駅から傘は必要なくなり、以降移動中は雨に降られても、目的地に到着すると雨が上がるようになりました。

道の駅
いかりがせき
津軽「関の庄」

初めての秋田県！“やたて峠”

碇ヶ関の道の駅からはわずか８ｋｍしか離れていませんが、県境を越えて秋田県に入り、
道の駅やたて峠　を訪れました。

私にとって初めての秋田県ですが、青森県との境をほんのちょっと越えた場所にあります。

“矢立峠” というだけあって、深い山の中ではありますが、国道７号線の交通量はさすがに多いです。

そしてここは、世界遺産 “白神山地” の東端に位置し、美しい秋田杉に囲まれていました。

広い駐車場の脇に小さな建物がありましたが、これはトイレのようです。
トイレの入り口には、観光パンフレットや端末がありましたから、インフォメーションを兼ねているのでしょう。

国道からの入口の角に大きな建物があります。

“大館矢立ハイツ” という文字が建物の壁にあり、どこにも道の駅の表示がありませんが、ここに間違いはなさそうです。

恐る恐る入ってみると、正面にやっと道の駅の表示があって一安心！

そして、小さめの土産コーナーがあり、その先には“フロント”があります。
この“大館矢立ハイツ”というのは、温泉施設を備えた公共の宿だったのです。

サウナや露天風呂のある温泉だけなら３００円、宿泊しても１泊２食付きで７５００円ですから、温泉保養やグループでの小旅行などに利用できそうです。

土産コーナーを覗いてみました。
秋田と言えば、やはりこれ、“きりたんぽ” ですね。

まあ、次に秋田県を回る時に味わうことになるでしょう。
そして、右下には、“比内地鶏飯” の文字が見えます。

ここ “大館市” は、天然記念物 “比内鶏” の発祥の地なのだそうです。

ただ、この国道７号線をもう少し先に進むと “道の駅ひない” というのがありますから、いずれそこを訪れた時に詳しく触れることにしましょう。

この道の駅、周りの新緑が綺麗で環境には恵まれていますが、公共の宿をむりやり道の駅に登録した感じで、少し物足りなさを感じました。

道の駅・やたて峠
大
天然杉といで湯の里
大館矢立ハイツ

弘前城見れず！“ひろさき”

再び県境を越えて青森に戻り、向かったのは

道の駅ひろさき　です。

途中ちょっとだけ東北自動車道を走り、大鰐弘前ＩＣでおりて５分くらいの場所にありました。

でも、この看板って、スーパーマーケットみたい！！
名前も“サンフェスタいしかわ”って、スーパーの名前じゃないの？
ちなみに“いしかわ”はここの地名です。

見た目もスーパーだよね！（笑）

もうひとつ別の建物があります。

こっちは “かんばっ亭” という手作りおかずの店！

ということは、やっぱりスーパーもどきがメインなのか！

弘前は“お城と桜とりんご”が有名ですが、この道の駅のある石川地区は弘前の中でも特にりんご栽培の盛んな地域です。

“毎月５日は「りんごを食べる日」”なんだそうです。

１か月に１回だけでいいのかな～

中に入ってみると、やっぱりここはスーパーですね。
普通の主婦が夕飯の買い物をしています。

ということで、ここは早々に退散！

そして、折角ここまで来たなら“弘前城”を見ない訳にはいくまいと、ナビを弘前城に設定しました。
場所的には、本日最後の道の駅への途中から少し寄り道します。

で、弘前市内に入り、弘前城の道路標識やナビに従って付近まで辿りついたのですが、駐車場が見当たらない。
ナビの示す“目的地”には、弘前公園の裏口らしき入口があるんだけど、そこには学校があって、「部外者の立ち入りを禁止する」って書いてある。

付近をうろうろしたけど停めるところがなく、結局諦めることに・・・・。(Ｔ▽Ｔ;)

悔しいので借用した写真を載せておきますね。

でも、結果的にはこのあとの予定がぎりぎりだったから、ここで弘前城見学をしていたら、とうてい間に合わなかっただろうと思います。

鶴が舞う！“つるた”

弘前城観光を諦めて向かったのは、今夜の宿泊場所 「五所川原」 にほど近い
道の駅つるた　です。

ここ “北津軽郡鶴田町” は、国道３３９号線バイパス沿いにありますが、クルマで１０分程の距離には、“津軽富士見湖” という景勝地もあり、絶好のロケーションです。

“津軽富士” つまり 標高1625ｍの名峰 “岩木山” はこの道の駅付近からでも十分見えるはずなのですが、相変わらずの深い雲に空が覆われており、まだその姿を拝むことができません。

この広い敷地には大きな建物が３つあるのですが、まずこれが“交流施設「鶴の里あるじゃ」”です。

そしてその横にあるのは、“鶴田町大豆・米加工施設”と看板のある建物です。

ここは入口付近がお店になっていて、鶴田産のお米を使った弁当、おにぎり、そして米粉パン、それに大豆の加工食品などが販売されていました。

そして、ふと気がついたのですが、ここの屋根、何か“鶴”をイメージしていませんか？
先ほどの交流施設の方も鶴が大きく描かれているし・・・・・・・・

そして３つ目の建物をご覧ください。

これは“トイレ”なんですが、２羽の鶴が寄り添っているように見えますね。

ここ“鶴田町”は鶴の里です。
近くに“丹頂鶴自然公園”というのがあり、更に“鶴の舞橋”という名前の全長300ｍの三連太鼓橋、日本一長い木の橋があります。

そしてこの道の駅のサブタイトルは　“鶴の里あるじゃ”です。

“あるじゃ”というのは、スペイン語の「グルジャ（鶴）」と「アラー（翼）」を合わせた造語だそうで、また、津軽弁の「見つけた！」「ここにある！」といった意味にも通じるのだそうです。

さて、道の駅のメインである、“交流施設「鶴の里あるじゃ」”にはいってみました。

ここは半円形の構造になっていて、裏側にはイベント広場があり、観覧席まであるのです。

そして店内に入ってみると、ここにも “鶴” が・・・・・・・。

天井を２羽の鶴が、優雅に飛んでいました。(￣▽+￣*)

さて、今回の青森の旅、初日の道の駅はようやく終わりです。
でも、もう一か所行くところがあります。

実は以前ご紹介した “虹の湖” の道の駅で、“もちもちドーナツ” を食べながらそこのおねえさんと話をしていた時、「今晩は五所川原に泊まる」 と言うと、ぞれなら 「ねぶた会館」 に是非とも行った方が良いですよ、と強く勧められたのです。

青森にきて “ねぶた” を見ないで帰るわけにはいきませんが、今の時間は既に １７時４０分　・・・・　急がねばなりません！

ですから、次回は五所川原の “立ねぷた” を紹介しますね！(*^^)v

巨大なねぷたに驚く！

１日目の道の駅７か所巡りは終わったのですが、五所川原のホテルに入る前に、
立佞武多の館（たちねぷたのやかた）　を見学に行きました。

あとで分かったのですが、この “立佞武多の館” から今夜泊まる “ホテルサンルート五所川原” まではほんの５分程度の距離で、泊まった部屋の窓からもこの建物が見えました。

“立佞武多の館” の駐車場に到着したのは１８時を過ぎていたのですが、駐車場のおじさんが
「１９時で駐車場は閉まるから、それまでに戻ってね！」 と声をかけてくれました。

ここの入場券を見せると駐車料は “タダ” なのだそうです。

時間が遅いのでこの時点で見学者は他にいなかったのですが、受付のおねえさんが
「ＪＡＦカード持っていませんか？割引になりますよ！」 と親切に教えてくれました。

今まで一度も使ったことのないＪＡＦカードをたまたまポケットに入れていたのでラッキー！
通常６００円の入場料が１割引きです。

入場券を買うと、若いおねえさんが展示室に案内し、説明をしてくれます。
その展示室で目にしたものは・・・・・！

青森県には、「青森のねぶた」「弘前のねぶた」そして、ここ「五所川原の立佞武多」の３大佞武多があります。

青森は「ねぶた」　五所川原と弘前は「ねぷた」と呼びます。

更に、青森と弘前は高さが低いのに対し、五所川原は「立佞武多」の名の通り、高さが７階建ビルに匹敵する“２２ｍ”もあるのです。

この展示室には、３体の佞武多が飾られていました。

最初のこれは“又鬼（またぎ）”と言って、今年の新作であり、今年８月４日から８日までの“立佞武多祭り”で、初めて町を練り歩きます。

こちらは昨年の作品で “夢幻破邪” といいます。

最後のこれはそれ以前に制作された作品ですが、佞武多は「２年間」しか使わないのだそうです。
ですから、この佞武多は今年７月になったら解体されます。

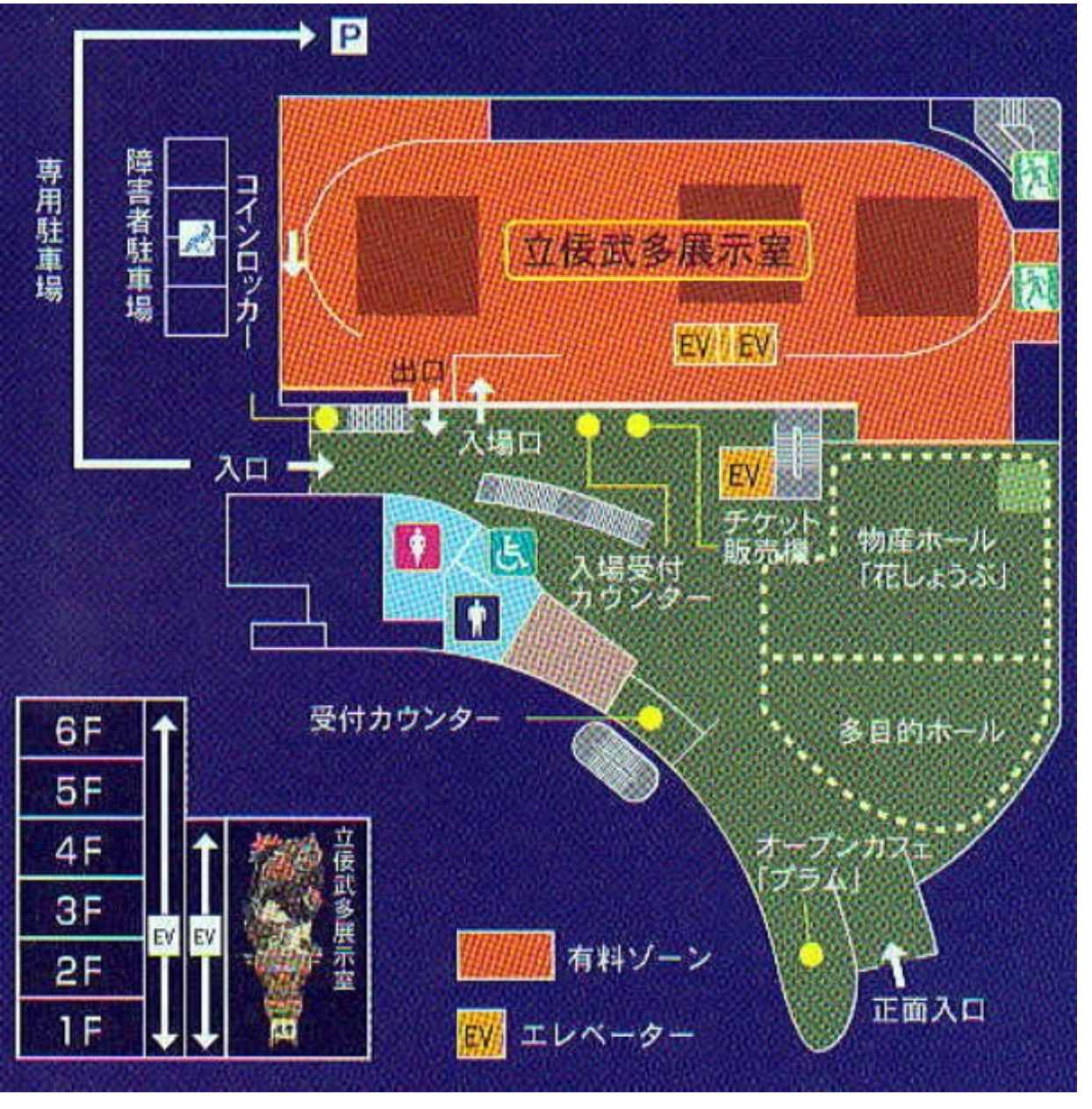
元々ねぷたは“障子紙”を使っていますから、解体後は“うちわ”などに生まれ変わるのだそうです。

これは、“台座”の部分を写したものです。
立佞武多は、台座部分が高さ１０ｍ、そしてその上に乗る本体部分が１２ｍあり、重さが１８トンです。

「ねぶた祭り」は、七夕の日の灯篭流しが起源という説があり、この台座に書かれている「雲漢」とは、「天の川」を意味する言葉だそうです。

さてここで、この「立佞武多の館」の建物について紹介しておきましょう。

高さ３８ｍ、地上６階建ての建物です。（パンフレットより写真拝借）

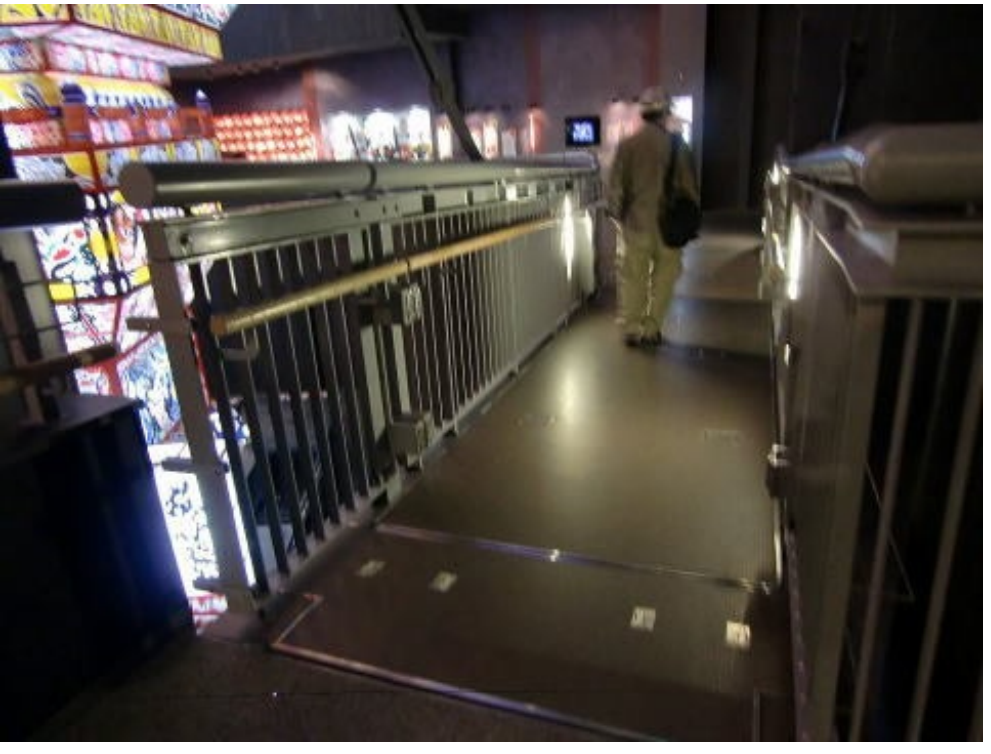


そして中は６階建てですが、４階までが吹き抜けの展示室、５階は工房、６階は展望ラウンジになります。

私たちは、まず１階展示室で説明を受けた後、エレベーターで４階まで上がります。
４階では、この巨大な立佞武多の顔の部分が真正面に来る訳です。

そこから螺旋状のスロープで作品を見ながら１階まで下りてきます。

そして驚くことはこの螺旋状の通路ですが・・・・・・



ある部分がすべて跳ね上がる仕組みになっており、更にそこのガラスの壁が４階まですっぽり外れ、そこからこの佞武多達は“立ったまま”の形でお祭りの街へと 出陣 するのです。

そして１時間ごとと思いますが、展示室の巨大スクリーンに、この佞武多を制作する様子だとか、実際の祭りの様子が映し出されます。

３階部分にある“観覧席”で、我々だけの為に上映されるこの迫力ある映像を楽しむことができました。

青森方面に行かれる方、是非この“立佞武多の館”、見学されることをお勧めします。

地球のてっぺん！？“もりた”

いよいよ２日目です。

五所川原のホテルを出て、最初に向かったのは
道の駅もりた　で、３０分弱で到着です。

今日のコースは津軽半島をぐるっと一回りして、青森市内に宿泊します。

この道の駅のサブネームは “アーストップ” です。
はて、直訳すれば 「地球のてっぺん！？」

何の意味なのか調べてみました。

実は、ここから車で５分の距離に、“つがる地球村” という滞在型リゾート施設があります。
（リンクしているので関心のある方はクリックしてね！）

その “地球村” の先端に位置するから “アーストップ” だって！
単純すぎてがっかりですな～ (￣□￣；)

ここへ到着したのが８時４５分、開店は９時からなので店員さんが建物回りの掃除をしてました。
我々も開店まで付近をうろうろ！

まず目につくのがこの左手に見える、大きな藁ぶき屋根の古民家！

ここは “旧増田家” といい、明治中期に建てられた地元で一番の地主の建物なのだそうです。
つがる市の有形文化財なんですね！御見それしました！

大小１１の部屋があり、釘を１本も使わない工法で、特にこの軒周りの造りに特徴があるそうです。

で、現在はというと　・・・・・

“案山子” という屋号のそば処になっているのです。
今年の４月にオープンしたばかりだそうです。

古民家の前は芝生の綺麗な庭があり、その向かいにはこの建物があります。

これはトイレなんですが、この古民家に実にマッチしていますね。

さて、そろそろ開店なので入ってみました。

なかなか綺麗な店内ですが、まだ掃除中です。

お酒のコーナーがなかなか充実しており　・・・・・　地酒が気になる　・・・・　。

そして、その先にあるのは　・・・・・・・

“おらほのめへ”？？？？　何かの暗号か？

行ってみると、野菜、果物の直売所でした。

“おらほのめへ” というのは、津軽弁で “私たちのお店” という意味だそうで、つがる市の農家の友の会で運営されており、毎朝農家のおばさん達が採れたての野菜や果物を持ってきて並べるのです。

さて最後に、道の駅の前ではテントを張って、リンゴジュースの即売の準備をしていました。

我が道の駅の同志 俺ですさん の情報によると、ここではリンゴジュースの試飲をやっていたそうです。
私の時は、準備中だったので飲みそこなった。

でも　・・・・

このおねえさん達の着てるジャンパー、アップルジュースではなくて、“ジュウス” というのが気に入ったので、盗み撮りしちゃいました。(^▽^;)

“アーストップ” って地球なのに、なぜスタンプは四角なんだろう？

いか焼き村！“ふかうら”

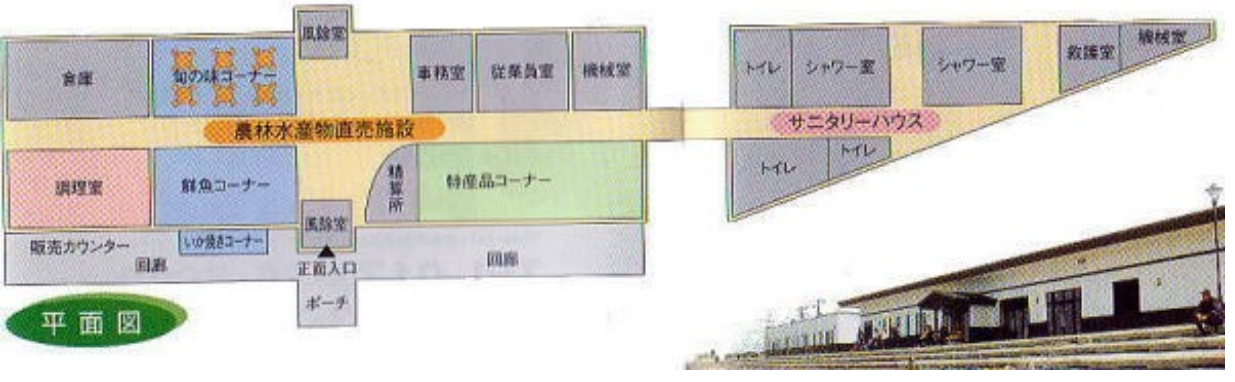
青森県の日本海側に出てしばらく南下すると

道の駅ふかうら　があります。

右手に荒々しい日本海の海岸線を眺めながら快適な道路を走って来ると、
この愛嬌ある “いか焼き村” の看板が目につきます。

良く見るとこの イカくん、シュノーケルをつけているんですね。（笑）

建物は細長く、この右側にも別の建物が続いています。
そして、この真裏に海岸線が広がっています。



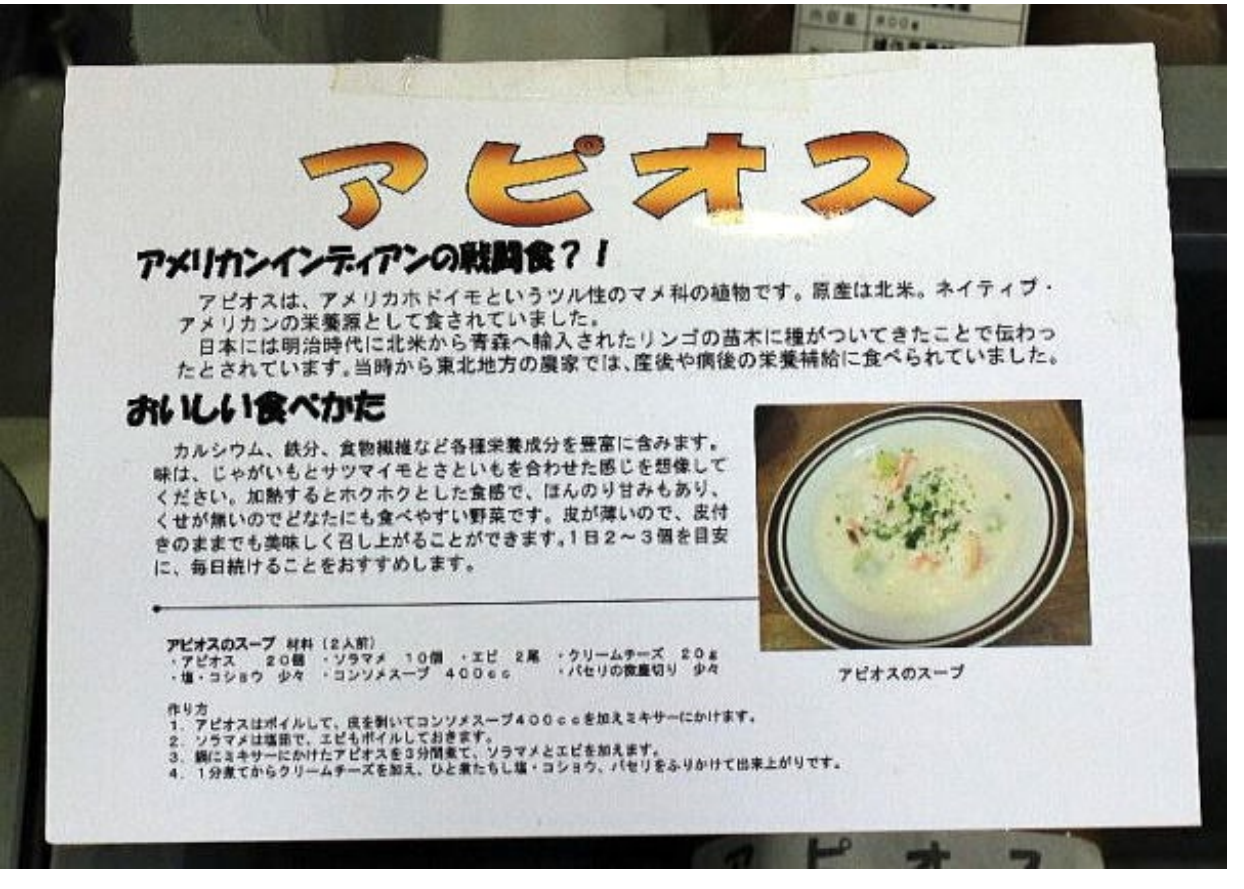
肝心の “いか焼き” というのはこの部分ですが、朝早かったからでしょうか、店員さんの姿もありません！

中に入ってみました。

やはり日本海沿岸だけあって、海産物が豊富です。

ここで珍しいものを２つ見つけて買って帰りました。
そのひとつはこれ！

小型のジャガイモのように見えますが、“アピオス”と言います。



アメリカンインデイアンの戦闘食だそうで！！（笑）

自宅でふかして食べてみましたが、ジャガイモとさつまいもをミックスしたような、甘い味です。

塩だけふりかけると、ビールのつまみになりますね！

そしてもうひとつは・・・・・。

東北と言えば“ハタハタ”です。
これの燻製で、“頭からがぶりと！”と書いてあるのが気に入って買いました。

レジで尋ねると、炙ったりせずにそのまま食べるのだそうです。

自宅で食べてみました。
袋を開けたとたん　・・・・・・・・・・

「ううううううっ！」今まで経験したことの無いような異様な臭い！
万一帰りの飛行機の中で袋が破けたら、機内はパニックになったでしょう！（笑）

私は「くさや」というのを食べたことは無いのだけど、おそらくこんな臭いがするんじゃないかな、と思いました。

それでも鼻をつまんで食べてみました。

堅い・・・・！

味はまあまあだけど、１匹だけであとは廃棄処分に・・・・・・・。（涙）
ごめんなさい！ハタハタくん！

さて、この深浦の道の駅を離れて再び来た道を戻る途中、気になった場所に立ち寄りました。

道の駅からは１０分ほどしか離れていませんが、“千畳敷海岸”と言います。

ここには、さまざまな形をした “奇岩” が海の中に立ち並ぶのですが、分かりやすいのをひとつだけご紹介！

これは “ライオン岩” と言います。
確かに顔の部分、百獣の王ライオンの風格がありますね。

さて次は、いよいよ津軽半島に突入です！

湖のほとり！“十三湖高原”

次はいよいよ津軽半島を回りますが、その最初は
道の駅十三湖高原　です。

ここはさすがに遠く、その前の深浦の道の駅から７０ｋｍ、１時間４０分かかりました。

津軽半島に入った頃から空模様は再び崩れ、かなり激しい雨にも見舞われましたが、
そこは自称 “晴れ男” の私、道の駅に到着した時はちゃんと雨は止んでいます。(^▽^;)

この “十三湖” 、一部分が日本海と繋がった汽水湖で、青森県では３番目の広さになります。

ひとつ前の “道の駅ふかうら” をもう少し先へ行ったところに白神山地の “十二湖” があり、私も最初混同していました。
“十二湖” の方は、実際には３０程の湖からなっており、大きいのが１２個見えたためこの名前がついていますが、“十三湖” の方は、どうみたって湖はひとつですね。

なぜ“十三湖”と呼ばれるかは“謎”です。(＝◇＝;)

この海水と淡水が混じり合う汽水湖、名産はやはり“しじみ”です。

しじみはあさりなどに比べはるかに栄養価が高いのですが、ここ“十三湖のしじみ”は、そこいらのスーパーで売っているしじみとは全く違って、“日本一”美味しいのだそうです。

ただ、資源保護の為に厳重な漁獲制限をしており、漁獲量１９００トン程度と、同じくしじみで有名な島根県の宍道湖の９０００トンと比較して圧倒的に少ないので、東北以外には出回らないのだそうです。

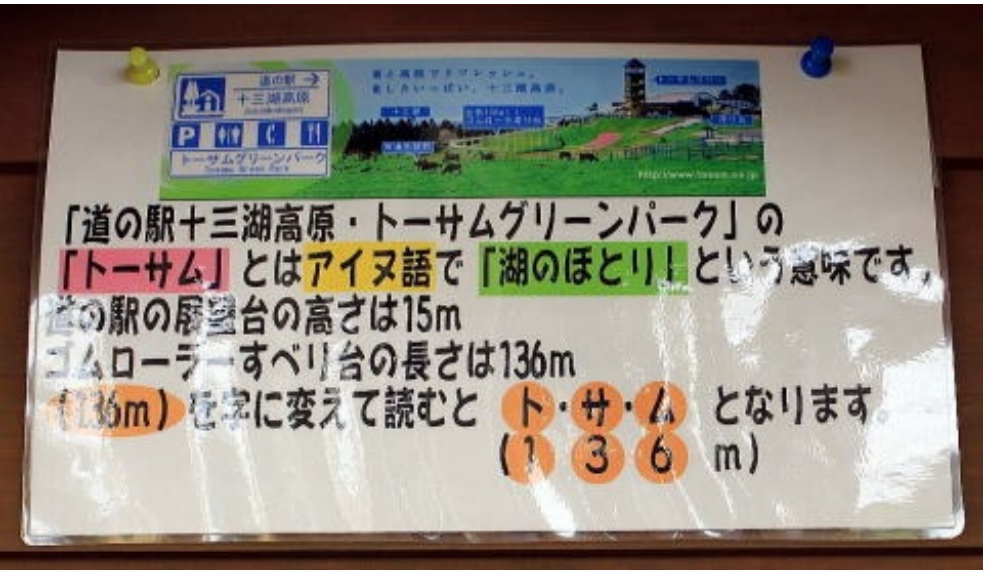
さて、道の駅の建物は一部工事中ですが、その先に何か“塔”が見えますね。

これは “市浦村十三湖高原展望台” といいます。
“市浦村” という地名は市町村合併により無くなったのですが、十三湖はその旧石浦村の面積の５分の１を占めるそうです。

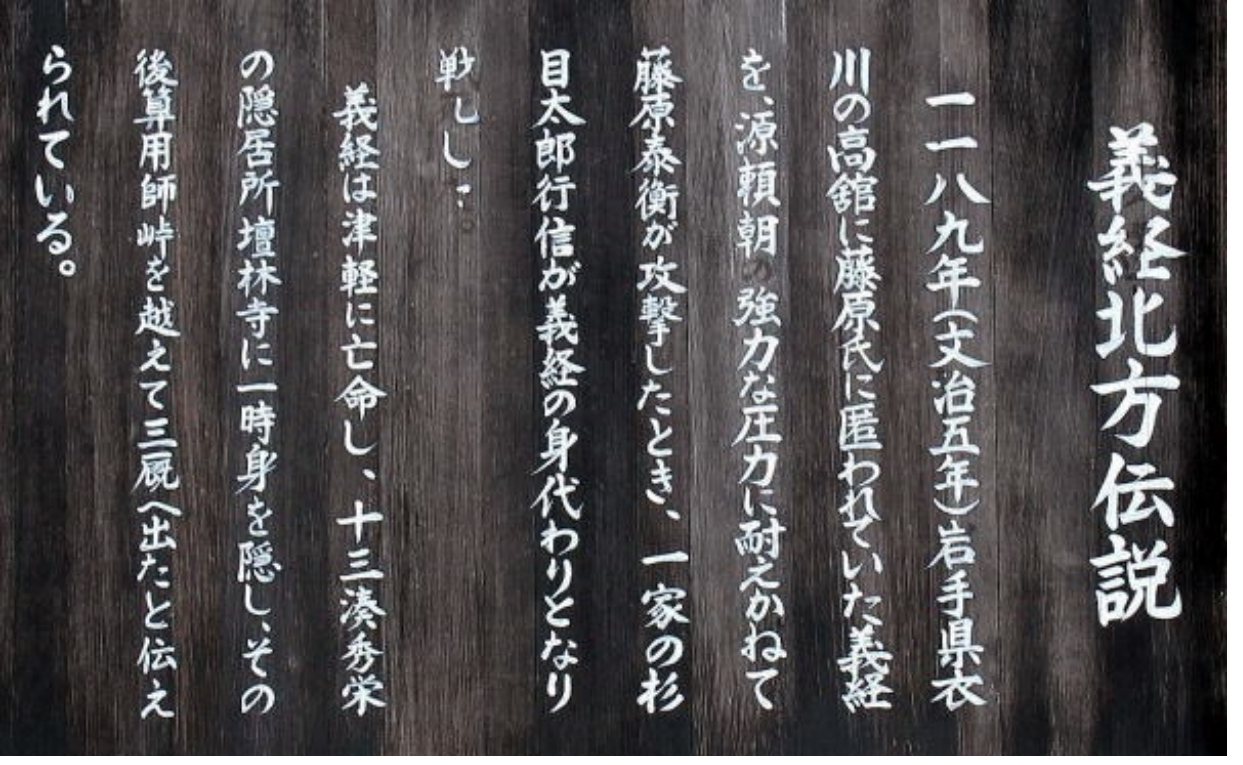
この展望台の２階部分からは、高さ１５ｍ、長さ１３６ｍの大型 “ゴムローラー滑り台” があります。

この道の駅、別名を “トーサムグリーンパーク” と言いますが、この “トーサム” とは、アイヌ語で “湖のほとり” という意味です。

この滑り台の長さ、１３６ｍは、「１・３・６」（トーサム）にかけているものです。



さて、付近を散策していて、もうひとつ気になったものを発見しました。



“義経北方伝説” なるものがあるのですね！
戦死した義経は身代わりで、本物の義経はこの地を経て、三厩（みんまや）へ逃れたという訳です。

歴史の事実と言うのはわからないものです。

さて、道の駅へ入ってみました。

この入口、牛の顔なんです。
先ほどの “ゴムローラー滑り台” を滑り降りた所に “市浦牛” を飼育する牧場があります。

店内はやはり “しじみ” の宣伝が目立ちます。

この道の駅、本来ならテラスから “十三湖” を一望できるはずなんですが、あいにくのこの天気です。周囲には緑いっぱいの高原が広がっており、天気の良い日に来れば最高の景観だっただろうと思います。

「道の駅」十三湖高原
Tosamu Green Park

海水浴場を望む！“こどまり”

国道３３９号線を竜飛岬方面へしばらく走ると

道の駅こどまり　があります。

ここは日本海に面しています。
そして目の前の海岸は “折腰内海水浴場” といって夏場は海水浴客で賑わいます。

今は、名前は分からないけど白い水鳥の大群が、砂浜を埋め尽くしていました。

（水鳥の大群、見えないですね！）

ここの別名は “交流施設ポントマリ” といいます。
『ポン』 はアイヌ語で “小さい” を意味し、 『トマリ』 は日本語の “泊” で、ここの地名 “小泊” のことです。

このように、この東北北部、アイヌの言葉をよく耳にします。
アイヌの人たちは北海道だけかと思ったら、この付近にも住んでいたのですね。

道の駅の建物は、モダンな形をしています。
上の写真ではちょっと分かりにくいけど、全体は円形です。

１階が物産館とテイクアウト、２階にレストランがあります。

丸い天井にはたくさんの大漁旗が下がっていて、如何にも漁師町の雰囲気があります。

そして水槽があり、ここでイカ釣りができるのですが、私が見ている間、１匹も釣れませんでした。
結構難しいのか、あるいはイカ達になめられているのか？（笑）

実はここで楽しみにしていたものがあります。
途中のコンビニで買った「ＦＥＥＬＥＲ」という地元の情報誌によると、ここは“海峡ドック”というのが人気があるそうです。

イカ揚げ、野菜、たまねぎのマリネが入ったホットドックで３５０円です。
これを今日の昼飯代わりにしようと思って、早速注文しました。

そしたら返ってきた返事は　・・・・・・・

「すみません、それは土日だけしか作ってないのです！」

雑誌にはそんなこと書いてなかったのにな～。(´д｀lll)

ここから竜飛岬までを“竜泊ライン”と呼びます。

ここまでは平坦な道でしたが、ここからは山越えになります。
２日目の一番期待しているのがこの“竜飛岬”です。

では、出発します！

道の駅
「こどまり」
ポートマリ
〒037-0500
青森県北津軽郡中泊町大字小泊字折腰内45番地
TEL・FAX 0173-27-9300

北の最果て竜飛岬！“みんまや”

小泊から竜泊ラインを辿り、竜飛岬のふもとにある
道の駅みんまや　へ向かいました。

この“竜泊ライン”道路は２車線で綺麗ですが、山越えですからヘアピンカーブの連続です。
この道路は毎年４月の中旬まで閉鎖されます。

冬場に閉鎖される道路は青森には多いのですが、その関係で道の駅も“冬季閉鎖”のところが５か所もあります。
この「みんまや」の他に「虹の湖」「かわうち湖」「しんごう」「こまどり」が、だいたい１１月から４月まで閉鎖になりますから、東北のスタンプラリーが４月下旬にスタートするのも納得できます。

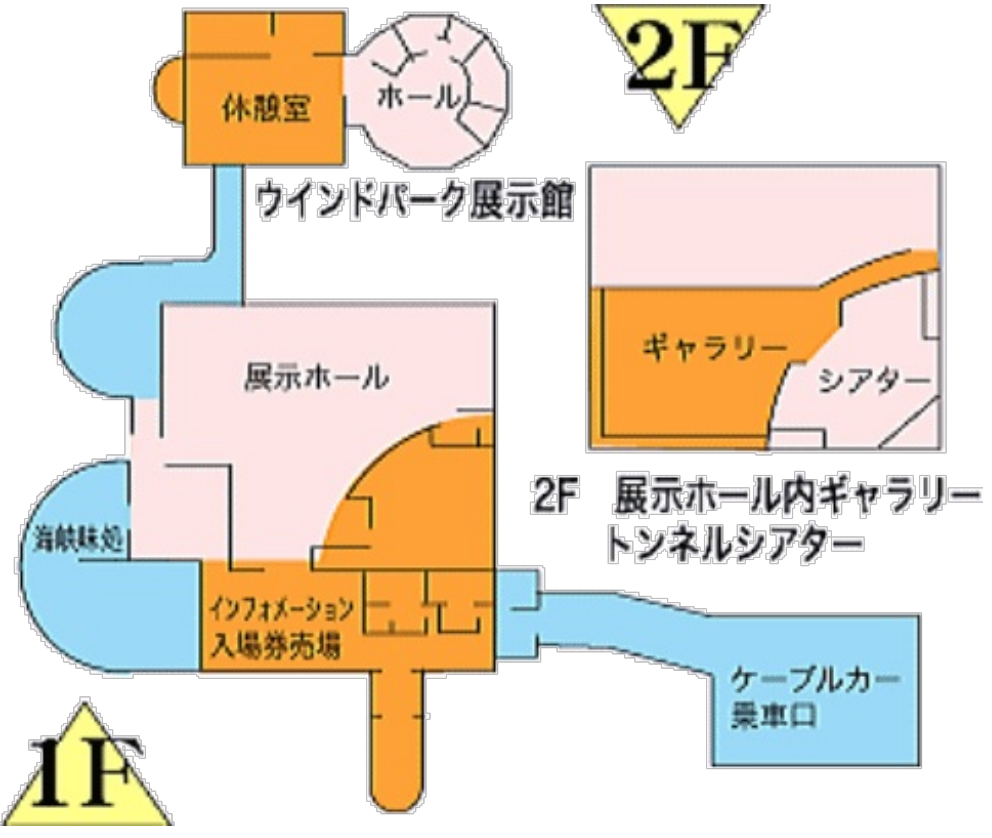
この“竜泊ライン”高度を上げるに従って霧が深くなり、展望台についた時はあたりは全く見えない状態でした。

何とか無事に “道の駅みんまや” へ到着！

みんまやとは、“三厩” と書きますが、ここは前々回紹介した “義経北方伝説” の終着場所、村の至る所に伝説の足跡が残されているそうです。
戦いで死んだ義経は身代わりで、本人はここ三厩まで逃れ住んだ、というのは案外事実なのかもしれませんね。

この道の駅、正式には “青函トンネル記念館” となっています。

この建物から、海底１４０ｍまで続くケーブルカーが通っており、そこには体験坑道があります。



展示ホールや食事処もありますが、係のおねえさんに竜飛岬への道を教えて貰い、ここは早々に立ち去りました。

竜飛岬の先端まで行く途中に、いくつか見どころがありますから、まずそれを紹介します。

まず最初は有名な “階段国道” です！

この石段が何と “国道３３９号線” の一部なんです。

なぜこんなものができたのかというと　・・・・・・

国道３３９号線というのは、弘前からここ東津軽郡外ヶ浜町まで続いています。

上の地図の右下から来た３３９号線は半島をぐるっとまわって右上に抜け、終点外ヶ浜町に至るのですが、半島の先端は急峻なため、この部分を階段で繋いだ、という訳です。

まあ、当時のお役人が苦肉の策だったのか、それともユーモアのセンスがあったのかもしれません。

さて、この階段国道のすぐ手前にあるのがこれです。

“♪　ごらん、あれが竜飛岬、北のはずれと　・・・・・・・　♪”ですね！

この右端の “歌碑” のボタンか何かを押すと音楽が流れるのですが、他の観光客に先を越され、大音響で津軽海峡冬景色　が流れていました。

さて、頂上に向かうと駐車場があり、いくつかの土産物店が並んでいます。

駐車場の片方が “灯台” もう一方が “展望台” になりますので、展望台へ上ってみました。

上には食堂がありますが、この天気であまり人影がありません。

本来なら北海道まで見渡せたはずなんですが、この空模様、残念です。

この展望台にはいくつかの記念碑が建っていて、その一つにこんな説明が・・・。

義経だけでなく、吉田松陰まで関わりのある土地だったのですね。

天気さえよかったら、すごく景色の良い場所だったと思います。
いずれにせよ津軽半島の最先端は制覇できたので、次は下北半島です。

道の駅 みんまや
福飛岬

４つの駅が一か所に！“いまべつ”

津軽半島最北端の竜飛岬を離れ、今度は半島の東側海岸に沿って青森市内まで行くのですが、途中ちょっとだけ内陸部に方向を変えて

道の駅いまべつ　に立ち寄ります。

これは竜飛岬を下りてきて、海岸線の漁村を通る時の風景ですが、このような漁業用の船を引き揚げて格納する小屋が、この周辺には至る所に見られます。

ウインチを使って船を小屋に引き上げ、ここで網などの手入れをするらしいですが、私にとっては珍しかったので、車を停めて撮影しました。

竜飛岬から４０分弱で到着！

“アスクル” という名前にしろ、この建物にしろ、何かパチンコ屋さんのようなイメージです。(^▽^;)

この道の駅には、２つのＪＲ駅が併設されています。

ＪＲ津軽線と、ＪＲ津軽海峡線が交差した場所にあり、津軽海峡線の方は、この “今別” から青函トンネルの入り口に入り、１時間２０分で北海道の函館へ行くことができます。

これが “津軽線” の 「津軽二股駅」 で、道の駅の真横にホームがあります。

そして津軽線の線路の先にあるこの通路を通って、もう一段上に上ったところに “津軽海峡線” が走っています。

津軽海峡線の方は 「津軽今別駅」 と言います。

そして更に　・・・・・・

２０１５年にはここに、“北海道新幹線” の 「奥津軽駅」 が開業する予定です。

つまりここには、道の駅を含めて４つの “駅” ができることになります。

ＪＲ駅と一緒の道の駅は今までもいくつか見てきましたが、“４つの駅” が一か所にあるというのは極めて珍しいですね。

道の駅の中は売店があり、その奥が食堂になっています。
この日は木曜日の１５時過ぎ、お客は誰もいなくて寂しげです。

回りは広い公園になっていて、たくさんの菜の花が咲き乱れているのが印象的でした。

青函トンネル入口のまち
青森県
今別町
道の駅いまべつ
半島ぷらざ
アスクル

どちらが本物！？“たいらだて”

再び津軽半島の海岸線に戻り、２日目の最後となる
道の駅たいらだて　に向かいました。

国道280号線を南下し、道の駅の看板の付近まで来ると、最初に見えたのは比較的新しい大きな建物です。
でも、その広い駐車場には１台の車も無く、どうも電気が消えているみたいです。
この時点で１６時４０分、まだ閉まる時間ではありません。

変だな、と思っているとそのすぐ先、海岸線に通じる道路を挟んだ反対側にもう一つ大きな建物が見えました。

ここには、“Ｏｈ！だいばオートビレッジ”の看板があります。
あっ！こっちだったんだ！と気がついて、クルマを停めました。

でもここも、この広い駐車場に私の乗ってきたレンタカーを含めて３台しか停まっていません。
まもなく１台が出て行ったので、残ったのは私ともう１台だけ　・・・・！

駐車場の端にあった案内板を見てみると、ここは大きなキャンプ場だったようです。
先ほど駐車した建物の裏側に回ってみると、そこにはコテージが並んでいます。

６～１０人は泊まれるというこの結構立派なコテージが１０棟あり、その更に奥には、２０区画のオートキャンプ場が整備されています。

そして松林のすぐ先には“平舘（たいらだて）海水浴場”が広がっています。

更に背後には、“丸屋形岳”“袴腰岳”といった山があって、ここは海水浴や登山を楽しむためのレジャー基地となっているようです。

この全体を“Ｏｈ！だいば（おだいば）オートビレッジ”と称されています。

先ほどの建物にも“おだいばオートビレッジ　センターハウス”と書いてありました。

中に入ると、すぐ入口の所にスタンプが置いてあって、無事に今日最後のスタンプをゲット！

それにしても、ここのスタンプ、丸太にそのままスタンプを彫った珍しいものです。

東北を回り始めて気付いたのは、東北の道の駅スタンプは全部デザインがばらばらなことです。
丸や四角があり、デザインも大きさも違うし、材質もシャチハタあり、ふつうのスタンプあり、そしてこんな丸太型も！（笑）

たとえば近畿等はすべてデザインが統一され、真ん中のイラストと道の駅の名前だけが違うのですが、どちらが良いのかは一概には言えませんね。

中は物産館になっており、その奥にキャンプ場の受付窓口があります。
受付には人影がありますが、お客はひとりもいません。

一旦外に出たのですが、この先青森市内の宿泊地まで１時間近くかかるので、トイレに行っておくことにしました。
建物の中にトイレがあったことを思い出し、再び戻って奥にあるトイレに入りました。

そしてトイレを済ませて出て来ると　・・・・・・・・・

先ほど事務所の中にいた職員らしきおばさんが、玄関に鍵をかけて帰ろうとしてるではありませんか・・・・！(￣□￣;)!!

すんでのところで私に気がついたおばさんが、「トイレだったのですね！１７時になったので帰るところでした」といって戻ってきてくれました。

私があと１分出るのが遅かったら、ここに２人閉じ込められて一体どんな運命を辿ったことでしょう

！（冷汗）

嫁がでてくるのを待つあいだ、このおばさんに先ほどから気になっていたことを尋ねてみました。
あそこに見える大きな建物は何なのですか？

最初に見えた電気の消えたこの建物のことです

「あれは “道の駅” ですよ！」

おばさんはあっさりと答えました。

えええっっ！じ、じゃあ、ここは何なの？((((((ﾉ゜⊿゜)ﾉ

「あそこは “地域活性化施設” っていって、そば打ち体験などができる道の駅ができたんだけど、土日しか開かないので、スタンプだけここで預かっているんですよ！」

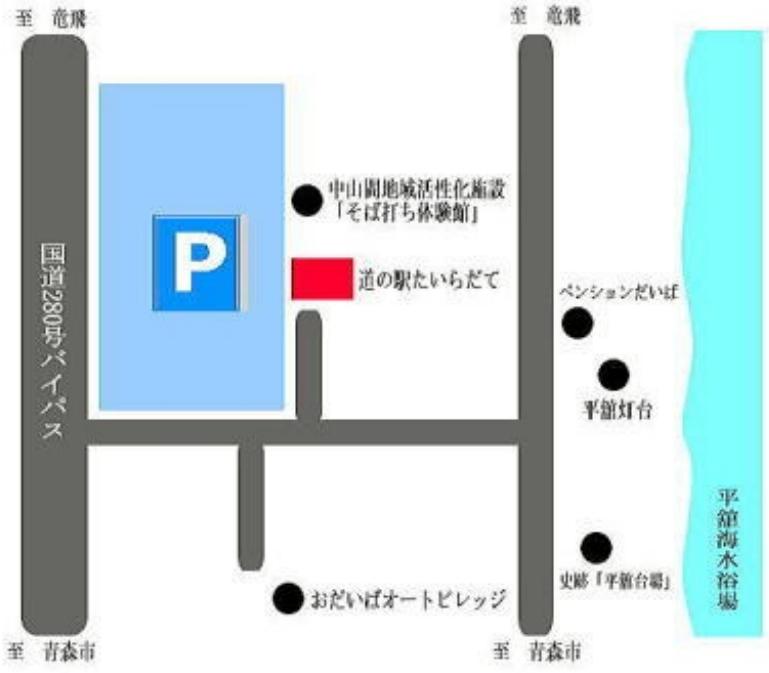
スタンプを預かっているだけ　・・・・・　にも驚いたけど、土日しか開かない道の駅があるとは　・・・！(￣□￣；)

そしておばさんは、駐車場にあったもう一台の車に乗って帰って行きました。

最後に残った私たちは、早速その 「土日しか開かない道の駅」 を見に行きました。

建物は新しくて立派なのですが、外にゴミが散乱しており、カラスがつついていました。
そして窓にはこんな張り紙が　・・・・　。

やっぱり土日だけの営業のようです。



ここ外ヶ浜町のホームページを確認すると、なるほど確かにこちらが本物の “道の駅” だったようです。

実際は施設全体として考えるのが正しいでしょうが、それにしても土日しか開かない道の駅が存在するとは、今回最大の発見でした。

全国有数の温泉地！“浅虫温泉”

２泊目は青森市内の “ホテルＪＡＬシティ青森” に宿泊。

３日目の朝、最初に向かったのは

道の駅浅虫温泉　です。

３日目の予定は “下北半島” です。

道の駅の数はわずか４か所なのですが、走る距離はかなりあります。

「浅虫温泉」 といえば全国でも有数の温泉地ですね。

ここはまだ青森市内なのですが、青森市の東の玄関口、といった位置づけになります。
そして道の駅は、陸奥湾沿いを走る国道４号線のかなり交通量の多い場所にあります。

周辺にはホテルなども建ち並ぶ街中です。

この周辺、温泉街だけでなく、海水浴場や海釣り公園も整備されています。

さて、道の駅ですが、ここは何と５階建てのビルが道の駅そのものなのです。

ホテルの中にある道の駅などは今までいくつかありましたが、ビル１棟、そのまま道の駅というのは記憶にありません。

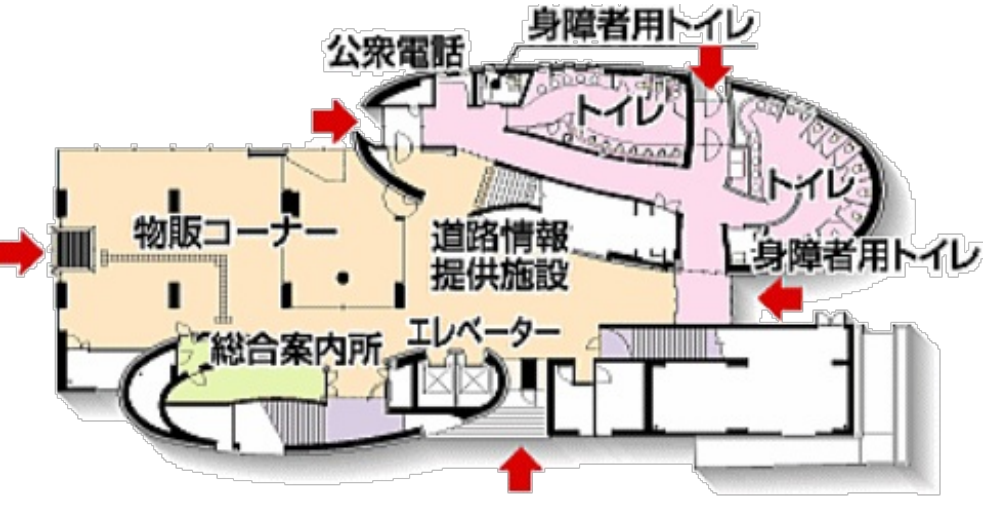
ここは第三セクターなどではなく、“青森市” 自体が事業主体で、窓口も “青森市観光課” になります。

玄関も普通のビルの入口のようで、最初はなんとなく違和感を覚えました。

「道の駅」浅虫温泉
YU~SA ASAMUSHI
ゆ~さ浅虫
ハートビル

5階
展望浴場
直進 向い側駐車場
3階
レストラン・ギャラリー
コインロッカー
にんにく

まだ８時半という早朝なのでお客は少ないですが、すごく広くていろんな特産品が豊富に並んでいます。



これが１階の配置図で、物産コーナーが中心ですが、

２階　休憩コーナー
３階　ギャラリーとレストラン
４階　会議室
５階　展望浴場

と、内容はとても充実しています。
展望浴場では、陸奥湾やそこに浮かぶ島々を眺めながらゆったりと入浴できます。

お風呂は２１時まででですから、温泉でリラックスして車中泊をするには最適の場所かもしれません。

次はいよいよ下北半島に入り、その中途にある
道の駅よこはま　が最初の目的地です。

国道２７９号線沿いを北に向かうと、まず“おやっ！”と思うことがあります。
それが一面に咲き乱れる“菜の花”です。

初日に立ち寄った“虹の湖”の道の駅のおねえさんが、「下北に行くなら、今は菜の花が見ごろで

すよ！」と言っていたのを思い出しました。

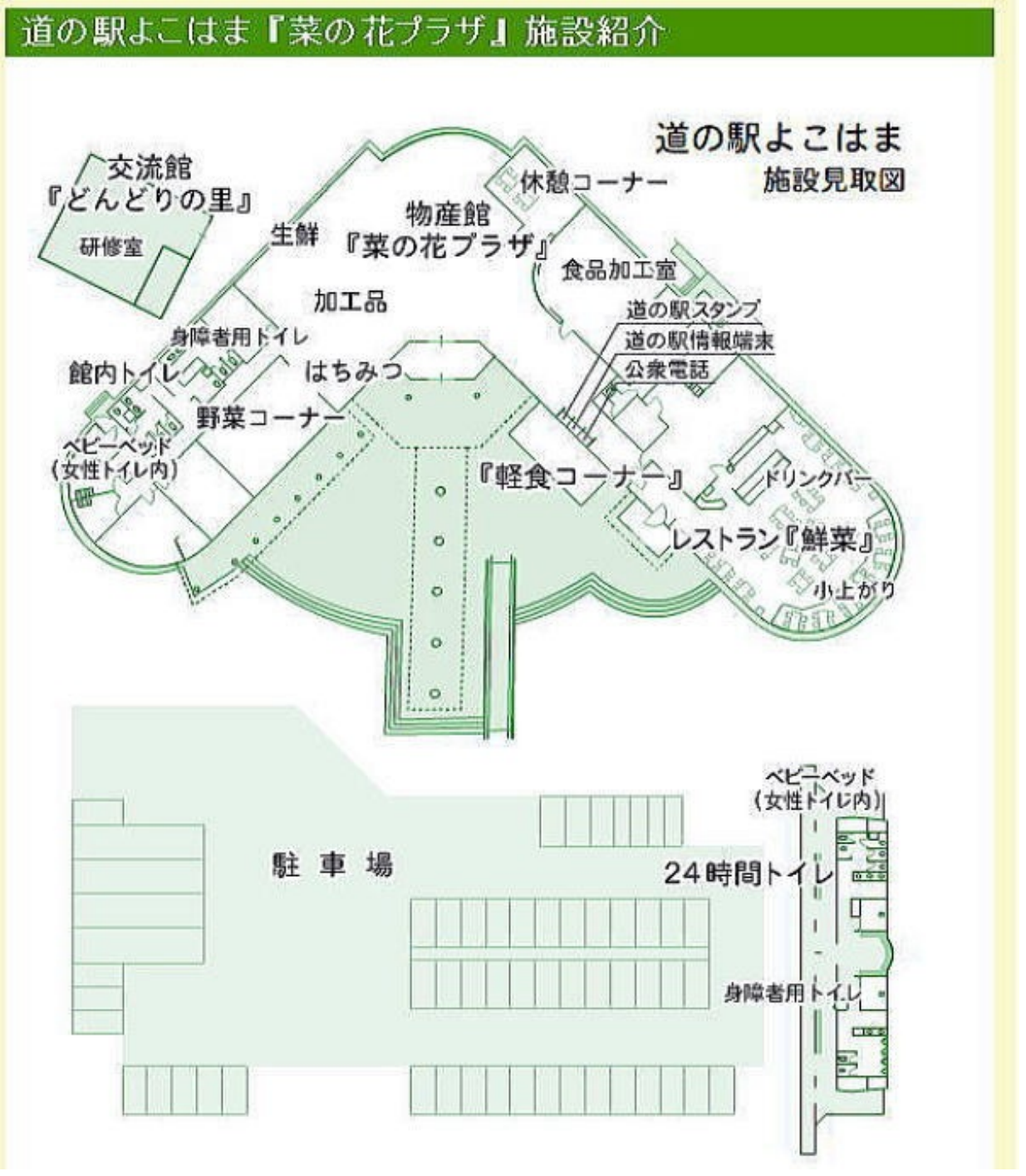
この日は５月の下旬ですから、九州ではとっくに菜の花は終わっています。
そしてここは、農業として栽培している訳ですから、畑が見渡す限り“黄色”一色なのです。

ここ横浜町は、菜の花の作付面積が１５０ｈａもあり、これは全国一です。
毎年５月に“菜の花フェスティバル”があり、大勢の人たちが集まりますが、ちょっと前に終わったばかりでした。

この道の駅もやはり、“菜の花プラザ”という愛称です。

ここは私の特に気に入った道の駅のひとつで、翌日下北半島の帰りにももう一度立ち寄りました。

木々がうまく配置されており、周辺にはもちろん菜の花畑が広がっています。



中央の屋根つきの通路を通って、中に入ってみましょう。

店内も菜の花一色のイメージでとても明るく、店員さんのジャンバーももちろん黄色です。

そして、この横浜町で収穫される菜の花は、このように加工されます。

菜種油やドレッシングですが、さまざまな種類があります。
この道の駅は店内がとても広くて、商品の種類が豊富です。

私が衝動的に買って帰ったのはこれです。

“大間のまぐろカレー”！

ネーミングに惹かれました。
味の方は　・・・・　う〜ん！まずまずでした。(・∀・)

さて、次に向かうのは “斧” の形をした下北半島の “刃” の部分にある “わきのさわ” です。

ここから７０ｋｍもあります。
遠いな〜〜！(´＿｀。)

青森県横浜町「道の駅」よこはま菜の花の町（菜の花プラザ）
ファイト

最北限の猿が棲む！“わきのさわ”

下北半島を横浜町から更に北上し、陸奥湾沿いの “むつはまなすライン” をひたすら走ります。
むつ市近郊から進路を西へ取り、最西端の “脇野沢” の漁港から少し山に入ったところに
道の駅わきのさわ　がありました。

道の駅よこはまから距離にして７３ｋｍ、１時間半の道のりは、雨が降ったりやんだりのせいか、実際以上に長く感じました。

途中気付いたことをひとつだけ！

ここは東北北部、北海道と同じく冬場は豪雪地帯です。
北海道の道路は必ず道路の両端に “下向き矢印” のマークがあってどこまでが道路か分かるようになっています。

でも、東北では見かけないね、って話していたら　・・・　ありました。

でもこれは両端ではなくて、中央線のマークなんですね。
どうして北海道は両端で、東北は中央線なのかは、“謎”です！┐(￣へ￣) ┌

ようやく到着！

道の駅がある場所は山の中ですが、道の駅の愛称は “鱈の里” になっています。
脇野沢の町が、漁業を中心に発展した町だからでしょう。

“野猿公苑” という看板があります。
ここには天然記念物指定の 「世界最北限の猿」 が棲んでいて、約５０匹のニホンザルが保護されています。

ただ、この先 「大間」 に行く途中の山間部でも何度か野生の猿に出会いましたから、この下北半島自体が 「世界最北限」 という意味ではないかと思います。

駐車場から階段を上った、もう一段高い場所に道の駅はあります。

この建物、総ヒバ造りなのだそうです。

“いのしし” と “猿” と “鱈” が迎えてくれます。（笑）

上から見ると、深い山の中だとわかりますね。

玄関にこんな言葉がありました。
想像するに、「よくいらっしゃいました。さあ、中に入って下さい」という意味だと思いますが・・・。

思った以上に中はきれいです。

道の駅の更に山手にはバンガローが見えます。

ここは “山村広場” といって、バンガロー１０棟の他、野外ステージ、沐浴路などが整備され、大自然の中でアウトドアライフを楽しむことができるようになっていました。

湖畔の芝生公園！“かわうち湖”

下北半島での３か所目は、
道の駅かわうち湖　で、これが本州最北端の道の駅になります。

脇野沢の道の駅からこのかわうち湖へ向かう国道３３８号線、通称 “海峡ライン” は、４月までの冬季は通行止めになります。

従って、この “道の駅かわうち湖” も、１１月下旬から４月中旬まで閉鎖されるのです。
青森にはこのような “冬季閉鎖” の道の駅がいくつかありますね。

この海峡ライン、山間部を走りますから急カーブの連続ですが、道路は舗装された２車線ですからこの季節であれば走り易い道路です。

ただ雨上がりで道路には落ち葉や泥が溜まってますから、走り終えた時は白いマーチがこのありさま・・・・。

脇野沢から３０分ほどかかりました。

かわうち湖は、河内ダムによって造られた人工湖です。
道の駅はその湖畔にあって、自然そのままの樹々に囲まれてひっそりと建っています。

そしてその周辺がとても静かな “芝生公園” になっています。
その芝生公園のところどころには “句碑” が配置されています。

雨上がりは樹木がいっそう映えるし、この静かな雰囲気が私はとても気に入りました。

そして建物の裏側にあるのがダム湖百選にも選ばれた “かわうち湖” です。

さて道の駅ですが、まわりの雰囲気に似合うロッジ風の建物です。

ここが正面入り口です。

“野平高原交流センター” と書いてあります。

意外と中は広かったのでちょっと驚きました。
男性２人で来ていた中年の外人さんが、青森ヒバの木工品のティッシュ入れを物色していました。

そしてこの建物のベランダからのかわうち湖も、なかなかの雰囲気です。

この時期、お客さんは少なかったのですが、ここはまさに癒しの世界です。

付近には渓谷を巡る全長４．４ｋｍの遊歩道も整備されおり、自然の中でゆったりとした時間を過ごすには最適の場所だと思います。

さて、３日目の道の駅はこの４か所で終了ですが、この時間、１４時を少し過ぎたところです。
これから本州最北端 “大間崎” を目指すのですが、その途中 “仏が浦” を次回ちょっとだけご紹介します。

奇岩のど迫力！“仏が浦”

3日目の道の駅巡りは終わったのですが、これから本州最北端大間崎に行く途中、
仏が浦　を見ることができました。

下北半島山間部の “かわうち湖” を離れ、国道338号線を西側の海岸線に沿って北上するのですが、丁度海岸線にぶつかったあたりに、青森の代表的な観光スポットである “仏が浦” があります。

途中の道路には雪国だけあって、こんな防雪シェルターがところどころに見られます。

“仏が浦” は、長い年月の強風と荒波が疑灰石を削った奇岩群が２ｋｍにもわたって続くもので、その形が仏像に似ていることからこの名前がついています。

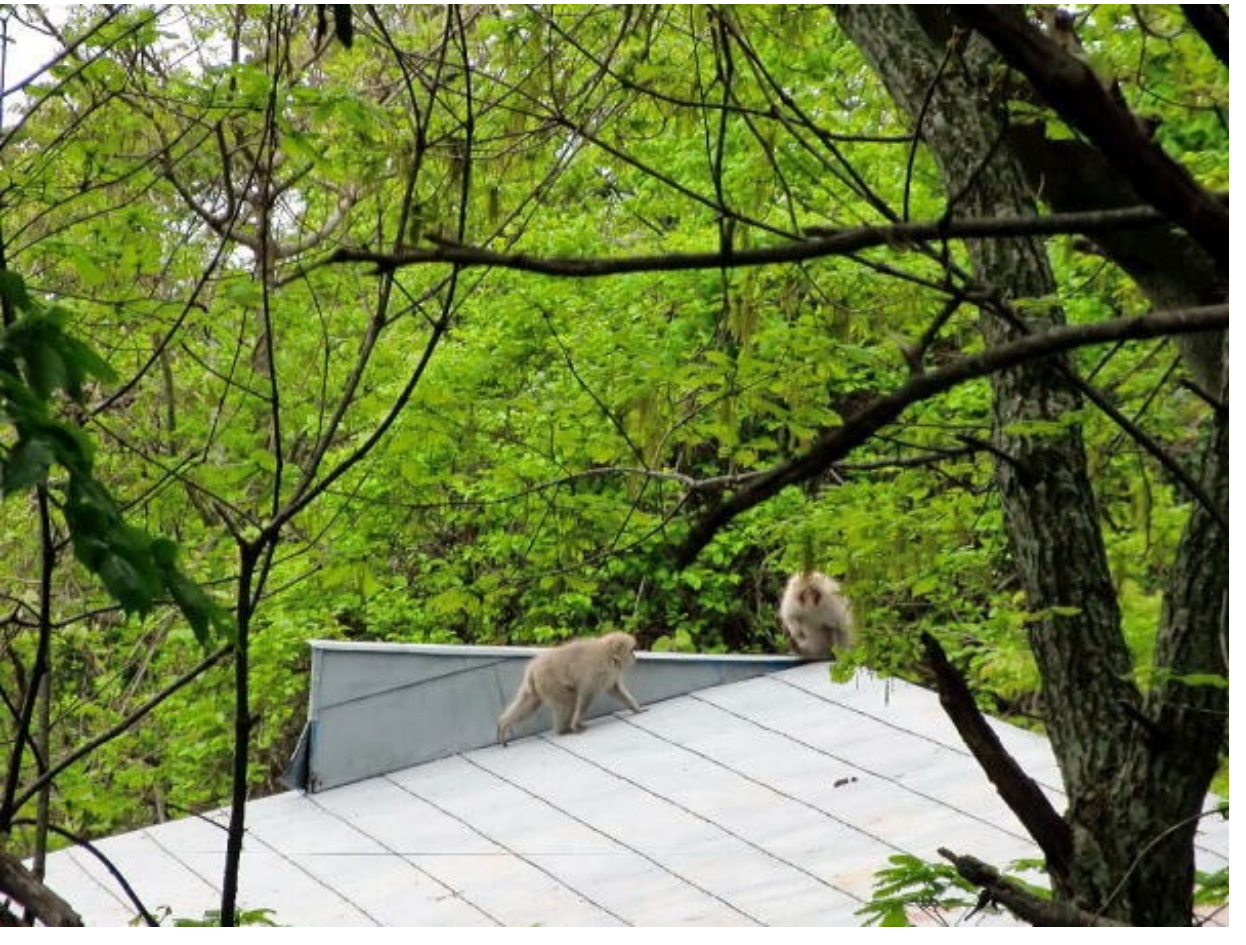
佐井港から遊覧船が出ており、海から見上げる姿も迫力があるのですが、この国道３３８号線からも眺めることができるのです。

案内板に従って、国道をちょっと離れると、仏が浦に下りる為の駐車場がありました。

広い駐車場には、他に１台のクルマも停まっていません。

ここから仏が浦の海岸まで遊歩道を通っておりてゆけるらしいのですが、その入口にはこんな看板がありました。((>д<))

そしてここから下を眺めてみると、森の中に建物が見え、その屋根には　・・・・・



たくさんのお猿さんの姿があります。

遊歩道をちょっとだけ下りてみました。

新緑に囲まれたとても気持ちの良い遊歩道なのですが、この先の何か良く分からない建物には、たくさんの野生の猿たちがたむろしています。

他には全く人影がなく、人間は私たち二人だけ・・・・・
多勢に無勢で、襲ってきたら勝ち目はないし、なにより熊にでも出会ったら最後です！

仏が浦は見えなかったけど、諦めて立ち去ることにしました。

そして、そこからほんのちょっと走ると　・・・・・

なんと、国道沿いに展望台がありました。

先ほどの駐車場は海岸線に下りるためのもので、通常はここから海岸線を見下ろすものだったようです。

こんな看板もありました。

仏ケ浦は極楽の磯 羅漢、如来が立ち並ぶ

佐井村仏ケ浦

緑色凝灰岩の断崖が海風の浸食を受け、仏具仏像に似せた奇岩奇石を形造った。

一ツ仏、如来首、五百羅漢、極楽浜等、仏教にちなんだ名で呼ばれている。

周辺およそ2Kmにわたって白緑色の凝灰岩が凄まじく立ちつくしている様はまさに極楽浄土を思わせる。大正11年大町桂月が訪れ、「神のわざ鬼の手づくり仏宇陀　人の世ならぬ処なりけり」と詠っている。

そして、これも・・・・・

なるほど、野生の猿に餌をやってはいけないのはお猿さんのためでもあるのですね。
納得しました！

そして展望台にあがってみると　・・・・・・　。

こんな高いところからでも迫力ありますから、海岸に降りたり、海上からならもっとすごかったでしょう。

これを造り上げた自然の力の偉大さにあらためて感服しました。

本州最北端 “大間崎” でマグロを味わう！

折角下北半島までやってきたからには、どうしても行っておきたかったのが
大間崎　です。

半島西側の海岸線に沿って走る国道３３８号線は、海沿いとはいえ、ほとんど山間部を走ります。

従ってカーブや上り下りの連続ですが、交通量は極端に少なく、２車線の舗装道路なので危なげな場所はほとんどありません。

そして、ようやく本州最北端、“大間崎” へやってきました。

本州最北端を表す碑、なにか感慨深いものがあります。

そして、“大間”と言えばこのシンボル！

これは大間の“クロマグロ”と、それを釣り上げる“漁師の腕”を表します。

“大間”はご存じの通り漁業の町です。
そして、“大間のマグロ一本釣り”は全国にその名が轟いています。

大間のクロマグロは、大間崎沖１ｋｍから３ｋｍの海域で捕れる近海もので、明治、大正からの伝統を守り、網等を使わず、昔ながらの一本釣りで釣り上げます。

５トン前後の船で数百キロにも及ぶクロマグロを釣り上げるのは、正に命がけです。

この命がけの大間のマグロ一本釣りを一躍全国的に有名にしたのは、緒方拳、夏目雅子主演で映画化された “魚影の群れ” という松竹映画です。

そして現在、大間のマグロは、東京築地の市場などで、最高級のブランドとして確固たる地位を築いています。

付近の港にはぎっしりとこのマグロ漁船が停泊していました。

さて、大間崎にやってきたもう一つの目的は、もちろん本場のマグロを味わうことです。
といっても、この時間、既に１６時を回っています。

ちょっと迷いましたが、今夜のホテルに夕食は付いていませんから夜の食事を遅くすればすむことです。

観光客用の無料駐車場のすぐ近くにあった、このお店に入ってみました。

魚喰いの
大間
ぞく
oomanzoku
うにぎ
選材
特製
まぐろ
30-08

さすがにこの時間、他にお客さんはありません。
壁には大きな大漁旗が飾ってあります。

あとで分かったのですが、このお店、この “美吉丸” の船主で、社長は現役のマグロ漁師さんだったのです。

女将さんに出されたメニューをみて、ちょっと焦りました。

まぐろ丼３０００円、まぐろ刺身定食３０００円　・・・・・・

まあ、本場で食べるマグロだからその位はするのでしょう！

今日だけは太っ腹になって、私はまぐろ刺身定食、そして脂身の大トロが苦手の嫁は、普通の刺身定食２０００円を注文しました。

そして何故か、「社長がサービスしてやれっていうから・・・！」と、ウニを一皿づつ追加してくれました。

普段はめったに食べることのない大トロ、脂がのって実に食べ応えがありました。

そして雑談の中でこの社長が現役のマグロ漁師さんということを知ったのですが、２００１年に東京築地の魚市場で最高値“２０２０万円”のマグロを釣り上げた本人だったのです。
（※２０１１年の初せりで、１０年ぶりにこの記録が破られましたね！）

社長自身は寡黙な人で調理場に座ったままでしたが、奥さんや従業員さんが店内に飾ったそれを釣り上げた時の写真などを、あれこれと親切に説明してくれました。

話の中で私たちが九州から来たことを知ると、それまで黙って座っていた社長が、「これ、記念に持って行きな！」とステッカーを渡してくれました。

記念に作ったらしい直径１５ｃｍもあるステッカーです。

たまたま入ったお店での、大間の漁師さんとのふれあい、そして、道の駅制覇のステッカーにも匹敵する私の記念の品になりました。

日本初の洋式牧場！“みさわ”

４日目にはいり、下北半島を離れて最初に向かうのは
道の駅みさわ　です。

前日は大間崎を出た後、半島東側の国道２７９号線、通称 “むつはまなすライン” を走って、むつ市内にはいり、 “ホテルユニサイトむつ” に宿泊しました。

お昼ごはんが遅かったので、夕食は２１時近くになって近所の居酒屋で済ませました。

翌朝未明、消防車のサイレンを何度も聞いたのですが、明るくなって起きてみると、昨夜食事をした居酒屋の、国道を挟んだ反対側にある飲食店街が火災の現場だったようで、まだ数台の消防車が停まっていました。

幸い早めに消し止められたようですが、ホテルの駐車場を出る時、「すみません、右側はまだ通行止めになっていますから、左方面に行ってください」 とホテルマンに注意されました。

宿泊先の近所での火事というのは初めての経験ですが、まさかこんな近くと思わずに平気で寝てましたから大したものです。（汗）

むつ市から一路南下し、昨日訪れた “道の駅よこはま” に再び立ち寄ったあと、半島を横断して太平洋側に出ます。

核燃料再処理施設で有名な “六ヶ所村” を通り、目的地 “道の駅みさわ” までは１時間４０分ほどの道のりでした。

ここは広大な敷地にいくつかの建物や施設が点在していますが、最初に目についたのがこれです。

まるで生きているように躍動感があるブロンズのモニュメントです。

この道の駅は別名 “斗南藩（となみはん）記念観光村” といいます。

明治５年、旧斗南藩の藩士たちが、英国人の支援の元に我が国初の近代洋式牧場を開設したのがこの地なのです。

“廣澤安任” を中心とした彼らは、西洋諸国から種馬、種牛を輸入し、品種改良を進め、日本の近代畜産業の基礎を作り、農業生産性を高めた功労者です。

彼らの功績を後世に伝えるためにこのようなモニュメントがあり、“先人記念館” “開墾村” 等が作られました。

これが “先人記念館” ですが、外観は家畜の餌を備蓄する “サイロ” をイメージしています。

こちらは、道の駅のメイン建物である“くれ馬ぱーく”で、物産館とレストランがあります。

店内は天井が高く、広くて明るい雰囲気です。

これが全体像ですが、全部で２０ヘクタールにもなるという広大な敷地に、パターゴルフ場、動物ランド、ゴーカートなど、ちょっとした遊園地並みの施設が広がっていました。

三沢市といえば、米軍基地や航空自衛隊くらいしか思い出さなかったのですが、日本の畜産業の基礎がここで、旧斗南藩の藩士達によって築かれたことを初めて知りました。

青森県最大の湖！“道の駅おがわら湖”

青森県最大の広さを持つ “小川原湖” を挟んで、三沢から対岸にあるのが
道の駅おがわら湖　です。

青森県で一番大きな湖といえば、てっきり十和田湖と思っていたのですが、十和田湖は全国１２位、小川原湖が１１位ですから、こちらの方が少し大きいようです。

でも知名度では、十和田湖の方が断然高いですね。

“小川原湖” は、海水が流れ込む汽水湖ですが、岸から２００ｍ程は水深が２ｍ前後と遠浅なので夏場には海水浴・・・・ではなく、湖水浴を楽しむ人たちが大勢集まります。

道の駅
おがわら湖
Ogawarako
500m
湖 遊 館
Koyukan

道の駅
おがわら湖
湖遊館

ここは小川原湖の湖畔で、“湖遊館”（湖畔の遊びのやかた） と名づけられていますが、残念ながらここから湖は見えません。

もしかすると天気が良い日には見えるのかもしれませんが、湖畔からは少しだけ離れているようです。

これが、道の駅本体の建物ですね。
交通量の多い場所なので、結構クルマの出入りが多いようです。

付近を見回すと　・・・・・

こちらはトイレですが、丸い洒落た形をしています。

そして、道を挟んだ隣にはこんな建物があります。

これは交番ですが、青森県警って、結構センスがいいですね。

さて中に入ってみましょう。

結構広い売り場です。
入口付近にはこんなものもありました。

さすが青森はねぶたの町です。
実際のものを縮小して飾っているようです。

外にはこんなものがあります。

湖からは離れているのに、こんなところに船が・・・・・。

現役を退いて、ここで展示物として余生を送っているのでしょうか？

ここから直接には見えませんが、湖畔まで行けば “小川原湖ふれあい村” というリゾート施設があります。

ここにはケビンハウスやオートキャンプ場、野外ステージなどがあってレジャー基地になっています。
そして小川原湖は、わかさぎやしらうおの漁獲量が日本一という、恵みの湖でもあるのです。

夏は湖水浴やキャンプ、冬は湖面の氷を割ってのわかさぎ釣り、春は千本桜が咲き誇るという、四季を通じて楽しめる湖です。

四季彩とロマンの交流地
湖遊館
道の駅 おがわら湖
青森県上北郡上北町大字上野字南谷
TEL 0176−58−1122

名馬の産地！“しちのへ”

小川原湖から約２０分、八甲田山の東側に位置する

道の駅しちのへ　へやってきました。

道の駅
七戸町文化村
スキー場
家族旅行村
7km
総合運動公園
4km
奥羽牧場
4km
青森県家畜市場
1km

しちのへ

上の看板、何を表しているのだろうと思ったら、反対側から見れば数字の“７”ですね。
七戸の“７”の意味でしょう。（笑）

ここは、七戸南部藩１万４００石の城下町です。
古来から名馬の産地として知られ、数々の競走馬や軍馬を輩出してきています。

先ほどの“７”の看板の上にも３頭の馬が走っていますが、正面入り口付近には２頭の馬のブロンズ像があります。

これは盛田牧場という七戸町内の牧場で育ち、日本ダービーで優勝したヒカルメイジとフェアーウィンという名馬なのだそうです。

この道の駅のすぐ先には東北新幹線“七戸十和田駅”がありました。
まだ工事中ですが、東北新幹線が青森まで全線開通するのは今年の１２月です。

この道の駅、とても規模が大きいのです。

上の写真は “美術館” 下の写真は “物産館” ですが、いずれも中は相当に広いです。

全体図、ちょっと分かりにくいかもしれませんが、中央にはスペイン広場、水辺の広場などがあり、美術館の裏側には “絵馬館” “スペイン民芸資料館” もあります。

この七戸の町とスペインがどういう関係にあるのかは結局分からなかったのですが、このスペイン民芸資料館に展示してあるスペインの生活用品等は、アートディレクター北川フラム氏が町に寄贈されたものだそうです。

さて、物産館の方に入ってみます。

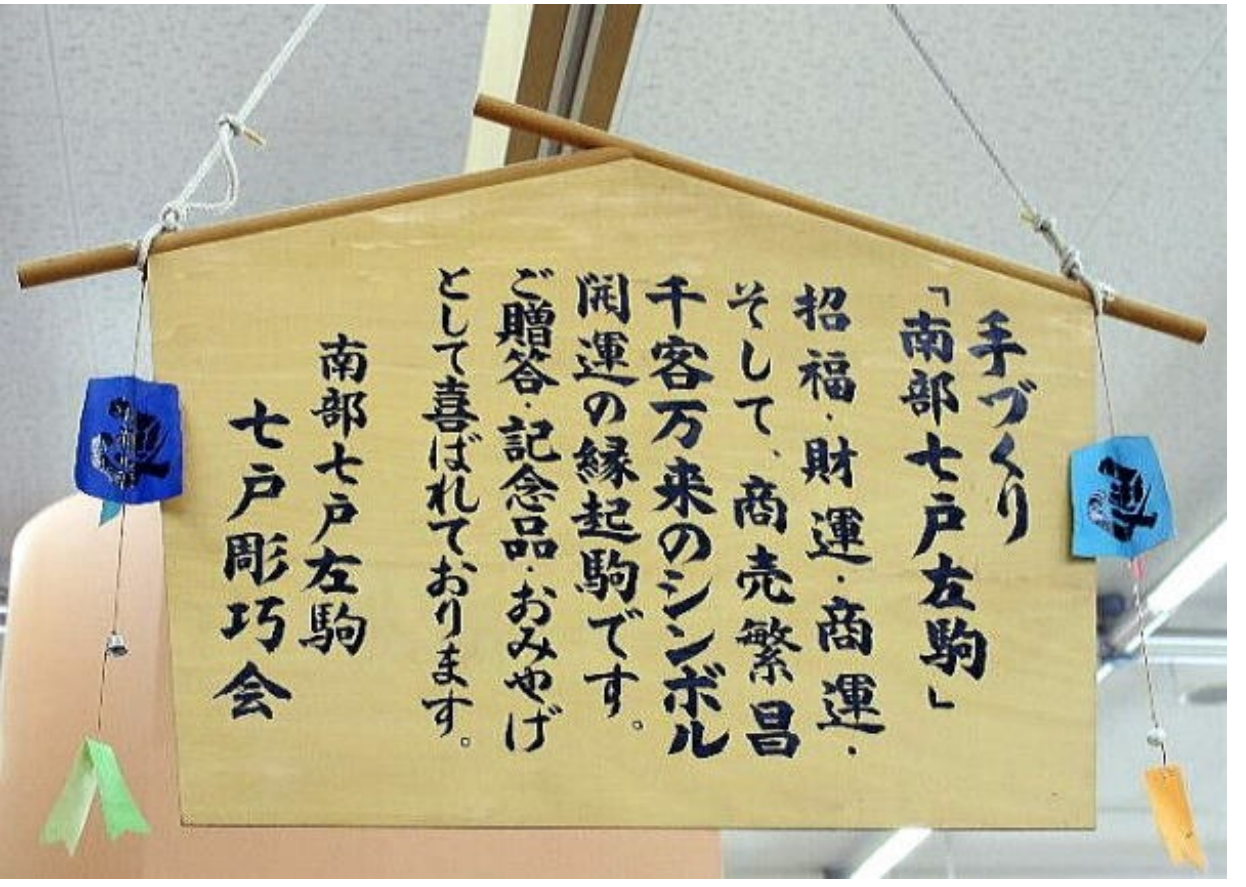
しゃのへ産直 七彩館
車両進入禁止

奥にあるレストラン、“絵馬”っていう名前ですね。

そして別の場所には、こんなコーナーがあります。

ここ七戸は、“絵馬の町” でもあります。
良馬育成を祈願して 「南部小絵馬」 を奉納したのが起源のようです。

そしてこんなものもありました。
馬の文字が裏返しになっていますね。



これは “南部七戸左駒” といって、商売繁盛の縁起物なのだそうです。

七戸の工芸品、すべて “馬” に繋がっているようです。
道の駅スタンプも、勿論 “絵馬” でした。(^▽^)

馬のかなう絵馬の町
七戸町文化村
道の駅
しちのへ
SHICHINOHE

七戸の次は六戸！“ろくのへ”

しちのへの次に向かうのは、六戸町にある
道の駅ろくのへ　です。

前回が“しちのへ”で、今回は“ろくのへ”そして明日行く予定の道の駅に“さんのへ”があります。
更に、今晩の宿泊先は“八戸”です。

このように、青森から岩手にかけて、一戸、二戸、三戸、五戸、六戸、七戸、八戸、九戸という地名があるのですが、何故か“四戸”という地名だけがありません。

その昔、この一帯は糠辺郡という地域だったのですが、一国に匹敵する広さだったので独自の行政区域である“九戸・四門の制”というのを設けました。

地域を一戸～九戸、及び東西南北の門、の１３地域に分けて治めたのですが、なぜかその後“四戸”だけが他の地名に変わってしまいました。

“四”という数字に縁起を担いだのだろうという説が有力ですが、“姓”としては、四戸さんという苗字が今でも残っているのだそうです。

“メイプルふれあいセンター” というのが、この道の駅の愛称です。

なぜ “メイプル” かというと、この六戸町の “町の木” が “楓（かえで）” つまりメイプルだからです。

上の看板にもありますが、これが町のイメージキャラクターで“メイプルくん”といいます。
未来への発展と躍動感を表しているのだそうです。

これが道の駅のメインの建物です。
そのすぐ横には、藁ぶきの古民家があります。

町の指定文化財になっている “旧苫米地家” が復元されています。
中を見学できるようになっていますが、それ程興味がないのでスルー！

さて、道の駅にはいってみましょう。

まあ、あんまり特徴のない道の駅で・・・・・・。
紹介できる話題も少ないので、さっさと終わります。(;^_^A

場外馬券売り場のある！“とわだ”

次は、国道４号線十和田バイパス入口に位置する
道の駅とわだ　です。

十和田といえば当然 “十和田湖” を思い浮かべますが、上の地図でも分かるように、距離的にはだいぶ離れていますね。

ここも大きな道の駅で、全体の配置はこのようになっています。

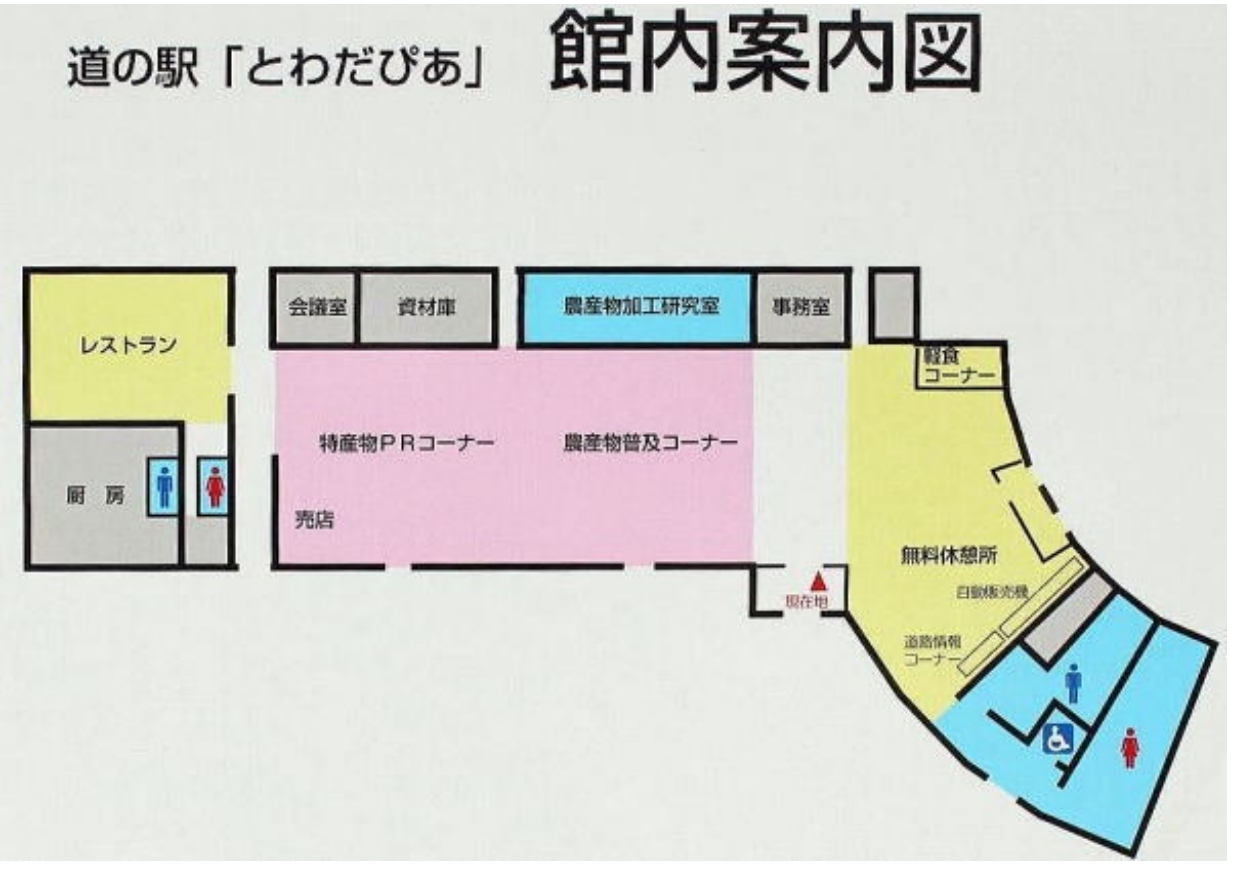
一番手前（下）にある駐車場からみると、正面に “センターハウス”、左手に “匠工房” があります。

こちらが “匠工房” ですが、織物や農産物加工の体験ができるようになっていて、青森の伝統工芸である “南部裂織” の機織り機だけで６０台を備えています。

そして青森の味である “煎餅汁” の煎餅もここで焼いています。

こちらが “センターハウス” の正面玄関です。

横に長い建物なので、全体を写すのか難しいです。



中はかなり広くて、お客さんも多い道の駅です。

さて、この道の駅とわだ、もうひとつ大きな特徴があります。
それは、このセンターハウスの隣に建つこの建物です。

“テレトラック十和田” という場外馬券発売所です。

正面玄関はこの反対側にあるのですが、最初にお見せした配置図の上方に、道の駅駐車場の数倍はある、テレトラック専用の駐車場があります。

ここは “岩手県競馬組合” が経営しており、中に大型スクリーンを備え、座席数１９２席、立ち見席３７２名分があるそうです。

出走馬や騎手に関する情報は専用の部屋のたくさんのディスプレーで見ることができ、実際の競馬場と同じように馬券を買い、当たれば換金ができます。

主に岩手県の水沢競馬、盛岡競馬がメインですが、開催がない時は他の競馬場も楽しむことができます。

このような施設を併設する道の駅は珍しいし、競馬ファンにとってはわざわざ競馬場まで出かけずに済みますから、便利だろうと思います。

とわだぴあ
道の駅とわだ

東北きっての観光拠点！“奥入瀬”

本日４日目の一番楽しみにしているのは “奥入瀬渓流” です。

その入口にほど近いのが
道の駅奥入瀬　です。

ここから “奥入瀬渓流” の入口までは２０分程の距離です。

更にここは “八甲田山” の南側にあたり、天気が良ければその山並みが見えるはずですが、空はあいにくの厚い雲に覆われています。

従って、奥入瀬渓流、十和田湖、八甲田山といった東北を代表する観光地のいずれにもほど近い、絶好のレジャー基地といえます。

クルマ３５０台を収容する広い駐車場があり、そこから少し階段を上がったところに建物群があり

ます。

階段をあがってすぐのところにある屋台、左側「焼いか」の青いのぼりの後ろにあるイカが見えるでしょうか？
くるくる回転しながら一夜干しを作っています。

これが道の駅のメインである観光物産館 “四季彩館” です。

ここは、本場カナダのログビルダーが手掛けたという、東北地方最大のカナディアン・ログハウスです。

この天井が八角形の大型ログハウス、明るくて木のぬくもりが感じられます。

この道の駅、全体はこのような配置になっていて、一番左の “四季彩館” をかわきりに芝生公園の中にはあと三つの施設があります。

これは “ステーキレストラン「味蕾館」” で、十和田湖和牛のステーキが自慢です。
でも、ちと高そう！！

ちなみに “味蕾（みらい）” とは、人間の舌にある、味覚を感じるセンサーのような働きをする器官のことだそうです。

次のこの建物は “地ビールレストラン「奥入瀬麦酒館」” です。

奥入瀬の源流水で仕込んだ４種類の地ビールを味わうことができます。
そして地ビールの製造過程の一部を見学することもできるようになっています。

クルマの運転がなければ、味わってみたいものです。(ノ_-。)

最後のこれは、“手作りハウス「味楽工房」”です。

ここでは主に、乳製品や加工肉食品を作っています。
５月から１０月までは「月替わりソフトクリーム」というのがあり、毎月違う味を味わうことができるそうです。

さて次回は、いよいよ奥入瀬渓流をご紹介します。

奥入瀬渓流

今回は道の駅ではなく、
奥入瀬渓流　のご紹介です。

奥入瀬渓流は行かれた方も多いと思いますが、最初にちょっとだけご紹介をしておきます。

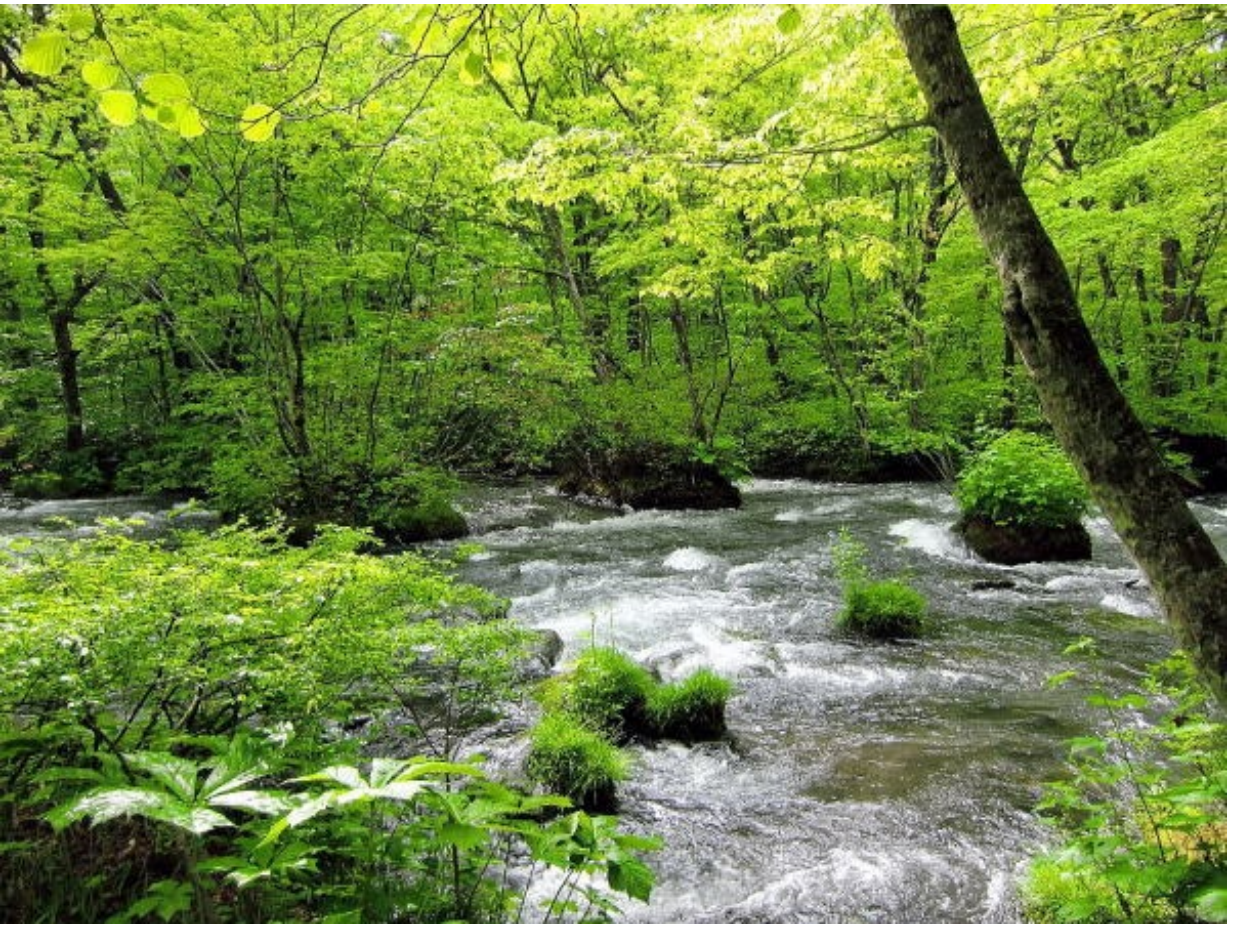
ここは十和田湖から流れ出る清流が奔流となり、いくつもの滝など変化に富んだ景観を作りだした渓流です。
十和田湖畔の “子ノ口水門” から、奥入瀬湧水館のある “焼山” までの１４ｋｍには渓流沿いに車道と遊歩道があります。

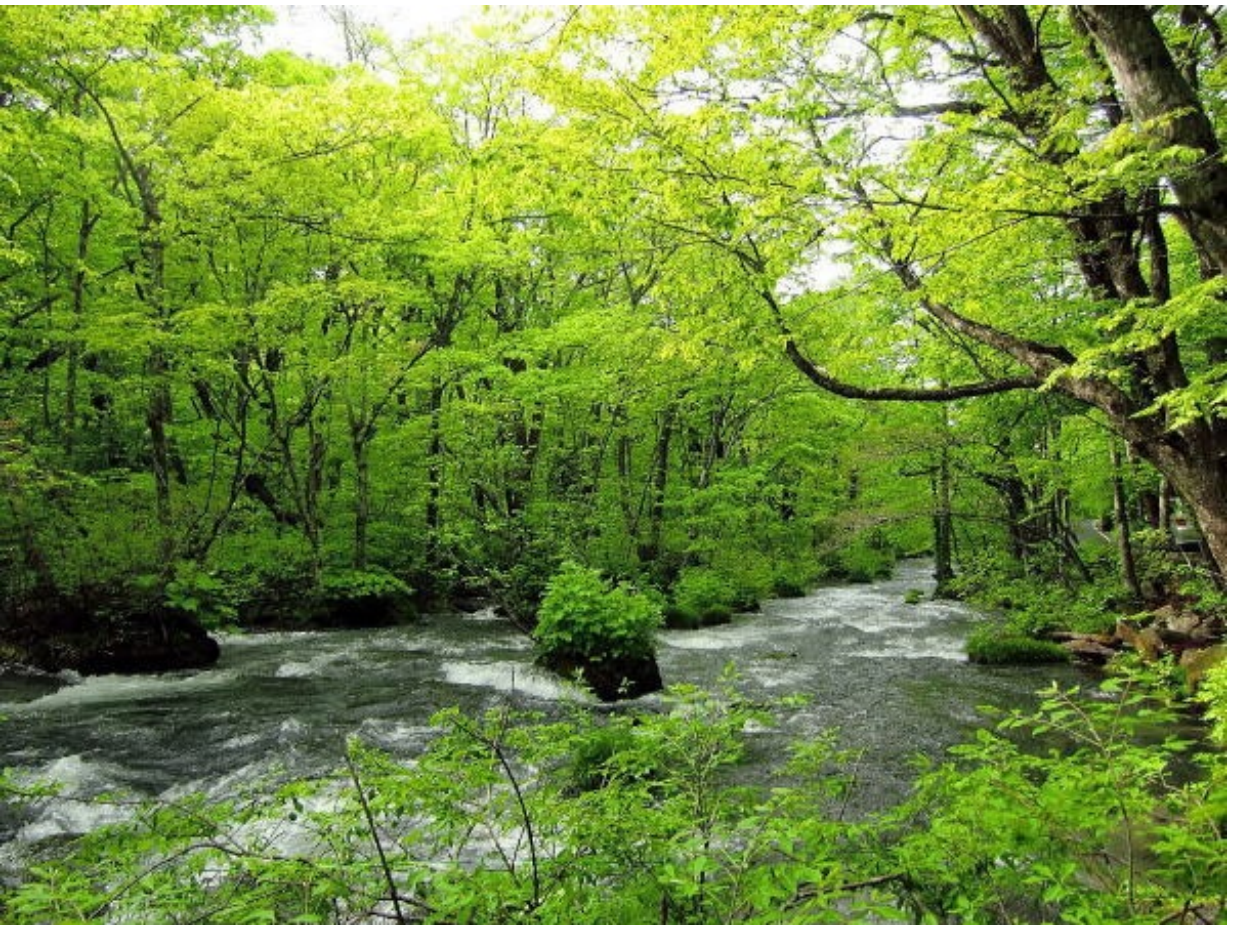
全行程を歩くと４時間４０分ほどかかりますから、途中までバスで行って部分的に歩く方が多いようです。

今回分かったのは、車で行っても道路脇に駐車できる若干のスペースがところどころにありますから、景色のよいところにクルマを停めて少しだけ散策するということが十分できるということです。

但し、紅葉シーズンあたりは道路自体が渋滞しますからこの方法は難しいでしょう。

さて、最初にクルマを停めたのは “三乱の流れ” といわれる付近です。
説明は不要と思いますので、いくつかの写真をご覧ください。

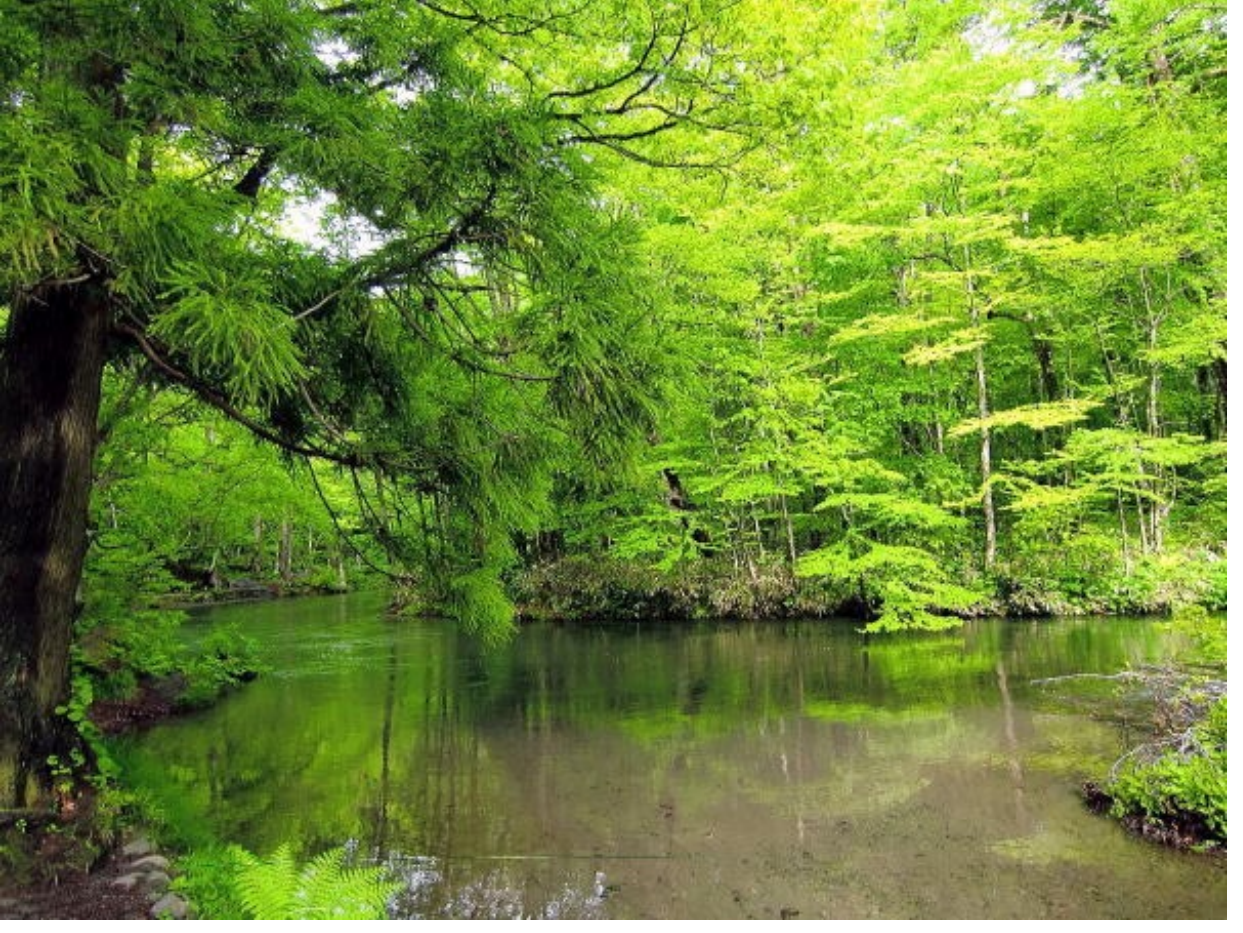


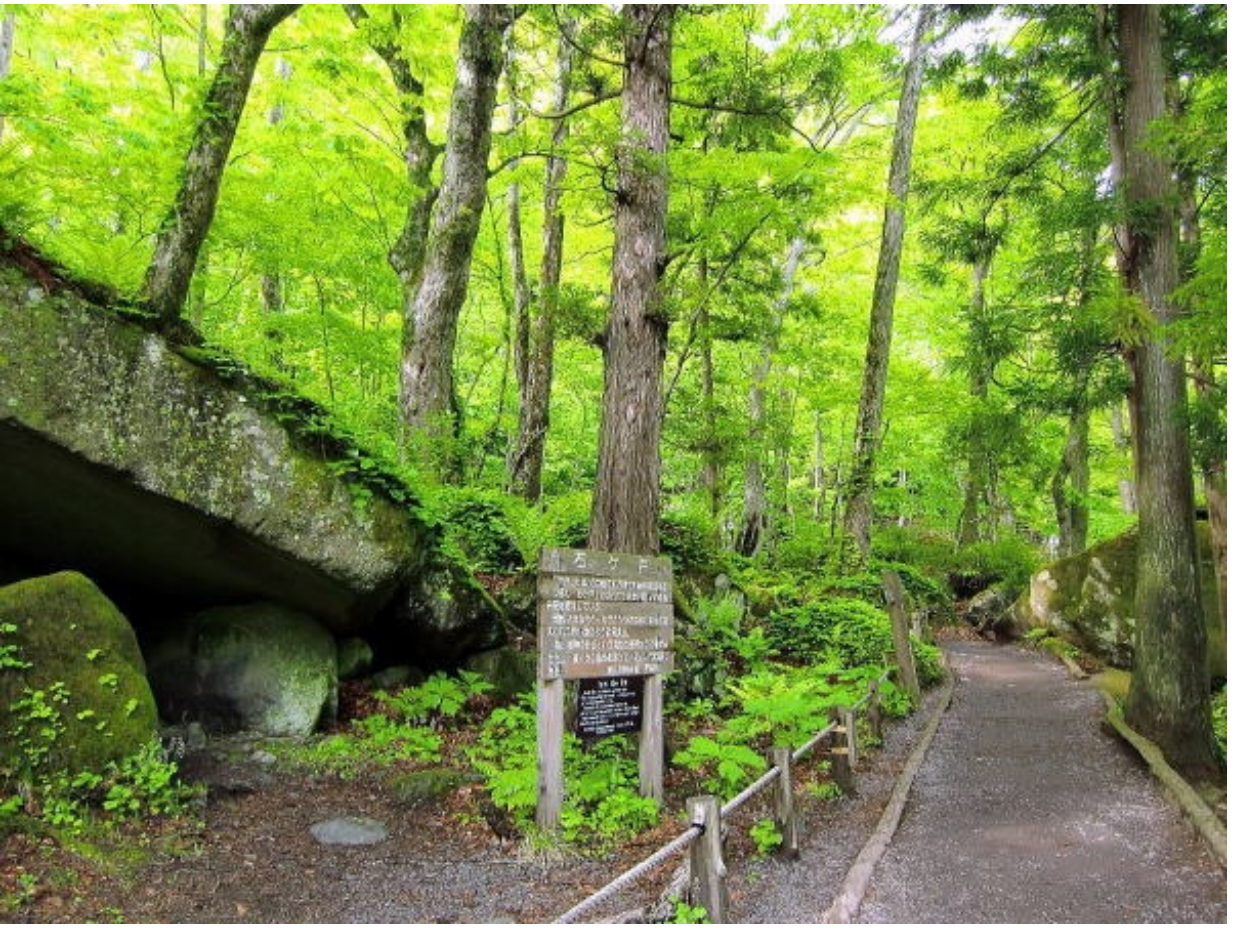


似たような写真ばかりになるので、ここはこのくらいにしておきますね。

この奥入瀬渓流、１４ｋｍのあいだにいくつもの“見どころ”があるのですが、次にクルマを停めたのは“石ケ戸”という場所で、ここは比較的広い駐車スペースがあるので、観光バスも含めたくさんの車が停まっていました。

そしてここには、休憩所や売店、トイレなどもあります。

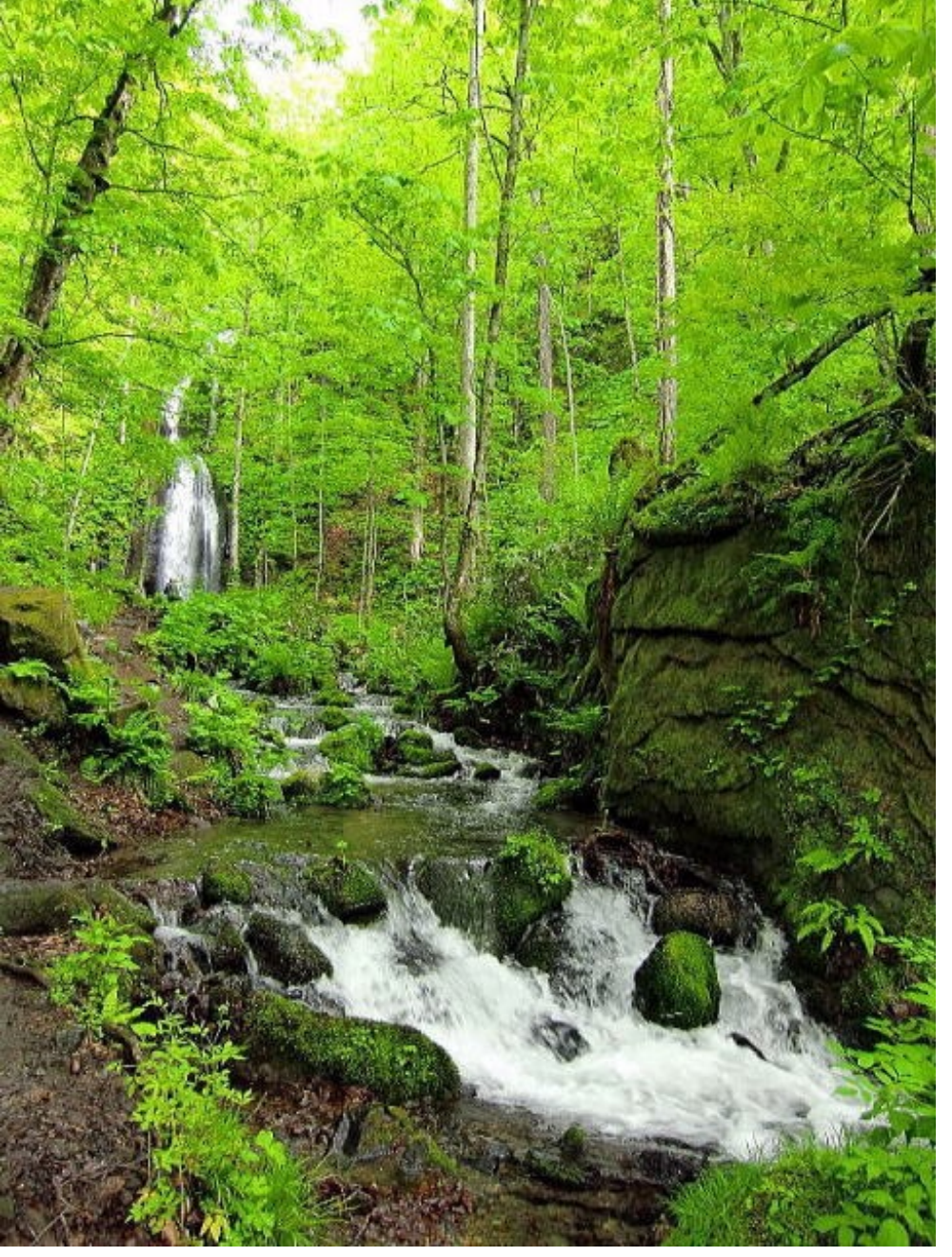




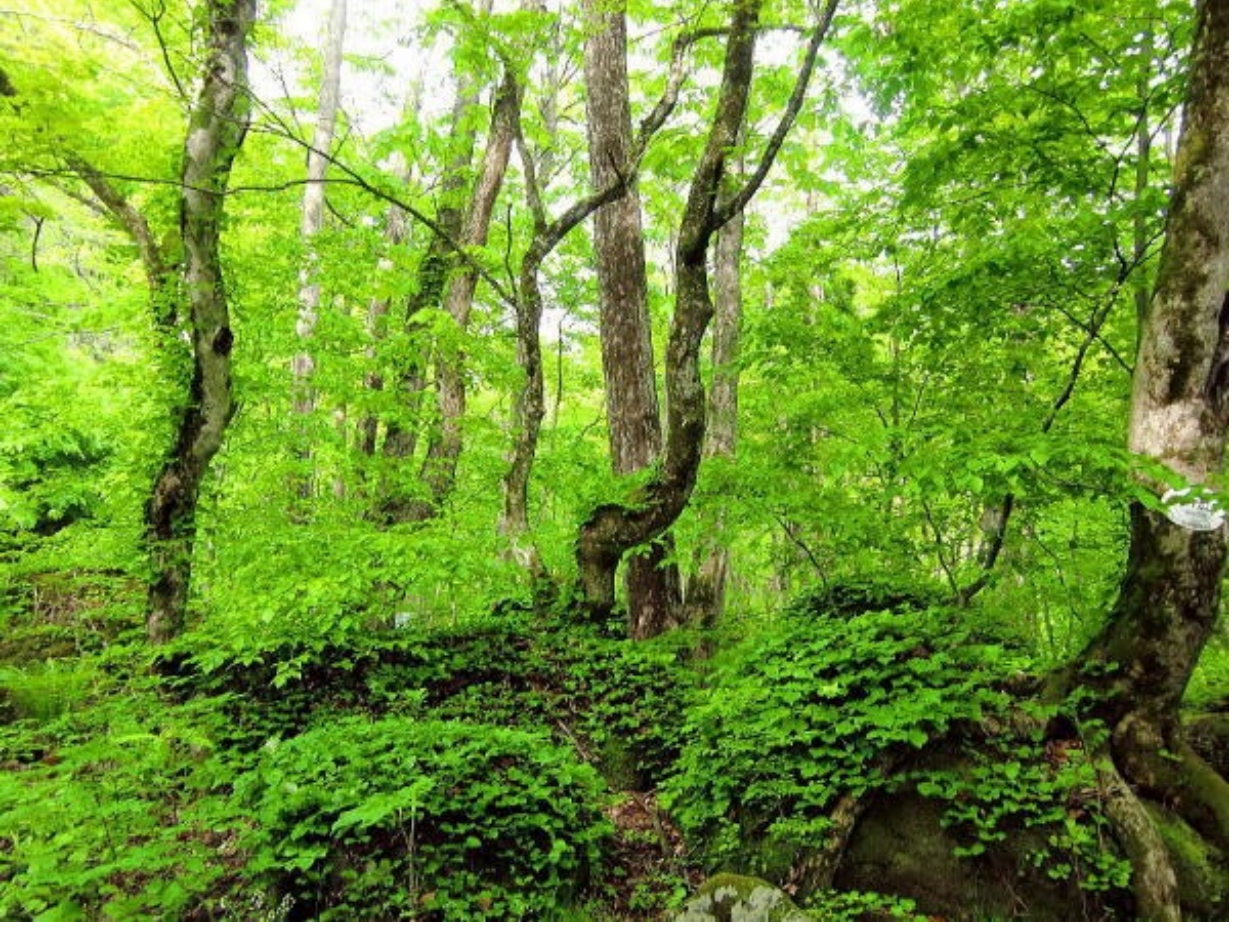
ここは少し流れが緩やかです。

すぐ上の写真が “石ケ戸” という厚さ１ｍ、広さ５０平方メートルの一枚岩で、カツラの木に支えられ、まるで石でできた小屋のように見えます。

さて次は、“雲井の滝” です。



雲井の滝
雲井の滝



この１４ｋｍにおよぶ奥入瀬渓流、シャッターポイントが無数にあります。
今回、それ程時間を費やせませんでしたが、全国の中で是非もう一度来たい場所の一つになりました。

キリストのお墓？“しんごう”

名残惜しい奥入瀬渓流をあとにして十和田湖にでました。

十和田湖は明日あらためて来ることにして、４日目最後の道の駅
道の駅しんごう　へ向かいます。

道の駅しんごう付近で、不思議なものを見つけました。

「キリストの墓」 という案内看板が頻繁にでてくるのです。
結局そこ自体は素通りしてしまったのですが、この “三戸郡新郷村戸来” には、キリストのお墓が存在します。

遠くゴルゴダの丘で処刑されたキリストの墓が、どうして日本にあるの？ってことになりますね。

言い伝えによると、ユダヤの地で磔にあったのはキリストではなく弟イスキリなのだそうです。
キリストはユダヤを離れ、シベリアを横断し、アラスカから船に乗って青森県八戸に上陸し、日本人の妻を娶って、この新郷村で３人の娘を育てたのだそうです。

そしてこの村の地名“戸来（へらい）”はヘブライをもじったと言われています。

まあ、信じる人がいるかどうか知りませんが、それで村おこしになるのならそれも良いでしょう！（笑）

道の駅しんごうは、このキリストの墓の近く、国道４５４号線沿いにあります。

間木ノ平グリーンパーク施設案内図
新郷村
新郷村観光協会

“間木ノ平グリーンパーク” という施設の中にあり、白樺の樹木に囲まれた静かな場所です。

ふれあい牧場があり、乳しぼり体験やポニーの乗馬体験など家族連れで楽しめる施設が揃っています。

道の駅のメインの建物はこれです。

そしてこちらは、“間木ノ平グリーンパーク”の管理棟になります。

更に国道を挟んでも施設があります。

この日は土曜日の夕方で、こんなにがらんとしていますが、次の日（日曜日）に再びこの前を通った

時は、国道の両側ともぎっしりと車で埋っていたのに驚きました。

店内もこの日はがらんとしていますね。

そして、ここへ来た時からずっと気になっていたものがあります。

道の駅の真ん前に停まっているこのトラクター　・・・・・・・・・
最初は展示しているのかな、と思いました。

私たちがスタンプを押し終えて出発の準備をしていた時、突然動きだしました。

ほっかむりをしたおばさんが運転するこのトラクター、駐車場でＵターンすると、さっそうと国道へ出てゆきました。

しばらくして出発した私たちは、ずっと先で国道を堂々と走るこのトラクターに追いつきました。
村の農家のおばさんが、道の駅に作物を届るための “自家用車” だったのでしょう。(^▽^)

さて、４日目の道の駅はこれで終了です。
ここから１時間１０分ほどかけて青森の東端、八戸市内に入り “ホテルＪＡＬシティ八戸” で最後の宿泊をしました。

しんごう・道の駅
鷲の湯
青森県
新郷村
キリストの墓
鷲の湯とキリスト伝説の里

円形テラスを囲む！“はしかみ”

いよいよ５日目、最終日になりました。
本日は３か所の道の駅を回り、十和田湖を少しだけ観光したあと、青森空港から九州に戻ります。

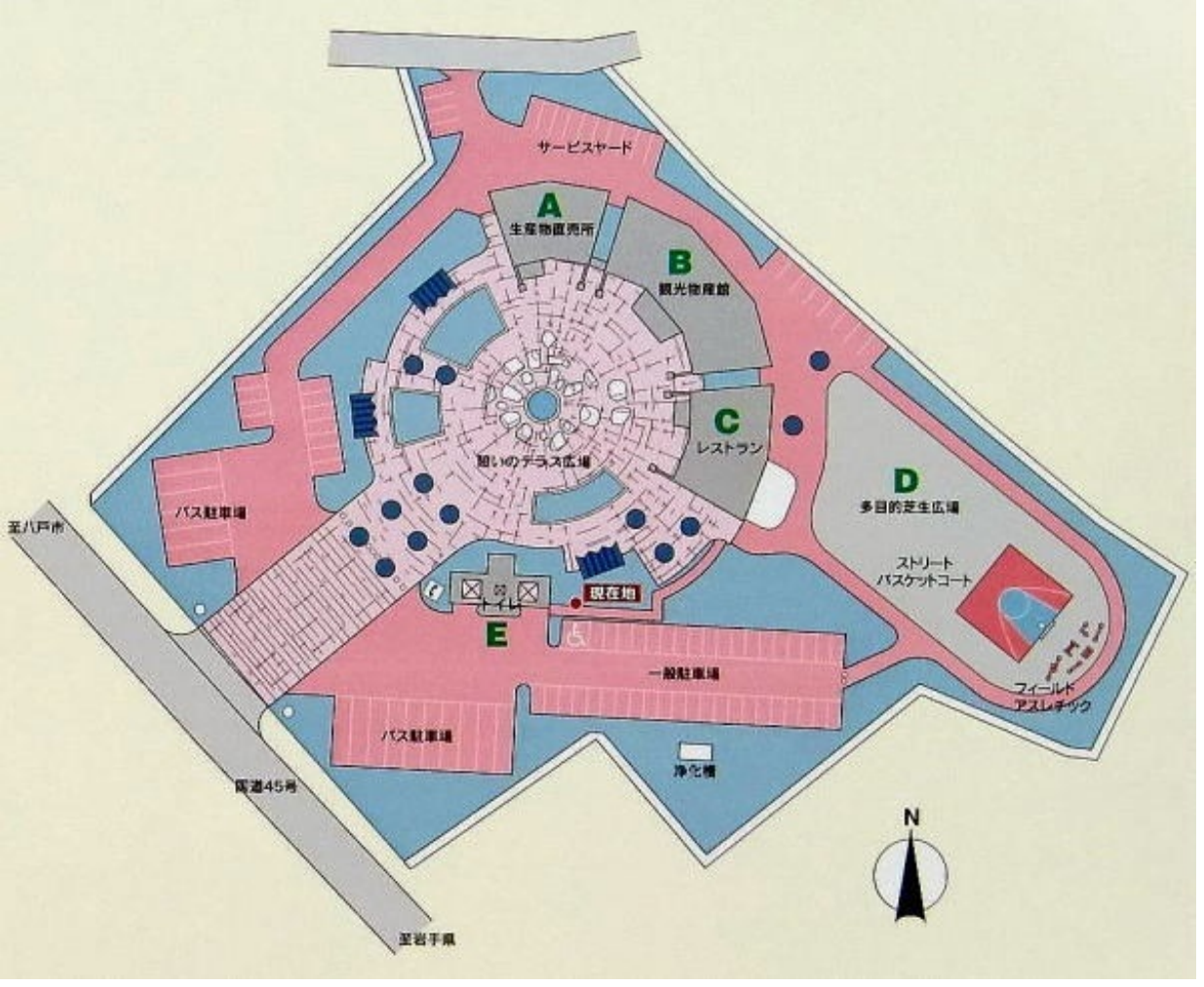
八戸市内のホテルを出発して最初に向かったのは、
道の駅はしかみ　です。

はしかみは、“階上”と書きます。
住所というのは本当に読めないものですね。

三戸郡階上町は、リアス式海岸で知られる三陸海岸の最北部に位置し、青森県では最も東ですから最初に朝日が昇る町といわれています。

今回の５日間の青森の旅で、この日初めて抜けるような青空になりました。

事前の予報では最初の２日間位が曇り時々雨、それ以降は回復するはずだったのですが、結局４日間ずっとどんよりしていましたから、この青空は何より嬉しいです。



ここの道の駅、このように真ん中に丸い大きなテラスがあり、それを囲むように建物が建っています。

真正面である中央に建っているのが、道の駅本体である “観光物産館” です。

そしてその左側には屋台のような“簡易店舗”がずらっと並んでいます。

ここには右からそば屋さん、ドーナツ屋さん、古着屋さん、コーヒー屋さん、たこ焼き屋さん、焼き鳥屋さん、魚屋屋さんがあります。

観光物産館の右側は “レストラン「アゼリー」” です。

レストランの裏側付近に “多目的芝生広場” があり、さまざまな花が咲いています。

やはり天気が良いと、写真も明るくてきれいに見えますね。

この物産館は広くていろんなものが揃っています。

ここで発見したのは “幼虫グミ”

虫の幼虫の形をしたグミで、実にリアル！

ちょっと食べる度胸はないし写真も撮らなかったのですが、以前我が道の駅同志である 俺ですさん が紹介しているので関心のある人はそちらを見てね！

俺ですさん　「リアルなので、注意(笑)」 の記事

スポーツ総合施設！“なんごう”

階上（はしかみ）から一旦八戸に戻り、次に向かったのは
道の駅なんごう　です。

ここの住所は“八戸市南郷区”になります。

“区”なので政令指定都市かと思ったらそうではなく、平成17年に旧南郷村から合併したここだけが“南郷区”で、ちゃんと区役所もあります。

やはり天気が良いと気分も晴れやかになります。
そしてこの道の駅も近代的な建物です。

グリーンプラザなんごう

この施設、“グリーンプラザなんごう”といいますが、手前の丸い屋根は地場産品直売所と和風レストラン並びにそば処が入っています。

その左側の建物には宿泊施設や温泉、研修室、実習室などがあります。

この旧南郷村は“十割そば”と“ジャズ”の郷として有名です。

特にジャズは道の駅に併設された“ジャズ館”に名盤ＬＰ３０００枚、ＣＤ３０００枚を保有し、プロやアマチュアのライブコンサートがほぼ毎週開かれます。

そして一流アーティストを集めて毎年開催される“南郷サマージャズフェスティバル”は全国的にその名前が知られています。

直売所の中も外も大勢の人々で賑わっています。

この道の駅、実は “カッコーの森エコーランド” という広大な施設の中にあります。

ここには、陸上競技場、野球場、テニスコートなどのグラウンドや、温水プール、総合体育館などの総合スポーツ施設があります。

更に、３０００名収容のステージ、バンガローもあって、家族連れの野外活動ができます。

この日も何かの競技が行われていたらしく、人も車も多くて、屋外のスピーカーからは絶えず案内や競技の模様が流れていました。

青森県制覇！“さんのへ”

本日最後の道の駅、そして青森県で最後の道の駅は
道の駅さんのへ　です。

三戸は青森県で一番南にあります。
そのすぐ南は岩手県、そして西側は秋田県です。

三戸は南部藩２０万石の発祥の地で、その居城 “三戸城” の跡地は現在県立の城山公園になっており、
約１０万坪の敷地に３０００本の桜が咲く、県南随一の桜の名所です。

そしてこの道の駅も、その三戸城址をイメージして建設されたのだそうです。

建物の周りは多目的芝生公園になっており、丁度正面に小高い丘があって、頂上には吾妻屋が建っています。

そしてメインの建物がこの “ふれあいハウス” です。

ここには物産品販売のほか、お食事処、観光案内、インフォメーションなどがあります。

ふれあいハウス

道の駅さんのへ

このふれあいセンターが地図の左下ですから、規模としてはそれほど大きくはありません。
農産物加工センターや産直市場が他にあったようですが、行きませんでした。

さて、敷地内にあったこの時計　・・・・・・

三戸城址らしくなかなか洒落てますが、示している時刻は６時１５分？？？

実際は１１時を回ったばかりですから、いい加減な時計です！（笑）

ということで、青森県２７か所の道の駅を５日間で制覇できたのですが、これから十和田湖に向かい、少しだけ観光を楽しんでから青森空港に向かうことにします。

11ぴきのねことえほんの町
道の駅
さんのへ
青森県三戸郡三戸町

最終回！“十和田湖”

青森県の道の駅は回り終えましたが、空港へ向かう途中
十和田湖　に立ち寄りました。

昨日奥入瀬渓流を通って十和田湖にでましたが、次の道の駅を目指す為にほんのちょっとしか見ていないのです。

湖上遊覧船の発着する “休屋” へ到着したのが11時40分。
ここから1時間ごと位に遊覧船がでています。

湖上遊覧には2つのコースがあり、ひとつはここから奥入瀬渓流の入口である “子の口” まで行くコース、もうひとつがぐるっと回って元の休屋へ戻ってくるコースでいずれも所要時間は50分です。

遊覧船発着場の駐車場に乗り入れ、そこのおじさんに尋ねてみると、乗るならすぐに行かないと間に合いません。

おじさんが勧めてくれたのは、“子ノ口” まで船で行って、車は陸上を運んでもらい、子ノ口から八甲田山の麓を通って空港に向かったら良いよ、というものでしたが、時間を考えると少し厳しいものがあります。

遊覧船は諦めることにした私たちにおじさんは、「そこの食堂でお昼を食べて、そのまま車を預けて付近を観光すれば駐車料がいらないよ！」とアドバイスしてくれました。

アドバイスに従って付近の食堂で先に食事を済ませ、十和田湖畔の散策に！

十和田湖の湖面とホテル群のあいだに遊歩道があります。
これは湖面に突き出した “中山半島” の先端に向かっていて、その途中に有名な “乙女の像” があります。

食堂のおばさんからは10分くらいと聞いたのだけど、随分歩いた気がしました。

ようやく “乙女の像” に到着！

高村光太郎の作品です。

う～む！乙女というよりおばさんに見えるんだけど・・・・・・この体型は！
すみません、光太郎さん、モデルさん！

ああ、やはりシルエットだけの方が良いような・・・（笑）

遊覧船には乗らなかったけど、付近の散策だけで十分楽しめました。

そして十和田湖を離れ、湖面の西側を走り、国道４５４線、１０２号線と辿って黒石ＩＣから高速に乗り青森空港へ向かいました。

こうして５日間の青森の旅も無事に終了しました。
次回からは６月に行った “秋田の旅” をスタートします。

丁度先月の今頃に秋田から戻ってきましたから、実際の旅と１カ月以上のづれが出ていますが、次に東北へでかけるのは９月ですから、もうしばらくはこのままお付き合い下さいね！

土笛の里！“ことおか”

本日より秋田の旅シリーズをスタートします。

福岡空港から大阪伊丹空港で乗り継ぎ、秋田空港に到着したのは１０時１５分です。
ここでレンタカーを借り、秋田自動車道を一気に北上して最初に向かったのは、
道の駅ことおか　です。

今回のルート選びにはだいぶ苦労をしました。

北海道や東北等の遠方へ出かける場合は、通常ＪＡＬツアーズのパックで航空券、ホテル、レンタカーがセットになったものを使います。
個別に予約するより、経験上この方がかなり安くなる為です。

ただ宿泊地がある程度限定されるので、回る道の駅の分布と宿泊地でルートをシミュレーションしなければなりません。

通常次のような手順で回るルートを計画します。

①道の駅の地図と宿泊可能地域を頭に入れ、大まかなコースと日程を考える。
②EXCELの表に書き込み、ゼンリンのソフトを使って、各道の駅間の距離と所要時間を算出。
③その結果、１日で回るのが困難な場合は再調整。
④各道の駅の「定休日」と「営業時間」を確認し、休日にかかれば再度コース変更。

秋田県は南北に長いので、１日目は一気に北上して最北の十和田湖に宿泊、２日目は別のルートを南下し、中間地点の秋田市内に宿泊。

そして３日目は県南部を一気に回って田沢湖に宿泊。
最終日に残った中間地点をいくつか回って秋田空港から帰るルートにしました。

ですから、本当は４日で済むのですが、普段道の駅ばかりひたすら走りまわって“観光”をしないことを常に嫁に文句を言われているので、田沢湖に２泊して丸１日をフリーにしたのです。

さて前置きが長くなりましたが、秋田空港で借りたのはこのクルマ。

前回と同じく“マーチ”です。

“秋田空港ＩＣ”から秋田自動車道に乗り、男鹿半島付け根にある“琴丘森岳ＩＣ”まで一気に走り、約５０分で到着。

道の駅
ことおか
Kotooka
P
土笛の里
Tsuchibuenosato

縄文の夢とロマンの土笛
道の駅ことおか 土笛の里
三種町体験学習
物産館 サンバリオ

この男鹿半島（おがはんとう）周辺にはいくつもの道の駅が集中しているのですが、ほとんどを明日に回して、ここからは北東ルートを辿ります。

この建物には２４時間使える休憩室とトイレがあります。

そして道の駅本体はこちらです。

手前が “産直施設グリーンぴあ”、そして奥の丸いのが “体験学習物産館サンパリオ” になります。

２つの建物を結ぶ通路の途中にこんなものがありました。

この古代の少年が口にくわえているものは “土笛” です。
この道の駅の愛称が “土笛の里” になっていますね。

実はこの “琴丘町” には “高石野遺跡” という縄文時代の遺跡があります。
ここで発掘されたものに全国でも珍しい “土笛” があり、恋人たちがお互いを呼び合う為の合図に使ったと言われています。

この地域にかつて住んでいた古代人の若者たちはロマンチストだったのでしょう。(^ 〜 ^)

そしてこの “体験学習物産館” は、深鉢型縄文式土器をイメージして建てられました。

スタンプもこの建物にありましたが、レストランのほか、土笛作り、押し花アート、焼杉作りなどの体験学習室があります。

そしてこちらが “産直施設” です。

正面に見えている右側の白いシャツの男性、一眼レフを下げて、右腕には「取材」と書かれた腕章をされていました。

左の店員さんが店内を案内して何やら説明をしていましたから、雑誌か何かの記事になるのでしょう。

あ、それで思い出したけど、以前ご紹介した“じゃらん九州”に掲載された「絶景道の駅ベスト５」の記事、その後取材の謝礼として５０００円頂きましたよ！v(^-^)v

友人らに自慢するのに自分で５～６冊買ったから、元はとったことになります。（笑）

秋田県山本郡三種町
サンドリオ
三種町琴丘体験学習物産館
道の駅
ことおか
土笛の里

悠紀の国 “五城目”

２か所目は 五城目・八郎潟ＩＣ から国道２８５号線を１０分ほどの
道の駅五城目　へやってきました。

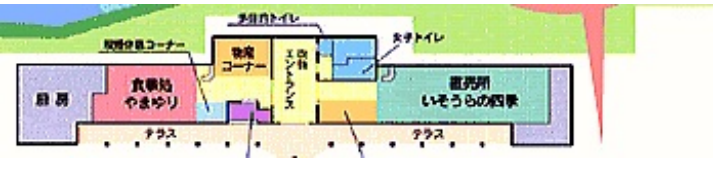
この道の駅の愛称は “悠紀（ゆき）の国” っていうんだけど、どういう意味なのか良く分からないんです。

ここは駐車場は広くて、正面に横に長い建物が建っています。

この左横にもう一つの建物があって、これはトイレと休憩所のようです。

そして建物の裏には “自然観察園” という遊歩道があります。

ご覧のようにこの日の天気は雨模様です。
６月下旬の梅雨の真っただ中ですから仕方がありませんね。



正面を入るとエントランスがあり、スタンプはここにありました。

そして左側が食事処、右側が直売所の、それぞれの入口があります。

直売所に入ってみました。

こういった知らない土地へ来ると、初めて目にする珍しいものがあるものです。
ここで見つけたものはこれです。

大きさは “小梅” ほどでしょうか？
昔の飴玉みたいな模様があって、“すぐり” と書いてあります。

正体が分からないのでさすがに買いませんでしたが、調べてみると 「果実」 の一種だそうです。
少し酸味があって、ジャムや果実酒を作るのに使います。

主な産地は青森県や長野県になっていましたが、青森では気がつかなかったですね。

さて、空模様が気になりながら先を急ぐことにします。

秋田杉の里！“かみこあに”

男鹿半島から十和田八幡国立公園方面へ向かう国道２８５線を３０分弱走り
道の駅かみこあに　へ到着しました。

“かみこあに” は、“上小阿仁村” という地名です。

ここは村の面積の９２．７％が山林で、藩政時代から “天然秋田杉の里” として知られてきました。
ただ天然秋田杉は近年枯渇寸前になっており、戦後に植えた人工林に望みを繋いでいるそうです。

この右側の白い建物は休憩施設とトイレで、これが駐車場に面しています。
全体の配置はこのようになっています。

休憩施設の裏側にある道の駅メインの建物がこちらです。

この左側の部分が “物産センター”

そして右側が “秋田杉の館” といいます。
いずれも、秋田杉をふんだんに使った、ログハウス調の温かい建物です。

“秋田杉の館” に入ってみると、広い空間にテーブルが並び、軽食や郷土料理などの４つの飲食テナントが入っています。
そして右奥にはレストランもあります。

なかなか雰囲気の良いスペースです。
店内の通路を伝って左の建物に入ると、そこは物産センターです。

少しでも時間を節約したいので、ここで走りながら食べられる食糧を調達しました。

ところでこの道の駅、別名が “秋田杉とコアニチドリの里” になっています。

“コアニチドリ” というのは、大正８年にここ上小阿仁村で初めて発見され、付近を流れる小阿仁川（こあにがわ）にちなんで命名された、ラン科の植物の事です。

（ＨＰより画像借用）

小さな蝶が飛んでいるように見える、可憐な花ですね。

マタギの里！“あに”

次はルートを少し外れ、国道１０５号線を田沢湖方面にしばらく南下し、

道の駅あに　へやってきました。

この日の天気は曇りで、時々弱い雨が降っていましたが、ここへ到着した時は傘がないと外に出られないほど降ってきました。

傘をさしながらの写真撮影は苦労します。

ご覧の通り、山はすっかり雲に覆われてしまっています。

さてここは“マタギの里”、回りは深い山に囲まれていますから、今も昔もマタギの活躍の場だったのでしょう。

そんなわけで、道の駅の周辺にはこのような木像がいくつも立っています。

雨がひどいので、とにかく店内に避難します。

建物の周囲にもやはり動物たちの木像がありますね。

実はこの道の駅で楽しみにしていたものがあります。

雑誌 “るるぶ秋田” に載っていたこのソフトクリームです。

見るからに美味しそうではありませんか！
しかも３００円・・・・！ヽ(°◇°)ノ

道の駅の中の食堂で 「山ぶどうソフト」 の食券を買い、早速注文しました。
嫁が、“るるぶに載っていて美味しそうでしたからね！” などと店員と話しています。

でも　・・・・・・　出てきたのは、ちょっと紫色がかった普通のソフト！
写真と全然違います！Σ(°д°;)

ここではなかったのかな～などと考えながら、写真も撮らず黙々と食べて食堂を出ました。

車に戻って “るるぶ” を開いてよ～く読んでみると　・・・・・・
“山ブドウの一種「夏はぜ」のソースをかけたソフト４００円も人気” って小さく書いてあるではありませんか！

よく読まなかったのが悪いけど、上の写真、どうみてもこれが３００円だって誤解しますよね！ヽ(`Д´)ノ
それに、食券の販売機にそんなものはなかったと思うけど・・・・？

あっ、それからもうひとつ、帰りに気づいたこのノボリ！

運転中は食べられないかもしれないけど、どなたか行かれたら実物をレポートしてね！

道の駅あに
マタギの里
またたび館
安の滝

比内鶏の里！“ひない”

次は、元の２８５線まで戻って、大館市にある
道の駅ひない　へやってきました。

ひとつ前の“あに”の道の駅からは６０ｋｍ、１時間１０分程の距離ですが、雨脚がひどくなりこんな状態！

クルマの中からでは道の駅標識が撮れません。

目的地には到着したけど、しばらく車から出られない程でした。
“晴れ男” の看板は、今回だけは完全に下ろさせてもらいます。(´__｀。)

でも、少し弱くなって傘をさしながら写真を撮っていると、いつの間にか雨は上がってしまいましたよ！

“比内” といえばもちろん “比内鶏” ですね。

まねき猫ならぬ“まねきどり”が迎えてくれます。

そしてこれは　・・・・・・・・・

比内鶏の卵の「公衆電話」です。（笑）

更に、この通りを“コケコッコ通り”といいます。

さてこの道の駅ですが、全体はこんな配置です。

上の写真の左側の建物が “とっと館” という軽食・直売コーナーです。

中に入ると結構広いですが、やはり目につくのはこれです。

“比内地鶏” は “薩摩鶏” “名古屋コーチン” と並ぶ日本三大地鶏の一つです。
そして秋田を代表する郷土料理 “きりたんぽ” には欠かせない食材です。

比内鶏はふ化後約２カ月をクローバ-等の牧草地で放し飼いにされ、出荷までの１５０日間、丹精をこめて飼育されます。
ですから余分な脂肪や水分がなく、適度な歯ごたえがあって高級鶏肉として各方面から絶賛されています。

さて、もうひとつ奥に大きな建物があります。

ここは “プルミエ比内” という共同福祉施設で、右半分はレストランになっています。

正面を入ると、ここにも “まねきどり” が　・・・・・。

中央は広いロビーになっていて、両側に比内地鶏などの紹介などが並んでいました。

剥製とはいえ、さすが日本三大地鶏の血筋、精悍な顔つきをしていますね。

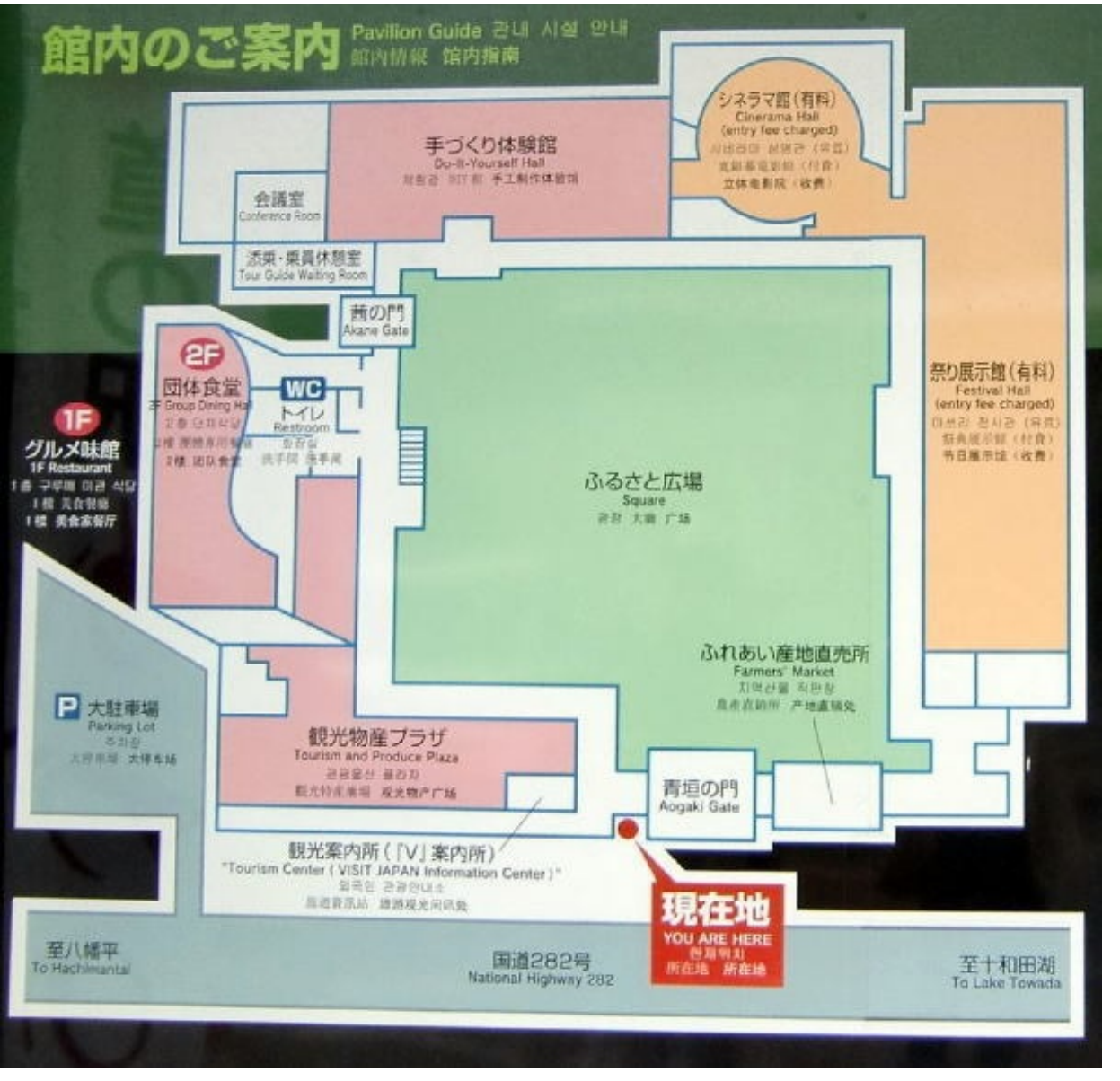
次は１日目の最後の目的地になります。

道の駅かづの　へは４０分弱で到着しました。

“かづの”は“鹿角”と書き、「秋田県鹿角市」という地名です。

この道の駅の名称“あんとらあ”というのは、この鹿角市からきているもので、
鹿の枝角の英訳“antler”をひらがなにしたものなのだそうです。

この道の駅、すごく広いので、先に配置図をお見せした方が分かり易いでしょう。



真ん中に大きな広場があり、それを囲むように建物が “ロ” の字に並んでいます。

国道から入って正面にあるのが “観光物産プラザ” です。

このマーチが私たちのレンタカーです。

そして中央の広場への入口がこれです。

これは “青垣の門” と名付けられています。
石川啄木が 「青垣山をめぐらせる天さかる鹿角の国を・・・」 と詠んだことに因んだそうです。

この門を入って行くと、広い “ふるさと広場” があります。

ここ鹿角市は、日本三大ばやしの一つである “花輪ばやし” が有名です。
これは毎年８月の１９日、２０日に行われる、鹿角市の夏の終わりを告げる行事です。

このふるさと広場の右側の建物が “祭り展示館” で、この祭りで使われる屋台が一堂に展示されているのですが、この時間、既に１７時を過ぎていたので、門はしっかり閉ざされていました。

さて、物産館の中を見て回ったあと、もうひとつ気になるものがありました。

私たちが停めたマーチの真ん前には、“味噌だれのきりたんぽ” を焼いていたのです。
その匂いの誘惑に勝てず、早速注文しました。

おばさんに“写真撮らせてね！”って頼んだら、さっと隠れてしまったので、“いや、焼いているところを撮りたいんですよ！”とお願いしたのがこの写真！

でも許可をもらってないので顔の部分はトリミングしておきますね！

実はこの“鹿角市”は、きりたんぽの発祥の地なのだそうです。

秋田県北部のマタギ料理が発祥との話も聞いたので、どれが本当でしょうね？

きりたんぽって、鍋で食べるものだとばかり思っていたけど、この味噌をつけて焼いたのも結構美味しかったです。

さて、初日の道の駅巡りはこれで終了。
ここから５０ｋｍ離れた十和田湖畔まで一気に走り、“十和田観光ホテル”に宿をとりました。

夕食はお部屋で頂きました。

きりたんぽ鍋もありました。
これに比内鶏も入っていたかもしれません。

このホテル、十和田湖畔に面しており、つい１か月前に歩いた湖畔の散策路が目の前です。
でも、残念ながらこの天気、外に出られる状態ではありません。

前回の時に観光をしておいて本当に良かったと思いました。

突貫工事中！“こさか七滝”

２日目になりました。

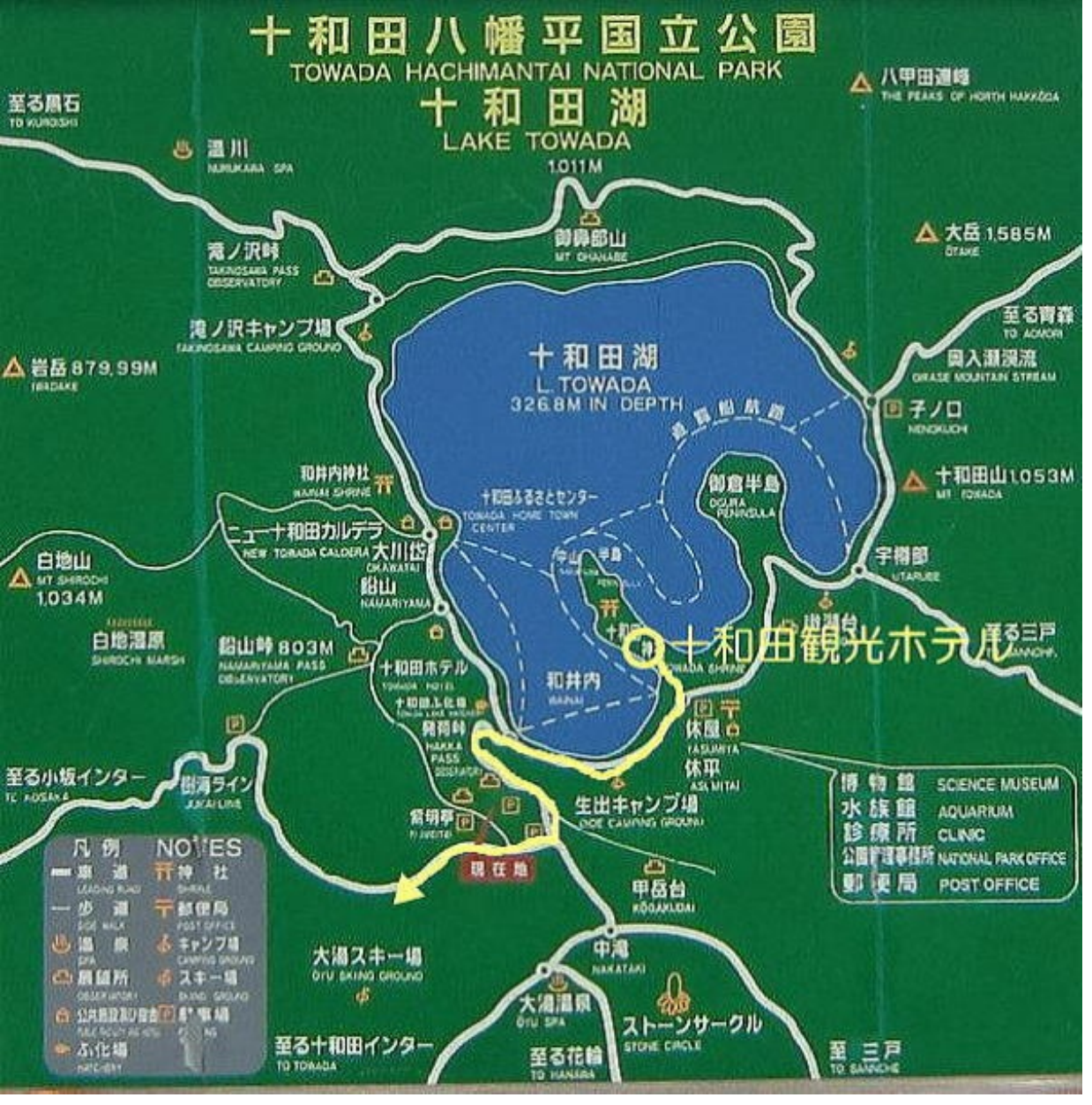
最初にご紹介するのは、この時点ではまだオープンしていなかった
道の駅こさか七滝　です。

初日に宿泊したのは十和田湖畔の “十和田観光ホテル” です。

夜中に激しい雨の音で目を覚ました程で、「あ～、明日もダメか！」 と思いました。

でも朝になってしばらくするとだんだん明るくなり、日差しも出てきましたよ！
ホテルの部屋の窓から十和田湖の湖面と、白鳥の形をしたボートが見えます。

８時２０分、ホテル出発！



十和田湖畔をしばらく走り、黄色のラインを進みますが、“樹海ライン” にはいる少し手前に展望台があります。

“発荷峠第一展望休憩所”　といいます。

ここからの十和田湖の眺めです。

いや～！昨日が嘘のような良い天気になってきました。

展望台を離れ、“樹海ライン”へ入ってゆきます。
ここは正確には県道２号線で、十和田湖と大館市を結んでいます。

その名の通り山深い森林を縫って走りますが、道路はちゃんと２車線の舗装道路で快適です。

そして最初の目的地“こさか七滝”はこの樹海ラインの途中にあります。

といってもこの道の駅は７月３日に新規オープンする予定で、この日は６月２４日なのです。
おそらく建物くらいは既にできているはず・・・・・と思って向かったのですが・・・・・。

途中、道路工事中で一方通行の泥んこ道がありました。
その泥んこ道の途中に、工事をしている大きな建物がありました。

一旦は通り過ぎてしまったのですが、気がついてだいぶ先でUターンして、その工事現場に戻ってきました。

広い駐車場にいっぱい停まっているクルマは、すべて工事関係者です。
ヘルメットをかぶったおじさんに聞いてみると、ここは７月３日にオープンなので、工事を急いでいるとのことでした。

工事関係者が忙しく動き回っている中で、あつかましくふたりで写真を撮りまわりました。

上の写真の左下に小さく “七滝” と書かれた看板が見えますでしょうか？
ここには、日本の滝百選に選ばれた “七滝” があるのです。

オープンすれば、十和田湖や八幡平にも近いベストロケーションであり、観光スポットの一つになることでしょう。

オープンまで１０日しかなかった訳ですが、無事に工事は間に合ったようです。

（小坂町ＨＰより拝借：道の駅オープンセレモニー）

道の駅看板の写真も撮れず、道の駅スタンプも無いけど、一応この道の駅、制覇したことにしておきましょう。
大目に見てね！(^▽^;)

ギネスの大太鼓！“たかのす”

樹海ラインを過ぎ、国道７号線を西へ１時間ほど走って

道の駅たかのす　へやってきました。

雲は多少あるものの、上天気になってきましたよ！

今回の５日間、梅雨の最中ということもあり天気予報はあまり良くなかったのですが、
結果として初日だけが “雨” そして残り４日間はほとんどこのような晴天だったのです。

ということで、昨日返上した“晴れ男”の称号はもう一度いただくことに　・・・・・・　。(^▽^;)

さて、上の写真は物産館“大太鼓の里　ぶっさん館”ですが、駐車場の奥にもう一つ大きな建物があります。

こちらは“大太鼓の館”といい、国内唯一の大太鼓の博物館なのです。

ここ「北秋田市綴子（つづれこ）」地区には、約７００年の歴史を持つという“綴子太鼓（つづれこだいこ）”があります。

ここに展示されている大太鼓のうち最も大きいのは直径3.80ｍ、胴の長さが4.52ｍ、重さが3.5トンあります。

そして２番目が直径が3.71ｍですが、こちらは「牛の一枚皮を使った世界一の和太鼓」としてギネスブックに認定されています。

この、建物の壁面に描かれたイラストがその大太鼓ですね。

そしてここには世界４０カ国の１４０種類の太鼓が展示されており、その半分は実際に叩くことができるそうです。

これは入口付近にあった“クローンエー”というタイの太鼓です。
ここから先は有料になります。

全部を見たかったけど、この後の行程を考えるとここだけで時間を費やす訳にはゆかず断念！

入口のテレビで実際の祭りのビデオが流れていました。
ガラスが反射して映りが悪いけど、雰囲気だけでも味わって下さい。

さて、物産館の方へ行ってみましょう。

さすがに“太鼓まんじゅう”というのがあります。（笑）

そして“じゅんさい”とか、畑のキャビアといわれる“とんぶり”がここの名産なのでしょう。

“じゅんさい”を一升瓶で売っているのにはびっくりしました。

最後に全体の配置図を載せておきます。

区分	施設名	整備主体	備　考
A	ぶっさん館	鷹巣町	鷹巣観光開発(株)
B	大太鼓の館	鷹巣町	総務省 ふるさと創生事業
C	子供の広場	鷹巣町	子育て支援事業
D	水辺の公園	鷹巣町	農林水産省 水環境整備事業
E	道路情報 休憩施設	国土交通省	道路事業

次は同じ国道７号線を１５分ほどで、

道の駅ふたつい　に到着です。

“きみまちの里”という名前がついていますが、この道の駅に隣接して“県立自然公園「きみまち阪」”があるためです。

なぜ“きみまち阪”かというと、明治天皇の東北御巡行の際、夏の長旅を気遣う皇后の手紙がここで天皇をお待ちしていた、というエピソードに因んだそうです。

ですから今でも、「きみまち恋文全国コンテスト」等の催しが行われています。
今はすべてメールか携帯の時代ですから、「恋文」なんて死語になったのかもしれませんが・・・。

駐車場の目の前にあったこの建物、これが道の駅かと思ったら、“きみまち杉ちょくん”という農産物直売所でした。

このすぐ左側にちょとした階段があり、その上に大きな建物があります。

行ってみると、ここが道の駅の本体でした。
“ニツ井総合観光センター” という物産館です。

中は広いのですが、この時間、お客はまばらでした。

ここには物産館の他にもいくつかの建物があります。

ここは、“みんなの自転車ステーション 「パークりんりん」” と書いてあります。
それに、“観光案内所” の看板もかかっています。

もうひとつがこちらです。

これは、“二ツ井町歴史資料館” です。
秋田藩がここで銅と銀を精錬し、鋳造した通貨などが展示されているそうです。

最後にもう一つ是非とも紹介したいものがあります。

これは、ふるさと創生事業で作った “一億円のトイレ” です！

今回初めてこのトイレにカメラがはいります。（笑）
もちろん、男子トイレですよ！(^▽^;)

真ん中には水が湧いていて、お花もあり、照明も洒落ています。
側面に普通の男子便器もありますが、“きみまちの泉”と書いた白い仕切りの裏側が怪しげですね。

その内側がこれです。

これは男子小便器なんです。

硝子壁の向こうからタヌキが覗いているんで、何だかやりにくそう！（汗）

これらの写真、人がいなくなるのを待って、急いで撮った苦心の作なんですよ！v(^-^)v

道の駅
ふたつい
秋田県
県立自然公園
きみまち阪
となり
恋文がとどく街・町井ツー

期待外れ！“白神山地世界遺産センター”

次は道の駅ではないのですが、ふたついの道の駅から１４ｋｍほど離れた
白神山地世界遺産センター　に行ってみました。

“白神山地” はご存じのように、青森県南西部から秋田県北西部の、青森・秋田の県境を中心とした広大な山岳地帯の総称です。

白神山地全体の面積は両県を合わせて約１３万ｈａにも及ぶのですが、その中でも特に人の手が入っていない原生的なブナ林１６，９７１ｈａが１９９３年に世界自然遺産に登録されました。

前回青森を旅行した時は白神山地に立ち寄っていないので、今回は少しでも雰囲気を味わいたいな、と思いました。

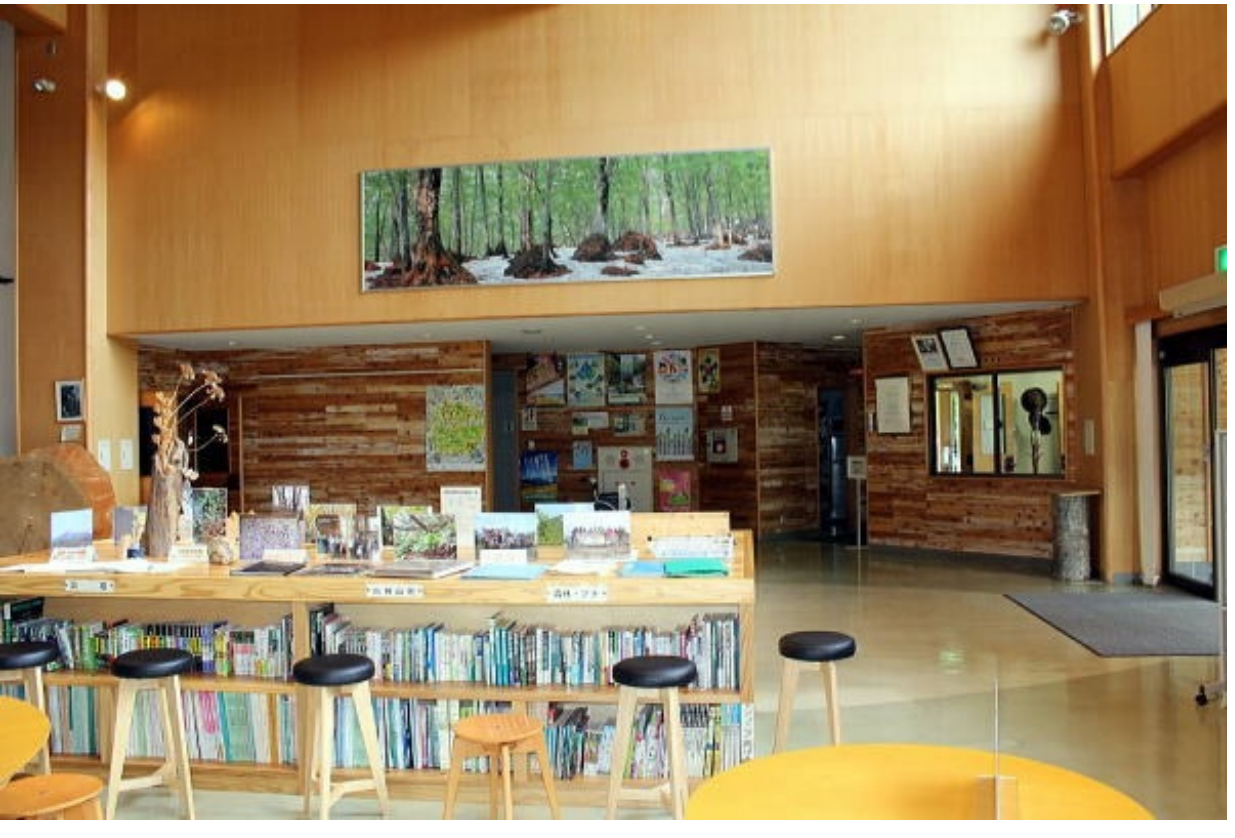
それで今回の行程を決める時に、ルートからそれ程離れていない、この“白神山地世界遺産センター”を目的地の一つに加えたものです。

私はてっきり、これが白神山地の一部にあって、少しだけでもブナ林を散策できるものと勘違いしていました。

到着してみると、何と、普通の町なかの、平地にあるではありませんか！

ここから眺めても、山ははるかかなたにあるし、看板に書かれた“太良峡（だいらきょう）”も１５ｋｍも先です。

がっかりしながら、とりあえず建物に入ってみました。



全く人気のない、この世界遺産センター、正確には「白神山地世界遺産センター “藤里館”」といいます。

元々世界遺産に関する情報や白神山地の自然を人々に知ってもらう為の施設で、模型や剥製を使った展示室や、多目的ホールなどがあります。

白神山地に生息する動植物の紹介などが主なようです。

私たちがいる間、誰一人他の見学者は来ず、職員さんの姿も見かけませんでした。

元々私の勘違いによる期待外れですが、白神山地を散策するなら青森側から、“ミニ白神”や、“十二湖”あたりを行っておけばよかったな、と今更ながら後悔しました。

世界自然遺産 白神山地
小岳(1042.3m)登山記念

県境が動いた！？“はちもり”

次は海岸線に出て、国道１０１号線沿いにある
道の駅はちもり　です。

八森町は合併して現在は “八峰町” になっていますが、秋田県の最北部で青森県に隣接しています。

この道の駅、ひらがなで “はちもり” のはずですが、何故か道路標識は漢字の “道の駅八森” になっています。
“ハタハタ” が町のシンボルマークですね。

ここはかなり規模の小さな道の駅です。
右側がトイレで、その左奥にお店と食堂があります。

トイレにもシンボルの“ハタハタ”が描かれています。

こちらが売店と食堂ですが、普通の田舎の雑貨屋的な雰囲気で、道の駅には見えません。
おそらく小さい道の駅のランキングに入るかもしれません。（笑）

さて、この道の駅には “お殿水” という看板がかかっています。
ここには、白神山地を源とする湧水 、“お殿水” があり、誰でも自由に汲んで持ち帰ることができます
。

何故 “お殿水” という名前がついたかは、この看板に書いてありました。

お殿様に褒められた水、ってことですね。

道の駅のすぐ裏側は深い森になっています。
白神山地もこんな雰囲気かな、と思いました。

さて、この道の駅の真ん前の国道１０１号線に、面白いものを発見しました。

“今年はここから秋田県” ヽ((◎д◎　))ゝ

“観光的県境” (@_@)

どうやら毎年 “国盗り網引き合戦” というのがあり、その勝ち負けで県境が動くということですね。（笑）

実際の県境はもう少し北のはずだから、ここに県境があるということは、合戦に負けて青森県に領地を盗られたということでしょうか！？

それとも、勝った方がこの看板を掲げる権利があるってことかな？
いずれにせよ県境を賭けた戦い、面白いアイデアです。(*^▽^*)

道の駅・はちもり
ロハス
殿水・秋田県八峰町八森

ポンポコ狸！“みねはま”

観光的県境（笑）のあった八森から、日本海沿いに１０１号線を南下すると、

道の駅みねはま　へは２５分で到着しました。

なぜここが“ポンポコ１０１”かというと、昔からこの付近には狸が出没すること、それに「ホンコ谷地」というここの地名から取ったのだそうです。

数字の“１０１”は勿論国道１０１号線沿いだからですね。

ということで、早速タヌキ登場！

う〜ん！　このタヌキ、あんまり可愛くないですな〜

道の駅の建物は２つあって、これは “おらほの館” という産直施設です。

“おらほ” っていうのは津軽弁で “私たちの” っていう意味でしたね。
青森の 「道の駅もりた」 で以前覚えました。

その右隣にあるこの建物がトイレと休憩所、道路情報案内施設です。
この入口には、こんなものが・・・・。（笑）

さてこの道の駅、実は “ポンポコ山公園” というのが隣接しています。

左下の道の駅の建物の小ささを見ると、全体の広大さが実感できますね。

“ラベンダー祭り” のノボリが並んでいましたが、まだほとんど咲いていません。

手前中央の右方向がラベンダー園で、丘の上に建つのが “サンセットタワー” といいます。

サンセットタワーにもタヌキが描かれています。

この丘の向こうにはバンガロー村、野外ステージ、グランドゴルフなどがありますから、家族連れで休日を過ごすには最適の場所でしょう。

次は男鹿半島付近まで南下して

道の駅おおがた　へやってきました。

ここ南秋田郡大潟村というのは“八郎潟”にあります。

八郎潟（八郎湖）というのは、かつて琵琶湖に次ぐ、日本第２の湖でした。
これを１９５７年から「国営八郎湖干拓事業」として埋め立て、２０年の歳月をかけて完成したのがこの“大潟村”で、山手線内側の約３倍の面積があります。

（大潟村パンフレットより）

左が干拓前の八郎潟、右が干拓後の大潟村ですね。

当初６帯１４人の人口でスタートした大潟村は、現在では１０８８世帯３３７２人に増え、農作物や畜産を生み出す豊かな大地に変貌しています。

そしてこの八郎潟には “日本一低い山” といわれる “大潟富士” があります。

（大潟村パンフレットより借用）

高さはわずか３．７７６ｍ（富士山の丁度１０００分の１）ですが、頂上の海抜が“ゼロメートル”つまり、ここ大潟村は村全体が海抜ゼロ以下の土地で、その為に村の周囲は総延長５２ｋｍにもおよぶ“干拓堤防”で囲まれています。

さて道の駅ですが、ここにはでっかい建物が２棟建っています。

左が“産直センター潟の店”そして右側の大きく弧を描いた建物が“大潟村干拓博物館”です。

まるで宇宙船が着陸したようなこの“産直センター”、中もすごく広いのです。
そしてあらゆる秋田の特産品が揃っていますから、ついつい買い込んでしまいました。

そして次が“干拓博物館”です。

大きく弧を描く楕円の屋根が銀色に光っています。
ユニークなデザインで、すごく近代的な建物です。

時間の関係で中までは入らなかったのですが、八郎潟干拓の歴史等が展示されており、大潟村村民有志によるボランティアガイドが案内をしてくれるそうです。

駐車場脇には、この干拓事業で功績のあった人たちの銅像が建てられていました。

道の駅
おおがた
Ogata
八郎潟干拓地
秋田県大潟村

高さ５９．８ｍからの眺め！“てんのう”

次に向かったのは

道の駅てんのう　です。

上の写真、走りながらなのでボケていますが、この八郎潟の干拓地を走ると、広大な土地に樹木が一直線にならび、まるで北海道を走っているような錯覚にとらわれます。

やがて開けた街並みにはいると、そこが “潟上市天王” です。

“潟上市” は八郎潟干拓地の南に位置し、八郎湖と日本海に挟まれ、更に男鹿半島の付け根にあたる観光資源に恵まれた地域です。

駐車場の真ん前にあるこの大きな建物が道の駅かと思ったら、これは “天王ふれあい交流センター” という公共の施設でした。

その向こうに高いタワーが見えますね。

三角柱のこの高い建物、これは“天王スカイタワー”といい、５９．８ｍの高さがあります。

中央にスカイタワーの入口があり、その１階が道の駅なのです。

１階はこのような店舗になっており、ここからエレベーターでタワーの上に昇ることができます。

カウンターで大人４００円の入場券を買って上ってみました。
最上階（４階）が展望台、そのすぐ下の３階が八郎潟を紹介する展示場になっています。

展望台からの眺めは確かに雄大です。
限りなく続く田園地帯や街並み、そして日本海が正面に見えます。

そして目を反対側に転じると、そこには大きな池があります。
これは “鞍掛沼” というそうです。

その “鞍掛沼” の対岸には、何やら古代の集落のようなものが見えます。

ここは “歴史の広場 神話の里 「スサノオの村」” といい、古代集落が復元されたものです。

次に１階下に降りてみると、そこは“八郎潟”の歴史等を紹介する展示館でした。

干拓前の八郎湖で魚を獲っていたころの漁法やそれに使った道具などを紹介しています。

でも、展望台とこの展示館だけで４００円はちょっと高い気がします。

この周辺、たくさんの人々がいたのにタワーでは誰一人会いませんでしたから、我々のような観光客しか上らないかもしれませね。

この道の駅、全体を “天王グリーンランド” と呼ばれており、この略図のように広大な施設です。

先ほどのタワーはこの中央、そのすぐ右隣に “天王温泉くらら”があります。

左半分が先ほど展望台から見下ろした “鞍掛沼” そして右半分には、陸上競技場、グランドゴルフ場、ゴーカートなどがあります。

東北の道の駅を回っていて驚くのは、一部の例外はあるとしてもその規模の大きさです。
さまざまな複合施設になったでっかい道の駅が多いように思います。

このあとも、たくさんそのような道の駅に出会うことになります。

世界の熱帯植物！“しょうわ”

次に向かったのは同じ潟上市にある

道の駅しょうわ　で、１１ｋｍ程しか離れていません。

北海道でよくみかけた“防雪柵”がこの東北の道路にも多いです。

冬場の東北の生活も大変なんだろうと思います。

これが道の駅の本体になる “アグリプラザ昭和” の建物です。
そしてその右側にはこんな建物があります。

広い芝生の中にある、このガラス張りの建物、一体何だろうと思いました。

ガラスが反射して見にくいと思いますが、この道の駅、別名 “ブルーメッセあきた” の航空写真です。

一番左端が “アグリプラザ昭和” で、その右に続くガラス張りは “観賞温室” なのです。

更に一番右端に並ぶ建物群は “秋田県花き種苗センター” といって、新しい品種の種苗を生み出す、さまざまな最新施設が並んでいます。

案内板もあったので、これも先に紹介しておきましょう。

建物群の裏には広大な “芝生花壇公園” が広がっており、御多分に漏れずこの道の駅も大きな総合施設です。

まず、道の駅本体である “アグリプラザ昭和” へ入ってみます。

天井がすごく高くて、さすがに鉢植えや観葉植物の販売スペースを広くとってあります。

そしてその端に “観賞温室” への入口がありました。
無料なので入ってみます。

バナナ

さまざまな熱帯植物が生い茂っています。

そして、この大きさわかりますか？

小人の世界に迷い込んだようですね。
スタジオジブリの新作“アリエッティ”の世界がこんなものでしょう！（笑）

まだまだ大量の写真を撮ったのですがしつこいのでこのくらいに・・・・・。

この観賞温室は２棟が繋がっていて、かなりの広さになります。
そしてその裏に広がる広大な芝生花壇公園を考えると全体ではすごい広さになります。

やはり東北の道の駅は規模の大きいところが多いようです。

道の駅 しょうわ
花と緑のユートピア。
ブルーメッセあきた
秋田県潟上市昭和

地上１００ｍの眺望！“あきた港”

さて２日目の最後の目的地は
道の駅あきた港　です。

実はここは、私が訪れた６月下旬の時点ではまだ道の駅ではないのです。

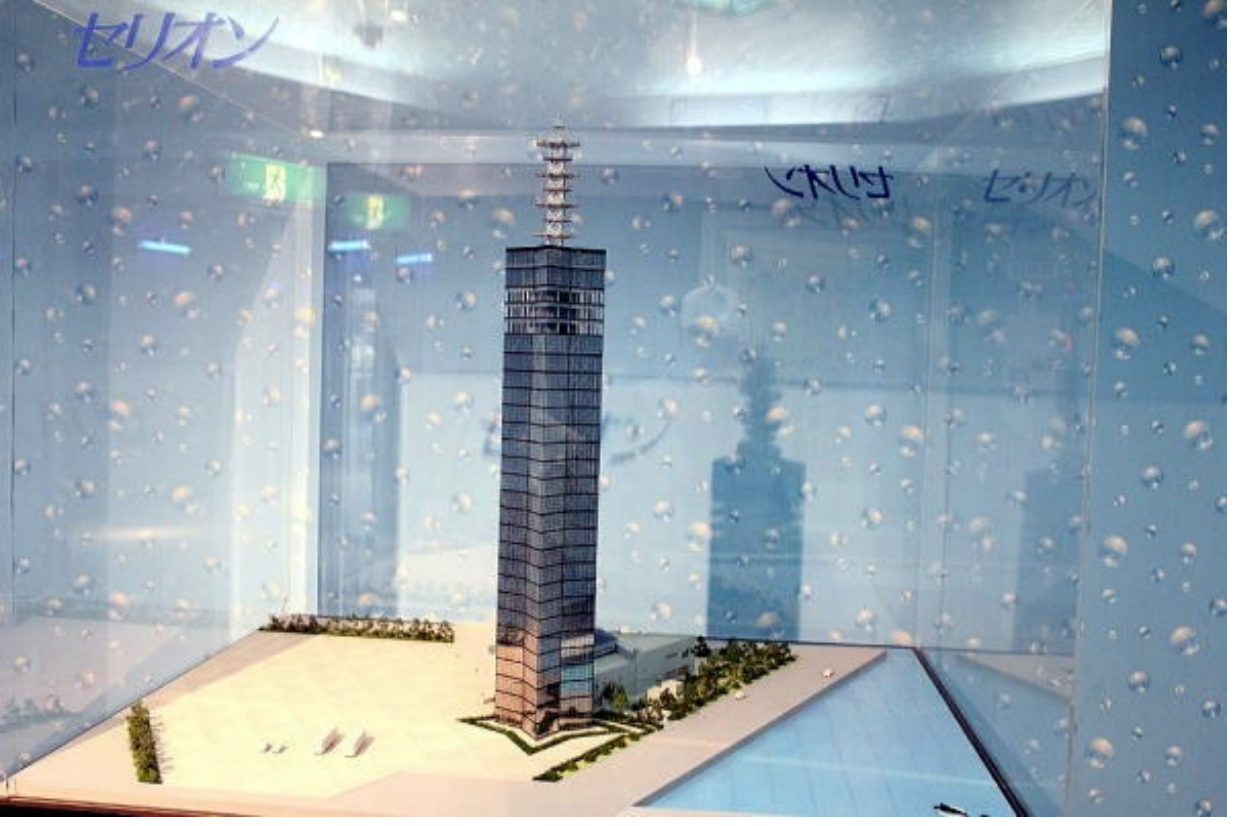
秋田市内に入り、秋田港に向かうと遠くからでも目立つ高いタワーが見えてきます。
これが“秋田市ポートタワーセリオン”といい、７月３１日に秋田県２９カ所目の道の駅になったものです。

これが地上から見上げた “ポートタワーセリオン” です。

上部のアンテナまで入れた高さは１４３．６ｍで、東北一の高さです。
そして地上１００ｍの位置に展望室があります。

ちょっと実感が湧かない方の為に、パンフレットで紹介しましょう。

これでも実感の湧かない人の為に、今度は模型でお見せしましょう。（笑）



因みに我が福岡にも “福岡タワー” というのがあって、高さは２３４ｍですから、ちょっと勝ったな！(￣ー￣)

タワーの１階部分 “セリオン” はイベントなどを行う広いホールになっています。

この“セリオン”という名前は、海＝SEA と 展示館＝PAVILION を一緒にした合成語で、全国から応募された６３００件の中から選ばれたネーミングなのだそうです。

中に入ってみると　・・・・　ありました。

ついでにスタンプは無いかな、と思ったけどこれは無理でした。(´□｀。)

そして・・・・・・

見えますか？

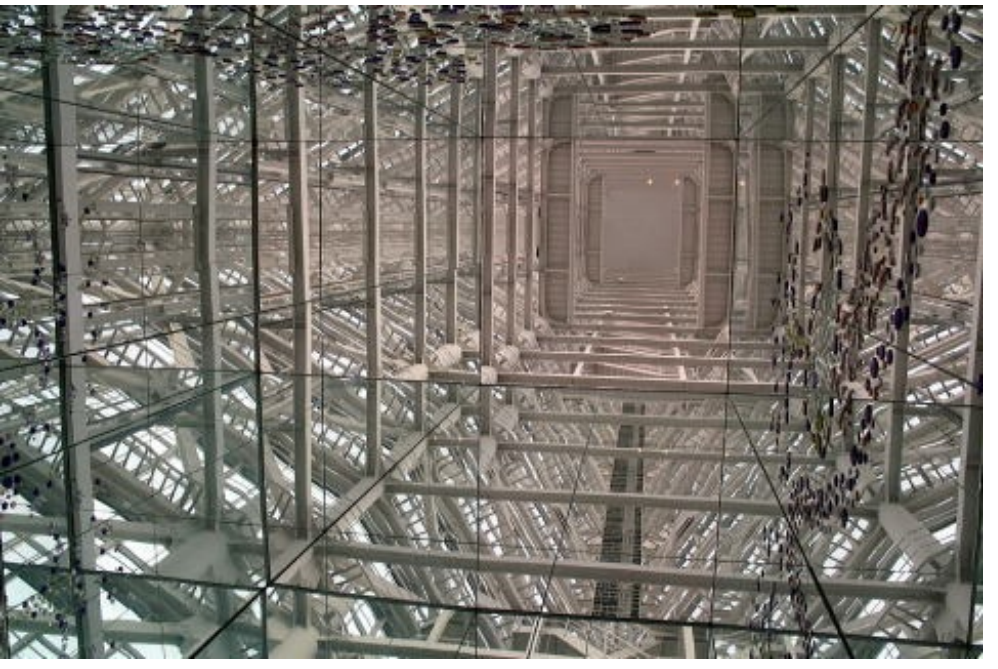
展望台は “無料” なんです。

日没時刻さえ書いてある親切さです。

早速エレベーターへ！

でもこのエレベーター、高所恐怖症の人はやめたがいいかも！

外の景色がまる見えなのはもちろん、建物の内側もこのとおり・・・・・！



嫁は最後まで壁に顔を隠していました。(>_<)

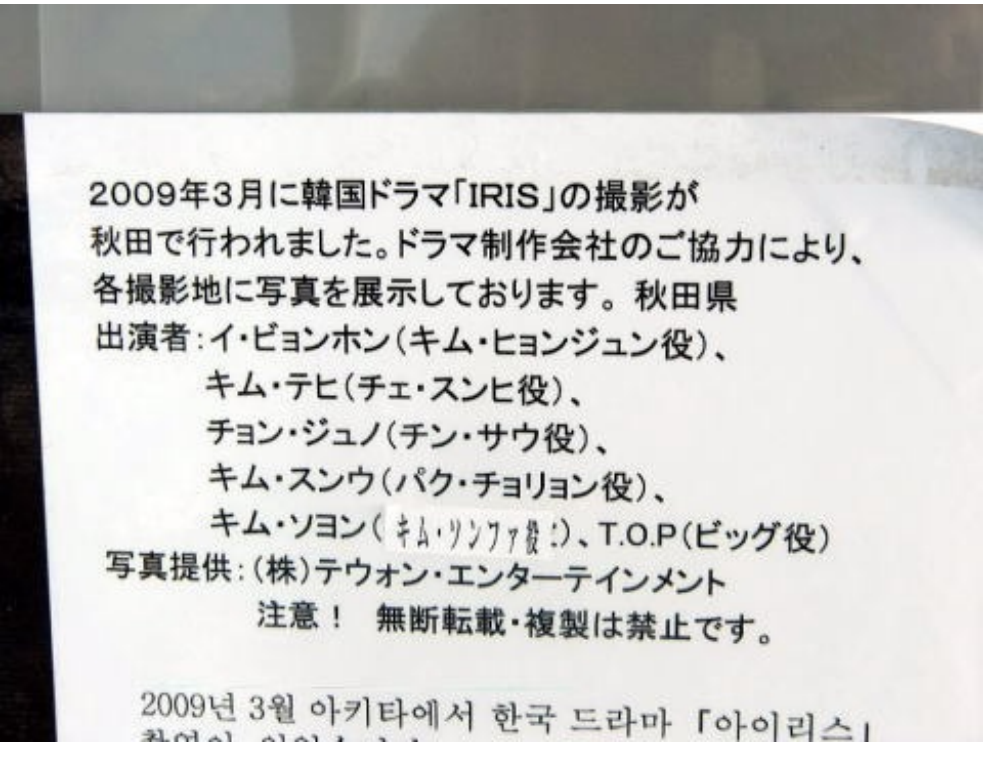
↑上昇
↑上昇
↑上昇
↑上昇

そして、地上１００ｍの展望室に着くとこのとおり・・・・。

正に３６０度の大パノラマです。
そして展望室をぐるっと回っていると、こんなパネルを発見！

「無断転載禁止」 なのでわざと反射して写りの悪い写真を！(;^_^A

今回の秋田レポートにはこれからも何回か出てきますが、韓国ドラマ「アイリス」 のロケがここでもあったのです。



このパネルは北朝鮮最高の諜報要員パク・チョリョン役の キム・スンウ ですね。

さて、地上１００ｍの “無料” の大パノラマを堪能して、地上に戻ります。

↓下降

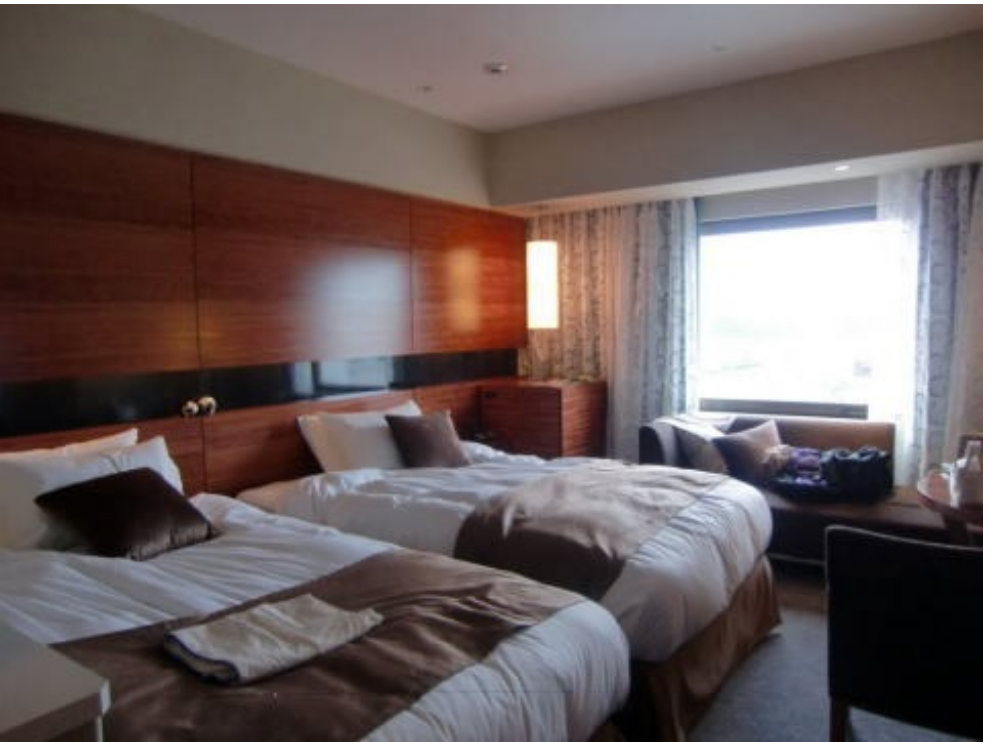
↓下降
↓下降
↓下降

タワーの正面にあるこちらの建物は“セリオンリスタ”といい、屋内緑地公園なのだそうです。

更に５００名収容の多目的ホールを持つ “セリオンプラザ” がこの裏にあります。

この道の駅もオープン前だけど、一応制覇したことにして・・・・・（汗）・・・・・・今夜の宿に向かいます。

今夜の宿泊はＪＲ秋田駅の真ん前にある “ホテルメトロポリタン秋田 ” です。



窓の真下が秋田駅ですが、３２インチの液晶ＴＶも備えた、なかなか洒落た部屋でした。

秋田駅前周辺をぐるぐる歩き回って、結局ホテルに一番近い居酒屋で、秋田の郷土料理を味わいました。

島式漁港公園！“岩城”

３日目になりました。

秋田駅前のホテルを出発して最初に向かったのは
道の駅岩城　です。

この地図でお分かりのように、今日の行程、かなりハードスケジュールです。

秋田市内から国道７号線の快適な自動車専用道路を日本海の海原を眺めながら南下します。
このルート、“おばこおけさライン”というのだそうです。

道の駅
岩城
Iwaki
P
島式漁港公園
Iwaki Island Park

道の駅 岩城
岩城アイランドパーク
●島式漁港公園●
岩城温泉
港の湯
総合交流ターミナル
ケベック
■農産物販売所
■活魚センター
●道川漁港
●蚕糸施設
●岩城アイランドブリッジ

この空の青さをご覧ください。
雲ひとつ無い、見事な晴天です。

そしてこの道の駅もやはりでっかい規模です。

南欧風の洒落た建物が上の略図のように並んでいますが、写真一番奥の風力発電の先にオートキャンプ場と５棟のコテージがあります。

そしてこの道の駅の最大の特徴がこの建物の背後にあります。

建物群の裏側は日本海の海原ですが、そこに長い橋がかかっていてその先に島みたいなのがありますね。

これが全国的にも珍しく、本州では初めてできたという “島式漁港” なのです。

（道の駅パンフレットより）

ご覧のように海の中に離れ島のように突き出た漁港なのですが、これはこの地の特産である “プラムワイン” を象徴してワイングラスの形をしています。

そしてこの連絡橋を “岩城アイランドブリッジ” と呼んで、長さは３６５ｍあります。

この漁港には誰でも自由に入って行けるのですが、その時は良く分からずに見に行かなかったのが残念です。

この漁港付近では魚釣りの人たちは勿論、このようなサーフボードを抱えた人々を多く見かけました。

さて、道の駅の中に入ってみましょう。

正面を入ると目の前に巨大な水槽があり、鯛などが悠々と泳いでいます。

秋田の道の駅はどこも規模が大きい、ということを更に確信しました。

３日目の２か所目は

道の駅おおうち　です。

１か所目の “岩城” からおおうちへは途中 “日本海沿岸東北自動車道” という自動車専用道路を走ります。

でも、レンタカーのナビが古かったらしく、全く道路の無い場所で右折の指示がでるので、岩城を出たばかりのところで同じ場所をぐるぐる回り、時間を浪費してしまいました。(´__｀。)

この道の駅大内は、ＪＲの “羽後岩谷駅” と繋がっています。

そして、施設全体を “はーとぽーと大内” と言いますが、その中心は “ぽぽろっこ” という名前の宿泊、温泉、物産などの総合交流ターミナルです。

駐車場だけでも２５０台分の広さがあります。

秋田県の道の駅はどこも施設が大きいと何度か紹介してきましたが、ここも特に大きい道の駅の一つです。

上の配置図で “Ｂ：情報提供施設” になっているのがこの道の駅本体です。

ここは情報コーナーと休憩室が主で、道の駅スタンプももちろんここに置いてあります。

その右隣にお食事処の建物がありますが、これは何故か配置図に載っていないのです・・・・・？

更に右奥にあるのが“Ｆ：総合体育館”です。

情報提供施設（道の駅）の裏側にある建物がこの“Ｅ：伝承館”で、どなたか画家（詳しくないので名前を忘れた）の展示会があっていました。

この伝承館の右隣に“ＪＲ羽後岩谷駅”のホームがあります。

そして、この施設のメインとも言えるのがこちらの総合交流ターミナル“Ａ：ぽぽろっこ”です。

“ぽぽろっこ”とは、イタリア語で人々を意味する「ぽぽろ」から名づけられ、人々が集い、笑顔でふれあうコミュニケーション施設です。

中に入ると土産コーナーの横に宿泊や温泉の為のフロントがあり、その先が温泉施設になっています。
大浴場のほか、露天、ジャグジー、サウナ、水風呂などを備えており、宿泊は全部で２１室の客室があります。

あらためて秋田県の道の駅の設備の充実さに感心させられました。

次は再び日本海の海岸沿いに出て、
道の駅にしめ　へやってきました。

道の駅からほんの少しのところに “西目海水浴場” があります。
ここは 「日本の白砂青松百選」 にも選ばれ、遠浅のために夏場は海水浴客で賑わいます。

そしてもう一つ、この写真をご覧ください。

道の駅オブジェの向こう側に見える景色があります。

はい！残雪が見事な “鳥海山” です。

鳥海山は、秋田県と山形県にまたがる活火山で、標高は２２３６ｍあります。

日本百名山のひとつで、秋田側からは “秋田富士” 山形側からは “出羽富士” と呼ばれます。

そしてこの道の駅からは、３０分ほどで中腹の “鳥海高原” に行くことができます。

つまりここ西目町は、海、山ともに揃った、恵まれた観光拠点なのです。

西目町は豊かな観光資源があるために “全町公園の町” をキャッチフレーズに地域づくりに取り組んでいます。

道の駅の後ろにある白い鉄筋の建物は、“にしめ湯っ娘ランド” という温泉施設でした。

中央に広い “イベント広場” があり、その左側には地元婦人部が運営する “農作物直売所” があります。

そして道の駅の本体が、この “物産館「はまなすの里」” です。

この中はとても広く、さまざまな秋田のお土産品が揃っています。

たくさんのユニークな“なまはげ”がいました。

そして私がここで選んだのがこれです。

このなまはげくん、すっかり我が家に馴染んで、居座っていますよ！（笑）

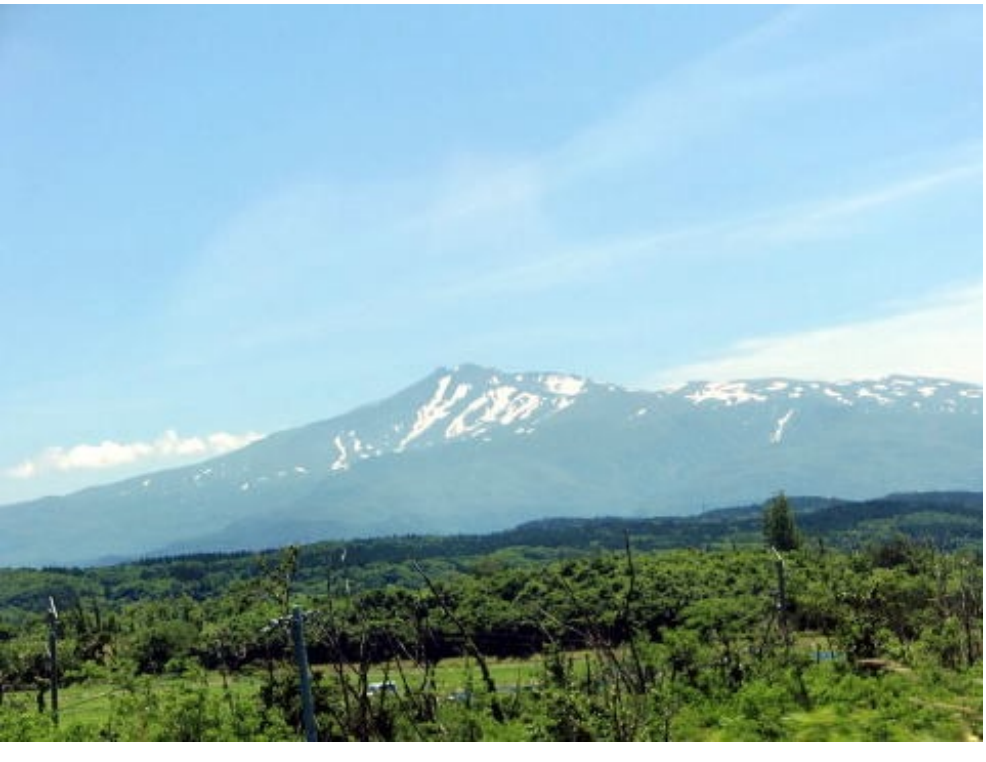
道の駅にしめ
NISHIME
物産館
秋田県
はまなすの里
西目町

東北最大級！“象潟”

日本海沿いに更に３０分ほど南下すると

道の駅象潟　があります。

この道沿い、ずっと“鳥海山”の雄姿を眺めることができ、絶好のドライブコースです。



さて皆さん！　“象潟”って読めましたか？

“きさかた”といいます。
私も全く読めなかったし、多分東北以外の人には分からないですね。

この道の駅、またどでかいです！！

上の写真が４階建（展望塔までいれると６階建て？）の建物がメインですが、周辺には他の施設もたくさんあります。

この細長いのが “農林水産物直売施設” ですね。

そして、こんな標識も！

四輪バギーからグランドゴルフまであるのです。

これが全体ですが、この道の駅は敷地が２万坪もあって、東北最大級の道の駅なのです。

秋田の道の駅はどこも大きいということを再三紹介しましたが、その中でも “キングオブキング” がこの象潟と言えるでしょう！

“象潟（きさかた）” というところは、１８０４年の大地震で地面が２．４ｍも隆起したそうですが、その物的証拠になっている “唐戸石” という巨大な岩石が近くにあります。

建物の裏手には象潟一帯を巡る “海岸夕陽道” が整備されていて、この海岸は “日本の渚・夕陽百選” や “日本の遊歩百選” 等にも選ばれています。

さて、メインの建物の入口にあったのは、奥の細道の 「松尾芭蕉」 です。
象潟は、松尾芭蕉が 「奥の細道」 行脚で訪れた最北の地なのだそうです。

芭蕉は “象潟や 雨に西施が ねぶの花” という句を残しています。
「ねぶの花」 とは合歓（ねむ）の木の花の事です。

この道の駅の愛称が “ねむの丘” なのは、多分そのことから名づけたのではないかと思います。

トイレ
海産物
地酒

この道の駅、とにかく賑やかです。
写真にあまり写っていませんが、すごく人が多いこと、そしてあらゆる商品が揃っていることに驚きます。

ここ、１階は秋田のものなら何でも揃うというお土産スポットです。
２階はレストラン“眺海”があります。

３階は “宴会場” で、山海の珍味などの郷土料理を味わえます。
そして４階が日本海の大パノラマを見下ろす “展望天然温泉” なのです。

この温泉、ＴＢＳの 「はなまるマーケット」 で、“温泉のある道の駅全国ベスト３” に選ばれたのだそうです。

更に６階に “展望塔” があり、鳥海山など360度のロケーションを楽しめます。

ここは、ちょっとだけ立ち寄るには勿体ないような充実した施設でした。

さて、実はここが秋田県の最南端の道の駅で、計画では次は内陸部に進む予定でした。
しかし、あとほんの30分ほど同じ道を南下すれば、山形県の “道の駅鳥海” に行けます。

この日は元々ハードなスケジュールで、往復1時間は厳しい選択です。
でも嫁の 「行ってみれば！」 という言葉に後押しされて、計画には無かった山形県の道の駅へ進むことにしました。

初めての山形！“鳥海”

当初の計画には入っていなかったのですが、３０分で行ける山形県の
道の駅鳥海　へ向かうことにしました。

このシリーズ、“秋田の旅”と銘打っていますが、ここだけは「山形県」です。

山形県は次回の東北行きで回るつもりですが、この道の駅鳥海は山形の中でもぽつんと離れています。
ですから次の旅を考えると、、今回無理をしてでも行っておいた方が効率が良いのです。

道の駅
鳥　海
Chokai
P
森のエリア
Mori no Area

鳥海山は、秋田県と山形県にまたがった山岳です。

この道の駅は “鳥海” という名前ですから、当然鳥海山の眺望が抜群か・・・・と期待していたのですが、残念ながらここから鳥海山は見えません。

「にしめ」 と 「象潟」 の道の駅の方が、鳥海山の眺めははるかにすばらしかったと思います。

ずっとでっかい道の駅ばかりを見てきたので、ここに着いた時、「ちっちゃいな〜」と思いました。
でも、それが間違いだったことにあとで気づきます。

中に入ってスタンプを押し、奥へ入って行くとずっと先まで続いているではありませんか！？

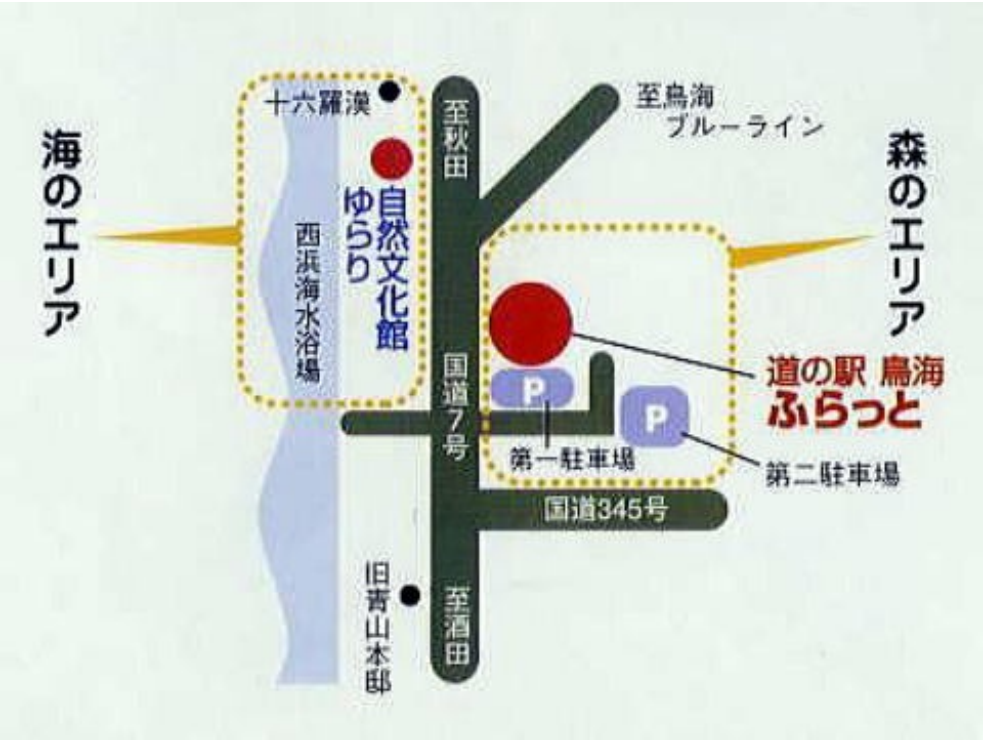
実はこの道の駅、国道からの入口はあまり広くないのですが、奥にずっと細長いのです。

店舗もこのように奥には食堂や軽食のコーナーが続いていて、更に突き当りには別の建物でラーメン屋など、食堂が並んでいます。

そしてその食堂や軽食コーナーは、丁度お昼時だったこともあって、すごい混みようです。

この道の駅、愛称が “ふらっと” ですが、これは音符の “♭” の事で、値段も半音下げる、という意味があるのだそうです。(^▽^)

そしてこの道の駅、“森のエリア”と“海のエリア”に分かれており、ここは森のエリアなのです。
最初の道の駅の看板にも「森のエリア」と書いてありましたね。



（道の駅ホームページより拝借）

“海のエリア”の方は国道の向こう側で西浜海水浴場に面しており、研修宿泊施設でもある“鳥海温泉「遊楽里」（ゆらり）”がメイン施設です。

今回は通りませんでしたが、上の地図にもあるようにここから少しだけ秋田寄りに“鳥海ブルーライン”の入口が見えます。

これは秋田県象潟までを結ぶ全長３４．９ｋｍの山岳道路で、標高差は約１２００ｍもあります。
ここを走れば、鳥海高原などの、本当の鳥海山の魅力に触れられたかもしれません。

鳥海山の清流と雄大な日本海の恵
森のエリア
国道の駅 鳥海 山形県遊佐町
DATE 年 月 日

鳥海山の見えない！“鳥海郷”

山形県の道の駅鳥海から再び秋田県に戻り、
道の駅清水の里・鳥海郷　へ向かいました。

次からはいよいよ内陸部に入って行くのですが、ここはさすがに遠かった！！

直線距離では大したことはないけれど、そこには鳥海山が立ちはだかっていますから、一旦象潟の先まで戻り、迂回して国道１０８号線を辿ると、結局１時間４０分もかかってしましました。

ここは地名が “鳥海町” なのでこの道の駅も “鳥海郷” という名前がついていますが、残念ながらここから鳥海山は見えません。

それでもやはり鳥海山の山麓なので自然には恵まれていて、町にはいくつものキャンプ場があります。

道の駅には３つの建物が並んでおり、左から

・道路情報提供所（情報コーナー、休憩室、トイレ）
・農産物直売所 「ほっといん鳥海」
・農産物加工施設

となります。

以下、それぞれの写真を！

トイレ

ほっといん鳥海
直売所
レストラン

どの建物もまだ新しいですね。

そして右端の “農産物加工施設” の正面には芝生の植えられた “多目的活性化広場” があります。

随分と広い芝生広場で、散歩用の通路やあずま屋も整備されています。
正面の建物は体育館のように見えますが、直接道の駅とは関係がなさそうです。

この大きな看板は鳥海町の郷土芸能を紹介したものです。
看板の上の獅子頭が迫力あります。

では、店内にはいってみましょう。

右上、ちょっと見難いかもしれませんが “釣りキチ三平” の映画のポスターが下がっています。

そしてこれも・・・・・。

実は “釣りキチ三平” の作者 「矢口 高雄」氏は、この隣町 “横手市” の出身です。

矢口氏は子供の頃からの釣り好きで、ムツゴロウとアカメ以外のほとんどの魚を釣り上げたといわれ、その経験をもとに “釣りキチ三平” は作られているのだそうです。

さて、この道の駅を出発時刻は１４：５０です。

何とまだ今日回る道の駅は６カ所も残っています。
果たして予定通りに行けるのか、少し不安になってきました。

ばっといん鳥海
DATE 年 月 日
R108号線 道の駅 清水の里・鳥海

次に向かうのは

道の駅おがち　です。

世界の三大美女といえば、クレオパトラ、楊貴妃、それに日本の小野小町 といわれていますね。

その平安の歌人である世界に誇る美女 “小野小町” の生誕地が実はここ、「湯沢市小野」 なのだそうです。
ですから、この道の駅の愛称も “小町の郷” になっています。

この道の駅の建物、右端の丸い屋根は何かに似ていませんか？

これは、小野小町の旅姿である “市女笠”（いちめがさ） をデザインしたものだそうです。

小野小町は約１２００年前に出羽の国、現在の湯沢市小野に生まれて１３歳にして都へのぼり、都の風習や教養を身につけて、２０年程宮中に仕えました。

その美貌とすぐれた才能は女宮中並ぶものなしと言われましたが、故郷恋しさに３６歳の時に小野の里に帰郷し、さまざまな伝説を残し９２歳までの天寿を全うしたのだそうです。

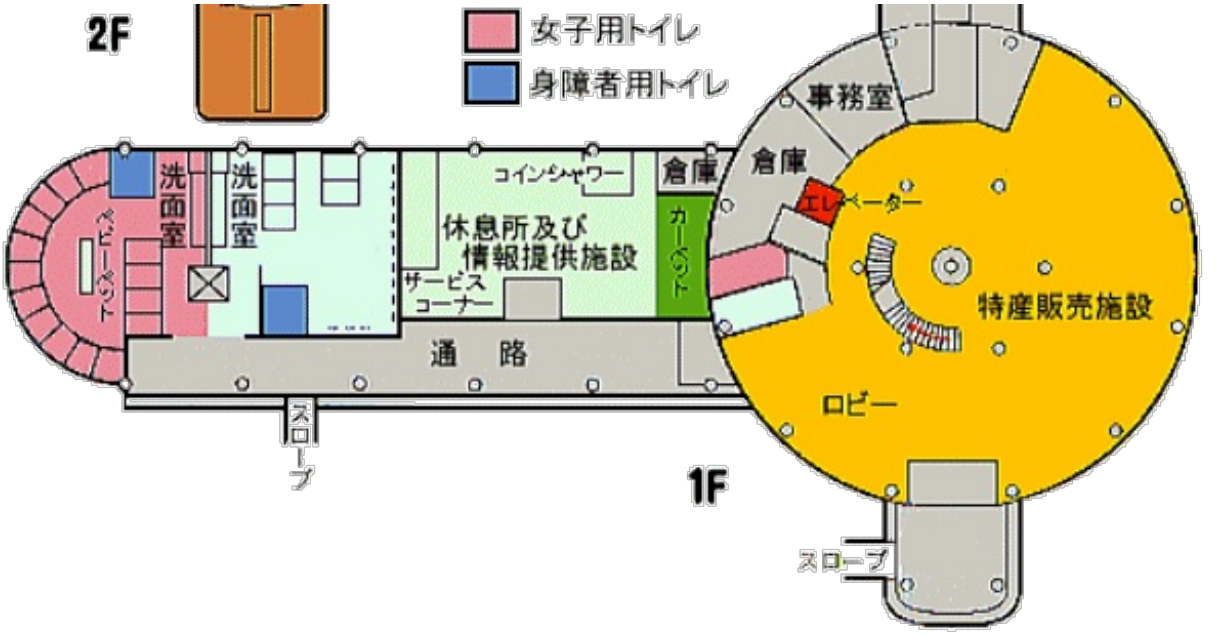
ですからここ小野町では毎年６月第二日曜日とその前日に “小町まつり” が開催されます。

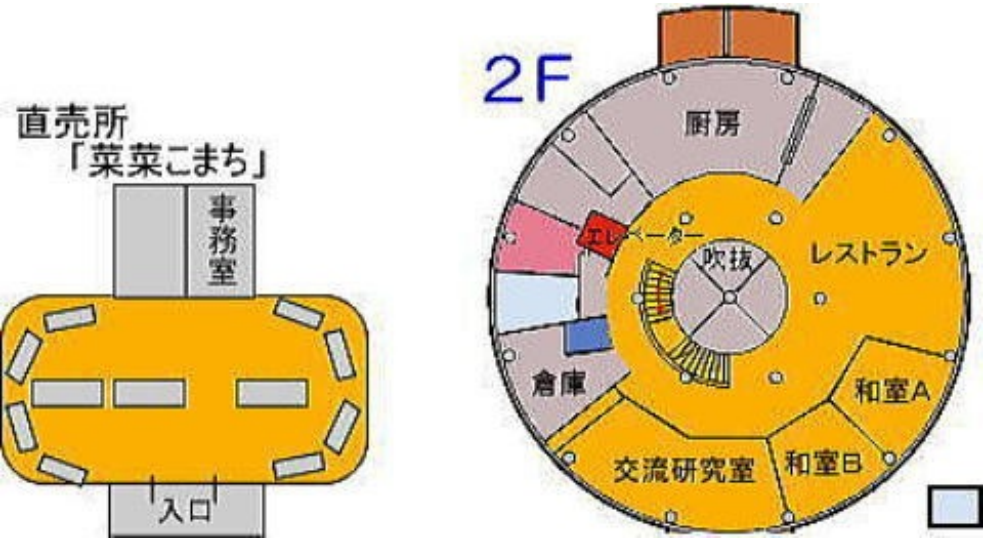
巫女舞で神前を清め、市女笠に身を包んだ七人の小町娘が登場し、次々と和歌を朗詠し、小町堂に奉納するのだそうです。

上の写真が多分その７人の小町娘だと思いますが、なかなか風情がありますね。

この道の駅、全体の配置はこのようになっています。

そして、建物の中が下の図です。





（道の駅おがち ＨＰより借用）

右側の丸い部分が、“市女笠”（いちめがさ） の形をした屋根の部分です。

では中に入ってみます。

“小町の郷” の看板があり、入口や床のマットにも小野小町が描かれています。

店内にはあちこちに小野小町のパネルがあって平安の美女を偲ばせます。

でも中の作りはなかなか近代的、小野小町も時代の変遷にびっくりすることでしょう。

さくらんぼすっとばし！“十文字”

本日の８カ所目の目的地は

道の駅十文字　です。

道の駅十文字は、“横手焼そば” で有名な、秋田県横手市にあります。

十文字の地名の通り、国道１３号と３４２号が交わる大きな交差点にありました。

建物は１棟だけですが、随分大きいです。

この横手市、もちろん “横手焼そば” が有名ですが、もう一つの特産は “さくらんぼ” なのです。

そして、道の駅の入口にはこんな立て看板がありました。

“全国さくらんぼ すっとばし選手権大会” ！？

さくらんぼの種を口に含んですっとばすのだと思いますが、子供から老若男女どなたでも参加ＯＫ！
毎日のチャンピオンの他に、グランドチャンピオンまで決まるのだそうな！？（笑）

いや～見てみたい！ いや、出てみたいものです。（汗）

“さくらんぼまつり”というのをやっていて、その一環なのですね。

玄関をはいると“さくらんぼまつり”の案内所がありました。

そして正面にはこのひとが　・・・・・・　。

ビリケンさんって、確か通天閣にいたんではないかな？

今日は秋田まで出張してきているようです。

この店内、とにかく飾り付けが賑やかなのです。

壁一面に色んなものがぶら下がっています。

そしてレストランの方に行くと　・・・・・・

おお！“横手やきそば” が！！

実はこの日はこの横手焼そばが食べたくて、まともに昼食をとっていないのです。

でも　・・・・・・

今の時間、１６時過ぎ！
そして残りは４か所、更に今夜の宿泊地 “田沢湖” まで走らねばなりません。

どう考えても、食事をする時間は残っていません・・・・・・むなしく断念！（泣）

そのかわり　・・・・・

さくらんぼのパックを買いました。
これなら走りながら食べられるからね！

買ったのはもちろん “佐藤錦”
ワンパック５００円、安いよね！ヘ(゜∀゜*)ノ

で、写真を撮ったのはほとんど食べ終えてから　・・・・

やはり本場のさくらんぼはうま〜い！！o(≧▽≦)ｙ ☆

次の道の駅への向かう車内で、運転しながらひたすら食べ続けました！

スーパーそのもの！“東由利”

次はルートからぽつんと離れた
道の駅東由利　に向かいました。

道の駅巡りの計画を立てる時、一筆書きでなかなか繋がらず、ルート設定に悩む道の駅があります。

今回の “東由利” が正にその一つで、これは今朝訪問した日本海側の “にしめ” と、先ほど行った “十文字” のほぼ中間地点になります。

通常ルートに乗らないこのような場所は、ただそこ１か所だけの為に往復するしかありません。

十文字から片道約４０分の道のりを、サクランボを食べながらひたすら走りました。

道の駅
東由利
Higashiyuri
道路情報
FAX
黄桜の里
Kizakuranosato

道の駅 東由利
湯楽里
やしお
ショッピングプラザ
ぷれっと
由利本荘市・東由利地場産業センター

ようやく到着した時は、１６時５０分になっていました。

東由利は平成１７年に８つの市町村が合併して “由利本荘市” になっており、その東端に位置します。
山々に囲まれた自然豊かな地域です。

建物は、左から “黄桜温泉「湯楽里」”、真ん中が “食事処やしお” そして一番右の “ふれあいプラザぷれっそ” からなっています。

一番左の “黄桜温泉「湯楽里」” がこれ・・・・・

そして中央に “食事処やしお” があって、この２つは純和風造りの建物です。

更に一番右側にあるのが　“ふれあいプラザぷれっそ”　ですが、これはどう見たって普通のスーパーです。

そしてここでは、スタンプ探しに苦労をしました。

温泉や食事処には、どう見てもスタンプは無さそうです。

スーパーもどきの前にあったこの道の駅休憩所に入ってみましたが、ここにもありません。

残る “ふれあいプラザぷれっそ” に入ってみました。

中に入ってみると、これは正にスーパーそのもの！

ここではないな、と思って一旦出てみたものの、やっぱり他には可能性がありません。
もう一度入って店員さんに尋ねてみると　・・・・・

「あっちの入口にありますよ！」と私たちが出入りしたのと反対の入口を教えてくれました。

行ってみると、一番端っこの入口にスタンプだけがぽつんと置いてありました。

やっと見つけた時は１５分以上を経過して１７時を回っています。
急いで飛び出して、今来た道をひたすら戻りました。

１７時を過ぎているのにまだ３か所も残っています。

それでも比較的冷静でいられたのは、明日とあさってがかなりゆとりのある計画にしており、今日無理な場合はあとの２日で調整できる為です。

でも、宿泊地の田沢湖までの道のりはまだまだ遠いです！

道の駅 東由利
神秘の里・秋田県東由利

ぽつんと離れた “東由利” から引き返し、４５分かかって

道の駅さんない　に到着したのは既に１７時５０分になっていました。

ここも横手市になりますが、この 「山内（さんない）」 地区は、その名前の通り四方を山に囲まれていて、岩手県との県境に近い自然豊かな場所です。

既に日が陰っていて、道の駅周辺には人影もみえません。

“ウッディらんど” の名前の通り、建物群もすべて純木造です。

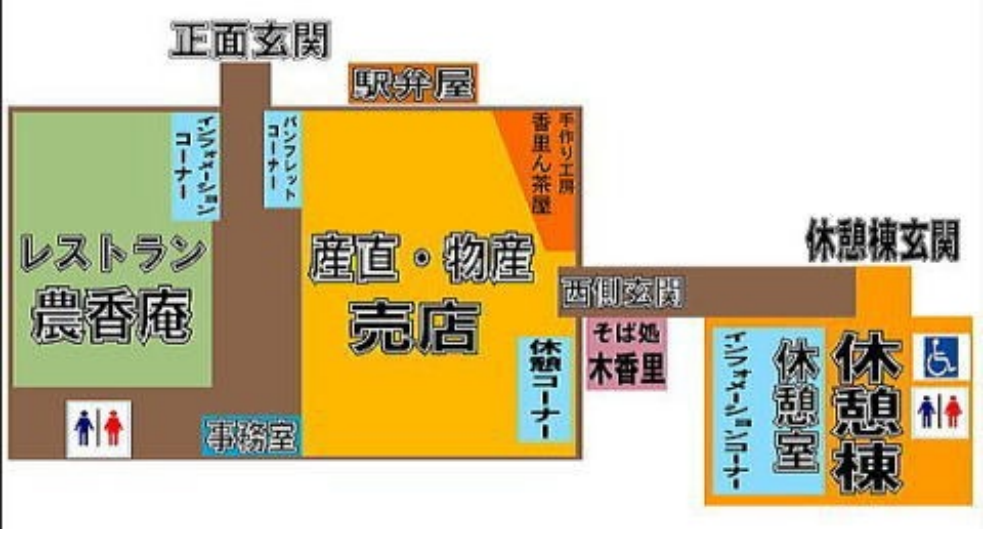
こちらの建物が物産販売施設で “農香庵” といいます。

こちらは村の農作物の直売所ですが、豊富にとれる間伐材を加工した木工品も数多く展示、販売されています。

玄関口にはこんな “恐竜” も！

これも間伐材で造ったのでしょう！

店内もがらんとしていますが、この時間ですから仕方がないですね。



（ＨＰより拝借）

ここにはレストランと売店があり、外の休憩棟に繋がっています。

この道の駅の前を通る国道１０７号線は通称 “平和街道” というのですが、それを挟んだ反対側にもいくつかの施設があります。

これらは道の駅の施設ではありませんが、木工品の販売や木材加工体験施設があり、この一帯を “ウッディゾーン” と呼んでいるようです。

そして、この国道を挟んだ両側は、地下道で繋がっていました。

さて、ここでゆっくりしている暇はありません。

１０分間の滞在時間で、あと２か所の道の駅へ急ぐことにしました。

後三年の役合戦地！“雁の里せんなん”

残るはあと２か所です。

道の駅雁の里せんなん　には、１８時２５分に到着しました。

ここ“仙南村（せんなんむら）”は、平成１６年に市町村合併し、現在は「秋田県仙北郡美郷町」という地名になっています。

国道１３号線沿いで、大仙市と横手市の中間地点です。

この目立つシンボルがあるのですが、うっかりその手前のガソリンスタンドに入って行こうとして慌てました。(x_x；)

そしてここには、もう一つのシンボルがあります。

これはこの道の駅のキャラクター “雁太郎（がんたろう）” 君です！

この道の駅の名前は “雁の里（かりのさと）” でした。

今頃気がついたのですが、“雁（がん）” と “雁（かり）” は同じ漢字なんですね！(;^_^A

実はここは、西暦１０８３年の “後三年の役” の合戦地です。

清原家衡を相手とした源義家は、雁が西沼上空を乱れ飛ぶ様子を見て、沼地に伏兵ありと察知し敵を撃破します。

この “雁行の乱れ” の逸話から、この道の駅を “雁の里” と名付けました。
同じく “源義家” の別名 “八幡太郎義家” より、このキャラクターを “雁太郎” と称したものです。

（パンフレットより）

さて、スタンプを急がねばなりません！

特産品・おみやげ
お食事処
美郷町せんなん
観光案内所

営業時間
あさ
9時
よる
雁の里せん
道の駅
地販地消
応援の店
道の駅
雁の里せんなん

やはりこの時間、がらんとしていますね。

ここも滞在時間１０分で出発！

１８時半を過ぎて、とうとう夕陽が沈み始めました。
あと一か所行って、それから田沢湖のホテルまで走らねばなりません。

ドンパン節！？“なかせん”

いよいよ３日目の最後の目的地です。
道の駅なかせん　に到着したのは１９時１０分になっていました。

１日に１２カ所の道の駅を回ったのは今回が初めてです。
そして、こんなに遅い時間に道の駅に立ち寄るのも同じく初めてのことです。

事前のデータでは「休憩所　21：30分まで」となっていたので望みを繋いだものです。

前回が“せんなん”　ここは“なかせん”で紛らわしいですね。
でもここは地名としては「秋田県大仙市」になります。

北秋田 角館
Kitaakita Kakunodate
105
刈和野
Kariwano
256
道の駅
なかせん
Nakasen
P

道の駅
なかせん
ドンパン節の里

お店はとっくに閉まっているし、広い駐車場に停まっているクルマはほとんどありません。

比較的明るく撮れていますが、実際はかなりうす暗くなっているのです。

しかし・・・・・・

建物群の一番端にあるこの “トイレ兼休憩所” は電気がついています。
そして、そこには目的の道の駅スタンプが置いてありました。ヘ(゜∀゜*)ノ

この休憩所が21：30まで開いてる、ということのようです。

目的は果たしたものの、これではレポートにはなりませんので、実はこの２日後、最終日に再び立ち寄りました。

ですから、ここで一緒にご紹介したいと思います。

施設の全体はこのように広くて、物産館の他に “こめこめ工房” などがあります。

中に入ってみると　・・・・・　。

店内はなかなか洒落ています。

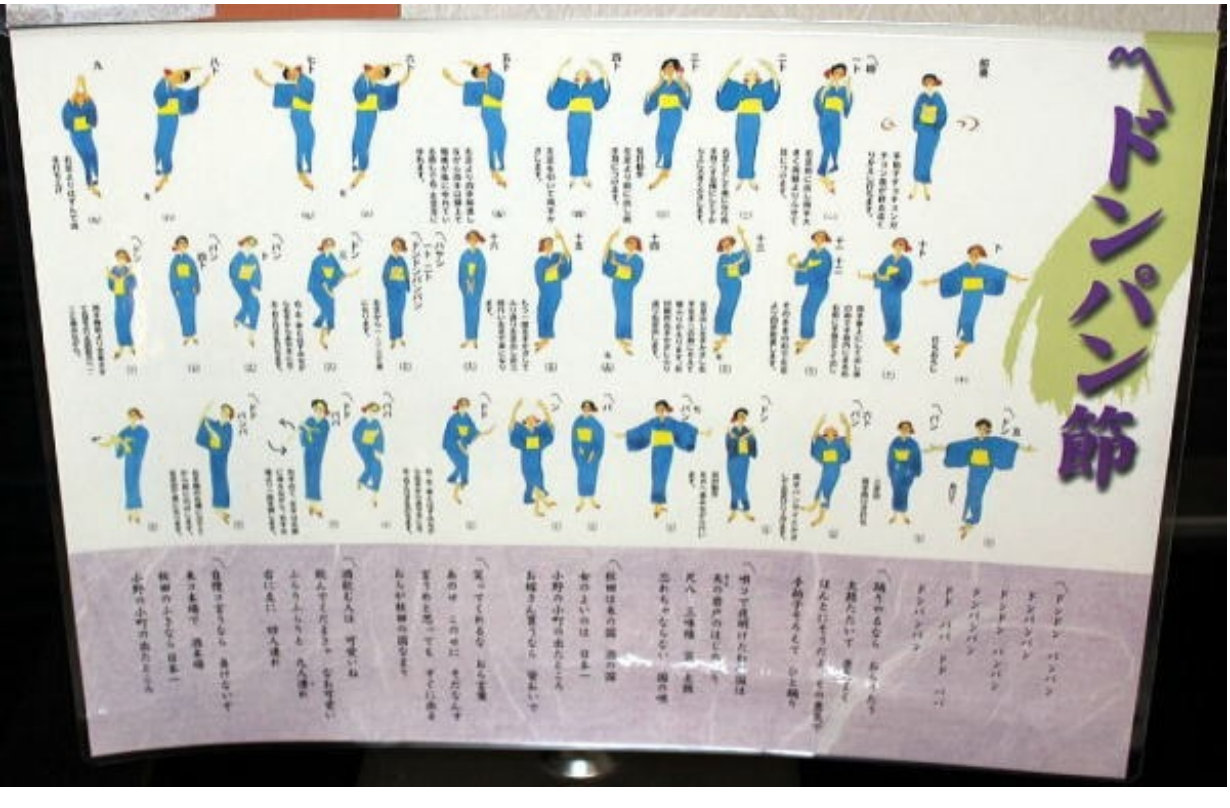
一番最初に紹介したシンボルタワー（？）に“ドンパン節の里”と書いてあったのに気がつかれたでしょうか？

“ドンドンパンパン　ドンパンパン・・・♪” で始まる威勢のいい唄に合わせた踊りは有名ですね。（若い人は知らないのかな？）

この唄の発祥地がこの町で、“円満造じいさん” と人々から親しまれた大工さんが作ったのだそうです。

「踊りの輪から町づくりの輪」 というのがこの町のキャッチフレーズで、毎年４万人もの参加者を集めてドンパン広場での “夏祭り” が盛大に行われます。

この道の駅の中にも、このドンパン節の踊り方が解説されていました。



この道の駅のもう一つの目玉は “お米” です。
ここは稲作に適した平野で、県内有数の米どころなのです。

“こめこめプラザ” の名前の通り、物産館の隣はお米に関する資料館になっていて、全国、更に全世界のお米の種類が展示されていました。

そしてその更に奥はお米から“おかき”を作る工場になっています。

さて元に戻りますが、ここから本日の宿泊地、田沢湖のホテルまでまだ３７ｋｍあります。
ホテルに電話をして２０時を過ぎることを伝えると、快く応対して頂けました。

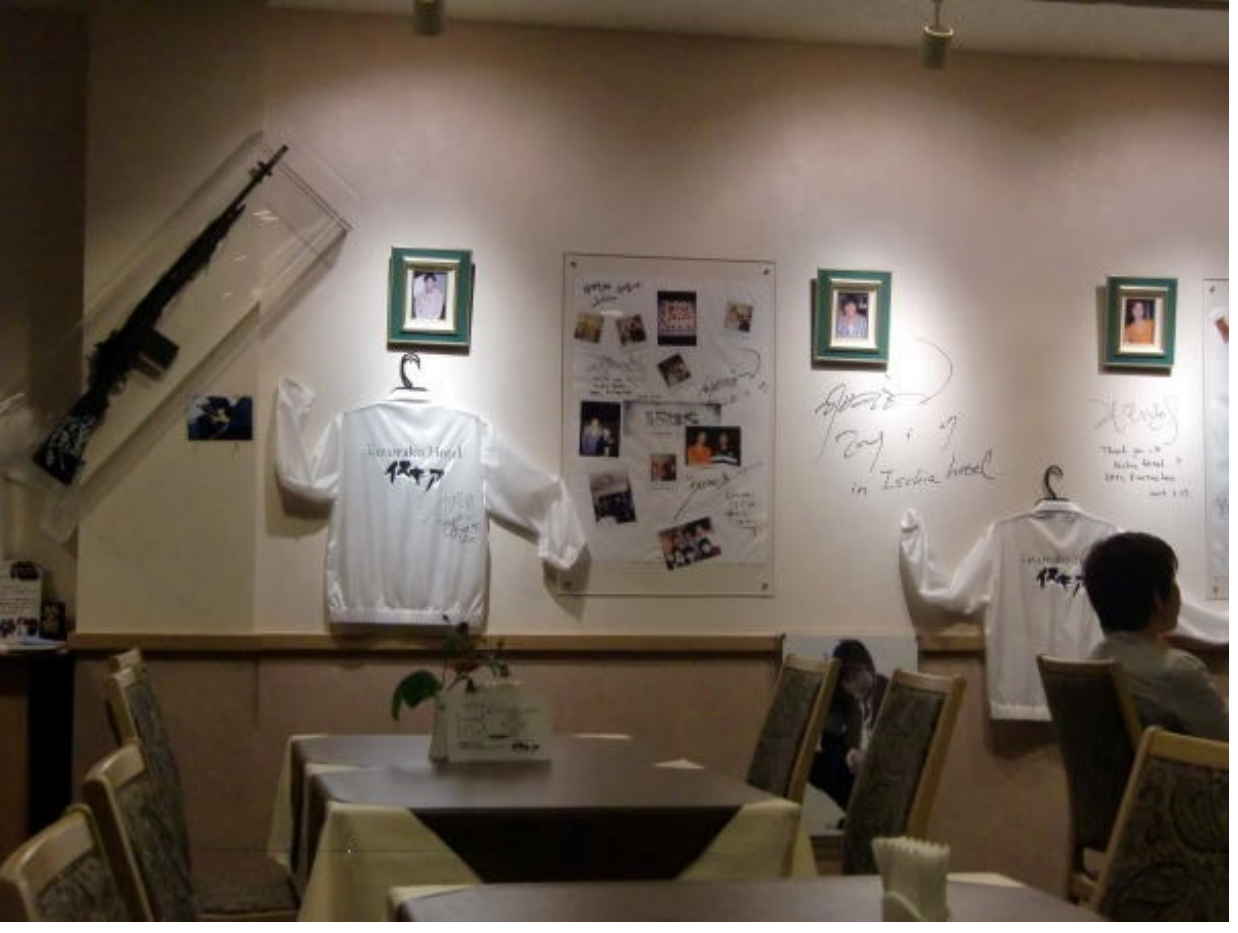
既に真っ暗になった道を４５分ほど走り、田沢湖畔の“田沢湖ホテルイスキア”に到着したのは２０時１０分になっていました。

ここはＴＢＳ系列で放映され、９月１日に最終回を迎えた韓国ドラマ「ＩＲＩＳ（アイリス）」のロケ地になったホテルです。

以前にも紹介しましたが、ここは元々JR東日本が経営していた「ファミリーオ田沢湖」というホテルを、近くの温泉旅館2か所の経営者「佐藤京子」さんが再建を引き受け、やっと３年になるホテルです。

そして、このホテルが有名になったのは、“アイリス”のロケ地に秋田県が選ばれた時、ロケ隊100名を3週間無償で引き受けたことです。

レストランの壁には、その時に出演した韓流スター達の寄せ書きがありました。



そのレストランで、私たち二人だけの為に残っていていただいたスタッフの方たちのお世話で、長かった今日１日を締めくくることができました。

ホテルイスキアと玉川ダム

４日目の朝になりました。
昨日１２か所の道の駅を強行軍で回った分、この日は全く予定を入れておらず終日観光です。ヾ(@^▽^@)ﾉ

ですから、この“田沢湖ホテルイスキア”に連泊します。

このホテルはとても気に入ったので、もうちょっとだけ紹介しますね！

宿泊棟は大きく３つに分かれていて廊下で繋がっています。

各棟ごとにこんなジャグジーがついていて、貸切で使えるのです。

朝食はレストランに続いたテラスでいただくことができます。

昨夜遅くに私たちの食事の世話をして頂いたスタッフの方が、今朝は農家のおばさん風のいでたちで、庭のバラの手入れをされていたのにびっくりしました。

そして２階ラウンジは、“ＩＲＩＳ（アイリス）”の撮影用に客室風に作りかえられており、その撮影セットがそのまま残されています。

主演の“イ・ビョンホン”が実際に泊まった部屋は、また来る時の為に大切にキープされているのだそうです。

さて、今日の予定ですが、“八幡平（はちまんたい）”に向かおうと思います。

途中 “玉川ダム” に立ち寄り、八幡平から戻った後、田沢湖を一周する計画です。

この周辺、もう少し詳しい地図をみてみましょう。

田沢湖の東側の国道３４１号線を北上し、玉川ダムを経由し、銭川温泉付近から“八幡平アスピーテライン”を走るコースです。

いつもの通り、ナビを「八幡平ビジターセンター」にセットして出発しました。

そして、１５分以上走ってから、あれっ！方向が違う！と気がつきました。
何と岩手県に向かっているのです。(￣口￣;)!!

ナビをセットした時に本当は気がつかないといけないのですが、この３４１号線、冬季は通行止めになりますから、ナビは通れないものと判断し、岩手県で東北自動車道に乗り、大きく遠回りして八幡平に向かっていたのです。

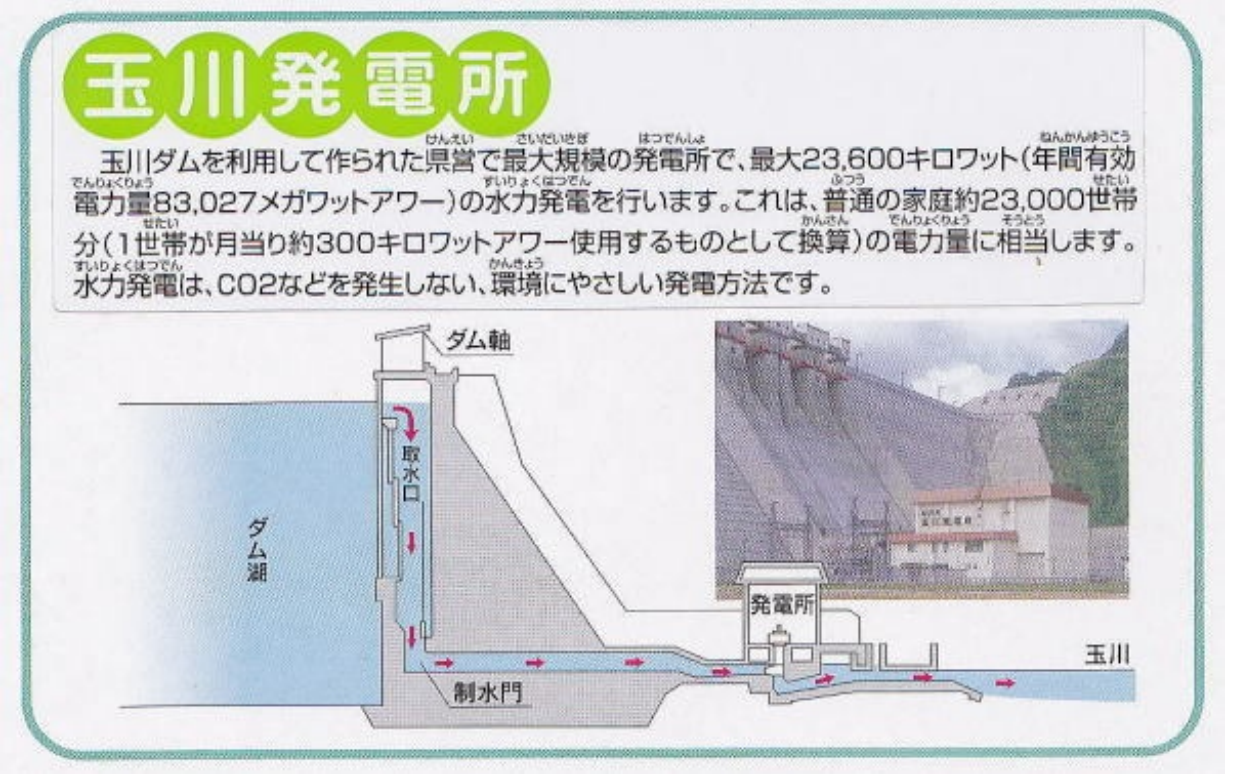
ナビに頼り切った私の悪い癖で、無駄に時間を費やしてしまいました。。(´д｀lll)

“玉川ダム” は雄物川の支流 「玉川」 の上流をせき止めて作ったダムで、それによってできた “宝仙湖” は美しい景観を生み出しています。

この右端でせき止められており、その上に道路があります。

そしてこの右側がダムで、発電所がその下にあります。

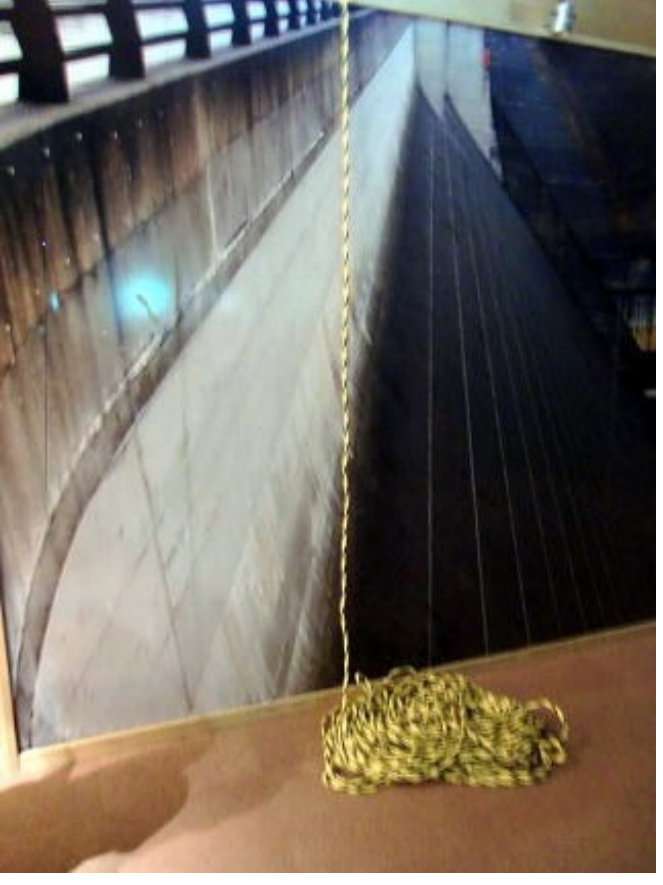
全体の構造はこの図でわかりますね。

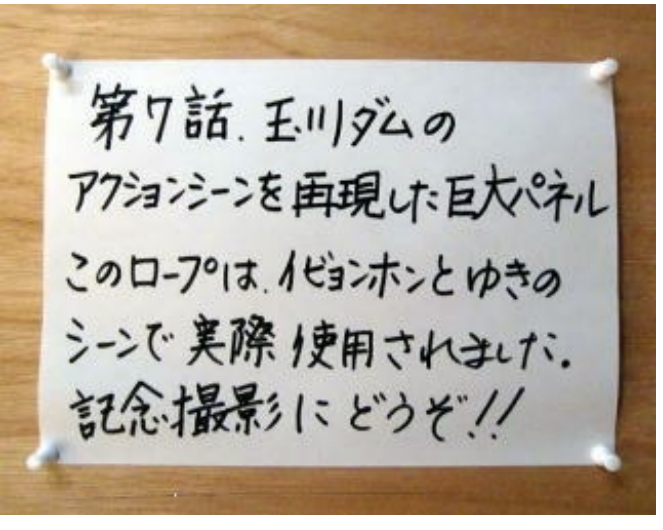


さて、韓国ドラマ“ＩＲＩＳ（アイリス）”を見られた方は既にお気づきでしょう。

第７話で日本人の少女ユキを殺し屋ビックから助け出し、ロープを使ってダムの斜面を滑り落ちるシーンが撮影された場所です。

そしてこの時に使った実際のロープは、ホテルイスキアに展示されていました。





このドラマのおかげで韓国からの秋田県への観光客が劇的に増えています。
１００名のスタッフを３週間無償で提供したことによる経済効果は、十分にあったのではないかと思います。

残雪残る八幡平！

玉川ダムを離れ、国道３４１号線を北上して
八幡平（はちまんたい）　を目指します。

八幡平と言っても、ガイドブックをみて良さそうだな、と思った程度で詳しいことは知りません。
そこでとりあえず“八幡平ビジターセンター”を目指しました。

さすがに冬場は通行止めになるだけあって、国道といえどあまり快適な道路とは言えません。

そして、銭川温泉付近から右折し、“八幡平アスピーテライン”に入ると、道路はきれいですがかなり曲がりくねったルートになります。

そして、目的の“八幡平ビジターセンター”に到着しました！

ここは八幡平の環境や生息する動植物を紹介する施設のようです。

道路の向かい側には “八幡平レークイン” という建物があります。

こちらはレストラン、宿泊、温泉の施設です。

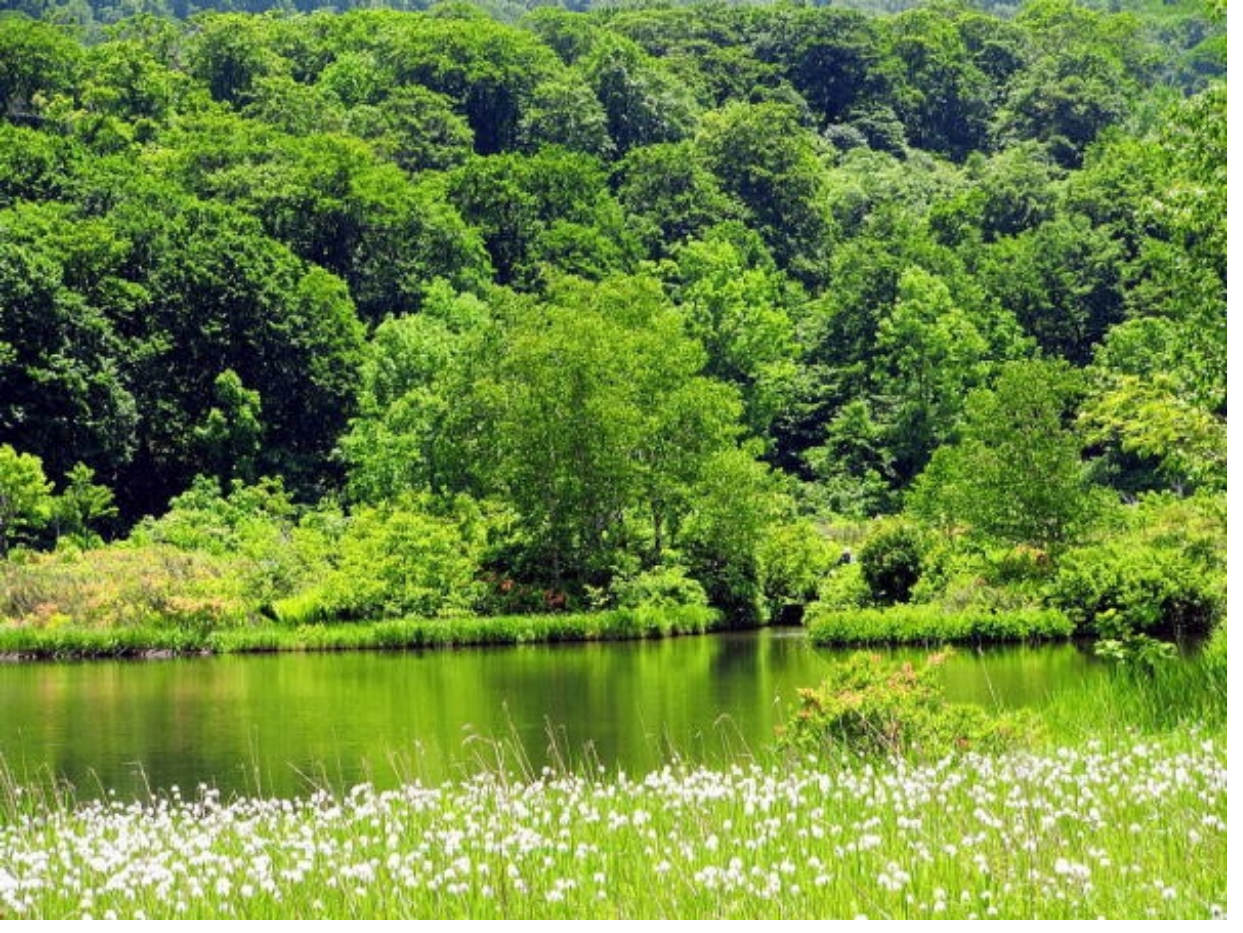
付近をうろうろしながらふと見ると、この八幡平レークインの裏側に大きな沼のようなものがあり、周りを人々が歩いているのが見えました。

どうやら散策路があるようなので行ってみることにしました。

あとで知ったことですが、ここは“大沼”といい、これを一周する１．２kmの散策路があってこれを“大沼森林セラピーロード”といいます。

この八幡平にはこのようなセラピーロードがいくつもあり、ここは初級コースなのです。

沼の周辺の湿地には様々な花が咲き、遊歩道が整備されています。
ちょっとだけ行ってみるつもりでしたが、結局３０分かけて一周しました。



ずっと時間に追われて走り回っていましたから、久しぶりにゆったりした気分を味わいました。

八幡平周辺には、１００科１０００種の高山植物や湿原植物が群生していると言います。
沼を回る間にも、見たことのない植物やお花をたくさん見かけ、そしていろんな鳥の鳴き声を聞きました。

植物や鳥の名前を知っていれば、なお一層楽しいのではないかと思います。

さて、大沼を離れ、次は“見返峠”を目指します。
ここからの八幡平アスピーテラインは、視界が開け、ぐんぐん高度を上げてゆきます。

大沼から１０キロちょっとくらいで“見返峠駐車場”に到着！
この駐車場は有料ですが仕方がないですね。

そしてここには残雪がありました。

この残雪の上でスノボーをやっている人たちが見えます。

残雪っていうのは遠くからみるときれいですが、近くではすごく汚れているし、ごつごつしていて、私ならとてもこんなところで滑る気にはなりません。

この見返峠にはレストハウスがあり、お土産物屋さんやレストランがはいっています。

そして、この峠の三叉路からは、アスピーテラインは盛岡方面に、もう一つの樹海ラインは松川温泉方面に向かいます。

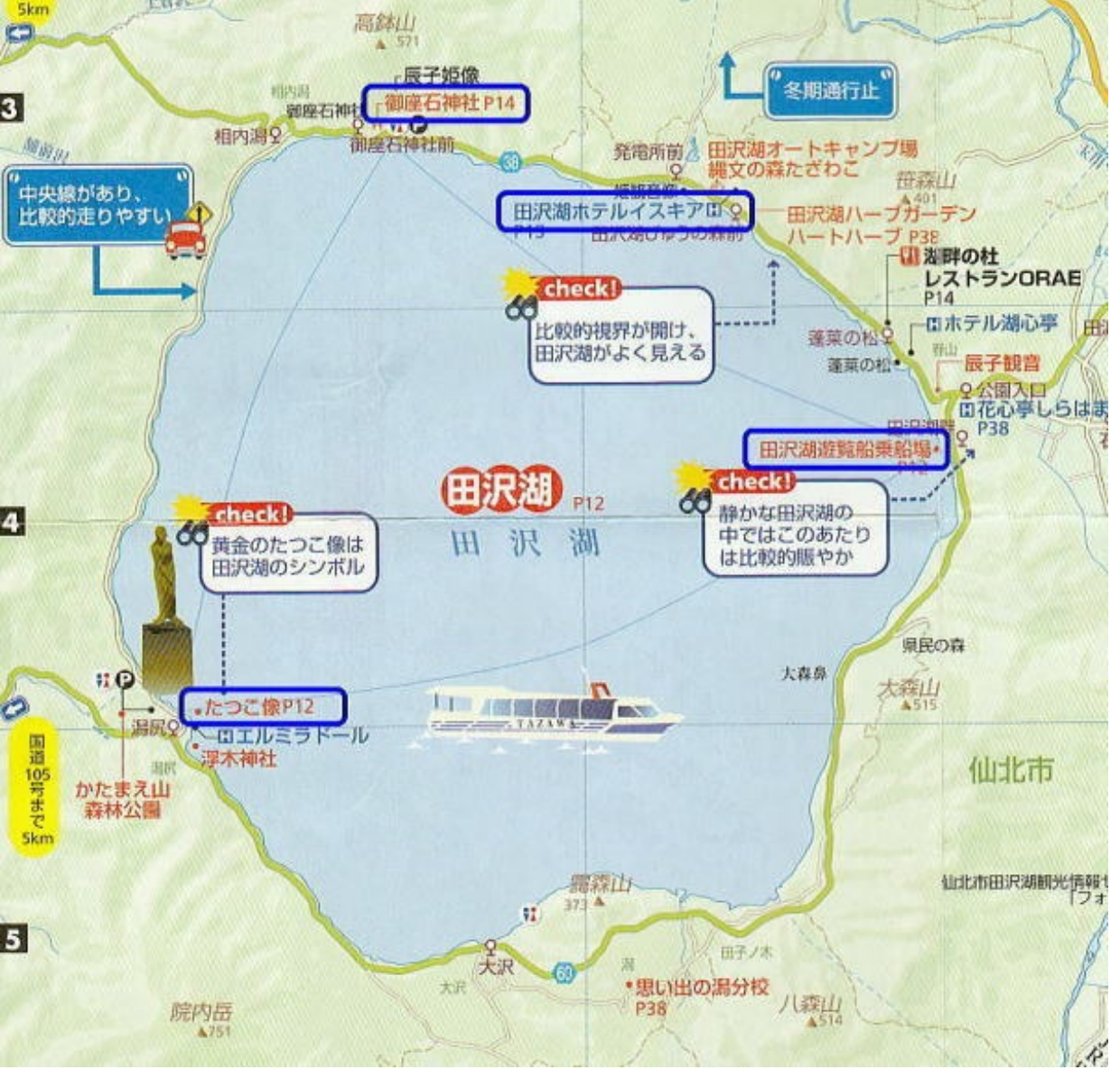
八幡平の頂上（１６１３m）へもここから登れますし、いくつものトレッキングコースがあります。

ここでもゆったりとした時間を過ごし、１３時半、今来た道を田沢湖まで引き返し、湖を一周することにしました。

神秘の湖！“田沢湖”

残雪の八幡平をあとにして、１時間半ほどかかって

田沢湖付近　まで戻ってきました。


5km
高鉢山
▲571
辰子姫像
御座石神社 P14
相内湯
御座石神社前
冬期通行止
中央線があり、
比較的走りやすい
発電所前
田沢湖オートキャンプ場
桃文の森たざわこ
笹森山
▲401
田沢湖ホテルイスキアH
田沢湖ハーブガーデン
ハートハーブ P38
湖畔の杜
レストランORAE
P14
check!
比較的視界が開け、
田沢湖がよく見える
蓬莱の松
ホテル湖心亭
辰子観音
公園入口
花心亭しらはま
P38
田沢湖遊覧船乗船場
田沢湖
P12
田 沢 湖
check!
静かな田沢湖の
中ではこのあたり
は比較的賑やか
check!
黄金のたつこ像は
田沢湖のシンボル
県民の森
大森鼻
大森山
▲515
たつこ像P12
潟尻
エルミラドール
浮木神社
かたまえ山
森林公園
国道105号まで
5km
仙北市
露森山
373
大沢
思い出の潟分校
P38
八森山
▲514
院内岳
▲751
3
4
5

田沢湖は水深が４２３．３ｍあって、日本一深い湖です。
周囲が２０ｋｍ程なので車だと３０分ほどでゆっくり回れますが、周辺にはレジャースポットが点在します。

上の写真が遊覧船の乗り場で、ここから４０分ほどで田沢湖を湖面から観光することもできます。

この遊覧船乗り場付近にはいくつかの大きい土産物屋が並んでおり、私たちもここで土産を買い揃えました。

湖を半周し、私たちが宿泊している“田沢湖ホテルイスキア”のほぼ対岸に、この田沢湖のシンボルともいえる黄金の“たつこ像”があります。

この神秘の湖には、“たつこ姫伝説” があります。

むかし、安倍三之丞の娘でまれにみる美貌の 「辰子」 という娘がいました。
辰子はその美しさと若さを永遠に保ちたいと願い、大蔵観音に百日百夜の願をかけました。

満願の夜、「北に湧く泉の水を飲めば願いが叶う」 というお告げを受け、院内岳を越えて深い森を抜け、その泉を見つけます。

手に掬って飲むと何故かますます喉が渇き、泉の水が枯れるほど飲み続けました。
気がつくと辰子は大きな龍の体になっており、田沢湖の主となって湖底深く沈んでいったのです。

更にこの話には続きがあります。

男鹿半島に八郎潟を作って主となった八万太郎と恋に落ち、冬の間だけは田沢湖で一緒に過ごしました。
その為、冬の間主のいない八郎潟は凍りつき、二人の龍神が棲む田沢湖は冬場も凍らないと言い伝えられてきたのです。

このたつこ像のすぐ横に “浮木神社” があります。

そして遊覧船もこの浮木神社の横にぴたっと停めて、黄金のたつこ像の写真を乗客に撮らせているようです。

浮木神社の横にある売店、ここでソフトクリームを食べて、次へ出発です。

田沢湖のほぼ北側まで走ると “御座石神社” があります。

この神社の正面右側に、もう一人の “辰子” がいます。

先ほどの黄金の “たつこ像” とは随分イメージが違いますね。
そして、辰子の下半身は既に龍に変わってしまっています。

更に表情は永遠の美を求めたことを後悔しているような、悲しい顔つきになっています。

神社から湖面に向かって石段を下りると鳥居があります。
その付近からの湖面は見事な瑠璃色をしています。

神秘的なこの湖面に不思議な感動を覚えました。

みちのくの小京都！“角館の武家屋敷通り”

５日目、いよいよ最終日になりました。

最終日は２か所の道の駅しか残していませんから、まず観光で
角館（かくのだて）へ向かいました。

田沢湖から角館までは、３０ｋｍほどしか離れていません。
ですから、角館と田沢湖をセットにして巡る観光コースがメジャーのようです。

みちのくの小京都と呼ばれる、この角館の武家屋敷通りには、少し離れて観光客用の広い有料駐車場があります。

そこに車を停めて歩いて散策するのですが、“角館” についての予備知識をほとんど持たずに訪れた私たちがまず驚いたのは、両側の板塀からせり出した樹木です。

歩いていると顔に当たり、所によっては地面に届きそうなほど枝が垂れ下がっていました。

ほどなくその正体がわかりました。

角館の武家屋敷通りには、樹齢３００年から若木まで約３００本の“シダレザクラ”があります。
その中の１６２本が国の天然記念物に指定されていて、このようにそれぞれの樹に標識があるのです。

例年４月中旬から下旬にかけて、これらのシダレザクラが一斉に花開きます。

更にこのすぐ横にある“桧木内川（ひのきないがわ）”の堤には２ｋｍに渡ってソメイヨシノの長い桜のトンネルができますから、この角館のもっとも華やかな季節だといえます。

この“角館”は１６２０年に芦名義勝によって作られ、秋田藩の中で最も大きな城下町として発展してきました。

その特徴は武家の住む地域と町人の町とがきちんと区切られ、その間には火災の時に類焼しないよう、広い火除けの空間があることです。

上の案内板を見ていたら、通りかかった地元のおじさんが丁寧に教えてくれました。

そしてその武家の街並みは３９０年近く経過した今も、ほぼ当時のまま残されており、その子孫が実際にお住まいになっています。

ほとんどのお屋敷は人が住んでいるにも拘わらず途中まで解放されており、実際に門の中に入って立派なお庭を見せて貰うことができます。

その中のいくつかは、観光客の為に有料で建物の中まで見ることができるようになっています。
その一つ、“石黒家” に入ってみました。

ここは佐竹北家の財政を担当した重臣の住まいで、母屋は築２００年を経過しますが、間取りなどは昔のままで、実際に子孫の方が住まわれています。

公開中

３００円を払って中に入ると、靴を脱いで座敷の上にあがります。

朝早く到着した時は少なかった観光客も時間を追って多くなり、この石黒家にも多くの見学者がはいっています。

その見学者を１０数人ずつまとめて係の方が家の中の案内、解説をされます。
江戸時代そのままの生活様式がそこには残っていました。

更に奥にある土間や蔵が展示室になっていて、さまざまな生活用具、武具、古文書などが保存されています。

石黒家を出ると、通りは益々人が増えていました。

人力車で回るのも風情がありそうです。

そろそろ次へ向かおうと思っていた時、これをみつけました。

秋田地方の“ババヘラ”といえば有名です。
早速注文し、おばあさんに「ババヘラってどういう意味なの？」って尋ねてみました。

おばあさんはしわくちゃのお顔でにっこり笑って、自分を指さし、
「ほら、ババアでしょ！」

そして、アイスを詰めている“ヘラ”を見せて、
「ババアがヘラでアイスをつめるから、“ババヘラ”って小学生が呼ぶようになったのよ！」
と説明してくれました。

なるほど、小学生が名付け親だった訳ですね！
そのアイスは、まさに昔ながらの味で、決して旨いとまでは言えないけど、素朴そのものでした。

日本人が忘れかけた生活様式や風情を今に残した“角館”、ほんの短いタイムスリップでしたが、機会があればシダレザクラの咲く時期にまた訪れたいものです。

遺跡の里！“協和”

昨日と今日の午前中、１日半をまるまる観光に費やしました。
最後の仕上げとして残り２か所の道の駅が残っています。

道の駅協和　がその一つです。

角館から国道４６号線を西へ進み、２５分ほどで到着しました。

広い駐車場の奥にある２つの建物は、左が地場産品直売の “四季の森” そして右側が “道路休憩施設” で、リアルタイムな道路情報を発信する情報センターです。

“四季の森” の更に左奥にあるのがこの建物で、“遺跡・陶芸の里” と呼ばれます。

ここでは、地域内で産出された土を使って、穴窯によるオリジナル陶器が創れる陶芸教室も開かれています。

ここ “大仙市協和荒川” は、旧石器時代の “米が森遺跡” でしられる米が森の裾野にあります。
ここが “遺跡の里” と呼ばれるのはその為です。

“四季の森” の建物は、流れるような屋根の形が特徴です。

さて、店舗を出て、裏にまわってみるとそこは広い公園になっていました。

ここは協和カントリーパーク “光の森公園” といい、芝生で遊ぶ親子連れや、グランドゴルフを楽しむ人々の姿が見えました。

道の駅は、ドライブ途中に立ち寄る休憩所から、家族が休日などに楽しむ憩いの場所へとだんだん変化しているように思います。

道の駅
協和
KYOWA
四季の森

最終回！“かみおか”

秋田県制覇の最後の目的地は

道の駅かみおか　です。

道の駅かみおかは国道13号線沿い、道の駅協和から２０分弱で到着しました。

この日は日曜日、天候はあんまり良くないのですが、なにやら催し物があっている雰囲気です。

お祭りのように、ハッピ姿の子供たちが大勢います。

この子どもたちは太鼓の演奏チームだったらしく、このあと私たちがレストランで食事をしている時に演奏が始まったので、残念ながら見ることはできませんでした。

この道の駅、“茶屋っ子一里塚” という別名がついています。

“一里塚” というのはご存じのように、徳川幕府が全国に築いたもので、江戸日本橋を起点とし、１里(約４km)ごとに街道の両脇に塚を築き、榎などの木を植えて街道の路程の目印としたものです。

この道の駅かみおかの目の前にこの一里塚が残っているのですが、これは日本橋から数えて１３３番目にあたり、道の両側に残っているのは全国でも珍しいらしくて、県指定の文化財になっています。

無事に最後のスタンプをゲットし、お店に入ってみました。

ここで少しだけ買い物をして、レストランに食事に入りました。
ふだんは時間に追われて走りながらパンをかじることが多いのですが、最終日だけはゆっくりできます。

このあとまだ時間の余裕があったので、３日目にスタンプだけは押したけど閉まっていた“道の駅なかせん”に向かいました。

なかせんへのリベンジで、無事に中の写真も撮影！
このことは、既にレポートしましたね。

あとは一気に秋田空港まで走ったのですが、高速に乗ったとたんに雨が降り出し、空港の近くではワイパーを高速で動かしても先が見えない程の豪雨になりました。

考えてみればこの５日間、予報ではかなりの悪天候を覚悟していたのに、雨に降られたのは初日のみ、あとはほとんど好天に恵まれました。

そして最終日もすべてを終えてから待っていたかのように大雨となり、本当についていまいた。

普段の道の駅巡りと違って観光も十分楽しめたし、“秋田県”は印象深い地方の一つとして私の心に残りました。

- ●全行程走行距離：１，２８４ｋｍ
- ●訪れた道の駅：　２９か所
- ●写した写真：　１，５０７枚（嫁と私のふたりで）

秋田の旅シリーズは今回で終了です。
次回から“山形の旅”をスタートしますので、引き続きよろしくお願いします。(^-^)/

まほろばの里！“たかはた”

本日より新シリーズ “山形の旅” を開始します。
これは、９月の２０～２１日のわずか１泊２日という駆け足で・・・・いや、全速力で山形県を回ってきた記録です。

朝７時０５分に福岡空港を飛び立ち、大阪伊丹空港で乗り継ぎ、仙台空港に到着したのが１０時１５分です。
今回仙台空港にしたのは、山形空港だと乗り継ぎの便が悪く、到着が午後になってしまう為です。

仙台空港でレンタカーを借りますが、前回と同じ日産レンタカーなので、車種はやはり “マーチ” です。

仙台空港そばから高速に乗り、仙台東部道路～仙台南部道路～東北自動車道～山形自動車道 と乗り継いで山形県に入ります。

山形蔵王ＩＣで一般道に降り、国道１３号線を経由して最初の目的地
道の駅たかはた　に到着したのは、１時間５０分を経過した１２時４０分になっていました。

これでも、山形空港に降りるよりずっと早いんですね。

ここ “山形県東置賜郡高畠町” には縄文時代の縦穴住居などの遺跡が残っており、この道の駅も “まほろばステーション” と名付けられています。

そして国道を挟んだこの道の駅の向かい側が “まほろば古の里歴史公園” になっていて、資料館などがあり、そして安久津八幡神社の “三重塔” が見えました。

この歴史や自然に触れる為に “たかはたふるさと自然のみち” と名付けられた１時間から４時間コースまでの３つの遊歩道が整備されています。

更に道の駅の中には “ウォーキングセンター” があって更衣室、シャワールームまで完備されているのです。

さて、道の駅の本体はこちらの建物です。

この日の天候は “くもり” 、まだ雨が降っていないだけ幸いです。

そして駐車場の真ん中にこんな建物もあります。

ここには “和牛串焼き” の看板がありました。
和牛といえばここは当然 “米沢牛” です。

すごく気になったのですが、今日の日程はとにかく余裕がありません。

中に入ってみると、レストランの名前も “縄文” でした！

売店で、走りながら食べられる食糧と飲み物を買い込んで出発です。

ここでの滞在２５分、最初から長居をし過ぎてしまいました。

上杉の城下町！“田沢”

山形県の2か所目は、35分ほどかかって

道の駅田沢　へやってきました。

ここは “山形県米沢市” で、米沢といえば上杉の城下町です。

会津120万石の領主だった “上杉景勝” が関ヶ原の戦いで西軍についたため、30万石に厳封されて米沢に移った時から、上杉の城下町としての歴史が始まりました。

120万石の時と同じ家臣団を抱えた藩の財政は窮乏を極め、武士の大半は刀を鍬に持ち替えて畑を耕し、女性たちは機を織って生計を立てました。

この辺の苦労や乗り越えていった物語は昨年のＮＨＫの大河ドラマ “天地人” でご存じですね。

更に米沢藩は15万石まで厳封されるのですが、10代目の “上杉鷹山” の活躍などもあって、14代茂憲公までの270年間、脈々と上杉家の統治が続いていったのです。

今回はそれらの史跡を巡ることができないのが残念です。

この道の駅はどちらかというとシンプルです。

駐車場もあんまり広くなくて、大きな建物もひとつだけでした。

建物には、普通に売店とレストランがあります。

ひとつ気がついたことがこの道の駅の “登録証” です。

左側は普通に見かける登録証ですが、ここにはもう一つ木製の登録証があります。

この後巡ったすべても道の駅で見かけましたから、おそらく山形県独自のものではないかと思います。

さて、外にでるとこんなものがありました。

山形といえば“玉こんにゃく”ですよね！
早速買いました。

もうかじってから写真を撮りました。（笑）

普通のこんにゃくと違って、もちもちした感じがします。

おばさんがからしをつけてくれましたが、これが良く合います。

腹ごしらえ（？）が済んだところで次へ向かいます。
ここでの滞在時間は16分でした。

美しい日本の村！“いいで”

田沢の道の駅から30分弱で、山形県3か所目の
道の駅いいで　に到着しました。

ここ “西置賜郡飯豊町（にしおいたまぐんいいでちょう）” は、霊峰飯豊山の麓に位置し、農業を中心とした日本の原風景をとどめた地域です。

飯豊連峰の雪解け水を集めた “白川” が “最上川” の源流であり、平成5年には第1回目となる “美しい日

本の村景観コンテスト” において最高賞を受賞した町です。

そして全国的にも有名な “米沢牛” の基になった “飯豊牛（いいでぎゅう）” の産地でもあります。

この道の駅は、最初の2か所に比べると、かなり規模が大きいようです。

そして何より人が多くて、すっごく賑やかなのです。

Coca-Cola

いいて
どんでん車ゆり場
山形
山形
山形
山形

何かイベントでもあったのだと思いますが、子供たちが走り回って、お祭りのような騒ぎです。
そしてこのテントの下では、皆さんなにやら美味しそうに食べています。

建物の一部が “ファーストフードコーナー” になっていて、飯豊牛の串焼きをはじめとする色んなものが売っていて、それを皆さんここで食べているようです。

そして一番私が気になったのが、立ち並ぶこの “いも煮” のノボリ！

山形といえばやっぱり “芋煮” ですよね。
でも、「そんな時間ないでしょ！」 とあえなく却下！(Ｔ▽Ｔ;)

涙ながらに写真だけ撮らせてもらいました。

まあ、この “芋煮” についてはこの日の夜、山形駅前の郷土料理店でリベンジさせて貰いましたけどね！(^▽^)

さて、店内に入ってスタンプをゲット！
ここは店内もたくさんの人たちで混雑しています。

ここにも木製の登録証が・・・！

このような賑やかな活気のある道の駅に出会うことは、道の駅をこよなく愛する私たちにとってすごく嬉しい気分になります。

この時間14時半、そして残りはこの時点で6カ所、距離もあるのでとにかく急がねばなりません。

スキー場と一体！“白い森おぐに”

次は４軒目、３０ｋｍ離れた

道の駅白い森おぐに　へやってきました。

ここ “西置賜郡小国町” は、新潟県との県境にほど近い場所です。

磐梯朝日国立公園に属する飯豊山、朝日岳の雄大な山並みに囲まれ、町の面積の９５%はブナなどの広葉樹に覆われています。

町を象徴する “ブナ” や “雪” のイメージから、町全体を “白い森公園” と認識して町おこしに取り組んでいます。

この道の駅に “白い森” という名前がついたのはその為です。

この道の駅の最大の特徴は、“横根スキー場” と一体化していることで、冬場は道の駅がスキー場のレストハウスになります。

上の写真、道の駅の建物の裏側にゲレンデの斜面の一部が写っていますね！

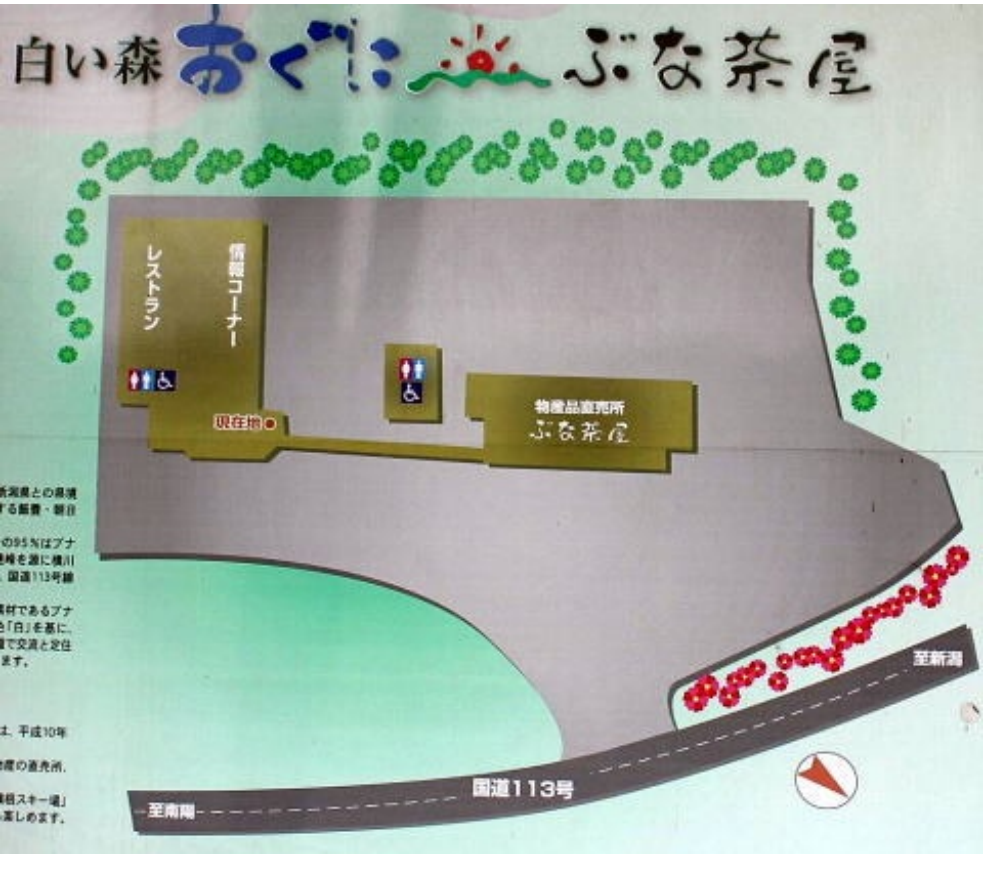
道の駅の建物の前にテントが張ってあって、おばさん達が何かを作っています。

ここにも “いも煮” が　・・・・・・　！(￣□￣;)!!
その隣では、何か香ばしいものを焼いているけど何だろう？

なるべく見ないようにして急いで通り過ぎます・・・・。(＞＜;)

おっと！ここにも旨そうなものが・・・・。

この道の駅は誘惑が多すぎます。（汗）



道の駅自体は比較的シンプルで、直売所とちょっと離れてレストランと情報コーナーがあるだけです

。

こちらがそのレストランと情報コーナーですね。

急いでスタンプをゲットし、いも煮の誘惑から逃れるように、ここも１５分で立ち去りました。

次は山形県では最も新しい道の駅である
道の駅白鷹ヤナ公園　です。

ここは前の道の駅から５７ｋｍの距離があり、１時間５分を要しました。
到着時刻１６時半、予定では残りが４か所ですから、かなり不安になってきました。

実はここへ訪問する２日前の土曜日朝のテレビ番組 「旅サラダ」 の中で、ラッシャー板前さんがこの道の駅で生放送をやっていて、この日は “白鷹鮎まつり” があっていることを知っていました。

広い駐車場の入口、出口ではガードマンが交通整理をしており、時間が遅かったからスムーズに入れたものの、昼間だったらかなり待たされたことだと思います。

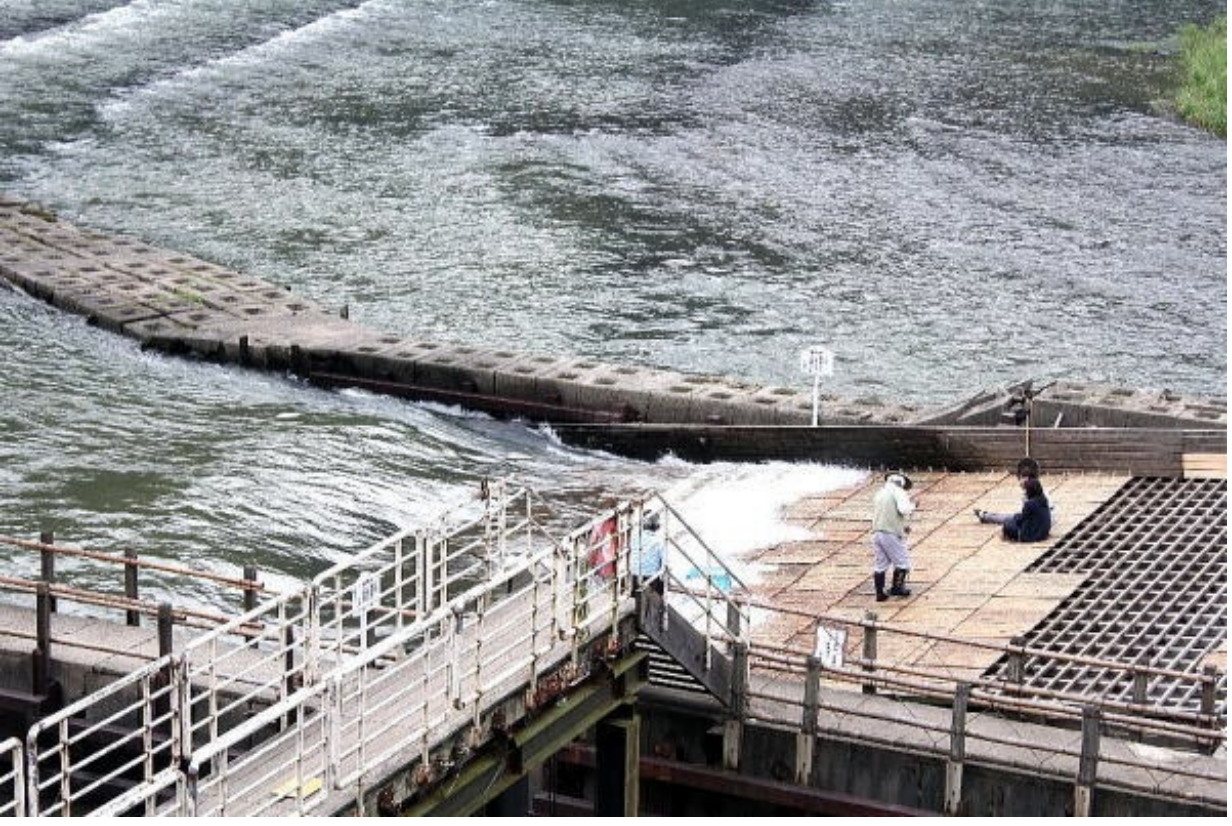
時間的に既に片付けが始まっていましたが、会場にはステージなども作られ、お祭り気分一色です。

そして、“白鷹ヤナ公園”といえば、当然“鮎”ですね。

こうやって鮎を焼いている屋台がずらりと並んでいます。

これが道の駅の本体ですが、左側に “鮎券販売所” という文字が見えますね。
「塩焼き１本４００円」、事前に券を買わないと食べられないのかな？

道の駅の裏側に “最上川” が流れており、ここに常設としては東洋一とも言われる “ヤナ” があります。



この最上川の急流の中に作られた “ヤナ” で、多い時は１日に１万匹の鮎がかかるとテレビの番組で漁師さんが言われていました。

そしてここには “体験観光ヤナ” があって、飛び跳ねる鮎を手で捕まえる体験ができるのだそうです。

この最上川、ここから１０分くらいの場所に “太平橋” というのがあり、かつてドラマ 「おしん」 の撮影現場になりました。

非常に魅力的な道の駅でしたが、残念ながらあまり時間が残っていないので “鮎の塩焼き” に後ろ髪を引かれながら次へ急ぎました。

最上川 あゆとぴあ
日本一のヤナ
道の駅 白鷹ヤナ公

雨が降り出す！“おおえ”

次に向かったのは、山形県のほぼ中央にあたる
道の駅おおえ　です。

ここ“西村山郡大江町”は、天気が良い日なら朝日連峰や月山が一望でき、そばを最上川も流れる風光明美な場所です。

でも、ずっとぐずついていた天気はついに雨が降り出してしまったので、残念ながら回りは何も見えません。

道の駅
おおえ
Oe
P
テルメ柏陵
Terume Hakuryo

道の駅 おおえ
テルメ柏陵

地面が濡れているのがわかりますね。
傘をさすと写真が撮りにくいので、とても困るんです。

といって文句を言っても仕方がないですね。(;^_^A

ここは下の配置図を見ても分かるようにシンプルな道の駅です。
夕方で、しかも雨まで降ってきたので外のテントは既に片付けを始めておられました。

急いでスタンプを押して、店内を見回ってみます。

う〜ん！ネタになるような話題性も見当たらず・・・・！(_ _。)

ここの特産品は “ラ・フランス” なので、それを使った “ラ・フランスソフトクリーム” があります。

試食してみたいが、時間が無いのでごめんなさい。m(__)m

ということでブログネタを見つけられないままここは撤退！

出発時刻、１７時２０分。
残りの予定は「寒河江」「河北」「天童温泉」の３か所。

実は今回、東北スタンプラリーの“夕日ライン賞”（青森、秋田、山形３県制覇）を目指しているので、何としても明日までに山形県を回りきらなければならないのです。

万一残ってしまった場合は、別の日に私一人で、日帰りでもう一度山形まで来なければならないかな・・・、と真剣に考え始めました。

日本一のさくらんぼの里！“寒河江”

次に急いでやってきたのは
道の駅寒河江　です。

ここはわずか１０分しかかかりませんでした。

“寒河江”は“さがえ”と読みます。
地名って、やはりよそ者には読めないものです。

雨の中、車の中から撮ったのでボケちゃいました！(^_^;)

国道１１２号線からこんな立派な門を入ってゆきます。

この寒河江は東北一の規模と施設を備えた道の駅なのだそうですが、確かに大きいです。

この横にすごく長くてでっかい建物、写真に入りきりません。

ここには山形県内各地の名産品、工芸品、味覚を集めた観光物産センター、レストラン、それに大

広間、会議室などが入っています。

そして “寒河江” といえば、この看板にあるように “日本一のさくらんぼの里” なのです。

さくらんぼは “樹になるルビー” と呼ばれています。
毎年４月下旬に真白な花が満開になり、６月上旬から７月上旬にかけて真っ赤なルビー色の実が実ります。

この道の駅の中に “国際チェリーパーク” というのがあり、国内外１２カ国のさくらんぼ１１４種類１３９本が植えられ、せせらぎやあずまやを配した公園になっています。

さくらんぼの原産地は西アジアのトルコ共和国です。
トルコから、ヨーロッパ、アメリカを経由して明治初期に日本にはいってきました。

その日本へ伝播してきたルートを“チェリーロード”と言います。

これが縁で寒河江は、昭和６３年にトルコ共和国ギレスン市と姉妹都市になり、この道の駅に“トルコ会館”が建っているのです。

この“トルコ会館”、オスマントルコ時代の建物で、基本設計はトルコ共和国在住の建築家がなさったものだそうです。

そして逆に“トルコ共和国ギレスン市”には、“寒河江公園”“寒河江通り”が作られています。

さて、中に入ってみましょう。

入口付近には、生鮮売り場とファーストフードコーナーがあります。

観光物産センターは、とにかく“広い！”につきます。

もう閉店間際なのでお客さんは少ないですが、昼間はおそらくすごく混雑していることでしょう。

さて、今の時間１７時４０分、次の道の駅が１８時までなので、何とかあと１か所はぎりぎり間に合

いそうです。

紅花で栄えた！“河北”

暗くなった国道をひた走り

道の駅河北 （かほく） に到着したのは１７時５２分になっていました。

道の駅へ到着すると、店員さんが外に出てノボリなどを片づけている最中でした。

「まだ大丈夫ですか？」 と尋ねると 「どうぞ入って下さい」 とやさしく案内してくれました。

店に飛び込んで何はともあれスタンプをゲット！

１８時で閉まりますからぎりぎりセーフでした。

この看板、真下からストロボで撮ったのですがが、きれいに映っていますね。

そして道の駅の外観はこれ・・・・。

上が道の駅、下はトイレの写真です。

これを見ると昼間のように明るいでしょう？
でも、普通のカメラで撮るとこんな具合です。

デジイチだとＩＳＯを6400まで上げることができ、その威力にあらためて感心した次第です。

県美展
山形麸
おすすめ商品
山形名物
玉こんにゃく

おすすめ商品
山形麸
れんこん
こんにゃく
250円
山形名物
玉こんにゃく

店内はまあ、ありふれた感じなのですが、ここは４階建の建物です。

１階が先ほどの売店ですが、２階には河北町を紹介する展示室があり、３階がレストラン、４階が展

望台になっています。

この道の駅のすぐ裏に最上川が流れていますから、昼間だとこの展望台からの眺めは雄大だろうと思います。

ここ“河北町”は、“紅花”の産地で、江戸時代から明治初期にかけて、最上川の舟運を使った紅花の交易で栄えた町です。

町内には江戸時代に紅花商として財をなした“旧堀米邸”を復元した“紅花資料館”があり、毎年７月には“べに花まつり”が開催されます。

さて、予定ではもう一カ所“天童温泉”の道の駅が残っているのですが、当然間に合いません。
ただ、今夜の宿泊地山形駅前への通り道なので、とりあえず立ち寄ることにしました。

２０分ほどで到着しましたが、当然ながら建物は真っ暗、しかもかなり激しい雨が降ってきたので車

からでるのも煩わしく、諦めて宿へと向かいました。

“天童温泉” を明日の予定に組み込むとなると、ルート的には最初になります。
でもオープン時間は 「９：００」
最初から開店の９時まで待っていてはとても明日の行程を回りきれません。

最後に入れるしかないのですが、そうなるとかなり迂回せねばならず、これも時間内に回りきれる自信がありません。

悶々としながらホテルの部屋で地図やスタンプ帳を見ていたのですが、あることに気がつきました。

スタンプ帳によると 天童温泉のスタンプは２つあり、その一つ “道路情報コーナー” は２４時間開いているのです。

道の駅の中を見らずにスタンプだけを押して立ち去るのは本意ではありませんが、これなら早朝に立ち寄ることができます。

ひとまず安心して食事にでかけました。

宿泊は山形駅の建物内にある “ホテルメトロポリタン山形”
駅前で郷土料理店を見つけて念願の “芋煮” を食べたのは以前 「速報」 でお知らせしたとおりです。

道の駅河北
ぷらっと

いで湯の里！“天童温泉”

２日目の朝、ホテルを８時前に出て最初に向かったのが
道の駅天童温泉　です。

今日のコース、このように山形県北部をぐるっと回って、最後に仙台空港へ一気に高速を走ります。

こうしてみると、前回の秋田の旅の時に“道の駅鳥海”（地図の最北部［９］のところ） を済ませておいたので本当に良かったと思います。

天童温泉の到着は８時半、まだ開店前です。

ホテルを出る時には降っていなかった雨が、天童温泉付近ではかなりひどくなってしまいました。
写真もぼやけてしまっています。

これが昨夜真っ暗だった道の駅です。

情報によると「道路情報コーナー」に２４時間スタンプを置いているはずです。

入口を入ってみると、すぐ横にスタンプ台がありました。

「道路情報コーナー」 と言っても入口付近の狭いスペースで、その先の店舗はしっかりと閉まっていました。

スタンプだけ押して立ち去るのは誠に不本意ですが、今回ばかりは仕方がありません。

道の駅のすぐ横には “足湯” があり、早朝だというのに地元の方でしょうか５～６人の男女が入っておられました。

この足湯、その湯船の形が面白いのです。

（ＨＰより写真拝借）

将棋の駒の形ですね！

“天童” といえば将棋の駒の生産地として有名で、街中を走っていると、大きな将棋の駒の看板をいくつも見かけました。

そしてこの天童は 「日本の温泉１００選」 の上位にランクされる温泉地で、年間１００万人を超え

る観光客が訪れます。

更に、東北観光地として特に名高い “山寺立石寺（やまでらりっしゃくじ）” がすぐ近くにあります。山寺立石寺は私も数年前に訪れて、息を切らせて一番上まで登った思い出があります。

道の駅の隣には “食の駅” なる建物がありました。

この周辺一帯を “わくわくランド” といい、２万平方メートルを超える多目的広場には、中央部にオルゴールの音色にあわせてあがる３種類の噴水もあります。

今回は時間の制約で何も見れなかったのは残念ですが、いずれ機会があればゆっくり見て回りたい街です。

さすがにスタンプも将棋の駒でした！(^▽^)

最上川三難所！“むらやま”

２日目の２か所目は
道の駅むらやま　です。

この道の駅は情報コーナーやレストランのオープンは朝７時、売店は９時の開店です。
９時少し前に到着しました。

“村山市” は江戸時代、羽州街道の宿場町として栄え、最上川舟運の要所だったところです。

最上川舟運で栄えた時代、松尾芭蕉の 「奥の細道」 に記した “最上川三難所” というのがこの村山市にあります。

これは「碁点（ごてん）」「三ケ瀬（みかのせ）」「隼（はやぶさ）」という３か所で、岩盤がむき出しになって流れが急なため、船頭たちに最も恐れられた難所でした。

でも今ではスリルを味わう観光資源として、“最上川三難所川下り”を人々が楽しんでいます。

この道の駅で最初に目につくのが、この国道をまたぐ空中の通路です。
国道の上空部分は透明なポリカーボネイトで覆われ、長さは４８ｍあります。

最初は駅でもこの先にあるのかな、と思っていましたが、実はこの道の駅、国道の両側にあるのです。

（パンフレットから航空写真をお借りしました）

この写真を見ればわかりますね。

今私たちがいるのは写真の上側ですが、この国道１３号線には中央分離帯があって反対車線から入れない為に、このように両側に作って連絡通路を設けたのだそうです。

建物は扇状になっていて、その中央が広い“交流広場”になっています。
そして建物の内外にいくつもの簡易店舗が並び、皆さん忙しく開店の準備をされていました。

入口をはいると、中はなかなか広くてきれいです。

開店直後でまだお客さんは少ないですが、山形の土産品は何でも揃っている感じがします。
そして周りの簡易店舗には漬物や様々な食材が並んでこれまた旨そうです。

昨夜食べた芋煮の味が忘れられず、これを土産に買いました。

うちの嫁は、道の駅にゆくと必ずこの “登録証” の写真を撮ります。

店舗の横にあった事務所の奥にこの登録証がかかっており、ズームを使って写真を撮っていたところ、中にいた若い女性の事務員さんが声をかけてきました。

「何を撮られているのですか？」

道の駅の登録証ということを言うと、
「どうぞ中に入って写真を撮って下さい」と事務所の中に招き入れてくれました。

山形県の全部の道の駅を回っているのだということなどしばらく話をして別れましたが、とても良い印象を受けました。

この道の駅、交通量の多い場所にあるし、商品も充実していますから、おそらく昼間は活気があって賑わっていることだと思います。

スイカと花笠！“尾花沢”

今日の３か所目は “国道１３号線” と “尾花沢新庄道路 尾花沢北ＩＣ” のどちらからも入れる
道の駅尾花沢　です。

ここは横に細長い建物ですが、なにやら気になるノボリを発見！

“ねまる”！？

「ねまる」というのは九州の言葉では、食べ物が古くなって臭いがしてくる状態、つまり腐る寸前のことを言います。

「昨日のご飯、ねまってるから捨てなきゃ！」といった使い方をします。

でもこの道の駅、“花笠の里ねまる”というのが愛称なんですね！

「ねまる」は尾花沢地方の方言では「くつろぐ」という意味で、ここは休憩施設としての機能である「くつろぎ」がテーマの道の駅なんです。

松尾芭蕉も「奥の細道」でこの尾花沢にしばらく逗留した時、「涼しさを　我宿にして　ねまる也」と詠んでいます。

愛称のもうひとつ “花笠の里” ですが、これは勿論 “花笠音頭” です。
ここ尾花沢は “花笠音頭” “花笠踊り” の発祥の地なのです。

大正８年に灌漑用水確保の為に堤工事が行われた際、土搗き唄として唄われたのが花笠音頭の原型で、それに合わせて即興で笠を回しながら踊ったのが花笠踊りの始まりだそうです。

今では山形県を代表する文化の一つになっていますね。

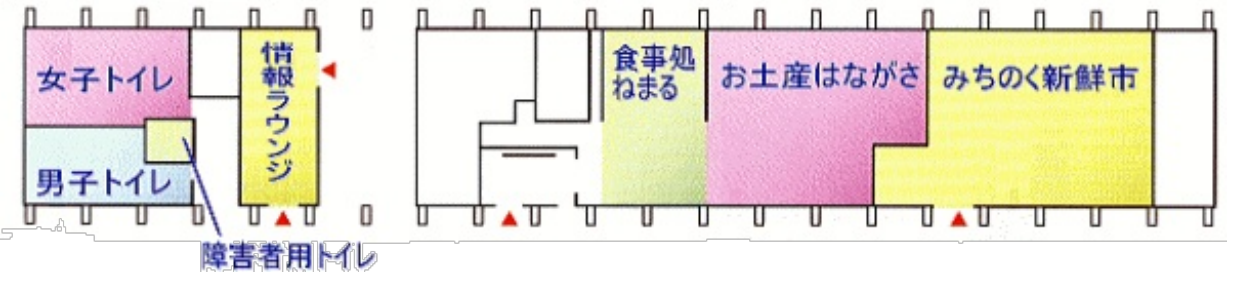
さて、ここ尾花沢にはもう一つ有名なものがあります。
スイカの産地で、夏スイカでは日本一の生産量を誇ります。

従って、道の駅の中も “スイカ” 一色なのです。

AED
お客様へ
暴力団追放運動協賛事業所
お土産 はながさ
食事処 ねまる

いらっしゃいませ

テーブル、テントまでスイカで統一され、スイカを使ったお菓子、お酒、ソフトクリームなども揃っています。



食事処の名前も “ねまる” なんですね。
九州人は敬遠するかも・・・（笑）

地元の名産を有効に使って特色を出した道の駅だったと思います。

韓国村が出現！？“とざわ”

次に向かったのは最上川沿いにある
道の駅とざわ　です。

道の駅とざわの正面には、国道47号線を挟んで “最上川” が流れています。

ちょうど目の前で蛇行しているので流れが急で水量も多く、いかにも “三大急流のひとつ” としての貫禄があります。

この道の駅、突如韓国の街に迷い込んだ錯覚を覚えます。

道の駅の愛称は “モモカミの里「高麗館」” で、“高麗館” は勿論韓国を表しますね。

“モモカミ” というのはアイヌ語で 「崖」 の意味の “モモ” と 「盆地」 の意味のある “カミ” を組み合わせた造語で、 「最上地方」 のごろ合わせにもなっているのだそうです。

この建物が道の駅の駅舎になり、スタンプもここにありましたが、中は韓国文化を紹介する資料のようなものばかりでした。

山形のこの地方に何故このようなものを作ったのか、疑問が湧いてきますね。

戸沢村には昔から韓国人花嫁が多く居住しており、彼女たちを中心に 「戸澤流キムチ」 などの商品開発が行われています。

そして農業技術の交流、日韓児童交流、婦人たちによる食文化の交流など民間レベルの交流が盛んで、それが発展してここに日韓友好の村 「高麗館」 が建設されたものなのだそうです。

建物群はこのような配置になっており、更にこれらを囲む広い範囲が “モモカミの里 眺河の丘” と呼ばれる広大な公園になっていました。

中央にこのような石段があり、そこには韓国の時代劇ドラマで見かけるような、龍の彫り物があります。

石段を登った先に “物産館” がありました。

この時間、他に誰もお客がいなくてがらんとしているので、「ちょっと入り難いね！」と素通りしたのを、少し後悔しています。

この日、空模様は降ったりやんだりの繰り返しでしたが、何故かこの高麗舘にいる時だけ雲の切れ目から太陽の光が射し、汗ばむ程になりました。

今まで見たことのない韓国風の道の駅、休日だったらもっとお客さんが多かったのかもしれません。

とさわ

米どころ！“庄内みかわ”

山形県北部をひたすら西へ向かい、日本海に近い場所に
道の駅庄内みかわ　はありました。

庄内平野は全国有数の米どころです。

どんよりとした空の下で、延々と続く田園地帯が目につくようになりました。

山形県で山岳地帯がないのはここ “三川町” だけだそうで、町の面積の３分の２を平坦で肥沃な水田が占めています。
ここは良質な稲作に適した土地で、「はえぬき」「ひとめぼれ」「ササニシキ」 といった品種を中心に全国的にも名前が知られています。

そしてもう一つ目につくようになったのがこの “防雪柵” です。

ここは東北の日本海側、やはり冬場の豪雪は住んでおられる方には大きな負担なのだろうと思います。

とざわの道の駅から４０分ほどで到着しました。
とざわで晴れ間が見えたのに、ここへの途中では激しい雨に見舞われ、とにかくおかしな天気です。

この道の駅、全体を “いろり火の里” といいます。

ここには、多目的ホール、研修・宿泊施設、温泉、、ショッピングセンター、そして物産館があります。

この “物産館マイデル” が道の駅の本体になります。
“マイデル” とは、庄内弁で “待っているよ” という意味なのだそうです。

ここには地元農産物が主体の売店と、食堂がありました。

これが “いろり火の里” の全体図ですが、日本語の他、英語、韓国語、そして２種類の中国語で書いてあるのには驚きました。

この②の位置が先ほどの物産館マイデルですが、その先④には、“文化館なの花ホール” があります。

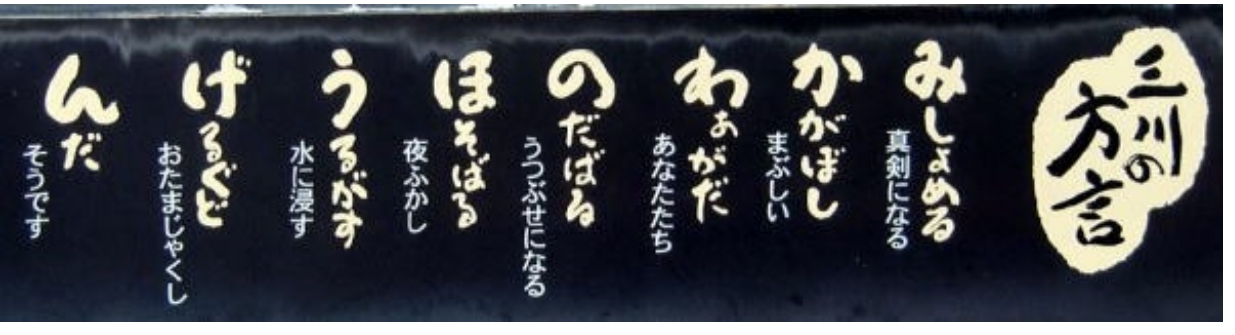
ここは庄内地区最大級の多目的コンベンションホールで、１階の多目的ホールには１０００名を収容することができ、結婚式を始めパーティや展示会なども開催されます。

そして③はショッピングセンターです。

これ以外に、“宿泊研修施設 田田の宿”、“菜のはな温泉田田 “ などの施設があります。

“菜の花” というネーミングが多いのは、施設の東側に広大な菜の花畑があり、４月から５月にかけ見事に咲き誇ることから名づけられています。

最後にこんなほのぼのした看板を見つけたのでご紹介！(^▽^)



この方言、頭文字をつなぐと “みかわのほうげん” になっていますね。（笑）

道の駅「庄内みかわ」
いろり火の里
山形県
三川町

日本海を背に！“あつみ”

日本海沿いの国道7号線を新潟県との境界付近まで下ると
道の駅あつみ　があります。

道の駅は新潟との県境まで３．５ｋｍという距離です。

ここは山形県鶴岡市ですが、ここに開湯千年の歴史をもつ東北有数の温泉地 “温海温泉” があります。

弘法大師が温海に泊まった際、杖を打ちたてたら温泉が出た、等などと様々な伝説があるようですが、鎌倉時代後期には湯治場として宿屋も増え、温泉地として栄えていったのだそうです。

ユニークな形をしたログハウス風のこの建物、地元産の杉 「あつみ材」 の丸太をふんだんに使い、地元の大工さん達の手で建てられました。

そしてこの屋根の形は、２艘の船が日本海に漕ぎだす姿をモチーフにしているのだそうです。

右側の建物が物産館 「しゃりん」、左側の建物はレストラン 「早磯」 と名付けられています。

そう言えばこの道の駅の愛称も “夕陽のまち しゃりん” でしたね。

“しゃりん” というのは、町の花が “車輪梅（しゃりんばい）” であり、そこから付けられたものです。

（車輪梅）

物産館の中にも 「あつみ材」 がふんだんに使われていますね。
ログハウスのような温かみを感じます。

道の駅の全体はこの看板のようになっており、手前には “屋外バザール” があります。

この屋外バザールには生産者直売の生鮮野菜の他、海産物が並び、うどんそばコーナーもあります。

そして周りを囲む日本海に面し、道の駅の裏側には “磯部の散策路” が整備されていました。

ここで日本海に沈む夕陽を眺めれば最高だろうと思います。

'10
あつみかぶ
夕陽のあつみ
ふる里物産館
しゃりん
道の駅
あつみ

バンジージャンプ発祥の地！？“月山”

あつみの道の駅から今来た道を一旦引き返し、山形自動車道を一部通って
道の駅月山（がっさん）　へやってきました。

道の駅巡りをする場合、前もって内容を調べておいて予備知識をもって訪問すれば一番良いのですが、なかなかそこまでやりません。

ですから帰ってきてから、集めたパンフレットなどを見て“しまった！”と思うことが多いのですが、この“道の駅月山”がまさにその一つでした。

駐車場に到着すると、まず一方の端に “そば処” がありました。

ここは“古（いにしえ）の里　大梵字”といって、普通の食事処の他にそば打ち体験施設などがあります。

その昔、江戸から山形に蕎麦が伝えられたのは、山岳宗教のメッカである羽黒山、月山、湯殿山の出羽三山に全国から集まる修験者によるものだそうです。

そして駐車場のもう一方の端には、正面にトイレ、左奥に和風の大きな建物があります。

てっきりこの左奥の建物が道の駅だと思って行ってみると　・・・・・・・

何か様子が違います・・・・。

「“いのり”とか書いてあるし、何か宗教施設じゃないの？」ということで、中まで入らず退散しました。
あとで分かったのは、これは“文化創造館”といって、朝日村の芸術、文化を紹介する施設で、この時は“恐竜展”が催されていたのです。

でも、そんな風には見えなかったですね！

そしてあたりを見回すと、国道を挟んだ向かい側に大きな施設があり、どうやら道の駅はそちらにあるようです。

国道の、車が切れたタイミングで急いで渡ってみました。
でも、後から気がついたら、こんな標識が　・・・・・・　！

あっちゃ～！　ごめんなさい！(＞＜;)

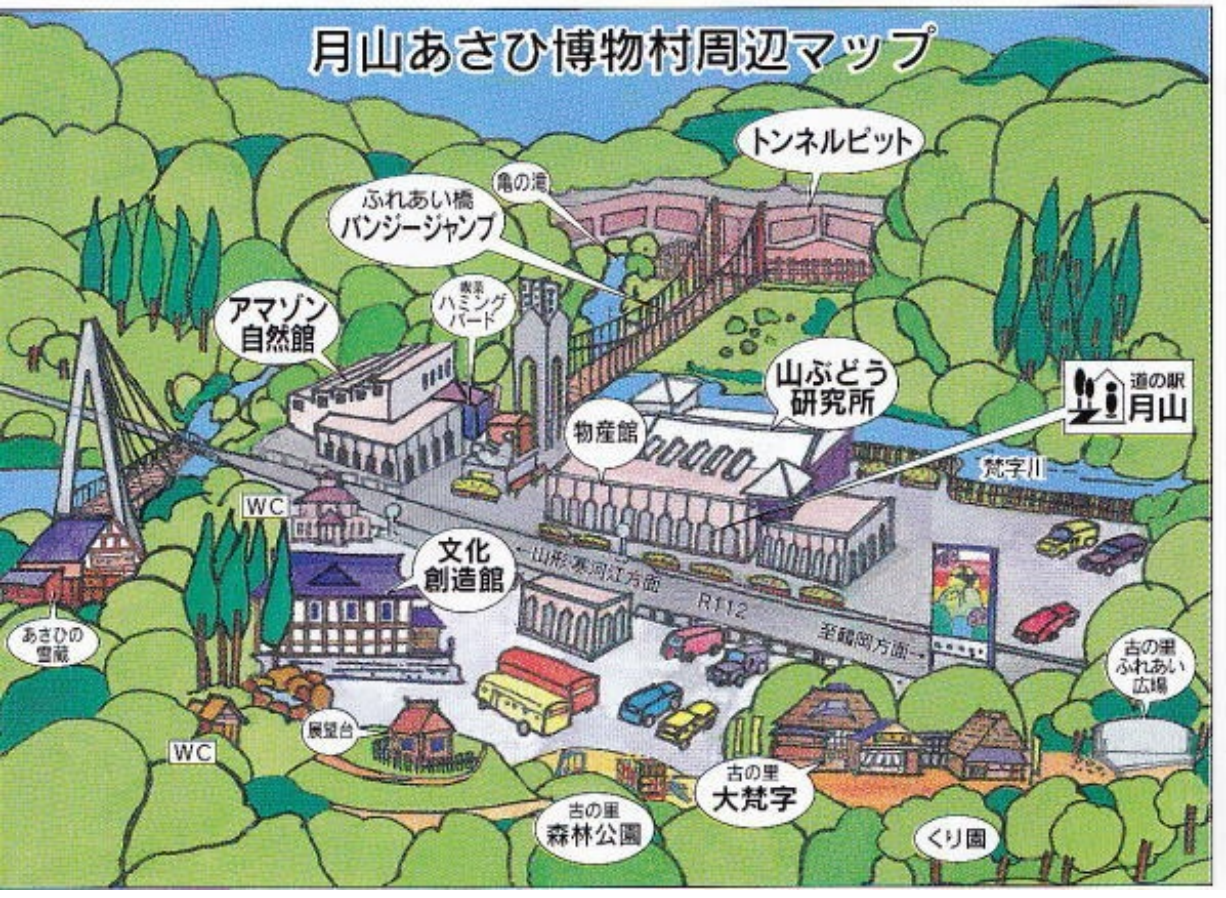
そして、この表示を見て一安心！

とりあえずスタンプは押したものの、施設がどのようになっているか、いま一つわかりません。

インフォメーションの奥 “ワイナリー” と書いてあります。

誰も人影が無いし、次へ急がないといけないので、全体像が良く分からないまま立ち去ってしまいました。

でも、その時に貰ってきたパンフレットを帰ってから見直してみると　・・・・・・　。



これがその “月山あさひ博物村” の全体像だったのです。

手前に、“古の里　大梵字” や 私たちが宗教施設と間違った “文化創造館” がありますね。

そして、国道を渡った道の駅には、“山ぶどう研究所” があり、“アマゾン自然館” があり、そしてその奥には “ふれあい橋バンジージャンプ” があるではないですか！

（パンフレットより）

このバンジージャンプ、常設のバンジージャンプ会場としては日本で初めてできたもので、“ブリッ

ジバンジー発祥の地” とも言われています。

朝日村の若者は、成人式の記念に飛ぶのだそうです。
この施設だけは見たかったな〜、と後悔しました。

“アマゾン自然館” では、生きたヘビを触って、一緒に写真を撮ることができるそうで、大のヘビ嫌いの嫁は、行かなくて良かった！と胸をなでおろしていました。

最終回！“にしかわ”

今回の旅の最終目的地

道の駅にしかわ　には、40分ほどで到着しました。

道の駅にしかわへの到着時刻が14時40分、仙台空港までここから1時間半程度で行けますから、リミットの17時には充分間に合いそうです。

まずはともあれスタンプをゲットします。

これで山形県の道の駅を全駅制覇！
そして、青森、秋田、山形の３県を制覇です。

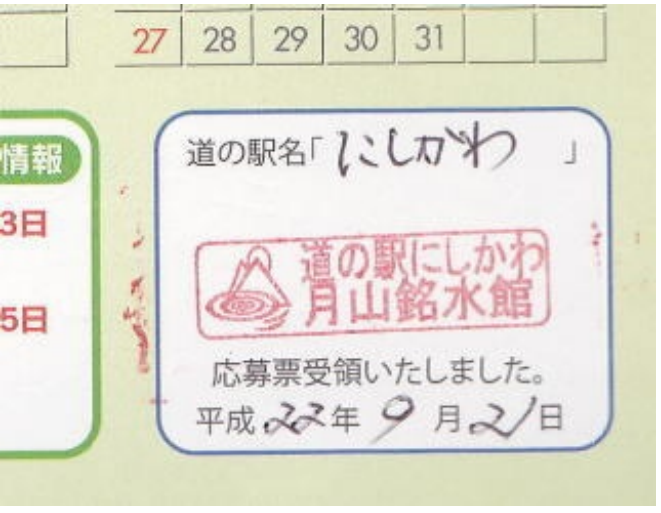
東北のスタンプラリーは厳密に期間が決まっており、今年度は４月２２日に始まって１２月６日までです。
この期間に東北６県のすべての道の駅を回ってしまわないと「完走証明書」は貰えません。

私のように遠方からチャレンジする者にとっては、余程の時間とお金が無い限り不可能なのですが、その代わりに「朝日ライン賞」「夕日ライン賞」というのがあります。

朝日ライン賞は岩手・宮城・福島の３県、夕日ライン賞は青森・秋田・山形の３県を制覇すればこれが貰えます。

ですから私は、今年は夕日ライン賞、来年は朝日ライン賞を狙うことにしていたものです。

ということで無事に「夕日ライン賞」を達成できたので、レジの女性の方に証明をお願いしました。
女性の方は慣れた手つきでスタンプを確認し、申請書の部分を切り取り、スタンプブックに受け取りの印鑑を押してくれました。



東北の場合、各賞の応募票は道の駅の方が「道の駅連絡会」に直接送ってくれ、このように受け取った証明だけしてくれるのです。

聞くところによると完走証明書は年明けにまとめて発送してくれるらしいですが、それは構わないと思います。

この道の駅、売り場も広くて商品も豊富です。
時間に少し余裕ができたおかげで、ここではいっぱい買い物をしました。

そして私が自分の為に買ったお土産はこれです！

月山の地ビールです！

といってもこれは偽物で、実はローソクなのです。

ここ “西川町” は周りを出羽三山などの山々に囲まれ、ブナ林と清流に恵まれた町です。

そして全国名水百選に選ばれた 「月山自然水」 があり、更にその自然水を使った 「地ビール月山」 の醸造がなされています。

その自然水工場や地ビール醸造所はこの道の駅と同じ敷地内にあり、レストランでは食事をしながらこの地ビール工場を眺めることができます。

そしてもう一つ、道の駅のすぐ隣にあるこの建物は、“水沢温泉館”という日帰り温泉です。
ここには月山自然水を使った“銘水風呂”があるのだそうです。

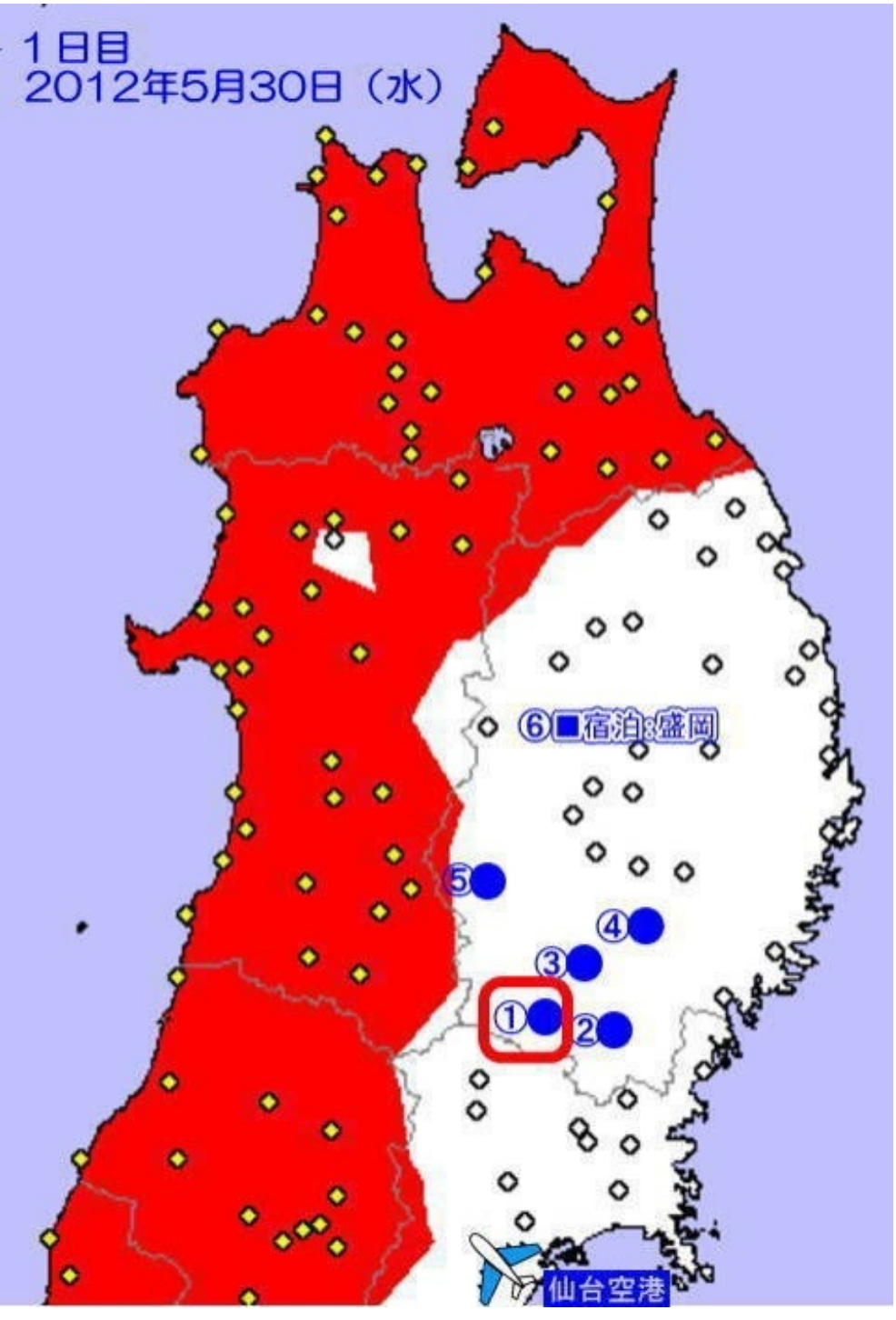
ここで３０分ほどゆっくりしたあと、仙台空港に向かいました。
高速を一気に走り、仙台空港到着が１６時５０分、予定の１０分前でした。

全走行距離６９１ｋｍ、距離は大したことは無いですが、ずっと時間に追われた２日間でした。
今年の東北の旅はこれで終わりです。
残りの岩手、宮城、福島の“朝日ライン”は来年５月以降に挑戦します。

名勝天然記念物！“厳美渓”

本日より、5/30（水）～6/3（日）の５日間で回ってきた東北地方のレポートを開始します。

岩手県の旅は、
道の駅厳美渓（げんびけい）　からスタートしました。



福岡空港を朝７時に離陸し、大阪伊丹空港で乗り継ぎ、仙台空港に到着したのが１０時４０分です。

仙台空港は昨年の３１１では浸水で孤立し、大変な状態になりましたね。
今は何事もなかったかのように、大勢の乗降客で賑わっています。

トヨタレンタリースで借りた今回の相棒はこれです。

“ヴィッツ”の新型車で、まだ１万４千キロ程しか走っていません。
新車ということはナビの情報も新しい訳で、前回のようにデータが違っていて苦労することも無いでしょう。
ラッキーです！(^-^)/

空港近くで高速に乗り、東北自動車道を一気に“一関ＩＣ”まで走ります。
１１４ｋｍを走って、１時間４０分で最初の目的地に到着しました。

“一関市” は岩手県の南の玄関口にあたりますが、今回訪問する “厳美渓” を始め、世界遺産の平泉にも近く、東北を代表する観光地の一つです。

ここからだと、“中尊寺” まで３０分弱、“毛越寺（もうつうじ）” へは２０分程度で行ける位置です。

東北にはここ “厳美渓（げんびけい）” と “猊鼻渓（げいびけい” という似たような名前の観光名所があって紛らわしいですね。
その “猊鼻渓” にも、ここから２１ｋｍほどで行けます。

正面に物産館とレストランがあります。

右手はトイレと休憩施設です。
全体はこのような配置になっています。

敷地の左半分が “博物館” なのです。

これが博物館ですが、道の駅と併設しているのも珍しいですね。

物産館の方に入ってみます。

ここでまず、２０１２年度の道の駅スタンプブックを購入します。
ついでに新しいロードマップも買いました。

東北のスタンプラリーは期限が厳しかったのですが、今年からは 「全駅完走コース」 については２年間有効になりました。

私の場合、１昨年に “夕日コース” で日本海側３県は回り終えているのですが、今回から “夕日・朝日コース” が廃止になったので、本当はスタンプブックは無意味なのです。

でもやはり、スタンプブックとデータ取り込み用メモ帳にスタンプは集めます。

物産館の隣はレストランです。

ここ一関は、“餅料理” が有名です。

ご覧のように “もちと湯の郷” がキャッチフレーズで、このように “臼” を並べたモニュメントがあります。

ここのレストランでも、“和風餅セット” が一番人気で、更に “もちバイキング” などのメニューもあります。

さて物産館のレジに戻って、厳美渓への道順を尋ねました。
ここから１ｋｍも離れていない場所にあって、クルマをここに停めて歩いて行ったが良いよ、とアドバイスを貰ったのですが、あまり時間の余裕も無いので車で行ってみました。

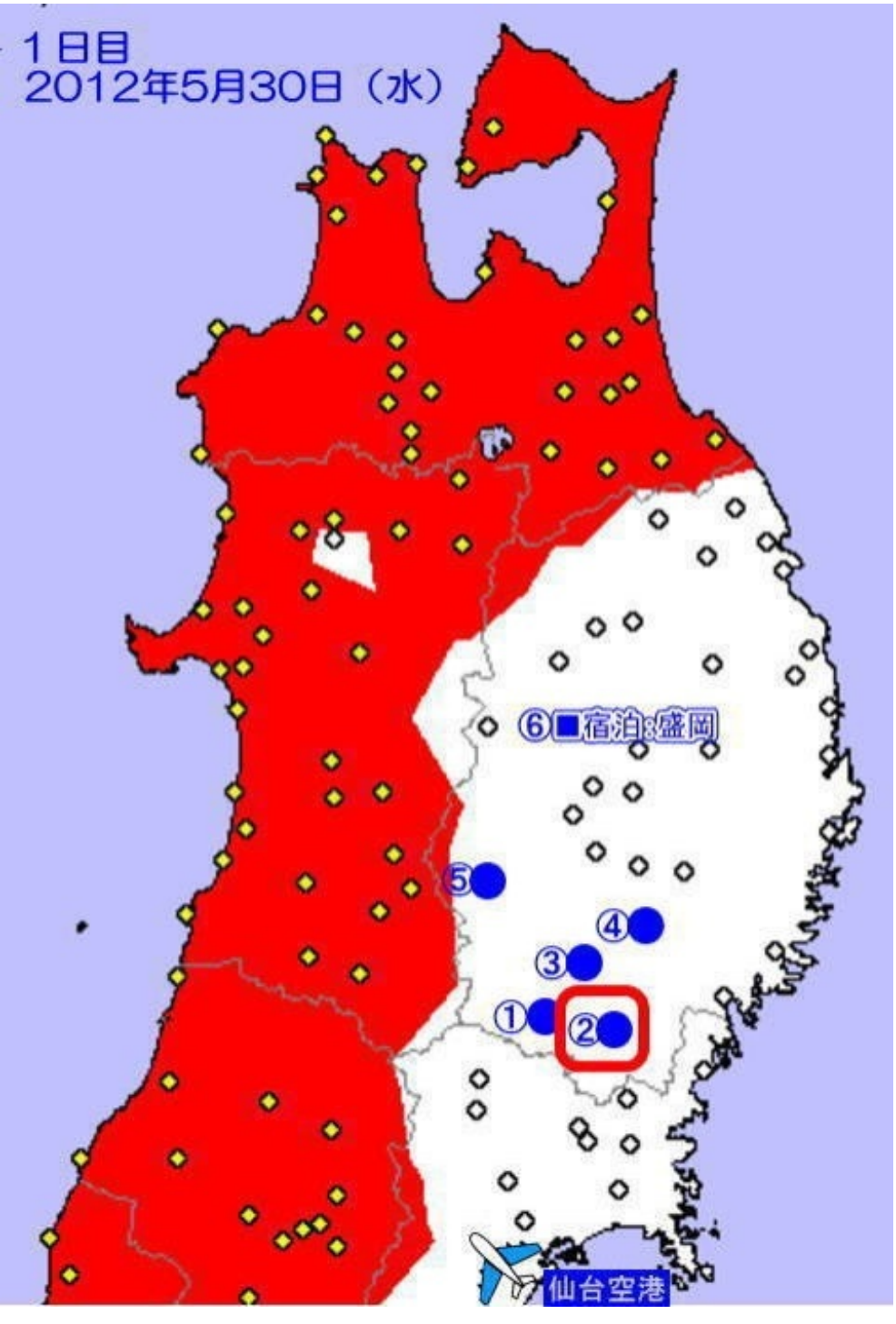
駐車場はいくつもあって呼び込みをしているのですが、停めたが最後何か買わないと出られなさそうです。
橋の上からちらっと見た後、道路に停車して嫁に写真を撮ってきて貰いました。

厳美渓は "空飛ぶだんご" で有名ですが、実は６～７年前に観光で来たことがあり、団子もその時に食べたのでわざわざ下りて行く程もない、と思ったからなのです。

でも写真を見ると、やっぱり駐車場に入れて見てくるべきだったかな、とちょっぴり後悔しています。

北上川と共存！“かわさき”

初日の２か所目に向かったのは
道の駅かわさき　です。



厳美渓からの距離は２５ｋｍ、４５分ほどの道のりです。
ここからだと、厳美渓に並ぶ景勝地 “猊鼻渓（げいびけい）” まで１５分ほどの距離です。

道の駅
かわさき
川の灯（あかり）
小型車

“一関市川崎町（旧川崎村）”は、北上川とその支流に囲まれた町です。

ご覧のようにこの道の駅も北上川にかかる北上大橋から２００ｍほどの位置にあります。
ですから北上川の氾濫による洪水に、川崎村は過去幾度となく見舞われました。

道の駅の敷地内にあったこのモニュメントは、過去被災した大水害の水位を表しています。

平成１４年でさえ、これだけの水位があったのです。
もっと最近では・・・・

堤防などが整備されたはずの平成１９年でもこれだけの洪水が発生しています。
北上川は人々に恩恵ももたらすけど、一旦暴れると甚大な被害が発生します。

自然とうまく共存してゆく方法を、人間は模索し続けることが大事ですね。

さて、道の駅の配置はご覧のとおりです。
最初に休憩所に入ってみました。

なかなかゆったりしていますが、道の駅スタンプはここには無いようです。
物産館である “ふれあいドンと館” の方へ行ってみます。

建物の前にはいくつもの露店が並んでいます。

ここが正面玄関のようなので入ってみます。

手づくりアイス
ポラーノ

いらっしゃいませ
厳美の手作りアイス
コーンor
カップ
取扱い中
各種300円
民芸・工芸品
漬け物・干物品
手づくりアイス
ポラーノ
JA助団員募集

入ってすぐの部屋に道の駅スタンプはありました。
ここは民芸品や手作りアイスの販売コーナーがあります。

更に奥に入って行くと、そこが農産物直売や食材などを販売している物産コーナーです。

ここでいくつかの買い物を済ませます。

この道の駅にはもうひとつ一番奥に “ふれあいほっと館” というのがありますが、ここは食堂のようです。

私たちの旅はほとんどの場合、食堂で昼食をとる時間は最初から計算に入れていません。
最後の道の駅の閉店時間にあわせて、ぎりぎりの予定を組むからです。

この日もここでおにぎりなどを買い、車の中で急いで食べて次へと出発しました。

北上川流域の小京都！“みずさわ”

次に向かったのは奥州市にある
道の駅みずさわ　です。

この道の駅も北上川にかかる橋を渡ったすぐ先にあり、河川敷にはバーベキューやゲートボールなどを楽しめる芝生広場があります。

“北上川” は岩手郡岩手町の “弓弭の泉（ゆはずのいずみ）” を源とし、盛岡市、花巻市、北上市、奥州市、一関市を通って宮城県に至る、東北最大、全国４番目の一級河川です。

全長は２４９ｋｍですが、宮城県登米市で旧北上川と新北上川に分かれます。
旧北上川が元々の流れですが、洪水防止のために明治４４年から２３年間の月日をかけて人工的に作られたのが新北上川です。

ここの所在地は “奥州市水沢区（旧水沢市）” です。

旧水沢市は水沢城址に市役所が建っており、その周辺に武家屋敷、ひば垣通り、商家の蔵などが並んで城下町の趣を残し、“みちのくの小京都” ともいわれます。

“みちのくの小京都” って、秋田県の角館もそうですから、いくつもあるのですね。

また、南部鉄器のふるさとでもあり、風鈴の生産量が全国第一位です。

道の駅はご覧のとおりごくシンプルです。

入口をはいるとすぐに階段があり、２階が食事処、１階が物産館です。

１階の売り場もあまり広くはなく、奥が休憩室になっています。
平日のこの時間、お客さんの姿はほとんどありませんでした。

こじんまりとした、特徴にやや乏しい道の駅だと思いました。

宮沢賢治が愛した高原！“種山ヶ原”

初日の４か所目は、気仙郡住田町に移動し
道の駅種山ヶ原（タネヤマガハラ）　へやってきました。

“種山ヶ原”は住田町、奥州市、遠野市にまたがる、標高６００ｍから８００ｍのなだらかな高原です。
一帯で最も標高の高い「物見山」（８７１ｍ）は内陸と三陸沿岸の気象の境になるために大気の流れを大きく変え、さまざまな自然を観察することができます。

伊達藩の時代には、伊達公の馬の放牧地だったともいわれています。

道の駅と国道を挟んだ反対側には“種山ヶ原森林公園”があります。

ここはご覧の通り、広大な敷地に散策路が縦横に作られ、森林浴や散策、そして四季折々の動植物を観察することができます。

“雨ニモマケズ、風ニモマケズ・・・・”で有名な宮沢賢治はこの近くの花巻の出身ですが、この種山ヶ原をこよなく愛し、幾度となくこの地を訪れています。

宮沢賢治は詩人であり、童話作家であり、教師であり、農業指導者であったのですが、３７歳で過労に倒れ、短い生涯を終えています。

彼はこの地の気象からヒントを得て「風の又三郎」を書き、この地でインスピレーションを得て「銀河鉄道の夜」を生み出したといわれています。

道の駅の敷地内に“宮沢賢治の詩碑”があり、彼の偉業を偲んでいます。

これが道の駅の全体図です。
国道３９７号から入ったすぐ右手には“峠の茶屋っこ すみた”があります。

でもこの日はシャッターが閉まっているようで、営業しているのかどうかわかりませんでした。

メインの建物が、この直売所である“ぽらん”です。
“ぽらん”とは、宮沢賢治の童話「ポラーノの広場」に出てくる広場の名前だそうです。

“ぽらん” に入ってみます。

お客さんの姿は少ないですが、平日だから仕方がないですね。
ここは広場で様々なイベントを行っていますから、そんな時は賑やかなのだろうと思います。

やはり商品も宮沢賢治に因んだものが多いですね。

最初に紹介した “種山ヶ原森林公園” に隣接して “種山ヶ原星座の森” があります。
星座の森にはコテージやオートキャンプ場などアウトドアのベースキャンプとしての設備が整えられています。

家族連れなどで星空を眺め、大自然を楽しむ為の恵まれた場所だと思います。

ダム湖百選！“錦秋湖”

初日の最後の目的地は
道の駅錦秋湖（きんしゅうこ）　です。

種山ヶ原から内陸部へ向かって６７ｋｍを走り、少しだけ高速を使って１時間５分で錦秋湖へやってきました。

“和賀郡西和賀町”は秋田県との県境に近く、国道１０７号をそのまま西へ進むと秋田県の横手市に至ります。

西和賀町は奥羽山脈の山岳地帯に広がる地域で、総面積の約８２％は山林です。
この錦秋湖も、いくつかのトンネルやスノーシェルター、スノージェッドを抜けた山あいにありました。

この地域は“湯田温泉峡県立自然公園”の中にあります。
錦秋湖はダム湖で、“ダム湖百選”にも選ばれています。

そして“錦秋湖”の名前の由来の通り、秋には錦のようなすばらしい紅葉が見られる場所でもあります。

この道の駅は国道１０７号からちょっとだけ高台に上がった場所にありますが、残念ながらここから錦秋湖は見えませんでした。

この付近、藤原三代の時代にはいくつかの金鉱があって、“黄金の道　秀衡街道”と呼ばれていた地域でもあります。

ここへの到着は１７時１５分、既に日が傾きかけています。
駐車場はかなりの広さがありますが、建物はこれ１棟だけです。

建物は少し古い感じがしますが、この道の駅の看板が味があります。

入口から玄関までのエントランスが長いのですが、ここは近隣の農家が農作物を持ち寄り、朝市などが開かれるようです。

上の簗に貼ってある張り紙は岩手弁でしょうが、なかなか良いものです。（^▽^)

店内は外見から想像したよりなかなか奇麗です。

我が家はここにある、ばっけみそを土産に買いました。
蕗をを混ぜ込んだ味噌のようです。

ここで気になるものを発見！

ビスケットのてんぷら！？？(@_@)
嫁がテレビで見たような気がするよ、と言うので、早速レジのおねえさんにたずねてみました。

おねえさんは申し訳なさそうに、「これは土日だけ売っているんですよ！」 とのこと！
無いと分かると余計に欲しくなりますね！
残念！

これで本日予定した５か所の道の駅は回り終えました。
これから一気に高速で盛岡まで走って宿泊します。

７９ｋｍを１時間１５分で走って、盛岡駅前の “ホテルメトロポリタン盛岡” にチェックインしました。

ホテルのすぐ目の前にある居酒屋で、初日の疲れを癒しました。

フルーツの里！“紫波”

２日目の朝になりました。

ＪＲ盛岡駅前のホテルを出発して最初に向かったのは
道の駅紫波（しわ）　です。

２日目の今日の行程は、岩手県のほぼ中央部をぐるっと９か所の道の駅を回って、最後は雫石に泊るルートです。

道の駅紫波へは１９ｋｍ、３５分で到着しました。

道の駅のサブネームが “フルーツの里” とあるように、紫波町の東部地区は県内有数の果樹生産地域で、リンゴ、ぶどう、洋梨などを出荷します。

“紫波町” という地名は、北上川の赤い大石が川波で紫色に染まった様子を４００年前に歌に詠まれたことが、名付けの由来なのだそうです。

ここはまた、かつて戦国武将たちが活躍した地域でもあり、源頼朝、坂上田村麻呂などが北方への対応の為の戦略拠点をここ紫波に築いています。

道の駅の全景です。
「ワイン直売」「ピザ体験」 などの文字が見えます。

配置としては中央に “産直センターあかさわ” があり、その左手に “レストラン果里ん亭（かりんてい）”、右手はトイレの建物です。

中央の “産直センターあかさわ” にまず入ってみました。

ここはいわゆる農産物直売所です。

さすがにフルーツの里らしく、ぶどうやりんごの品種の説明が貼ってありました。

ここには道の駅のスタンプなどは無かったので、隣の “レストラン果里ん亭” へ移動します。

レストランは１１時オープンなのでまだ閉まっていますが、売店へは入ることができます。

ありました、スタンプが・・・。

そして、道の駅登録証も！

ここは町のアンテナショップを兼ねており、特産のフルーツを使ったワインや、ジュースをはじめ、銘酒、菓子、民芸品などが並んでいます。
隣の産直センターは農産物主体でしたから、特産品はこちらのレストランの建物で販売されているようです。

盛岡からの距離も近く、都市と農村の調和した田園都市がここ紫波だと思います。

ダム湖の絶景！“はやちね”

２日目の２か所目は
道の駅はやちね　に向かいました。

紫波の道の駅から２５km、４５分ほどの山間部に “早池峰（はやちね）ダム” があります。
道の駅はそのダム湖のほとりにありました。

“早池峰” と書いて “はやちね” と読みますが、この道の駅は “国定公園早池峰” の玄関口に位置します。

北上山地の最高峰である “早池峰山（はやちねさん）” は標高１９１７ｍで、日本百名山の一つです。
山頂は花巻市、遠野市、宮古市の３つの市の境界になります。

早池峰山を構成する蛇紋岩地帯は固有種率が極めて高く、２００種以上の貴重な高山植物が自生し、その種類、量ともに国内有数であり、高山植物の宝庫といわれています。

周辺案内図を最初にお見せしましたが、平成１２年に完成した “早池峰ダム” によってせき止められた人造湖が “早池峰湖” です。

私たちはこの略図の左上 「大迫（おおはさま）」 方面からやってきたのですが、道路を挟んだ両側に建物があります。

この建物が “ベルンドルフプラッツ” といいます。

ワインの産地なので、このぶどうのオブジェが２か所にありました。

ついでにこんなものも！（笑）

“ベルンドルフプラッツ” という舌を噛みそうな名前ですが、ここ “花巻市大迫町（おおはさま）” はオーストリア “ベルンドルフ” と姉妹都市なのです。

“ベルンドルフプラッツ” とは “ベルンドルフ広場” という意味です。

中に入ると休憩所とトイレがあって、道の駅スタンプも登録証もここに置いてありました。

その奥に “プラッツ ＰＬＡＴＺ” と書いてありますが、人の気配はありません。

ちょうど掃除をされていたおばさんに、「ここは何があるんですか？」 と尋ねてみました。
「何にもないよ！」 即答でした。(^▽^;)

どうやらベルンドルフとの友好関係を紹介するパネルが並んでいるようです。
以前はオーストリア産のワインを１３０種類も貯蔵し、その試飲や購入ができたようですが、２００８年３月にそれは閉鎖されています。

道路を挟んだダム湖側に行ってみました。

こちらにあるのは、向かって右側が “山村文化交流館” 左側が “レストラン・ワインハウス湖畔” です。

これが “山村文化交流館” で・・・・・

こちらが “レストラン・ワインハウス湖畔” の玄関です。
いずれも朝早いのでまだ閉まっており、レストランの方は掃除をされている従業員の方の姿が見えました。

そして、その眼下には “早池峰湖” のすばらしい絶景がありました。

道の駅から坂道を湖畔に下りたところが “水と緑のふれあい公園” です。
ここから道の駅を見上げると、また違った風景がありました。

“レストラン・ワインハウス湖畔” は奥に広くて、このようなロッジ風に建っているのですね。
ここから食事をしながらの湖岸の風景はさぞ素晴らしいだろうと思います。

正面がレストランの玄関ですが、左にある高い塔は “友好の鐘” といいます。

高さが１５ｍあるこの塔は、オーストリア “ベルンドルフ市” との姉妹都市締結３０周年を記念して建てられたのだそうです。

ここは今回５日間で回った３５カ所の道の駅の中で、私が最も景色に感動した場所の一つです。
この小さな写真数枚だけで、どれだけお伝えできたか、ちょっと気になるところです。

酒好きにはたまらない！“石鳥谷”

来た道をしばらく戻り、進路を南にとって
道の駅石鳥谷（いしどりや）　へやってきました。

ここは “花巻市石鳥谷町” で、“石鳥谷” は “いしどりや” と読みます。
石鳥谷は日本三大杜氏の一つである、“南部杜氏” 発祥の地です。

“杜氏（とし）” というのは簡単に言うとお酒造りのエキスパートであり、総指揮官のことです。
日本三大杜氏とはここ石鳥谷の “南部杜氏”、新潟県の “越後杜氏”、兵庫県の “丹波杜氏” の３つをいいます。

お酒は冬場に仕込みますから、かつては雪に閉ざされて農業ができない間の出稼ぎとして各地に優秀な杜氏が散って行ったものです。
出稼ぎが必要無くなった現代では、杜氏の数自体が減少しているのだそうです。

道の駅の玄関口にこの高さ１２ｍのシンボルタワーがあります。
これは “酒箒（杉玉）” が飾ってあります。

“酒箒（さかぼうき）” とは、酒屋の看板として杉の葉を球状に束ねて軒先に吊るしたもので、酒造りのシンボルと言えるものです。

これはシンボルタワーと同じ敷地に建つ “道路案内所 兼 トイレ” です。
道の駅の本体は、ここからちょっと脇道を挟んだ奥にあります。

こちらが道の駅本体で、一番手前には酒蔵があり、これは “南部杜氏伝承館” です。

その隣にあるのが物産館 「酒匠館」 と食事処 「りんどう亭」 です。

全体の配置はこの様になっていて、駐車場を挟んだ向かい側には図書館と資料館があります。

こちらが “石鳥谷町立図書館” で・・・・・

これが “歴史民俗資料館” です。

いずれもでっかい建物ですね。
この付近、他にもアイスアリーナとか、パターゴルフとか色んな施設が集中しています。

さて、そろそろ中に入ってみましょう。

ここは“酒匠館（さかしょうかん）”という物産館です。
入ってすぐのところに道の駅スタンプや登録証はありました。

そして・・・・・・・

まさにお酒づくしです。

隠れ日本酒党である私としては、本当は買って帰りたいけど飛行機に持ち込むのは重いし・・・。（泣）

でもここにはお酒以外でもいろんなものがあります。
珍しい漬けものを土産に買いました。

それにしても日本酒の消費量が年々少なくなっているのは日本人として寂しいものです。
そういう私でも普段はやはりビールが主体で、あとは日本酒と焼酎が半々かな〜！

温泉施設が隣接！“とうわ”

東北自動車道花巻ジャンクションから分かれた “釜石自動車道” の “東和ＩＣ” そばに
道の駅とうわ はありました。

この釜石自動車道は “東北横断自動車道釜石秋田線” というのが正式な名前のようですが、まだ花巻ＪＣＴからこの東和ＩＣまでしか開通していません。

この道の駅もかなりの広さがあるので、どうなっているのか把握するのにちょっと時間がかかりました。

中央に広い駐車場があり、その正面が道の駅本体のようです。

これがそれですね。
そして、向かって右手にある大きな建物は “東和温泉” です。

西洋のお城のようなこの温泉、中には入っていませんがこのようになっています。

ホテルへの連絡通路がありますから、宿泊施設も隣接しているのでしょう。

そして正面に向かって左側は、いくつもの建物が並ぶ飲食コーナーのようです。

広場を囲んで４～５戸の建物が並んでいますが、道の駅に一番近いところが食事処で、その他はファーストフードや体験施設のような感じです。

“味処とうわ” という暖簾がかかっています。

さて、道の駅の本体に入ってみましょう。

中はトイレとちょっとした休憩場所はありますが、土産物とかの売り場としてはあまり大きくありません。

ちょうどボランティアらしいおばさん方が、知的障害者の方たちの作品を並べて展示販売の準備をされている最中でした。

店内にこの大きな凧が飾ってありました。
“毘沙門天と萬鉄五郎の里” と書いてありますね。

国指定重要文化財である “兜跋毘沙門天立像” がここから車で５分ほどのところにあるのだそうです。

“萬（よろず）鉄五郎” は、この東和町出身の前衛画家で、同じく車で５分ほどのところに “萬鉄五郎記念美術館” があります。。

ここは高速バスの乗り場にもなっており、インターチェンジのそばという立地の良さから、駐車場にはひっきりなしに車が入ってきていました。

恋人の聖地・めがね橋！“みやもり”

花巻市を離れて遠野市にはいり、
道の駅みやもり　へやってきました。

この道の駅のすぐ横にあって、“遠野市宮守町” の一番のシンボルといえばこちらです。

これはＪＲ釜石線の５連アーチ型鉄橋で正式には “宮守川橋梁” といい、高さ２０ｍ、全長１０７ｍです。
珍しい半円形のアーチ状橋脚の形から愛称は “めがね橋” と呼ばれ、毎年春・夏・冬にはライトアップもされます。

宮沢賢治の童話 「銀河鉄道の夜」 のモチーフになった橋といわれています。

めがね橋の見えるこの場所は、平成２１年４月に “恋人の聖地” の認定を受け、遠野の名所の一つになっています。

ご覧のように道の駅はめがね橋のすぐ上流にあるのです。

道の駅はショッピングモールと一緒になった横にとても長い建物です。
右端の入口から中に入ってみます。

入ってすぐのところは生鮮食品の売り場と、休憩所があります。
その休憩所に道の駅スタンプや登録証はあったのですが、その天井がこちらです。

天井に銀河鉄道が描かれていました。

その先に土産物のお店があり・・・・・・

更に奥はショッピングセンターです。
ここは道の駅とショッピングセンターが一体化した施設のようです。

土産物のお店には、こんな可愛らしい河童くんがいました。

そういえばここは “遠野市”
柳田國男がこの地の民話をもとに編纂した “遠野物語” では河童だとか、天狗だとか、座敷童子だとかが主人公でしたね。

で、次は座敷童子（ざしきわらし）ならぬ　・・・・・・

“座敷おやじ” のＴシャツが ・・・・・・・！（笑）

Ｔシャツといえば、どこの道の駅でも見かけるのがこれです。

これを見ると、東北は被災地なんだ、と感じます。

更に気になるものを発見！
ここ “宮守町” はワサビが特産で、東北一の生産量を誇ります。

ここに “ワサビソフトクリーム” があったので早速注文！
ついでに少しお腹がすいたのでタコ焼きを買って、食堂の中に入っていただきました。

このソフト、先がとんがっていないんだけど 「形が悪くてすみません！」 って渡してくれたからまあ許してやるか！

ほんのりワサビのぴりっとした味がしてなかなか旨かったです。

食堂で私たちの斜め前に座ってたお兄さんはお蕎麦を注文したけど、ちゃんと本物のワサビと小さなおろし金がついてきて、自分で摩り下ろしていました。

ここでは４０分ほど時間を費やしてしまいました。
まだまだ行程は残っているので先を急ぐことにします。

河童を捕まえる！？“遠野風の丘”

次も同じ遠野市ですが、２０分ほどで
道の駅遠野風の丘　に到着しました。

“遠野市綾織町” にあるこの道の駅は、“風の丘” の名前の通り風の強い、少し小高い場所にあります。
写真を撮り漏れましたが、風車が２基あって施設広場の消雪設備の電源を賄っているそうです。

分割して写真を載せましたが、ここもとってもでっかい施設です。
それに平日だというのにやたらとお客さんが多い！

平成１０年にオープンしたこの道の駅、年間１００万人以上の入館者があります。

このように店舗の前に苗木やお花が所狭しと並べてあると、なんだか活気を感じます。

道の駅の全体がこのような配置ですが、“遠野市情報交流センター” という部分がとにかく大きく、その中身はこのようになっています。

これが建物左端の、レストラン、だんご工房の方角です。
ここの入口を入ってみました。

ここはインフォメーション兼、無料休憩ホールになっています。

左手がレストランの入口ですが、その手前には時代劇にでてきそうな、遠野民芸家具が・・。

道の駅スタンプも道の駅登録証もここにあったのですが、登録証の横にこんなものもさげてありました。

実はこの感謝状、これまでにも何カ所かあったし、このあとも幾度となく見ることになります。

昨年の大震災で甚大な被害を受けた道の駅は東北３県で６か所あり、うち４か所は仮店舗などで営業を再開しましたが、残り２か所が未だに目処がたっていません。

その反面、震災の避難場所になったり、支援物資の供給基地として多大な貢献をした道の駅も少なくありません。

道の駅は全国的に現在、災害時の一時避難場所や復興のための支援基地としての機能に注目を集めるようになってきています。

道の駅の前にあったこの巨大なポスターが、私にはとても力強く感じました。

さて、話は戻りますが先程のインフォメーションのコーナーにこんなものがいました。

なんと、河童のキティちゃんではありませんか！

前回の記事でも触れましたが、この地方の民話や伝説をもとに編纂された “遠野物語” には、河童や天狗、座敷童子などが登場します。

ですから土産物にもこの河童に因んだものが多いのです。

河童饅頭に河童パイ、カッパタオル、くつした、小銭入れと様々ですね。

そして、この表示を発見！

“河童捕獲許可証” だって！？
早速買いに行きました。

許可番号が振ってあり、１年間有効です。
遠野市観光協会のお墨付きです。（笑）

この裏側には、カッパを捕える時の注意書きがあります。

これで大手を振って河童を捕えることができます。
そして私が捕獲してきたのはこれ！

両手に磁石がついているので、どこにでもピタッとくっつくのです。
でもまだ子供の河童のようだから、リリースしてやったがいいかな？（笑）

次の道の駅へ行く途中の道路工事現場でも！

やはり河童でした！（笑）

こだまが返る！“やまびこ館”

民話の里遠野を離れ、次は宮古市にある
道の駅やまびこ館　を目指します。

ここは距離が５７ｋｍと離れており、１時間１０分を要しました。
盛岡と宮古の中間地点にあたり、住所としては “宮古市川内” です。

宮古市と合併する前の “旧川井村” は５６３キロ平方ｍという全国で４番目の広さの村でしたが、厳しい自然環境の中で雇用も少なく、若者は他の町に流出し、年々過疎化が進んでいました。

村の産業を振興し、村おこしで活気を取り戻すために設立されたのが第３セクターの “社団法人 川井村産業開発公社” です。

この “道の駅やまびこ館”、並びに次に行く予定の “道の駅区界高原” もこの開発公社が運営しています。

ここはご覧の通り緑豊かな山々に囲まれていますから、「Ｙａ-Ｈｏ（ヤッホー）」 と呼べばこだまが返ってくるロケーションにあります。

そこでこの施設は “やまびこ産直館” として発足し、平成１１年に道の駅も “やまびこ館” と名付けられました。

周辺には広い芝生広場があります。
こんなマスコットも！

配置図がここには見当たらなかったのですが、“もうもう亭” というレストランと、直売所である “やまびこ産直館” の二つからなっています。

産直館にはやはり“Ｙａ-Ｈｏ”の文字が見えますね。

この日は個性的な道の駅が続いたせいでしょうか、私にはちょっと印象の薄い感じがしました。

標高７００ｍの癒しの地！“区界高原”

国道１０６号を盛岡方面に２５ｋｍ走って
道の駅区界高原（くざかいこうげん）　にやってきました。

ここもやまびこ館と同じく “(社) 川井村産業開発公社” が運営しています。

宮古市のもっとも西のはずれであり、逆に盛岡方面から来た場合は、“区界トンネル” を抜けるとすぐそこが宮古市で、最初にこの道の駅があるのです。

区界高原（くざかいこうげん）は標高７００ｍ、盛岡市と宮古市の境にある広大な高原地帯です。
高原のシンボルは標高１００５ｍの “兜明神岳（かぶとみょうじんだけ）” で、山頂は岩山で覆われており、その裾野に白樺林と草原が広がっています。

この一帯、県の自然環境保全地域に指定された、貴重な動植物の宝庫でもあります。

この道の駅、その建物は黄色と白を基調としており、その姿がとても美しいのです。

一番左端にあるのが “ビーフビレッジ区界” というレストランです。

ビーフビレッジの名前の通り、肉汁のはじける和風ステーキを始め、特産の黒豆を使った料理や、醤油味の辛い 「ダールラーメン」 などが評判です。

その隣にあるのが物産館と休憩所です。

右端にトイレがありますが、これもなかなかお洒落ですね。

中に入ってみましょう。

ここも震災で大きな被害のあった宮古市ですから、震災関連のコーナーもありました。

旅の後半の２日間は太平洋沿岸の被災地を回りますから、その時に買おう、ということにして、ここでは見るだけにしました。

さて、次はこの日の最後の道の駅“雫石”に向かいますが、距離にして５３ｋｍあります。
道の駅を出てしばらく走ったところで、反対車線にネズミ捕りを発見！

パッシングで何台か助けてあげましたが、この日の最後のホテルに向かう道で、今度は私自身が危うく難を逃れることになります。(;^_^A ｼﾞｶｲﾆｸﾜｼｸ！

ついでに余談をもう一つ！(^▽^;)

雫石へは盛岡市内を抜けて行くので、そろそろガソリンを補充しておくことにしました。
盛岡市内はこの当時１４１円が平均で、たまに１３９円のところがあります。

１３９円のＧＳを探したのだけど見つからず、仕方が無いのでたまたま目についた１４１円のセルフに入りました。
機械には「イオンカード１３８円」の張り紙があります。

私がもたついているのを見てか、店員が近付いて来ました。
「イオンカードはお持ちですか？」
いや、現金です、と答えると・・・・
「ここでカードを作られませんか？１０円安くなりますよ！」

レンタカーだし、普段旅先で応じることは絶対無いのですが、“１０円安くなる！”の言葉に敏感に反応してしまいました。
でも遠方から来てるから・・・・というと、
「いや、全国使えるから構いませんよ！年会費も無料だし、免許証を見せて貰うだけで作れます。最初の５０リッターまでは１０円割引なんです。」

免許証の九州の住所にちょっと驚かれたようですが、結局その場で仮カードを作り、何やら暗証番号で３円値引いて貰って１３５円、これから１０円の割引きで、何とリッター１２５円で満タンすることができました。

更にカード作成のお礼とかでティッシュ（５箱×２セット）を貰ったけど、さすがにこれは持って帰れないのでレンタカー会社に差し上げました。

つい先日、このカードが届いたので、これから旅先ではこれを使うことにします。(^▽^)

放浪のおじさんと出会う！“雫石あねっこ”

２日目の最終目的地は
道の駅雫石あねっこ　です。

盛岡市内の渋滞や途中の給油などもあって、ここへは１時間２０分ほどかかりました。

“雫石（しずくいし）” は秋田県との県境に近いのですが、かつて世界アルペンも開催された“雫石スキー場” や 日本最大規模の民間農場である “小岩井農場” などで有名ですね。

雫石は京美人の系統を汲む美人の里として知られており、この地方では美しく賢い娘を “あねっこ” と呼びます。
“雫石あねっこ” はそこから名付けられています。

道の駅の建物は雫石の風土資産や伝統に基づいてデザインされているそうで、各施設が回廊で繋がっています。

全体の配置はこのようになっていますが、もう少し分かり易い略図をホームページからお借りしてきました。

（道の駅雫石ＨＰより借用）

なるほど、この方が見易いですね。

まず向かって一番左にあるのが温泉保養施設 “橋場温泉 はしばの湯” ですが 「雫石町地域交流拠点施設」 という堅苦しい名前がついています。

温泉はどろ～っとしたうぐいす色のアルカリ泉で、肌がしっとり、つるつるになるそうで、これが美人の里を産んだ理由ではないかと言われています。

その隣、つまりまん中が 「雫石町綜合交流ターミナル」 で、ここは “お食事処あねっこ茶屋” や、“産直しずくいし” “物産しずくいし” などが入っています。

この時間、１７時半を過ぎています。
１８時閉店なのでもう片付けの準備をされているようでした。

そして、一番右端が２４時間オープンの 「道路休憩所」 です。

この休憩所にスタンプもあって、ちょうど高速道路のパーキングのように紙コップで熱いお茶が飲めるようになっています。
お茶をすすりながら少しゆっくりしていると、居合わせた６０代後半かな、と思えるおじさんが話しかけてきました。

最初は地元の方だと思って話していたのですが、住まいは福島県の郡山とのこと。

震災は大丈夫でしたか？、と尋ねたところ・・・・・
　あっさりと 「全壊だよ！」 と一言！(￣□￣;)!!
内陸だから津浪の被害はなかったそうですが、地震で母屋の一部を残して潰れたのだそうです。

　「俺はあのキャンピングカーでいつも遊んで回っているから、その時は九州にいたんだ」
　「サウナでテレビ見てたら岩手が津浪って言うだろ！その次に宮城が出て、福島まで大災害だって言うんで、慌てて家に電話したんだ！」

おじさんが指さした先にはそのキャンピングカーが停まっていました。

結局２４時間電話は通じず、家族からメールで潰れた家の写真が送ってきたのだそうです。

　「数日後に電話連絡が取れたら、こちらはガソリンも無いし、原発で大騒ぎになっているからしばらく帰って来るな、って言うんだよ！」

話し好きの実に面白いおじさんで、これから更に北上して北海道に渡るから、今度家に戻るのは９月くらいかな～なんて、とても自宅が全壊したとは思えない呑気な話をされていました。

さて１８時前になったので話を打ち切り、ホテルへ向かいました。
今夜の宿泊先は雫石スキー場や雫石ゴルフ場のある、“雫石プリンスホテル” です。

道の駅をでてすぐの直線道路で、かなり先の道路脇に停車している車に違和感を感じ、反射的にブレーキを踏みました。
私はいつも、自分の車のレーダー探知機を旅先にも持参してレンタカーに取り付けています。

その停車している車の横をすり抜ける瞬間、ステルスの警告がけたたましく鳴り響きました。
パトカーのステルスはレーダー探知機が反応した時はもう手遅れなので、速度を落としていなければ危なかったかもしれません。

雫石プリンスホテルは名門だけあって、建物や施設は立派です。
でも、ここではソフトバンクのモバイルルーターは電波が届かす、ホテルにもネット環境が無くてブログのチェッ

クができませんでした。

スキーシーズンなどは黙っていてもお客が来るからでしょうか、あるいは名門の驕りでしょうか、今まで泊ったいろんなホテルに較べると、対応や気配りの細かな点にちょっと不満が残りました。

ひとときの観光！“小岩井農場”

３日目になりました。そして今日から６月です。

今日の予定は道の駅８か所ですが、少しばかり時間に余裕がありそうなので
小岩井農場　の観光に、まず行ってみることにしました。

宿泊している “雫石プリンスホテル” からは距離にして１０ｋｍ、わずか１５分で行けます。

プリンスホテルと小岩井農場、それに昨日行った雫石あねっこの位置関係はこの通りです。

ここは９時のオープンなのですが、いつもと同じ時間にホテルを出たので８時２５分には到着してしまいました。
広い駐車場には、私たちの車を含めまだ数台しか停まっていません。

まだどこも閉まっていて従業員さんたちだけが出入りしているので、少し周辺を散策することにしました。

車を置いて少し戻ると “上丸牛舎” があります。

樹の間から覗きこむと、たくさんの乳牛がのんびりと寝そべったり、優雅に草を食んだりしていました。

“小岩井農場” は１８９１年（明治２４年）の創業で、日本最大規模の民間農場です。

創業者は、“小野義眞”（日本鉄道会社副社長）、“岩崎彌之助”（三菱社社長）、“井上勝”（鉄道庁長官）の３名で、
その頭文字をとって “小岩井” と名付けられました。

火山灰土の不毛の原野だったところを土壌を改良し、１本１本樹を植えるところから始め、今では総面積がＪＲ山手線内側の約半分の広さにまで拡大し、牛だけでも２０００頭を育てています。

その広大な小岩井農場の中で私たち観光客が立ち入るのは “まきば園” と呼ばれる場所です。

これがそのまきば園ですが、小さくて分かりませんね。

さて、９時を過ぎ、大勢のお客がやってきました。
この日は、大半が小学生、幼稚園児、そして中学生らしい団体が次々に大型バスで到着します。

先程がらんとしていた入口も賑やかになってきました。

入場券を買ってゲートを入ると正面は広々とした芝生になっていて、その周りに建物などの施設があります。

まずは広場の周囲をぐるっと１周したのでその写真をご覧ください。

正面に見えるのが “岩手山”（２０３８ｍ）です。

この建物は “山麓館” というレストラン・売店なのですが、まだ閉まっていました。

この付近は、“ウール工房” “バーベキューレストラン” “ミルク館” といった施設が並んでいます。

草原には牧場でおなじみの “干し草ロール” がありますが、子供たちが自由に落書きができるようになっていました。

これは昔の農機具でしょうね。
１世紀以上前からこんなものが活躍していたことになります。

奥に見える建物が “小岩井農場資料館” で、左手の菜の花畑は “迷路” が作られています。

更に進むと “あそびの広場” です。

特に気になったのが “アルマジロボール” （左側） と “水上ハムスター”（右側） です。

誰か乗ったところを写真に撮りたいな～としばらく待ってましたが誰も来ず！
自分で乗る勇気は無いのです。（汗）

広場では先生の号令で、小学生が一気に駆けています。

とりあえず１周して入口付近に戻ってきました。

お客さんは更に増えていました。

入口付近にある “ジェラートショップ” でソフトクリームを買って、中学生の団体に交じっていただきました。
ミルクの味が濃厚で、さすが本場の味だな、と感心しました。

１０時になったので、つかの間の観光を終了し、今日の最初の道の駅へ向かうことにします。

岩手山の恵み！“にしね”

小岩井農場を出て、３日目最初の道の駅
道の駅にしね　にやってきました。

ここは東北自動車道 “西根ＩＣ” のすぐそばにありますが、今回は小岩井農場から一般道を２５分ほど走ってやってきました。

ここは “岩手県八幡平（はちまんたい）市” で、“十和田八幡平国立公園” の南側の玄関口にあたります。
少し走ると “岩手山パノラマライン” があり、その先は “八幡平樹海ライン” あるいは “八幡平アスピーテライン” に繋がります。

更にオールシーズンリゾートとして全国的に名高い “安比高原” にも近いという、実に恵まれた立地条件にあります。

道の駅の駐車場からも、目の前に岩手山（標高２０３８ｍ）が聳えているのです。
岩手山山麓の広大な高原は牧畜に適しており、放牧地や採草地として豊かな恵みを受けています。

道の駅の建物は大きく二つ、右がレストラン、左が生産物直売所です。

道の駅の裏の山腹には “にしね” という文字がありますが、見えますか？

道の駅の全体はこのようになっていますが、駐車場もあんまり広くは無く、比較的シンプルです。

では、道の駅の中に入ってみます。

“にしね” という名前は、旧地名の “西根町” からきています。

岩手山の山麓には “岩手山焼走り溶岩流” という場所があって、今から約２８０年前の大噴火の際に流れ出た溶岩流が全長４ｋｍ、最大幅１．５ｋｍに渡って固まっています。

その溶岩プレートを加工した置物が、特産物として販売されていました。

なかなか可愛いものですね。

あまり特筆する項目が無かったのですが、高速インターに近いことと、岩手山、八幡平、安比高原などいくつもの観光地の起点になることが最大の強みとなる道の駅でした。

屋外彫刻美術館！“石神の丘”

次に向かったのは北緯４０度に位置する
道の駅石神の丘　です。

ここの住所は “岩手県岩手郡岩手町” まさに岩手の中の岩手です。

道の駅から車で１５分の位置には、北上川の源泉である “弓弭(ゆはず)の泉” があります。
これは御堂観音堂の境内にありますが、源義家が弓弭(ゆはず)を持って岩にさしたところ清水がこんこんと湧き出たという伝説があります。

弓弭(ゆはず)とは弓の両端の、弦の輪をかける部分のことを言います。
北上川は日本５大河川の一つとして、この地を起点に２４９ｋｍを流れて太平洋に注ぐのです。

この道の駅、少し複雑な形をしているので先に配置図を見た方が分かり易いかもしれません。

イベント広場を中心に “コ” の字型に建物が囲んでいます。
ぐるっと左手から順番に見てみましょう。

左の丸い部分は “道路情報休憩施設” の一部ですね。

まず左手にあるのが “産直・物産コーナー” で、表にはテントもあります。

イベント広場の正面は “レストラン” です。

右手には加工施設と “茶屋っこ” というファーストフードですね。

今紹介したのは、このイベント広場を囲んだ部分だけです。

まず物産コーナーに入ってみます。

天井からたくさん下がった幟がすごく目立ちます。
この中にもありますが、ちょっと気になった幟が・・・・・。

“キャベ酎” ・・・・・？？？
店内を探すと　・・・・・　ありました。

キャベツを原料にした幻の焼酎だそうで・・・・・。

岩手町はこの “春みどり” という品種のキャベツを始め、高原野菜が特産です。
同じキャベツを使ったこの漬物も気になりました。

キャベツを半分に切ってそのまま漬けてあるのです。
すごく旨そうだったんだけど、ちょっと持って帰るには　・・・　と断念！

イベント広場の奥のコーナーにこの看板がありました。
最初の配置図にもあったように、イベント広場の奥のところに “石神の丘美術館” があるのです。

普通の美術館かと思って行ってみると、ちょっと様子が違います。

ご覧のように美術館の建物はあります。
でも本当の美術館は、この建物を通って更に裏手の屋外にあるのです。

“石神の丘美術館” は野外彫刻美術館として１９９３年７月に開館し、更に２００２年７月には道の駅のオープンにあわせてリニューアルしています。

元々は、国内外の優れた彫刻家を招き、岩手町産の黒御影石を主材とした彫刻作品の公開制作を行う“岩手町国際石彫シンポジウム” がそのスタートなんだそうです。

敷地面積約１６万平方メートルという屋外美術館としては日本有数の広さを持ち、２万株のラベンダーなど四季折々の自然の中に溶け込む彫刻作品を観賞することができます。

そしてこの地は、２００８年 “恋人の聖地” にも認定されました。

最後に航空写真を載せましたが、なかなか個性的で魅力的なな道の駅でした。

ミルクとワインの町！“くずまき高原”

次は１４ｋｍの近い距離を走って
道の駅くずまき高原　にやってきました。

石神の丘からほぼ真東に走ってきたので、ここも北緯４０度です。
“岩手郡葛巻町” は “東北一の酪農郷” と称されるほど酪農の盛んな町です。

道の駅から５分の距離に “くずまき高原牧場” がありますが、ここは公共牧場としては日本一と言われます。
子牛や羊の世話やふれあい、シイタケ栽培、羊の毛刈りなどの体験学習があり、宿泊施設も整っています。

道の駅はその高原にあり、広い駐車場をもっています。

右手が入口ですから、手前にあるのが休憩施設とトイレの建物です。

そして左手、奥にあるのが “産直ハウス　ぽすなある” です。

“ぽすなある” というのは、土地の言葉で
　①欲しいものがある
　②干し菜がある
　③（産直の）星になる
という３つの意味があるそうです。

ちょっと欲張りなネーミングですね。（笑）

中に入ってみると、建物の右手が産直コーナー、一番左がレストラン、そして中央がインフォメーションになっています。

中央のインフォメーションには “ワイン” のコーナーがありました。
葛巻はワインの産地としても有名なのです。

「山ぶどうで町おこし」 を合言葉に始まった葛巻のワイン作りですが、“ドイツ・バードデュルクハイム市”との交流を通じてより品質を高め、今では国産ワインコンクールで数々の賞を受賞するまでになっています。

この道の駅への往復の道沿いでもブドウ園がたくさん見られました。
山ぶどうは日本古来の品種で、そのまま食べると野性的な甘酸っぱさがあるそうですが、ワイン作りには最高なのだそうです。

豊かな自然、そして酪農とワインという特産で経済的にも潤った、自然との共有に成功した町だと言えると思います。

岩手県の中の山形？“白樺の里やまがた”

次にやってきたのは久慈市にある
道の駅白樺の里やまがた　です。

ここは “岩手県久慈市山形町” です。
岩手県の中に “山形” があるというのは何とも紛らわしいですね。

久慈市に合併する前の “旧山形村” というのは、北上山地の北端部に位置し、山林原野が９５％の面積を占める、人口３５００人の村でした。

これはその山形村を紹介するパンフレットの表紙ですが、このトップの写真、まさに日本の山村の原風景を表していますね。

このふるさとの原風景を求めてやってくる人たちの為に、林業体験、炭焼き、わら細工、木皮工芸など数十種類もの体験プログラムが用意されています。

更に、トレッキング、シャワークライミング、カヌー、カヤック、洞窟探検、スターウオッチングといった本格的なアウトドアを楽しむこともできます。

道の駅の建物は、この “山形村ふるさと物産センター ガタゴンサライ” がメインで、その裏側に小さなソフトクリームの売店があるだけです。

道の駅の裏側には “久慈川” が流れています。

この “ガタゴンサライ” という名前ですが、この山形村で珍獣 “ガタゴン” の足跡が発見されたことに由来します。

この “ガタゴン” というのは実は、正体不明の未確認動物です。
その足跡は縦約22cm、横幅約15cmの大きさで、数cmの指4本とその正反対の向きに1本の指があり、山形村に生息するどの動物とも一致しないのだそうです。

道の駅の入口にあるこの巨大な卵、これが “ガタゴン” の卵だというのですが果たして・・・（笑）

では、中に入ってみましょう。

玄関を入った正面には階段があり、そこに民芸品が展示されています。

そこから左手に進むと売店があり　・・・・・

逆に右手はレストランになっていました。

ところでこの道の駅、“白樺の里”という名前でしたね。
てっきり、美しい白樺林に囲まれた場所にあるかと思っていましたが、道の駅の周りを見回しても数本の白樺が見えるだけです。

実は山形村には、ここから少し盛岡側に戻ったところに“平庭高原（ひらにわこうげん）”というリゾート地があります。

平庭高原は標高８００ｍ、県立自然公園に指定され、冬場のスキー、春はカタクリなどの湿原植物、初夏のつつじ、秋の紅葉と四季を通して楽しむことができます。

この平庭高原に３０万本もの白樺林があり、これは日本一の規模と言われています。

道の駅自体にはあんまり特徴が無いな、という印象を受けましたが、周辺は大自然を満喫できる観光資源に恵まれているようです。

オドデ様が守り神！“おりつめ”

次は青森県との県境に近い
道の駅おりつめ　にやってきました。

ここの所在地は岩手県の “九戸郡九戸村（くのへむら）” になります。

岩手県北部と青森県南東部にかけて、一戸、二戸、三戸、五戸、六戸、七戸、八戸、九戸という地名があります。
これはむかしの “九戸・四門の制” という行政区分の名残なんですが、何故か四戸だけは別の地名に変わっています。

現在の都道府県では、このうち一戸、二戸、そしてここ九戸の３つが岩手県で、残りが青森県です。

駐車場から見ると、手前（左）に “休憩室・トイレ” があり、その奥（右）に “産直施設オトデ館” があります。

これが産直施設の正面入り口です。
その正面に何やら小さな祠みたいなものがあります。

更に拡大してみると　・・・・・

この産直施設 “オドデ館” の名前の基となったのが、この “オドデ様” です。
フクロウの顔を持ち、下半身は人間のように見えます。

このオドデ様は、九戸の民話に出てくる謎の生き物で、人間の心の中をすべて読むことができ、未来を正確に予測します。

その力を利用して金儲けをたくらんだ名主に愛想を尽かして山に帰ってゆくというストーリーのようです。

この道の駅の名前が “おりつめ” なのは、県立自然公園 “折爪岳” の麓にあるからです。
“折爪岳” は標高が８５２ｍ、独立した地形なので県北部随一の眺望が楽しめます。

車で行けば、この道の駅から１５分で山頂に着くのだそうです。

さて、この道の駅ではお弁当を買って、休憩所で遅い昼食を済ませました。
本日の残りは、いよいよあと３か所になりました。

一人一芸の村！“おおの”

次は３０分ほど走って
道の駅おおの　へやってきました。

ここ “旧大野村” （現：九戸郡洋野町大野） は九戸高原の中心部に位置する、人口約７０００人の酪農と木工の村です。

１９８０年に村おこしの一環として “一人一芸の村構想” がスタートし、これにより大野木工や各種乳製品が大野村の特産として生まれてきました。

その一人一芸の村作りの中核施設としてできたのが、この道の駅を含む “おおのキャンパス” なのです。

この広い敷地の中に “産業デザインセンター” や “体験工房” などの施設があり、工芸品作りの研究、研修、後継者育成などを行っています。

更に周囲には３００ｈａもの広大な牧場があり、さまざまなレクレーションも楽しむことができるようになっています。

私たちはうっかり一番手前の道から入ってしまったので、道の駅がどこにあるのかしばらく探し回りました。

これは地図の中央付近、“グリーンヒルおおの” で、宿泊施設、温泉、レストランなどがあります。

これは “商工会館” の建物らしいですが、随分立派です。

これは “体験工房” で、長屋のようにいくつもの建物が並んでいます。

体験工房を内側から見たのがこれですが、織工房 を始め、陶芸工房、ガラス工房、園芸工房といったいろんな体験

に申し込むことができるようです。

さて、肝心の道の駅ですが、最初の地図でいうと右下の角っこにありました。
その部分を拡大すると、このような配置になっています。

長い長い回廊があって、その後ろに左から “若者センター” “食の館” “農産物直売所ゆうきセンター”の建物があります。

階段を上ったこの長い回廊、この日は何にもあっていませんが、週末やイベントのある日には地元で採れた農作物や手作り菓子、木工品などがずらりと並んで賑やかに市が開かれます。

中央の “食の館” へ行ってみました。

ご覧の通り “スタンプ設置場所” の貼り紙がありますね。

要するにここはレストランですが、「一芸ラーメン」 だとか、「赤鶏ラーメン」 などのメニューが目につきました。

その右隣の “ゆうきセンター（農産物直売所）” は、この２つの建物です。

この “ゆうき” は有機野菜の “有機” と、何にでも挑戦する “勇気” から名づけられており、“ユーキの里づくり運動” の拠点になっています。

手前の建物はソフトクリームなどのファーストフードと、漬け物などのお土産を売っていました。

もう一つの建物が農産物専用の直売所で、これは体験工房側の道から撮った写真です。

この日はちょっとお客さんの数が少なくて寂しい気もしましたが、職人の技と心をきちんと次世代に伝えてゆく試みは素晴らしいと思います。

いよいよ被災地へ！“くじ”

これまで東北地方内陸部をずっと回ってきましたが、ここで初めて太平洋側に出て
道の駅くじ　へやってきました。

今回の旅の目的の一つに、東日本大震災の被災地を自分の目で見たい、というのがありました。

ボランティアで来た訳ではない、来たからと言ってなんの支援もできない、という後ろめたさが心の底にはあるのですが、テレビの画面を通じてではなく、実際にそこに立ってみれば何か感じるものは違うだろうと思ったからです。

この “久慈市” は他の地区に較べればまだ被害は少なかったのかもしれませんが、それでもお亡くなりになった方と行方不明者があわせて６名、建物全壊３２４棟、半壊・一部損壊７２５棟、船舶被害５７５隻といった甚大な被害を受けています。

“道の駅くじ” は久慈市の市街地にあり、岩手県で３０番目、最も新しい道の駅です。

「やませ土風館」 と名付けられたこの施設は、観光交流センターである “風の館” と 物産館等の “土の館” の二つで構成されています。

土の館の２階には、あとで紹介する “昭和の博物館 レトロ館” があります。
そして道の駅と道路を挟んだ向かい側には、こんな路地がありました。

“歴通路広場” と書いて “レトロ広場” と読み、懐かしい風情のお店が６軒並んでいます。
ここでは定期的にいろんなイベントが催されているようです。

近くには実際の “昭和のレトロ通り” が残っています。

道の駅の配置はご覧の通りで、“歴通路広場” もちゃんと書いてありますね。

“土の館” から中に入ってみました。

ここは新しいこともあって、なかなか奇麗な店舗です。

この看板、“がんばろう東北！” の一環で、久慈市の観光地を巡ってスタンプを集めようという企画です。

この女の子、“海女” の格好をしていますね。
久慈市のキャッチフレーズは “白樺ゆれる　琥珀の大地　海女の国” というものです。

白樺は以前にも紹介した “平庭高原” で、琥珀は “久慈琥珀” の工芸品が有名、そして海女は、“北限の海女” と称される日本最北の海女なのです。

インフォメーションの裏に階段があり、２階に上がってみました。

２階からの眺めもなかなか良いものです。

２階は “昭和の博物館 レトロ館” になっているので、正面と左側面には古い時代のでっかいパネルが展示されています。

これがレトロ館の入口ですが、ここからは有料です。
それ程の興味も湧かなかったので敬遠しました。

そして右側の壁には、こんな掲示がありました。

津浪が押し寄せた時の写真、被災直後の写真が壁一面、所狭しと掲示されていました。

さて、この建物の内部はこのようになっています。
今まで紹介したのが “土の館” の１階と２階です。

一旦１階に下り、“風の館” の方へ行ってみました。
そこは観光交流センターなのですが、一番奥の吹き抜けの部分にはこんなものがありました。

これは “久慈秋まつり” で市内を練り歩く “山車” の実物です。
昨年も復興を願って祭りは実行されたそうです。

ここは、なかなか印象に残る道の駅でした。

三陸鉄道「陸中野田駅」！“のだ”

三陸海岸沿いを１２ｋｍほど南下して
道の駅のだ　に到着しました。

道の駅の敷地の道路沿いに “野田の牛方像” というのが立っています。

ここ “九戸郡野田村” は古くから直煮法による製塩が行われていました。
作られた塩は、牛の背中に乗せて北上高地を越え、盛岡や雫石、更に秋田県の沢内、鹿角方面まで運ばれました。

野田の牛方は一人で７頭の雄牛を追って、狭く険しい道を歩きました。
その歩いた道は “野田塩ベコの道” と呼ばれ、文化交流の道ともなったのです。

早速道の駅に入ってみます。

このポスター、実は “のだ塩” の復活という意味なのです。
野田の製塩は、昭和２４年の自給製塩廃止により一旦歴史の幕を閉じました。

それを、村の青年たちの力で復活継承され、今では野田村を代表する特産品になっています。

なんと “一人１個限り” という制限が貼ってありました。

貴重な塩の復活と共に、数百年続いた 「野田塩ベコの道」 の一部、１０ｋｍの道のりを歩く、トレッキングツアーも定期的に開催されています。

隣の部屋に行ってみました。

“切符売場” があります。
実はこの道の駅、三陸鉄道の “陸中野田駅” と一緒になっているのです。

私たちがいた時にちょうど電車が到着し、多くの通学、通勤のお客が下りてきました。

この “三陸鉄道” 昨年３月１１日、すべての電気が消え、通信が途絶えました。
しかし２日後には、社長から全社員に 「動かせるところから動かせ！」 という大号令がでて、事実１６日には久慈駅からここ陸中野田駅までが開通したのです。

これは “奇跡の復興” と呼ばれましたが、線路や駅舎が流され、橋が崩れ落ち、瓦礫に埋もれた線路など至る所で寸断され、残念ながら未だ、全線復旧には至っていないのです。

これが、三陸鉄道の復旧祈願ダルマです。

さて、時間も１７時２０分になったので、今夜の宿に向かうことにします。
今夜泊るのは、“国民宿舎えぼし荘” です。

ネットでようやく見つけた宿泊場所なのです。

ご覧の通り、この道の駅から８ｋｍと近い場所にあります。
ここへは海岸線沿いに走りました。

初めて瓦礫の山を見ました。
それは延々と続いていました。

海岸では防波堤が無残にも破壊されたままでした。

“国民宿舎えぼし荘” は、海岸が目の前ですが、高台に建っていました。

「すぐそこまで水が来たんですよ！」
「ここは助かったけど、すぐ下の部落が全滅したので、ここが避難所になったんです」
と、職員さんが話してくれました。

そして、その日宿泊されている方はほとんどが、復興工事の作業員らしき人たちばかりでした。

遊びで訪れた私たちは、少しばかり心苦しい思いで食事を済ませました。

思惟の大橋公園！“たのはた”

４日目になりました。
今日は三陸海岸をずっと南下して、宮城県の気仙沼までのルートです。

いつもの通り８時ちょっと過ぎに宿泊地を出て、最初の目的地
道の駅たのはた　に向かいました。

国民宿舎えぼし荘から３５分かかって、８時４０分に到着しました。
でも９時の開店なので、まだ閉まっています。

“田野畑村” は人口約４７００人の農林水産業と観光の村です。
なぜ観光かというと、三陸リアス式海岸の最大の見どころのひとつである、“洋上のアルプス・北山崎”や 切り立った断崖が連続する “鵜の巣断崖” が、この田野畑村にあるからです。

写真を撮ってないので、田野畑村のHPからお借りします。

（北山崎）

（鵜の巣断崖）

いずれも観光ガイドなどでよく見かける風景ですね。

道の駅たのはたは、こんなに広い “思惟大橋（しいのおおはし）コミュニティ公園” の中にあります。

私たちはこの国道４５号を地図の右下方面からやって来たのですが、その先にある大きなアーチ橋が“思惟大橋”です。

この付近、かつては深い谷や急峻な山道が続き、隣村へ行くのさえ大変な地形でした。
ここには、“思案坂” とか “辞職坂” という場所があります。

むかし役人がこの村に赴任してきて、あまりの険しさに前に進むべきか戻るべきか思案したのが “思案坂” 、ようやくそこを超えると更に深い谷があり、とうとう職を辞して逃げ帰ったのが “辞職坂” なんだそうです。

その “辞職坂” に架かるのが “思惟大橋” で、全長３１５ｍ、海面からの高さ１２０ｍあります。

公園の案内図に “思惟大橋の展望台” があったので行ってみました。

展望台というものの、たくさんの樹に遮られて、ほとんど見えませんでした。(^▽^;)

この公園、中央の芝生広場を中心にかなりの広さがあります。

立派な野外ステージもありますね。

これは公園と駐車場を繋ぐ木造の歩道橋で、渡るとセンサーで鳥の鳴き声が聞こえるようになっています。

さて道の駅ですが、これが中央にある “レストハウス” です。
付近を散策して開店時間の９時になったので行ってみました。
でも、まだ閉まっているし、人の気配もありません。

ここはレストランが中心のようなので、開店時間が遅いのかもしれません。

もうひとつ道路に近い側に２つの建物があります。

“産直プラザ思惟大橋” こちらは、うどん、そばなど簡単な食事ができるようです。

その右隣にあるこちらの建物は農産物などを直売していますが、道の駅スタンプはここにありました。

ここだったら９時前から開いていたので、何も散策しながら時間を待つ必要もなかった訳です。
時間を無駄にしてしまったと後悔しつつ、次へ出発しました。

神秘の地底湖の町！“いわいずみ”

４日目の２か所目は、
道の駅いわいずみ　です。

三陸海岸沿いの国道４５号から、国道４５５号へ進路を変え、ちょっとばかり内陸に入ったところにありました。

“岩泉町” は総面積が９９２．３平方ｋｍあって本州で最も大きな町です。
そして “岩泉” といえば日本三大鍾乳洞のひとつである “龍泉洞（りゅうせんどう）” が観光地として最も有名です、

この鍾乳洞の最大の特徴は、その奥から清水が湧き出て８か所の “地底湖” ができていることです。

一般に公開されている第三地底湖の水深が９８ｍ、公開されていない第四地底湖に至っては１２０ｍあって日本一の深さです。

世界でも有数の透明度があり、その水の色は “ドラゴンブルー” と呼ばれ、自然が作った神秘的な青い世界に人々は魅了されます。

ちなみに日本三大鍾乳洞のあとの二つは、山口県の “秋芳洞（あきよしどう）” と、高知県の “龍河洞（りゅうがどう）” です。

さてこの道の駅、国道沿いに細長い敷地があります。
その後ろに “岩泉球場” がありますね。

ここはなんと、楽天イーグルスの球場でした。

これが道の駅の建物の全景です。
順番に左から見て行きましょう。

一番左側が確か、農産物の直売所だったと思います。

まん中が物産売店 “わくわくハウス” で・・・・・・

右端にはレストラン “大地工房” と立喰いそばの “いっぷく庵” があります。

中央から中に入ってみました。

ここにもやはり東日本大震災に関する感謝状がありました。

それぞれの建物は、全部内部では繋がっていました。

ここは “レストラン大地工房” の入口です。
“短角牛” の幟があります。

この絵柄は “短足牛” に見えますが、“短角牛” です。（笑）

“いわいずみ短角牛” は、早坂高原などで放牧され健康・安全に飼育された肉牛で、サシと呼ばれる脂肪分は少ない

ですが、赤身の高タンパク質の肉質です。

レストラン大地工房では、特産である短角牛のロースステーキが人気です。

さて次は、この国道４５５号を更に内陸部に入って行って、“三田貝分校” を目指します。

小学校の懐かしさがいっぱい！“三田貝分校”

いわいずみの道の駅から更に30ｋｍほど内陸部へ走り
道の駅三田貝分校　へやってきました。

北上高地最大の交通の難所といわれた“早坂峠”を一気に貫く３１１５ｍの早坂トンネルが完成したので、ここ“岩泉町三田貝地区”はかつての僻地ではなくなりました。

盛岡市から５５ｋｍ、早坂トンネルを抜けて７ｋｍの位置に道の駅三田貝分校はあります。

この道の駅、その名の通り実際にあった“町立門小学校三田貝分校”の跡地に建っています。

その実際の分校の写真がこちらです。

ほぼ忠実に再現されているのが分かりますね。

入口の横には、こんな案内があります。

これって、実際に使われていた黒板ですね。
更にこんな案内も！

“参観日”なんですね！（笑）
その後ろには水飲み場があります。

玄関を入ると“げた箱”があります。
そのすぐ下に、ちょっと見にくいかもしれないけど、昔なつかしい体重計が置いてありました。

中に入るとすぐ右側に勉強机が二つあり、そこに道の駅スタンプは置いてありました。
私も、この椅子に腰かけてスタンプを押しました。

机の落書きがそのまま残っているのが何とも言えないですね。

そして玄関から右手にあるのが “給食室” です。

まだこの時間は準備中なんですが、食事のテーブルも学校の勉強机風になってますね。
ここのメニューにはこんなものもあります。

これは “日替わり給食風セット” です。
昔なつかしいアルミの器が使われています。

それ以外にも、懐かしいものはたくさんあります。

このオルガンもかなり年季が入っていますから、実際使われていたものでしょう。
「足踏み式オルガン　ご自由にお弾き下さい」 という張り紙があったのでカバーを開いたんだけど、勿論弾けません。(^_^;)

その上に置いてあったアコーデオンは故障中です。

実際の分校の写真が貼ってあり　・・・・・・・

卒業生の作品が掲示されていました。

この日は土曜日なので、お客さんも次々に入ってきます。
皆さん、懐かしそうにいろんな品物に触れていました。

ここでは山里らしく、行者にんにくと、もうひとつ激辛の調味料を私自身の土産に買いました。

この道の駅を訪れた皆さんはおそらく、自分の懐かしい小学生時代を思い出して郷愁に浸るのではないかと思います。
こういう特色のある道の駅を、是非各地に作って欲しいものです。

大震災からの復興を願う！“たろう”

内陸部の三田貝分校から一気に三陸沿岸に戻り、
道の駅たろう　にやってきました。

“宮古市田老地区” は陸中海岸国立公園のほぼ中央に位置し、豪快な海岸線で知られる町です。

昭和８年にこの町を津浪が襲い甚大な被害を受けた経験から、田老町は特に防災対策に力を入れ、高さ１０ｍ、長さ２４４３ｍの巨大な防潮堤を築きました。

これは “田老万里の長城” と呼ばれ、平成１５年には 「津浪防災の町宣言」 を行ったのです。

更に１秒でも早く高台に逃げられるように住宅の角を切って道を作り、この道の駅には、“たろう津波防災・道路情報館” も作られました。

それでも昨年３月１１日、想像を超えた巨大津浪は “万里の長城” をあっけなく破壊し、多くの人命を奪い、普通に暮らしていた人たちは一瞬に住まいと日常生活を失ってしまったのです。

大災害から１年３カ月が経ち、道の駅は何事も無かったかのようにそこに建っていました。

“福島も宮城も頑張っています！！” という文字が見えますね。

ここにあるのは “塩サイダー” です。
中央にあるのが以前飲んだことのある、能登半島の塩サイダー、左側にはここ岩手の塩サイダーがあります。

ここには、“真崎わかめ” が震災から１年ぶりに収穫された、って書いてますね。
ちょっとづつでも普通の生活が戻ってくるのは嬉しいものです。

一番奥には食事処がありました。

田老地区はテレビで何度も繰り返し放映があったように、特に震災の被害の大きかった地域のひとつです。
でも、道の駅を見る限り、ほとんど日常の生活が戻っているかのような気がしました。

しかし、道の駅を出発してほんのしばらく走った時、突然視界が開け、衝撃的な光景を目にしました。

建物の土台だけがそこに残っていました。

それは、はるか彼方まで続いていました。

この土台の一つ一つにはそれぞれ住まいが建っており、家族がいて喜怒哀楽があり、当たり前に毎日の生活が続いていたはずです。

この先に見える堤防を越えてやってきた波が、すべてを奪い去ってゆきました。

これらは地元の人やボランティアの方々、自衛隊や消防の皆さんが必死に瓦礫を片付けてくれたのでこのようにまっさらの状態ですが、その前は本当に悲惨で恐ろしい情景だったことと思います。

私がこの被災跡を見るのはこれが初めてでしたが、この先２日間、至る所にこの光景がありました。

木造住宅は瓦礫の撤去がほぼ終わって土台だけになっていますが、鉄筋の建物は手つかずのものが無数に残っています。

１年３カ月経過しても、復興にはまだまだ遠い道のりだと感じました。

仮店舗で再開！“みやこ”

田老から３０分弱で
道の駅みやこ　へやってきました。

“宮古市” は、本州の最東端にあたるまちです。
確かに地図で見ると、三陸海岸の膨らんだ一番右端にありますね。

ちなみに本州最西端は山口県の下関市、一番北は青森県の大間で、南の端は和歌山県の串本町です。
一応私はこれで、東西南北全部行ったことになります。

道の駅みやこは、国道４５号から海側に外れ、港の先端付近にありました。

ここは国際貿易港である “宮古港” の出崎埠頭に立地し、手前には魚市場があり、すぐ先は太平洋です。

この写真が道の駅みやこの本来の建物です。
本来の、というのは近付くと分かります。

おそらく津浪がまともにぶつかってきたのだと思います。
さすがにこれだけ大きな建物ですから外観は残っていますが、内部は破壊されつくし、玄関や窓は板で塞いでありました。

ここは左の建物が道の駅で、その右側にはタラソテラピー（海洋療法）の施設、そして全体が “食と健康・体感シートピアなあど” という広域総合交流促進施設だったのです。

この広い海水プールで、大勢の子供たちや家族連れが毎日歓声を上げていたことだと思います。

これら本体の再開は当分難しいと思いますが、本年３月２４日から、この駐車場の敷地にプレハブで仮店舗ができ

たのです。

小さなプレハブが３つ繋がっていて、その前には工事現場などで見かける簡易トイレのボックスが５つ並んでいます。

手前が休憩所、次が土産物の店舗があり　・・・・・

一番右端に、ちょっと小さめの食堂が並んでいました。

狭い店舗だったのですが、土産はなるべく被災地で買うと決めていましたから、ここでは親戚やお隣さんに配る土産などをまとめ買いしました。

道の駅のスタンプは新品でした。
おそらく今まで使っていたのは流されたのだと思います。

本体の建物での営業が、いつか再開されることを心から祈ります。

岩手・宮城の旅：復興途上！“やまだ”

宮古から国道４５号を約３０ｋｍ南下し、
道の駅やまだ　へやってきました。

山田町はご覧の通り三陸リアス式海岸のど真ん中にあり、風光明媚な観光地です。
でもこの地形が災いし、昨年の津浪では死者・行方不明者があわせて８百数十名、全半壊の家屋が３１８４棟という大きな被害を受けました。

世帯数６６００、人口１８６００名のこの小さな町にとっては、大変な悲劇だったと思います。

道の駅は比較的シンプルですが、両翼に三角屋根のある、ユニークな建物です。

“がんばってます　山田！”の文字が力強いです。

早速中に入ってみました。

“山田町”は三陸の青い海と、北上山地に囲まれた町で、“響きます　ひと・海・森のハーモニー”をキャッチフレーズとした漁業や農林業を基幹産業とした地域です。

漁業は牡蠣やホタテの養殖、サケの定置網漁が盛んで、特に“海の十和田湖”と呼ばれる山田湾で獲れる殻付き牡蠣は、東京の築地市場などに出荷される、岩手を代表する特産品でした。

残念ながら今は大きな打撃を受けています。

道の駅の一角には、大震災の写真が貼ってありました。

山田町観光協会のホームページには、「山田町の今」と称して、震災直後から今日に至る写真が時系列に掲載されています。

写真掲示板の前には、このようなボックスが置いてありました。
全国から届いた支援物資は、このような形でも被災者の手に渡っていたのだと知りました。

震災から１年４カ月ほど経過して、遠くに住む我々にはその記憶が薄れがちですが、まだ“支援”の必要性が終わった訳ではない、と思いました。

それにしてもこの岩手出身のあの大物政治家は、地元の為になんの支援をしたのでしょう？
震災直後は被災地にも足を向けず、自分の思い通りにならない仲間の足を引っ張り、今もなお、自分中心の利己的な行動しかとっていないように思えます。

大勢いる手下を引き連れて現地に入り、汗を流すことをなぜしないのでしょうか？

リアス海岸の恵み！”さんりく”

次は１時間ほど走って
道の駅さんりく　にやってきました。

山田から釜石を通り過ぎ、大船渡の少し手前に道の駅さんりくはあります。
この付近、鉄道網はほとんど復旧していません。

この地図で見ると、ＪＲ線と三陸鉄道が区間によって混在しているようですが、三陸鉄道南リアス線の一部区間が、やっと来年４月に再開の見込みですね。

道の駅の所在地は、“大船渡市三陸町” です。

大船渡市は人口が約４万人、急峻な山稜が海岸線まで迫る典型的なリアス式地形で、冬は暖かく夏は涼しい海洋性気候で、住みやすい町でした。

東日本大震災では特に被害が大きかった地域として繰り返しテレビで放映されましたから、皮肉なことに日本人なら誰でも知っている町になったのではないかと思います。

道の駅は “海の恵み体験施設” の１棟だけですが、中はかなり大きくて充実しています。
この日は土曜日ということもあるのでしょうが、ひっきりなしに車がはいってきます。

“がんばろう三陸！！復興支援ありがとうございます” の張り紙があります。

“大船渡” は、沖合に世界有数の漁場を持ち、ワカメやカキ、ホタテ、アワビ、ウニなど魚介類の宝庫です。
港にはサンマ、サケ、カツオなどが水揚げされ、全国に配送されます。

道の駅にもたくさんの水産物、水産加工物が並んでおり、店内もお客は随分多くて今日回った道の駅の中でも一番元気な気がします。

深刻な打撃から少しづつは日常が戻ってきているのかなと思いました。

さて、岩手県の道の駅もあと１か所を残すのみになりました。
その１か所は残念ながら津浪で大きな被害を受け、未だ再開していません。

今夜の宿泊は県境を越え、宮城県気仙沼市に予約をしています。
残り１か所の道の駅はその途中なので、立ち寄ってみることにしました。

無残な廃墟！“高田松原”

岩手県の最後の道の駅は、津浪で大きな被害を受けた
道の駅高田松原　です。

東日本大震災で甚大な被害を受けた道の駅は６か所ありましたが、今なお再開の目処が立っていないのが、この “道の駅高田松原” と 福島県の “道の駅ならは” です。

休館中であることは分かっていましたが、今の状態がどうなっているのかを知りたくてナビを設定しました。
途中の道の駅標識は、１か所もありませんでした。

そして２７ｋｍを走って目的地に到着したのは、この場所です。

周りにほとんど何も無い空間に、それはぽつんと建っていました。

この、建物の土台だけしか残っていない広い空間を “田老” で初めて見て以来、ここまで限りなく目にしてきました。
いつの間にかその光景に慣れてしまった自分に怖い気がしました。

離れた場所に、もう一つ鉄筋の大きな建物が見えました。

ここは “キャピタルホテル1000” といい、歌手の千昌夫が関与したホテルなんですが、ご覧の通り破壊され、休館しています。

これも道の駅の近くにありました。
煙突らしきものが見えますが、なんだったのでしょうね？

道の駅高田松原の元の姿を知りませんが、内部は見事に破壊されつくし、まさに廃墟となっていました。

ここ “陸前高田市” は、かつては日本百景に数えられる白砂青松の “高田松原” があり、白い砂浜に樹齢３００年を超える約七万本の松林が続いていました。

（ＨＰより借用）

「東海の　小島の磯の　白砂に　われ泣きぬれて　カニとたわむる」 という石川啄木の詩は、この高田松原の情景を詠ったものです。

その松原もただ１本を残して消失し、“奇跡の１本松” といわれたその松も残念ながら元気を取り戻すことは無かったようです。

その美しかったはずの町には、廃墟となった鉄筋の建物と、瓦礫の山が残されていました。

少し沈んだ気分で、今夜泊るホテルに向かいました。
県境を越えて宮城県に入り、“気仙沼” に入ると、そこも似たような情景が広がっていました。

突然走っている進路の先で、信じられないものが目に飛び込んできました。

テレビの画面では何度も目にしましたが、走っている道路脇にこれだけの大きな船が横たわっているのにはさすがに驚きました。

周囲を見回しても、どちらが海なのかさえ分かりません。
一体、どの方向から流れて来たんでしょうか？

市内に入ると、この様な “復興屋台村” なるものも見掛けました。
おそらくお店を流された人たちが、ここで商売を再開したのだと思います。

今夜泊るホテルはこの “サンマリン　気仙沼ホテル観洋” です。

ＡＮＡのツアーのパックに三陸側のホテルは１カ所も無く、ネットでさんざん探して予約したホテルです。
予約したのは、「復興応援宿泊プラン２食付き」 というもので、１泊２食付きでひとり8,550円です。

ネットで予約すると折り返しホテルからメールが来て、「工事関係者の方々に宿泊いただいており、同じ会場でのお食事になります。夕食はセルフサービスです。」 と知らせてきました。

到着してみると、想像に反して10階建ての立派なホテルだったのでちょっと驚きました。
部屋タイプは “お任せ” となっていましたが、何故か私たちはおそらく最上級と思われる10階の角部屋で、和室の他に独立した洋風のベットルームがある、すごく広い部屋に通されました。

つい先日は、この部屋に “長渕　剛” が泊っていたんですよ、とホテルの人が教えてくれました。

ここは、少し高台にあり、ほんの近くまで水が来たけど、ホテル自体は無事だったのだそうです。
ライフラインが復旧したのが5月で、それ以降は “第二次避難所” といって、体育館などで体調を壊した人たちを優先して受け入れ、それが12月まで続いたとのことです。

これ以降も、“復興応援宿泊プラン” の名前のとおり、工事関係者やボランティアの人たちを優先して泊っていただいているとのことでした。

夕食は宴会場のような広い部屋にずらりとテーブルが並んでいました。
自分で順番に料理を取ってゆくセルフサービス方式で、テーブルについていたのはほとんどがボランティアらしい団体さんでした。

揃いのＴシャツを着ている人たちが多く、ホテルの人の話では、今一番必要なボランティアは子供たちの精神面のケアらしく、そのような資格を持った人たちが全国から交替で来られているのだそうです。

この日は誰もお酒を飲んでいる人の姿は無く、私たちもさすがに遠慮しました。

このホテルのパンフレットにあった、気仙沼の街の様子がこれです。

おそらく同じ方向と思われる、私がホテルの10階の窓から撮った写真はこちらです。

見事に何もなくなっていました。
いくつか鉄筋の建物は見えますが、ほとんどは廃墟になっています。

ホテルの真下に見える街並みも空き地が目立ちます。

ホテルの方々、そして復興工事に携わっている方々、更に今も全国から集まってこられているボランティアの方々に本当に頭が下がりました。

日本一海水浴場に近かった駅！“大谷海岸”

最終日、５日目になりました。

宿泊しているホテルを８時２０分に出て、２０分ほどで
道の駅大谷海岸（おおやかいがん）　に到着しました。

今日は宮城県北部の道の駅を６か所回って、仙台空港から夕方の便で帰路につきます。

ここもやはり、途中の道の駅標識は１カ所も残っていませんでした。

“気仙沼市本吉町” の大谷海岸（おおやかいがん）は、このような場所にあります。

道の駅に隣接して ＪＲ気仙沼線の “大谷海岸駅” があり、線路を陸橋で越えると、そこには “大谷海水浴場” や “はまなす公園” があります。

“日本一海水浴場に近い駅” と言われてきましたが、“近かった駅” と過去形になってしまいました。

現在道の駅は仮店舗で営業されています。
ここへ到着したのは８時４０分ですが、仮店舗の開店は 「９時半」 です。

しばらく周囲を散策して時間をつぶすことにしました。

元々の道の駅の姿はご覧の通りですが、現在の仮店舗は右端の “農林水産物直売センター” で営業されています。
ここは、震災直後の昨年４月２９日には開店されていますから、すごく速い復旧だったと思います。

これがその隣にあるトイレの建物ですが、これもちゃんと復旧しています。

そして、メインの建物であった “はまなすステーション” はこちらです。
この付近、国道４５号沿いにははまなすの花が咲き誇ります。
また海岸沿いには “はまなす公園” もありますから、そこから名付けられたものです。

ここは元々、地元の農水産物を加工した特産品の販売コーナーがあり、本吉観光協会が入っていて、観光案内や宿泊施設の案内など地域情報コーナーがありました。

マンボウアクアリウムには地元で捕獲されたマンボウが飼育されており、２階は海の見えるレストランでした。

ここを１５ｍの津浪が襲い、ご覧の通りです。

駐車場の端ですが、このタンクは何だったのでしょう？

最初にご紹介したように、この道の駅はＪＲ気仙沼線の “大谷海岸駅” と一緒になっていました。

はまなすステーションのすぐ裏が、そのホームになっています。

線路も流されていました。

すぐ向こうに “土嚢” が見えますね。
この土嚢の先に大谷海水浴場があったのですが、松林もなくなり、砂浜さえ消失しているとのことです。

震災直後の映像が ＹｏｕＴｕｂｅ にアップされていました。
それと比べれば、よくここまで片づけられたものだと思います。

ようやく９時半になりました。

ここもやはり、新品の道の駅スタンプが置いてありました。

一つだけ明るい話題があります。

道の駅の右奥に、やはり土台だけの建物の跡がいくつも並んでいたのですが、そのコンクリートの隙間から芽をだした “根性松” です。

今度来るときには、道の駅が元のように再建され、この復興松が大きく成長していることを祈ります。

森の茶屋！“林林館”

宮城県の２か所目は、
道の駅林林館　です。

前日からずっと三陸海岸沿いの国道４５号を走ってきましたが、ここからは再び内陸部に入ってゆきます。

大谷海岸からは３０分強で到着しました。

国道３４６号から入ってすぐにあるのが、この “林林館本館” です。

ここは木工製品や陶芸品の展示販売や、体験コーナーがあるはずなのですが、行ってみると入口は閉まっていました。
既に時間は１０時を過ぎているので、何故かよく分かりません。

更に奥へ入ってゆくと、もう一つの建物があります。

こちらは “森の茶屋” といって、物産販売やレストランがあります。

ここの所在地は “登米市（とめし）東和町” になりますが、同じ敷地内に東和町役場や福祉センターの建物もあります。
ここが、町の中心ということでしょう。

“林林館” の名前の通り、ここは豊かな緑に囲まれた山里のまちです。
すぐ近くを流れる “鱒淵川” は源氏ボタルの生息地として観光スポットになっています。

この看板を見て、ここは宮城県だったな、と再認識！（笑）

□

やはりこちらの建物に、登録証や道の駅スタンプも置いてありました。

□

□

この日は日曜日なので、お客さんもまずまず入っています。
林林館の本館が閉まっていたせいか、あんまり特色のない道の駅に思えました。

□

更に３０分ほど走って、同じ登米市にある
道の駅みなみかた　へやってきました。

ここの所在地は “登米市南方町” です。

“登米市（とめし）” は、平成１７年４月に近隣の９町が合併して誕生した市で、これから行くところも含めて４か所の道の駅があります。

この道の駅、別名を “もっこりの里” といいます。

このキャラクターのように、力こぶがもっこりと盛り上がる様子の言葉でしょうが、町民一人ひとりの “やる気” “元気” “活気” を高めることで、町全体を盛り上げるイメージを表しているのだそうです。

前回も出てきましたが、ついでにこのキャラクターも紹介しておきましょう。

これは仙台と宮城のキャラクターで、“むすび丸” といいます。

道の駅の配置図が見当たらなかったのですが、右側が物産館、中央に情報コーナー兼休憩所があり、左端はレストランです。

中央の情報コーナーに道の駅スタンプはありました。

結構広い休憩・情報コーナーがあり、その奥がレストランです。

南方町は全面積の７５%が農地を占める農村地区ですが、農薬や化学肥料を極力減らした安全な農産物作りに取り組んでいます。

店内で気になるものを発見しました。

まるまる１本のきゅうりに割り箸を差し込んで、そのまま漬け物にしているのです。
早速買ってみました。

店内の休憩室が空いてなかったので、外のベンチで頂きました。

一口かじった後の写真ですが・・・・。(^▽^;)
いや～、これは旨かった！

“遠野” ではカッパの捕獲許可証を買ったけど、このきゅうりの漬物を餌にすれば、きっと捕まえられたかもしれませんね！（笑）

第三代横綱の銅像！“米山”

わずか１０分ほどで次にやってきたのは
道の駅米山　です。

ここの所在地は、“登米市米山町” です。
仙台市と気仙沼市を結ぶ国道３４６号のほぼ中間地点にあります。

豊かな作物に恵まれた農村地域です。

建物はここに見える “ふる里センターＹ・Ｙ” と、もう一つ隣に・・・・

“お休み処　Ｙ・Ｙ” があります。

どちらも “Ｙ・Ｙ” がついているけど、“Ｙｏｎｅ　Ｙａｍａ” の頭文字かな？
私の勝手な推測です！（笑）

“お休み処　Ｙ・Ｙ” と書いてあったこちらの建物の正式名称は “米山産地形成促進施設” という難しい名前がついています。
ここには、軽食コーナーや、そば打ち体験、果物・野菜の加工販売、それにフラワーアレンジメントや染物の体験コーナーまであります。

付近は広い公園になっていますが、ちょっと気になるものがありました。

この銅像、ここ米山出身の第三代横綱で “丸山権太左衛門” といいます。

“丸山権太左衛門” は１７００年代に活躍した力士で、身長が１９７ｃｍ、体重は１７０ｋｇあったそうです。

地元の家老の家来となってある時江戸見物に出かけたのだけど、体が重くて歩くのが苦手だし、馬に乗れば足がついてしまう。

やっとの思いで江戸に着いたけれど、とてもこれでは故郷に帰れないと相撲部屋に入門したのがきっかけなんだそうです。

現役のまま、３７歳の若さで病没しています。

銅像の隣には、“土俵” もありました。

さて、ふる里センターに入ってみます。

“花卉園芸センター” があるので、美しいお花がたくさん売っています。
奥がレストランになっていました。

無事にスタンプも押し、残りはあと２か所になりました。
次も “登米市” にある、４つ目の道の駅です。

水と緑のテーマパーク！“津山”

最終日の５カ所目、そして “登米市” の４か所目は
道の駅津山　です。

“登米市津山町” は人口４５００人の木工芸の町です。
この道の駅も、その木工芸をメインとしたテーマパークになっています。

すぐ裏に大きな山が迫っており、豊富な杉材に恵まれたことから津山では木工芸が発展してきました。

ここは広いテーマパークになっていて、駐車場の左手には大型遊具を備えた “農業公園” が広がります。

子供たちが楽しく遊んでいるこの大潟遊具も、ほとんどが木製です。

最初に全体図をお見せしましたが、ちょっと見にくいのでもう一つ、ＨＰからお借りします。

まず駐車場から正面にあるのが “もくもくハウス” で、ここには産直の野菜売り場と、クラフトショップがあります。

もくもくハウスの前には川が流れているのですが、その先のちょうど川の上に建っている建物があります。

これは、“木里口” という食事処なんですが、Ｂ級グルメで有名になった “はっと鍋” が人気です。

さて、もくもくハウスへは、橋を渡って行きます。

産直市場には “頑張ろう　宮城！！” の文字が・・・。

そしてその先には、様々な木工製品が展示・販売されていました。

この道の駅、これで終わりではありません。
まだ先に、いくつかの施設があるのです。

更に別の橋を渡ります。

こちらは “もくもくランド” で、こちらが物産館なのです。

もくもくランドの建物に入ってみます。

すべて地元の杉材を使ったこの内装、とても温かみを感じますね。

道の駅スタンプは、もくもくハウス、もくもくランドの両方に置いてありましたが、いつも写真を撮る 「道の駅登録証」 は見つかりませんでした。

最初の配置図でお分かりのようにここはイベント広場などもあって、大きなテーマパークです。
親子工作教室なども開かれていますから、夏休みの始まった今、大勢の家族連れで賑わっていることと思います。

さて、次回はいよいよ “岩手・宮城の旅” の最終回になりました。
そして、今週の水曜日からは、“静岡・山梨の旅” へ出発の予定です。

最終回！“上品の郷”

いよいよ最後の目的地
道の駅上品の郷（じょうぼんのさと）　へやってきました。

ここは 三陸縦貫自動車道の “河北ＩＣ” の近くにあり、津山の道の駅からは２０分ほどでした。
所在地は “宮城県石巻市” ですから、やはり東日本大震災では大きな被害を受けたところです。

ここも横に随分細長い道の駅です。
２００台分以上の駐車場を備えていますが、日曜日ということもあってか、ぎっしりと車で埋まっています。

“上品（じょうほん）” という名前は、道の駅の東に聳え立つ “上品山（じょうぽんさん 海抜468ｍ）” に由来します。
“上品” とは仏教用語では “極楽浄土” を意味するのだそうです。

この道の駅、前を走る国道４５号を北上川に見立て、道の駅をその船着き場のイメージで作られているのだそうです。

屋根の上に一部白い部分が見えますね。
これは “雲” をイメージした明かりとりで、昼間は室内を明るくし、夜は逆に室内の明かりを写して幻想的な雰囲気を作りだします。

すべて木造建築で、壁に “面格子” が見えると思いますが、これにより震度７程度までは耐えられるのだそうです。

道の駅の全体はこのような配置になっています。

一番右手に “ふたごの湯” があります。

ここがレストラン付近の入口です。
天井まですべて “面格子” になっているのが分かりますね。

そして左端に農産物販売所やコンビニ、ファーストフードなどのコーナーがあります。

それでは中に入ってみましょう。
玄関の左手では名前は知らないけど昔の楽器のようなもので、おじさんが演奏をしています。

中もすごく広くて立派です。
すべてが “面格子” の構造になっているのがわかりますね。
屋根の中央が、先程の「雲」をイメージした明かりとりです。

こういう木材をふんだんに使った内装というのは温かみがあって、私は好きです。

さて、ここへの到着は１４時１０分です。
あとは仙台空港まで走るだけですから、ここで昼食をとることにしました。

私たちの旅は常に時間に追われていて、まともに昼食をとることは無いのですが、最終日だけは余裕を持たせています。

ここは大きなレストランです。
昼食バイキングが１０００円であったのですが、それほど食べられそうにないので単品にしました。

何故かラーメンを食べたい気分だったので、野菜ラーメン（だったかな？）を注文しました。
野菜のたっぷり入ったラーメンということで、ちゃんぽんのような味でした。（笑）

お腹も満足したので、ここから１時間２０分、一気に仙台空港まで走り、無事に帰途につきました。

今回の旅で最も印象に残ったのはやはり、被災地を自分の目で見たことです。
テレビや新聞を通してではない、現実の光景がそこにありました。

いろんな方から話を聞く機会もありました。
おそらくその人たちの中には、身内や友人を亡くされた方もあったかと思います。

現状を知ったところで、自分では何もできないもどかしさを痛感しました。

昨日の７月２２日で震災から５００日を迎えましたが、未だに２７万人の方が仮設住宅に暮らし、瓦礫の処理さえわずか２０％しか終わっていない現実があります。

あの日、世界中が驚愕した未曽有の大災害を決して風化させてはいけない、そしていつか再び起こる時の為に備えをおろそかにしてはならない、ということだろうと思います。

●今回の道の駅訪問数：　３５箇所
●走行距離：　１２５８ｋｍ

最後までのお付き合い、本当に有難うございました。

４０分遅れでスタート！“おおさと”

本日より、福島・宮城の旅のレポートを開始します。

宮城県の残り６か所と、福島県全域２３か所を５日間で回ります。
今回も長くなりそうですが、お付き合い宜しくお願いします。

今回の旅の最初に向かうのは宮城県の
道の駅おおさと　です。

福岡空港を8：55に出発し、仙台空港には10：40到着予定の直行便です。
でも、飛行機に搭乗したものの、なかなか離陸しません。

機長のアナウンスによると空港の上空に鳥がいるとかで、結局出発が３０分も遅れてしまいました。

仙台空港でレンタカーを借り、ようやく動き出したのが予定していた時間の４０分遅れ！
初日の日程はかなりタイトに組んでいるので、最初から厳しいスタートになりました。

今回借りたのは、黒のフィットです。
今回は雨の予報なので、ニッポンレンタカーで、傘も２本お借りしました。

仙台空港ICから高速を走り、４０分強で到着しました。
初日の行程は、空港から近い順番に北へ向かって進み、そこから一気に南下して最終的には福島市内に宿泊します。

“黒川郡大郷町” は人口が８８００人ほどの、農業を主産業とした地域です。
正面にあるメインの建物の左手に、もう一つ大きな建物がありました。

ここは、“絆糧蔵（はんりょくら）” と書いてあり、正式名称は 「大郷町開発センター」 らしいですが、農産加工体験実習室や特産品研究開発室などがあります。

気になったのが玄関に貼ってあるこの張り紙です。

ここは福島の原発からはずいぶん離れているけど、やっぱり影響があるのでしょうか？

３つの屋根がありますが、左側が産直・土産品の入口、そして右端がレストランの入口です。
もちろん中で繋がっていました。

中央の屋根の所には休憩スペースがあり、りんごやぶどう等の販売コーナーがありました。

左の入口から中に入ってみます。

２階に何があったのか良く分かりませんが、階段から上は足場を組んでの工事中でした。

珍しい漬け物を発見！
まるで黄色いバラの花のように見えます。

裏返して見ると、“コリンキー酢漬け” と書いてあります。
初めてみる食材です。

味見が置いてあるといいんだけどな～

さて、あまりゆっくりもできないので２５分ほどの滞在で次へ移動です。

ひまわりの里！“三本木”

おおさとの道の駅から２５分ほどで
道の駅三本木　にやってきました。

“大崎市三本木” のこの道の駅は国道４号沿いにあります。

道路より少し高くなっているので一旦通り過ぎて駐車場からぐるっと回って入ることになります。
駐車場は普通車が１２５台、大型車が２９台ですから、かなり大きい方です。

この地は、昭和３０年代まで 「亜炭」 の採掘で栄えた町です。

「亜炭」 というのは石炭化が低くて水分や不純物を含んだ、やや品質の劣る石炭のことです。
埋蔵量は石炭よりも多いのですが、火力が弱いため工業用には向かず、主に家庭用に使われてきました。

時代の変化と共に家庭の燃料はガスや石油に置き換わり、現在では採掘されなくなりました。

道の駅と同じ敷地内で向かい合わせに建っているのが、この “亜炭記念館” です。
ここでは坑道を再現し、模型や人形で当時の様子や三本木の産業の歴史を紹介しています。

亜炭記念館の正面玄関にあったこの “オート三輪車” は、亜炭採掘当時に活躍した運搬車だそうです。

道の駅の建物は、中央の広場を挟んで “L” 字型に並んでいます。
右側の建物が、“休憩所兼情報コーナー” です。

そして左手の建物が “物産館やまなみ” と “食事処やまなみ” です。

中に入ってみましょう。

上の写真が物産館、下の写真が食事処なんですが、気がつかれましたか？
店内には “ひまわり” の花がいっぱいですね！

実はこの道の駅から５分ほどのところに “ひまわりの丘” があります。
６ｈａの広さに、春は菜の花、夏はひまわりの花が咲き誇ります。
ひまわりは約４２万本で、これは北海道の竜北町に次いで全国２番目の規模だそうです。

ですからこの道の駅もひまわり一色で、物産館にもひまわりクッキー、ひまわりかりん糖、ひまわり油など、ひまわりを使った特産品であふれていました。

ことしは８月１６日でひまわり祭りも終わっていましたから、ちょっと遅かったようです。

（ＨＰより借用。イメージです。）

おっと、スタンプもひまわりですね。（笑）

伊達政宗ゆかり！“あ・ら・伊達な道の駅”

本日の３か所目は３５分ほど走って
道の駅あ・ら・伊達な道の駅　に到着しました。

この道の駅、正式名称が “道の駅あ・ら・伊達な道の駅” って前後に 「道の駅」 がつくのはちょっと変ですね！（笑）

この地 “大崎市岩出山池月” にあった “岩出山城” で伊達政宗公が青年期を過ごしたことから、道の駅に 「伊達」 の名前がついたものです。

これが玄関なんですが、正面に大きな絵が飾ってありますね。

ご存知、伊達政宗でした！
これは仙台城にある 「伊達政宗騎馬像」 の絵です。

この伊達政宗繋がりで、大崎市は、“北海道の当別町”、“愛媛県の宇和島市” と姉妹都市になっています。
いずれも伊達家にゆかりのある地域です。

ですから、店内の “姉妹都市コーナー” では、それぞれの地域の特産品も販売されています。

道の駅の全体はこのようにかなり大きな規模です。
円弧型の建物の前には、屋外の販売コーナーもあります。

正面の右側にあるのがこの “田楽小舎” と、その向こうのソフトクリームのお店です。
ひっきりなしに皆さん、田楽やソフトを買っています。

正面左手のこちらはたこやきや玉こんにゃくを売っています。

メインの建物の配置図がこれです。
文字が小さくて読めないと思いますが、元々これは英語と韓国語と中国語で書いてあり、日本語は無いのです。
(^_^;)

中央の入口から入ってみました。

正面をまっすぐ入ると広い丸い空間があり、これは “多目的スペース” です。

普段はこのように椅子とテーブルがあって、休憩したり食事をしたりされています。

まわりにらせん状の通路があるのが見えるでしょうか？
円形スペースを囲むらせん状の通路では絵画や写真などの作品の展示がされていて、この日は震災関係の写真が並んでいました。

らせん通路を上って行くと屋上に出るようになっています。

先程建物内の配置図がありましたが、入口からすぐ左手にはコンビニエンスストアとレストランがはいっています。

そして正面に向かって右手にはファーストフードのコーナーや民芸品のお店などいくつかのテナントが並んでいて、姉妹都市コーナーもこの一角にあります。

それを通り抜けた奥の広い空間が “農産物直売所” です。

農産物直売所の一角にはこの様に食事をするコーナーもあって、“米工房” “蕎麦工房” “パン工房” が並んでいました。

この道の駅、写真でお分かりかと思いますが、平日というのにたくさんの人々で賑わっています。
ここは全国でも有数の “成功した道の駅” としてマスメディアでも紹介されるそうです。

時間があればもっと見て回りたい、私のお気に入りの道の駅の一つになりました。

自然薯の館！“路田里はなやま”

次は宮城県の最北部
道の駅路田里はなやま（ろうたりい はなやま）　へやってきました。

30分ほどで到着したこの地は “栗原市花山” ですが、今回の旅で宮城県の最も北に位置します。

藩制時代、この地は秋田藩とを結ぶ交通の要所であり、検問所が置かれていました。
その検問所を “寒湯（ぬるゆ）御番所” といいましたが、この道の駅はその番所をイメージしてデザインされました。

豊かな自然に恵まれた花山は、現在では栗駒山登山やトレッキング、渓流釣りなどアウトドア・スポーツの拠点となっています。

こちらが全体の配置です。

“路田里” は “ろうたりい” と読み、“ロータリー” を意味します。
駐車場がロータリーになっていて、「ロータリー駐車場」 があるんですね。（笑）

交通標識にもちゃんとロータリーのマークがありました。
でも、本当は別の意味もあるんです。

まあ、ちょっとこじつけにも聞こえますが　・・・・。（笑）

ソフトクリーム売場の屋根には、でっかいソフトが乗っかっています。（笑）

道の駅の隣にあるこちらの建物は “ふるさと交流館” といい、花山の歴史と文化を紹介する展示室や研修室があり、木工やそば打ちの体験ができるようです。

さて、中に入ってみることにします。

ここには物産館とレストランがあります。
そして目についたのがこれです。

この道の駅のサブ名称にもなっている “自然薯” です。

自然薯（じねんじょ）というのは、日本原産の野生種の山芋のことで、市販されているナガイモとは種類が違います。
花山では無農薬による人工栽培で歳月をかけて生産しており、主力の特産品となっています。

ですからここのレストランの自慢は自然薯料理であり、自然薯そば、自然薯うどんの他、もう一つの特産である “岩魚” と共に頂く自然薯定食や、館定食が評判です。

ちなみにここに売っていた自然薯は、長さや重さで違うのでしょうが、１本１５００円前後、一番高いのが１８００円でした。(゜__゜i)

さて、これで宮城県の北部の道の駅を全部回り終えたので、一気に南下し南部に位置する２か所を回って福島に入るのが当初の今日の予定です。

でも、最初のスタートが大幅に遅れたので、時間的に微妙になってきました。

閉店間際に飛び込む！“七ケ宿”

初日の最後に訪れたのは、宮城県南西端に位置する
道の駅七ケ宿（しちかしゅく）　です。

実は当初の予定では、宮城県南部に位置する “道の駅村田” と “道の駅七ケ宿” の２か所を回って福島に入る計画でした。

一旦は道の駅村田をナビに設定して走り始めたものの、どう考えても今から２か所回るのは無理です。
道の駅村田は高速のインターのそばであり最終日にも立ち寄り易いので、七ケ宿だけに絞ることにして、途中のコンビニの駐車場で目的地を設定し直しました。

道の駅七ヶ宿は東北自動車道の “白石IC” を下りて更に山道を２３ｋｍ、３０分ほど走ります。
ここでひとつ、私のミスがありました。

私の作成した資料では、ここは１８時閉店になっていたのですが、これは７～８月の夏場だけで、９月以降は１７時半までだったのです。

それに気がつかず、到着したのは１７時２２分でした。

到着して道の駅の写真を撮っていると、店員さんたちが外に並べた商品や幟などを店内に運び込んでいます。
もしかして閉店？と慌てて尋ねてみると、まだ大丈夫ですよ！とのこと。

急いでスタンプを押させて頂きました。

片づけは実に手際よく、１７時半ぴったしにはすべてのシャッターが閉められてしまいました。
あとほんのちょっとだけ遅ければ、また出直す羽目になっていたということです。

（地図は七ケ宿町のＨＰより借用）

“七ケ宿町” はご覧のように宮城県南西部にあって、山形県と福島県に接しています。

蔵王連峰の南麓であり、世帯数７００、人口が１６７２人の山あいの小さな町です。

かつては奥州と羽州を結ぶ道が “山中七ヶ宿街道” と呼ばれ、その宿場町として賑わいました。
街道沿いに７つの宿場があったことから、この地名がついたといわれています。

町の中央を東西に白石川が流れ、これに沿うように集落が形成されています。
そして平成３年１０月に “七ケ宿ダム” が完成し、宮城県民１８３万人分の水ガメを擁する水源の町でもあるのです。

道の駅はそのダム湖のほとりに建っています。
道の駅は閉まってしまいましたが、ちょうど夕暮れであり、ダム湖は美しい姿を見せています。

ここはダム湖百選にも選ばれた場所なのです。

夕暮れは夕暮れなりに、昼間とは違った美しさがありました。

この “七ケ宿湖大噴水” の看板があったのですが、水中に仕掛けがしてあり、水力発電の電気を使って、高さ７７ｍ、幅５０ｍの大噴水が上がるのです。

どういうタイミングで行われるのかは書いてありませんでしたが、これも機会があれば見てみたいものです。

さて、時間も遅いのでわずか１５分程度の滞在で出発しましたが、走り出してまもなくあたりは暗くなりました。

来た道と違うところを通って福島市内に向かいましたが、灯り一つない真っ暗な山道をくねくねと走るのはあんまり良い気持ちはしません。

１時間１５分かかって、１９時少し前にＪＲ福島駅前の “福島ビューホテル” に到着しました。
初日の走行は２８０ｋｍ程度でしたが、なんだかすごく疲れました。

駅前の居酒屋でビールを何杯か飲んだら再び元気になりましたけど！（笑）

いよいよ被災地へ！“そうま”

２日目の朝になりました。

ホテルを出て最初に向かうのは、太平洋沿岸の
道の駅そうま　です。

今日から回るのは “福島県” です。

この日の行程は、実は当初の計画と大きく変わったものになりました。
そのいきさつはあとでご説明するとして、福島県の太平洋沿岸にはご覧の通り４つの道の駅があります。

このうちの “道の駅ならは” は福島原発のすぐ近くですから、避難地域内となり閉鎖しています。
その少し南に “道の駅よつくら港” がありますが、一体どの道が通れるのか、避難地域をどう迂回すれば良いのかが、この日の課題だったのです。

走っているパトカーも “福島県警” です。（笑）

うちの嫁さんはパトカーを見ると写真を撮りたがります。
考えてみると全国を回っているのだから、４７都道府県すべての県警のパトカーの写真を集めれば良かったな、と今頃になって後悔しています。(^_^;)

この日、関東、東北方面に台風１８号が近付いており、５日間の旅行期間の内まん中の３日間が雨の予報でした。
予報通り朝から雨が降っていましたが、道の駅そうまに近付いた付近から雨があがり曇り空になりました。

結果からいうと、５日間で本格的に雨が降ったのはこの午前中だけで、それ以外は天気に恵まれましたから、ありがたい予報の外れでした。

福島市内を外れてから山越えが続き、太平洋側に出て道の駅へ到着するのに１時間４０分を要しました。

ここはご存知のように東日本大震災の被災地で、原発事故と二重の苦難を強いられ、度々テレビで目にした地域です。

これが “相馬市” の広域地図です。
青いマルが道の駅の位置です。

ちょっと見にくいかと思いますが、右端の細い半島状になったところが日本渚百選にも選ばれた “大洲海岸” です。
そしてこの付近全体が “県立自然公園松川浦” になります。

この現地には行っていませんが、おそらく大津浪の直撃を受けたのではないかと思います。

５月に岩手県を回った時には、町全体を流されたまさに “津浪の爪痕” をまざまざと見せられましたが、今回の福島では太平洋側を走った区域が短かったことから、それらを直接目にすることはありませんでした。

これが道の駅の全体図です。
メインになるのは “物産館” です。

Ｌ字型になったその右手に “道路休憩施設” があります。

下の写真が、“道路休憩施設” 側から写したものです。
雨は上がっていますが、空は厚い雲に覆われています。

そしてもう一つ、少し離れて “体験実習館” がありました。

さて、物産館に入ってみることにしましょう。

一番手前がレストランでしたが、まだ早朝ですからお客さんはいませんね。

まだ朝が早いのでお客さんの姿はあまりありませんが、ここの売り場はとても充実しています。
国道６号沿いで立地も良く、広いのでおそらく普段はたくさんのお客で賑わっているはずです。

お客が少ないのを幸いに、レジ付近におられた店員さんに地図を持って行って尋ねてみました。

若い女性の店員さんは、実に親切に教えてくれました。
それによると　・・・・・

・ここから南相馬の道の駅までは普通に行ける。
・そのすぐ南の “浪江町” 以南がすべて立ち入り禁止になっている。
・国道６号に一番近い国道に３９９号があるが、これも通行止め
・従って、よつくら港に行くなら、国道３４９号に迂回するしかない。

つまり、南相馬の道の駅から飯館村を通って川俣町に出て、そこから国道３４９号を南下するというコースです。

これだと無茶苦茶に遠回りになりますが仕方がありません。
折角なので、そのルート上にある “道の駅ふくしま東和” と “道の駅ひらた” を経由してよつくら港に行くことにし、当初の計画から大きく変わってしまったものです。

女性の店員さんはもうひとつアドバイスをくれました。

「飯館村は避難区域です。一部解除されて戻られた方もおられますが、ここを通る時は車の窓を開けない方がいいですよ！」

実はこのあとここを通る時、写真を撮ろうとしてうっかり窓を開けてしまったのですが！（汗）

親切な店員さんに、「ここは大丈夫だったのですか？」 と尋ねてみました。

「ここまでは津浪は来なかったのですが、地震で商品がめちゃめちゃになりました。
でも、５月には再開しましたからね。早かったんです！」

簡単に言われたけど、ここまで元に戻すのは並大抵の苦労ではなかったはずです。
ガラス戸に貼ってあるこの幟のように、相馬のみなさん、本当に頑張って頂きたいと思います。

野馬追の里！“南相馬”

次は、国道６号を１５ｋｍほど南下して
道の駅南相馬　へやってきました。

道の駅そうまの店員さんの情報では、ここまでは問題なく走れるということです。
途中もきれいな国道で、被災地のイメージはここでは感じませんでした。

道の駅は今年１０月で５周年を迎える新しい建物で、駐車場も広くてなかなか立派です。

同じ道の駅の配置図ですが、上は道の駅にあった看板、下は道の駅パンフレットからお借りしたものです。

車両入口の方から見ると、最初にトイレの建物があります。

これがトイレですが、大きいですね。
その先に“イベントプラザ”というスペース部分があります。

この中央の広場では、土日には各種イベントや特売会などが行われるのです。

広場の左手が道路情報案内やギャラリー、調理実習室、道の駅ホールと続き、広場の奥に物産販売所とレストランがあります。

道の駅スタンプは道路情報案内の方だろうと目星をつけ、先にそちらに行ってみました。

入口に“自衛隊・警察・ボランティアの皆さん　御身体大切にして下さい”という掲示がありました。
これを見るとここは“被災地”だったんだな、と実感します。

ボランティアの方たちにも頭が下がりますが、自衛隊、警察の皆さんのご苦労は本当に大変だったろうと思います。

入口を入ると、こんな“甲冑”が飾ってありました。

南相馬といえば、“相馬野馬追（そうまのまおい）”が有名で、これは「国指定重要無形民俗文化財」に指定されています。

中世から近世まで福島県相馬地方（福島県浜通り北部）を治めた相馬氏に由来する伝統行事で、毎年７月最終土・日・月の３日間開催されます。
祭りでは、甲冑を纏った騎馬武者５００騎余りの行列や、甲冑競馬など勇壮な行事が行われます。

（パンフレットより借用）

道の駅スタンプは情報コーナーにありました。
先客のおばさん二人がスタンプを押していました。

ここのスタンプは何故かすごくでっかいのです。
「ここのはでっか過ぎてスタンプ帳からはみ出すね！」などとおばさんと話していると、「お宅はもう何カ所回られたんですか？」と尋ねられました。

ちょっと考えて、「７２０箇所くらいかな？」と答えると、おばさん達はびっくり仰天！
全国を回っていると説明すると、他のおばさん達まで集まってきて、「スタンプ帳見せて！」

私の東北のスタンプ帳は２年前に日本海側３県を回り終えているので半分しかないのですが、それでも岩手県あたりを見せると「ワァー」と歓声があがりました。（汗）

「私たちは始めたばっかりだけど、またどこかの道の駅で会うかもしれないね！」
若い女性達ならもっと嬉しかったのですが！(^▽^;)

おばさん軍団と別れて、広場の奥にある物産販売所の方に行ってみました。

ここにも“がんばろう”の文字が見えます。
直売所の奥にレストランがありました。

時間が早いのでまだ準備中の看板があります。

ここからのルートはそうまの道の駅で聞いていたのですが、念のために野菜売り場の整理をしていた店員さんに地図を見せて尋ねてみました。

でも、ちょっと要領を得ず、自信なさげな返事だったので 「道の駅そうま」 の親切な店員さんの言葉を全面的に信じることにしました。

いよいよ避難区域を通り抜け、大きく迂回して “道の駅よつくら港” を目指します。

阿武隈の恵み！“ふくしま東和”

南相馬の道の駅から大きく迂回しよつくら港を目指す途中で、
道の駅ふくしま東和　へ立ち寄りました。

南相馬から内陸部へと西へ進路をとると、“飯館村（いいだてむら）”を通ります。
ここは福島第一原発の避難地域です。

飯館村に入ると商店のシャッターはすべて閉じられ、“コメリ”がありましたがこれも全く無人です。
農地も荒れ放題で、遠くに学校が見えましたが、たぶん閉鎖されていると思います。

道の駅そうまの店員さんの話によると一部解除になっているということでしたが、村を通過する間、ただ一人の人影も見られませんでした。

飯館村は避難地域のほんの一部であり、福島第一原発を中心とした広い範囲の人々が自分の生まれ育った故郷に戻れない、という現状は悲惨だと思います。

ただ、飯館村を過ぎて隣の川俣町にはいると、そこでは普通に農作業が行われており、商店も開いていて人々は全く普段通りの生活をしています。

そのギャップも不思議な気がしました。

川俣町で国道３４９号に出て、これを南下します。

“道の駅ふくしま東和”は本来最終日に訪問する予定でしたが、今回の通り道にあるので立ち寄ることにしたものです。

ここは行政区としては二本松市ですが、“福島県中通り北部”に位置します。

“中通り”という言葉をテレビの地震速報などでよく耳にしましたが、“中通り”は福島市や郡山市、須賀川市、白河市などの内陸部、“浜通り”はいわき市や相馬市などの海側をいうようです。

ここは阿武隈山系西斜面に位置し、近くを“阿武隈川”が流れています。

人口約８千人の東和町は、“走る東和！ 漕ぐ東和！ 翔ぶ東和！” を標語とし、ロードレース大会やカヌー競技が開催され、「針道のあばれ山車」 などの伝統の祭りが受け継がれています。

正面入り口から入ってみました。

“よくきたない　ゆっくりしてがっせ” という言葉が味があります。

スタンプはここにありました。

地域農業の振興を最大の目的に作られたこの道の駅、たくさんの農産物が並んでいました。

表にあったこの巨大カボチャ、なかなかユニークでした。

しばざくらの里！“ひらた”

道の駅よつくら港に向かう途中、もう一軒立ち寄ったのが
道の駅ひらた　です。

ふくしま東和から更に南下して “船引三春ＩＣ” から磐越自動車道に乗り、１区間先の “小野ＩＣ” で下りました。

道の駅ひらたは当初、この日の最後に向かうはずだったのですが、避難区域を大きく迂回する為に時間が大幅に遅れており、最後のいくつかは回りきれないと思ったからです。

小野ＩＣで磐越自動車道を下りると、一般道を少し走ったあと再び自動車専用道路に入ります。
これが “あぶくま高原道路” であり、この付近が “阿武隈高原” になるのです。

１０分ほど走ったところに “平田ＩＣ” があり、それを下りると道の駅はすぐ目の前です。
ここは、あぶくま高原道路と、国道４９号が交差する位置にあります。

道の駅ひらたには、“しばざくらの里” という愛称がついています。

道の駅のすぐ近くに “ジュピアランドひらた” という観光レクレーション施設があります。
ここは登山、森林浴、野鳥観察、キャンプなどの基地として市民の憩いの場として親しまれ、春になると約１１万株の芝桜がここに咲き誇り、県内外から多くの観光客が集まるのです。

そしてここは、標高９５２ｍの “蓬田岳（よもぎだだけ）” （地元では「岳山」と呼ばれる） があります。
“蓬田岳（よもぎだだけ）” は実は、“日本百低山” の一つです。

“日本百低山” というのは、登山家、画家、イラストレータである小林泰彦氏が作られたそうですが、その定義は以下のようなものです。

・標高は１５００ｍ以下
・地元に親しまれる里山で、日帰りで特別な技術を必要とせず、
　人並の体力があれば誰でも歩ける山
・ある程度の知名度があること
・歴史や伝説など、ストーリー性があること

日本百名山ならぬ、百低山、なかなか面白い基準ですね。

これが全体の配置図です。
“情報館” と “直売所” の２つの建物がＬ字型に並んでいて、その中心に外庭があります。

外庭にはテーブル、椅子があって、休憩や簡単な食事の場所にもなっています。

最初に “情報館（道路情報提供施設）” の方に入ってみました。
入口をはいるとすぐ左手にトイレがあります。

このトイレ、実にカラフルでお洒落です。
実はこれ、“日本一のトイレ” を目指す、この道の駅の自慢なのです。

「トイレの神様に喜んでいただくように！」 と、スタッフ一同で毎日磨き上げるのだそうです。

情報館で無事にスタンプを押し、こんどは物産館に行ってみました。

平日の道の駅というのは、一部を除くとあんまりお客さんは多くはないようです。

ここの場合は、交通の利便性、豊かな観光資源、それに日本一を目指すきれいなトイレがありますから、普段はもっと賑わっているだろうと思います。

復興の第一歩！“よつくら港”

次は再び太平洋沿岸に出て、大津波の被災地である
道の駅よつくら港　に向かいました。

道の駅ひらたを出て、再び “磐越自動車道” を走りました。

途中のいわき中央ＩＣといわき四倉ＩＣ間は災害復旧工事区間で通行止めのため、手前の “いわき中央ＩＣ” で下りて一般道を辿りました。

途中２カ所に立ち寄ったとはいえ、南相馬の道の駅を出たのが１１時、よつくら港に到着したのが１４時４５分ですから、迂回するのに３時間４５分かかった計算になります。

この道の駅の道路情報コーナーに、“相馬・南相馬といわき間の迂廻路” の地図がありました。

この地図にはきちんと 「立入禁止区域」 と通れる道路が示してあります。

私たちは飯館村を通って川俣町に出て、国道３４９号を南下してきましたから、道の駅そうまの女性店員さんから教えて貰ったルートは、正に正解だったことになります。

ここは “いわき市” です。
いわき市といえば誰でも知っているのはこちらだと思います。

フラガールですね。
そしてこの地は、２０１１年３月１１日、東日本大震災で甚大な被害を受けました。

道の駅よつくら港も、一時閉鎖し、仮店舗などでの営業を経て、本年８月１１日にリニューアルオープンしたのです。
それまでの道のりを、この道の駅のパンフレットからご紹介したいと思います。

震災から１年半で見事に復興を遂げたのがこの道の駅なのです。

駐車場は道路を挟んだ少し離れた場所にあります。
すぐ先は海岸で、この日は結構大きな波が打ち寄せていました。

ふと目にしたのがこの光景です。
漁船が並んでいるのかと最初思ったのですが、よく見るとそれは無造作に積み上げられているようです。

おそらく被災した船舶が放置されているのだと思います。

国道側から道の駅に入ってみました。
道の駅の本体の建物の横に、“情報館” というもう一回り小さい建物があります。

こちらはまだ復旧の工事中らしく、閉鎖されていました。

道の駅はこのように、１階より２階の方が広い構造になっています。
左端に吹き抜けの部分があります。

何か大きなものがあるので行ってみるとこれでした。

２階の窓が顔の部分にきますが、青森県五所川原の “立佞武多（たちねぷた）” です。
復興を願って設置されたのでしょう。

２階に先に上がってみると、そこは “フードコーナー” がありました。
どの席からも、美しい海岸線を眺めながら食事ができます。

“展望テラス” もなかなかきれいで、外側の階段を使って直接上がってくることもできます。

１階へ下りてみました。

１階は直売コーナーになっています。

１階から海側の方に出ると、そこはテラスがあり、その先が “ふれあい広場” です。

このテラスの大きな柱には、外側を除いた３面に、子供たちが描いたと思われるメッセージがすべてに貼ってあったのです。

その一部を紹介しましょう。

大変な災害から立ちあがり、未来を目指す力強い子供たちの心をここに見た気がしました。

遠方から来た部外者である私たちには、被災された方たちの本当の悲しみや苦労は分かっていないと思います。
でも、災害を乗り越えて復興の一歩を踏み出した力強い姿をこの道の駅で見ることができました。

流鏑馬の里！“ふるどの”

よつくら港の道の駅を出て、次に向かったのは
道の駅ふるどの　です。

実はこの道の駅、私のネットで調べたデータでは 「１８時まで」 となっていたのですが、今年度の道の駅スタンプ帳には、“10：00～15：00（仮営業中）” と書いてあります。

南相馬の道の駅を出た後、車の中で嫁がそのことに気がついたので、途中で電話をしてみました。
すると、 「１８時までです」 という返事！
１５時までだったら到底間に合わなかったので、一安心しました。

“古殿町” は人口が６１００人強、面積の８割を山林が占め、標高３００～５００ｍに位置する自然豊かな町です。
町内には “鎌倉岳” “三株山” というふたつの山があり、“大風川渓谷” という景勝地があります。

樹齢４００年、高さ２０ｍの “越代のサクラ” という 「森の巨人たち百選」 に選ばれた山桜を始めとする観光スポットにも恵まれています。

“おふくろの駅” という名前のこの道の駅、おそらく大震災の影響で仮営業をしていたのでしょうが、今は通常営業に戻っているのだと思います。

玄関付近にあったこの木製のベンチ、何か彫り物があります。

左手に馬の顔、そして背もたれ部分にあるのは流鏑馬（やぶさめ）ですね。
実はこの古殿町、“流鏑馬の里” とも呼ばれているのです。

疾走する馬上から３つの的に順に矢を放つのが、伝統の神事である “流鏑馬” です。

建久５年（１１９４年）時の将軍源頼朝から社領地が与えられたのを記念し、古殿八幡神社の神事として奉納したのがはじまりといわれています。

現在 「県の重要無形民俗文化財」 に指定され、毎年１０月第二日曜日に開催されます。

この彫り物も、流鏑馬に因んでいるのでしょう。

道の駅はご覧の通り、どちらかというとシンプルです。

桜の巨木の写真が飾られていますが、これがおそらく “越代のサクラ” だと思います。

流鏑馬のパネルもありますね。

さて、今の時間１６時４０分です。
計画ではあと２か所を回って 「郡山市内」 に宿泊する予定ですが、どう見ても時間が足りません。

とりあえず一番遠方である “道の駅はなわ” を目指すことにしました。

天領の里！“はなわ”

２日目の最後の目的地になったのが
道の駅はなわ　です。

“道の駅ふるどの” からは３０分かかり、到着したのが１７時１５分です。

当初の計画ではこのあと、“道の駅たまかわ” に寄ってから郡山市内のホテルに向かうつもりでしたが、たまかわの営業時間は１８時までです。
距離にして約４０ｋｍありますから間に合うはずもなく、明日一番に向かうことにしました。

“東白川郡塙町” は福島県の最南部で、国道をもうちょっと南下すると茨城県です。

人口が９７００人強、地域の約８０％が山林で、農林業や観光が主な産業になります
江戸時代には内外の交通の要所であるこの地に代官所が置かれ、幕府直轄領となったことから、この道の駅の愛称が “天領の里” と名付けられました。

かつて天領の陣屋がおかれた塙町の久慈川の河畔に、この道の駅は建っています。

この道の駅、かなり大きな規模で駐車場も広いです。

駐車場の端にこんなものもありました。

幕府直轄の時のお代官様かな？(^▽^)

正面玄関から入ってみます。

入ってすぐのところが “情報コーナー・休憩スペース” ですが、ガラス越しにきれいな田園風景が広がります。

時間が遅いのでもう片付けの準備をされていましたが、ここに大きく貼り出されていたのがこれです。

警戒区域からは離れているはずなのに、こんな貼り紙をしなければならないことは残念です。

外の通路にはこんな、ほのぼのとした注意書きが貼ってありました。

そういえば、この道の駅のスタッフさんのブログ（amebaです）に、今年もツバメがやってきました、といった記事が書いてあったのを、以前読んだ覚えがあります。

さて、もっとゆっくり見て回りたかったのですが時間が遅いので早々に出発しました。
ここから郡山の市内まで６１ｋｍ、ちょうど２時間かかってホテルへの到着は１９時半を過ぎていました。

宿泊したのはＪＲ郡山駅に近い “ホテルプリシード郡山” で、ＡＮＡのパックで航空券やレンタカーとセットで予約したものです。

フロントで、「今日はスイートが空いていましたので、それを用意させて頂いています」 と言われました。

実はこの日、高校生の団体が２～３校泊っており、一般の部屋が足りなくなったのではないかと思います。
エレベーターで何人かの高校生に出会いましたが、その礼儀正しさに感心しました。

スイートルームは、リビングとベットルームの２部屋あり、それぞれに大型テレビがあります。
トイレも２か所あって、それも豪華です。
家具、調度品も普段私たちが泊るところとはまるで違います。

普段は宿泊は寝るだけと割り切って一番安いところを選びますが、今まで２～３回こんな幸運に恵まれました。

豪華な部屋でゆっくり体を休めて、明日からに備えました。

福島の空の玄関口！“たまかわ”

３日目になりました。

最初に向かったのは、昨日時間切れで行けなかった
道の駅たまかわ　です。

今日の予定は、この１か所が増えて８か所を回り、猪苗代湖付近に宿泊の予定です。

この道の駅はご覧の通り、福島空港のすぐそばにあります。

福島空港は平成５年３月に開港し、当時は滑走路が２０００ｍでしたが、平成１２年７月に２５００ｍに延長されました。
現在国内便は “大阪伊丹空港” および “札幌新千歳空港” の２か所を結び、国際線も中国東方航空とアシアナ航空が運航しています。

そして福島空港内には、道の駅たまかわの出張所があり、“空の駅たまかわ” として玉川村のアンテナショップの役割を果たしているのです。

まさに福島県の空の玄関口といえる道の駅です。

道の駅は “県道福島空港西線” の沿線にありますが、交通量もそれ程多くなく、あたりに他の建物もないところにポツンと建っていました。

駐車場もあんまり広くはなく、建物もこの１棟だけですから、いたってシンプルです。

ホテルを８時に出て、到着したのが８時５０分でしたが、ここは８時オープンですから近隣の住民と思える人たちが新鮮な野菜などを買い求めにきています。

外にでっかいかぼちゃが置いてありました。

お化けかぼちゃは、昨日行った “道の駅福島とうわ” でも見かけましたが、それより一回り以上の大きさがあります。

何とこのかぼちゃ、１４７．８ｋｇ と、１６０．４ｋｇ もあるのです。
私の体重の何倍か？

“玉川村生産物直売所” の看板があります。
“新農村地域定住促進対策事業” とも書いてあります。

全国どこでも、農村の過疎化に悩んでいるということでしょう。

ややシンプル過ぎて、レポートの材料に乏しい道の駅ではありましたが、玉川村の生産者と、安心・安全な農産物を求める消費者とを結び付ける拠点として、これからも頑張って欲しいと思います。

手つかずの自然が残る村！“季の里天栄”

本日２か所目は比較的新しい道の駅である
道の駅季の里天栄　へやってきました。

ここは福島県に２４カ所ある道の駅のうち、２３番目にできた道の駅です。
福島空港そばの道の駅たまかわからは２０ｋｍ、３０分で到着しました。

ここ “天栄村” は鶏の腿の唐揚げみたいな恰好をしています。（笑）

天栄村という名前は、村のほぼ中心にある標高８８１ｍの天栄山に由来するもので、この山にはむかし金山がありました。

この天栄山付近の “鳳坂峠（ほうさかとうげ）” が分水嶺になっていて、その東と西ではまったく気象が違います。

峠から東側（地図の右側）は降雪が少ない太平洋側気候で田園風景が広がりますが、西側（地図の左側）は冬期間最大２ｍの雪が積もる日本海側気候で、地勢は急峻、地域の９０％が山林原野です。

この道の駅は地図の右端、東部に位置しますが、この次に行く予定の “道の駅羽鳥湖高原” は同じ天栄村でありながら西側の山岳地帯にあります。

田園地帯の中にあるこの道の駅は、建物は新しいようですが比較的シンプルです。

建物前に張られたテントには、たくさんの生花や鉢植えが並んでいました。

ここにも “天栄村農林水産物直売所” という堅い看板があります。
その脇に書いてある小さな文字は、“新山村振興等農林漁業特別対策事業” とあります。

この前に行った “道の駅たまかわ” にも似たような看板がありましたが、国か県かの補助金で建設されたということでしょうか？

店内に入るとやっぱりたくさんの生花があります。
この付近、お花の産地でもあるのでしょう。

それに花の値段が驚くほど安いのです。

奥に食事処が見えます。
ここでは、そば粉１００％使用の手打ちそばが自慢なのだそうです。

さて、次は鳳坂峠の分水嶺を越えて、最も天栄村らしい、手つかずの大自然の残る山岳地帯へ向かうことにします。

東北の軽井沢！“羽鳥湖高原”

次は同じ天栄村にある
道の駅羽鳥湖高原（はとりここうげん）　へやってきました。

天栄村は前回の記事でお伝えした通り、村の中心部にある “分水嶺” を境に、西側と東側で気候も地形も全く異なります。

東側の “季の里天栄” の道の駅付近は天候も穏やかで田園地帯だったのですが、分水嶺である “鳳坂峠” を越えるとそこは豊かな自然が残る高原リゾート地なのです。

この羽鳥湖高原付近は標高が７００ｍ～１０００ｍあって、“東北の軽井沢” と呼ばれています。

“羽鳥湖” は周辺地域の水不足を解消するために昭和３１年に作られた人工湖ですが、現在では周辺に様々なリゾート施設が作られて、福島県有数の観光スポットになっています。

道の駅の入口に大きな看板がありました。

道の駅から右斜めに進むとこの高原のシンボルである “羽鳥湖” があり、湖畔にはオートキャンプ場があります。
周辺には森林の中を走る全長８ｋｍのサイクリングコースもあり、冬場は凍った湖面でワカサギ釣りを楽しむこともできます。

まっすぐに進むと、スキーリゾートからペンション村まで様々な施設があります。

例えば “ブリティッシュヒルズ” というのは、“パスポートのいらない英国” といわれ、７万３０００坪の広大な敷地内に、英国荘園領主の館など１２～１８世紀の建築様式のゲストハウスが立ち並びます。
英国の文化を体験し、研修、宿泊や食事のできる、全国唯一の施設です。

そして、道の駅から左へ進んだところにあるのが “レジーナの森” です。

横向きなので見にくいと思いますが、道の駅はこの地図の右上です。
如何に広大な施設かがおわかりと思います。

温泉付き別荘分譲地があり、宿泊施設としては“ドームコテージ”を始めとする様々な形態があります。

温泉施設があり、レストランや買い物のお店も勿論あります。

アクティビティーとしては、マウンテンバイク、フィッシング、カヌー、ゴルフ、テニスなどの施設が完備されています。

“東北の軽井沢”と呼ばれる所以が分かるような気がします。

道の駅の道路を隔てた向かい側にも、大きな洒落た建物があります。

これは“羽鳥湖高原交流促進センター”といって、都市との交流を目的に作られたものですが、羽鳥湖高原で様々なイベントが開催される時の拠点となっています。

では道の駅に入ってみましょう。

玄関口にあったのがまず、これ！
このきゅうり、ざっと数えたら袋に８～９本も入って１００円なのです。

次にこれ！
さつま芋かと思ったのですが、“ヤーコン”というそうです。

ヤーコンは、天栄村の特産品のひとつで、アンデス生まれの健康野菜です。
シャキシャキとした食感と甘みがあり、食物繊維が豊富で整腸作用や脂質の改善、血糖値の改善に効果があるそうです。

ヤーコンソフトを始め、ヤーコン茶、ヤーコンうどんなどが道の駅にも販売されていました。

ここは３０分程度で立ち去るのは勿体ない気がしました。

道の駅を出て、羽鳥湖湖畔の道路を走りましたが、湖面は木々の隙間からわずかに見える程度で、キャンプ場に下りてみれば良かったと後悔しました。

ウッドデッキテラスを備える！“しもごう”

天栄村の羽鳥湖高原を離れ、次は南会津にある
道の駅しもごう　に向かいました。

ここ “南会津郡下郷町” で特に有名なのは “大内宿” と “塔のへつり” でしょう。

“大内宿” は会津西街道の両側に５０軒ほどの茅葺屋根の民家が並び、江戸時代の宿場町の風情を今に残しています。
ここは昭和５６年に “国の重要伝統的建造物群保存地域” に指定され、年間１００万人の観光客が訪れる観光スポットです。

“塔のへつり” というのは、国の天然記念物でもあり、およそ１００万年もの長い歳月をかけて浸食と風化を繰り返し、奇岩・怪岩が林立した見事な景観です。

“へつり” とは地元の言葉で断崖や急斜面を指し、仏塔のような岩が並ぶので “塔のへつり” という名前がついたものです。

この道の駅への途中に “塔のへつり” への入口があったのですが、時間ぎりぎりで回っているので観光は断念しました。

羽鳥湖から４３ｋｍ、５０分強で到着しました。

途中少し雨が降ったので地面は濡れています。
小規模な道の駅を想像していたので、意外と大きいのに少しびっくり！

道の駅の全体図がこれです。
広場を中心に、“コ” の字型に建物が配置されています。

まず右手前にあるのが “農産物販売所” です。

正面玄関がこれで、正面右手には “テイクアウトコーナー” があります。

そして正面に向かって左手にもう一つの入口があり、私たちはそちらから入ってみました。

一番奥は “昭和なつかしギャラリー” になっています。
奥に貼ってある絵にちょっと興味を持ちました。

何かほんのりした懐かしさを感じるこの子供の絵、店内の至る所に飾ってありました。

ここは民芸品などもほのぼのとするものが多くて、見ていて飽きないのです。
商品の配置などもとっても良くできていると思います。

商品の売り場から、一段下がったところにレストランがあります。
そのレストランの外側が、“ウッドデッキテラス” になっています。

この日はあいにくの雨でテラスは使われていませんでしたが、南会津の眺望を楽しみながらの食事は気持ちが良いだろうと思います。

この道の駅ではいろんなイベントが実施されていますが、このウッドデッキテラスでは “テラスライブ” という定期演奏会も行われているのです。

ここは並べてある商品も本当に欲しくなるものばかりです。
普通の道の駅とは一味違う工夫が随所になされていて、もう一度来たくなる魅力がここにはあると思いました。

会津の南玄関口！“たじま”

下郷町から更に南下して向かった先は
道の駅たじま　です。

“南会津郡南会津町”（旧田島町）は人口が１万８千人、面積の９０％を山林が占める自然豊かな町です。

中世より８００年の歴史を持つ“田島祇園祭”は日本三大祇園祭の一つであり、祭りが開催される７月の２２日から２４日までは、全国から人口の５倍もの人々が訪れて賑わいます。

かつては江戸と会津を結ぶ“会津西街道”の要衝であり、宿場町として発展した町です。
福島県と栃木県の県境である“山王トンネル”からわずか２ｋｍの位置にあり、昔から会津の南玄関口といわれてきました。

道の駅は県境を成す“山王峠”の頂上付近にあり、標高が７４４．７ｍです。
下郷の道の駅から３６ｋｍ、４５分ほどかかって到着しました。

道の駅はご覧の通り、右半分は公園になっていって散策ができます。

建物の前にはいくつものテント販売があり、農産物などが並んでいます。

通路のタイルに、何やら模様がありますね。

一番上はたぶん祇園祭、一番下は花菖蒲ではないかと思います。
町の自慢をタイル絵で表現しているのでしょう。

店内はなかなかきれいです。
私たちはこれを買いました。

“トマトようかん”（笑）

ここ旧田島町は、トマトやアスパラガス等が特産です。
南会津の旨いトマトを練りこんだ羊羹、という訳です。

お味は　・・・・・　？
トマトの味がほんのりするような、しないような？（笑）

レジに並んでいる時にふと目についたのが、
「ＪＡＦカードをお持ちの方はソフトクリーム１００円引き」 の張り紙。

通常３００円がＪＡＦカードの提示で２００円！
これは食べない訳にはゆきません。

（パンフレットより）

ここの目玉は特産のアスパラガスのはいった “アスパラソフト”
私の前に並んだおじさんが、「アスパラソフトって、どんな味なの？」 と店員さんに尋ねました。

その返事は　・・・・・　「微妙ですね！（笑）」

結局そのおじさん同様、私たちも普通のバニラのソフトクリームを買いました。(^▽^;)

南会津の最南部！“番屋”

次は国道３５２号を20分ほど走って
道の駅番屋　へやってきました。

“南会津町番屋” は南会津地方の最南部に近く、三方を栃木県、群馬県、新潟県に接しています。

国道３５２号は別名 “尾瀬街道” といい、福島県側からの尾瀬への玄関口になります。
周囲には “会津高原たかつえスキー場” やゴルフ場があり、更に渓流釣り、新緑、紅葉のハイキング、国立公園尾瀬・田代・帝釈山への登山など様々なアウトドアを楽しむことができます。

道の駅は２０１０年１０月に、福島県２４カ所のうちの２２番目として誕生しました。

ここは駐車場がわずか１９台分、建物もこの一つだけですから、正に山あいのこじんまりとした休憩所、といったイメージです。

前回の 「たじま」 の道の駅同様、ここも “会津高原” にありますから、この場所の標高が８２１ｍあります。
冬の寒さは相当なものだろうと想像します。

この付近の特産物は、蕎麦、赤カブ、餃子ニンニクなどがあります。
標高の高い会津高原は蕎麦の栽培に適しており、特に花の咲く時期の風景は見事なのだそうです。

店内はざっくり見て、３分の２ほどが食事処です。
ここの自慢はもちろん十割蕎麦です。

そして残りの３分の１程度のスペースが土産物などの販売所になっています。

地元で採れた作物の加工品、漬け物や味噌などが中心です。
私は酒のつまみになりそうな、珍しい味噌漬けなどをいくつか買い込みました。

こじんまりして田舎っぽい雰囲気ですが、それなりの良さのある道の駅でした。

日帰り温泉施設！“きらら２８９”

次は福島県で最も新しい道の駅である
道の駅きらら２８９（ニーパーキュー）　にやってきました。

道の駅はその名前の通り、国道２８９号沿いにあります。
付近にはスキー場がいくつもありますね。

アクセスＭＡＰの道の駅のすぐ北側に “高清水自然公園” というのがありますが、ここは国内有数の “ひめさゆり群生地” です。

（南会津町ＨＰより借用）

駐車場で写真を取っていると、なぜか１匹の蜂に付きまとわれてしまいました。
なんとか振り切ったものの、その後店内では別の蜂が現れ、これは危ないので退治しました。（汗）

このメインの建物は一見平屋建てに見えますが、実は横から見るとこの下が斜面になっていて、階下があるのです。

写真には写っていませんが、この右手前の方に似たような形の２４時間トイレの建物も建っています。

階段を少し上って玄関があります。

この道の駅、正式名称は “道の駅山口温泉 きらら２８９” です。
つまり、日帰り温泉施設がメインなのです。

ご覧の通り温泉の受付や休憩所があり、階段を下りた階下が温泉になっているようです。

（道の駅パンフレットより）

ここには “リンドウの湯” と “山桜の湯” という二つの温泉があり、奇数日と偶数日で男女が入れ替わります。
大浴場、露天風呂、気泡浴、冷水浴、圧注浴、源泉風呂、ジャグジー、サウナ、うたせ湯といった様々な浴槽を備える本格的なものです。

この売り場の中で蜂と格闘することになったのは最初にお伝えした通りです。

ここ “南会津町山口”（旧南郷町）は、昼と夜の寒暖差が大きく、トマトの栽培に適していて完熟の “南郷トマト” が名産です。
そこでここのレストランの一押しはこれです。

“トマトラーメン” です。(^▽^)

麺とスープに南郷トマトがたっぷり使用されており、トマトの輪切りまで乗っています。
麺は喜多方ラーメンタイプで、スープはピリ辛味噌仕立て、ちょっぴり酸味のあるイタリアン風なのだそうです。

他に “南郷トマトソフトクリーム” もありましたが、食べてないのでコメントはできません。（笑）

会津磐梯山を仰ぐ！“ばんだい”

福島県南部の道の駅巡りから、一気に猪苗代湖付近まで北上し
道の駅ばんだい　へやってきました。

上の地図の、⑦から⑧までずいぶん離れているのがわかりますね。
距離で７９ｋｍ、１時間５０分もかかりました。

ここから宿泊のホテルまでは３０分ほどですから、万一間に合わなければ明日朝にしようと思っていましたが、１７時には到着することができました。

この周辺地図の中央が、日本百名山のひとつである “磐梯山” です。
一番下に “猪苗代湖” があります。

道の駅ばんだいが左下、そして本日宿泊するホテルが右下にあります。
磐梯山を挟んで北側を “裏磐梯” といい、ここには “桧原湖” “小野川湖” “秋元湖” があり、有名な観光スポットでる “五色沼” もここにあります。

この付近は、明日回る予定で、今回私が一番楽しみにしてきた地域です。

１７時を過ぎるとさすがに日は傾いています。
その傾いた陽射しがちょうど道の駅の建物に当たって、赤く染まっていました。

ご覧の通り、道の駅の向こうに堂々と聳えるのが標高１８１６ｍの活火山 “磐梯山” で、“会津富士” とか“会津磐梯山” などとも呼ばれます。

磐梯山の南側が “表磐梯” 北側が “裏磐梯” ですが、この表磐梯からは整った山容であるのに対し、裏磐梯からは、山体崩壊の跡が見える荒々しい姿になります。

「会津磐梯山は～、宝の～山よう～」 の唄の通り、地元には観光資源を始め様々な恩恵をもたらしてくれています。

道の駅全体はかなりでっかくて、駐車場のぎりぎり端まで行って、ようやく全体の写真が撮れました。

道の駅の配置図がこれです。

右手が “活性化センター” で、左側が “物産館” になっており、物産館にはレストラン、土産物コーナー、コンビニなどがあります。

中央の “エントランスホール” から入ると、そこはかなりの広さの休憩所になっていました。
夕方の時間ですから、ここにはあまり人影がありません。

この売り場はさすがに広くて、まさに観光地の土産物センターのイメージです。
あらゆる土産ものがここで買えます。

明日の最後にもう一度ここに来て、今回の土産は全部ここで揃えてしまおう、と言っていたのですが、結局は時間切れで再び立ち寄ることはできませんでした。

一番奥には食事処がありました。

高速のインターにも近く、何より磐梯山が目の前に聳える絶景もあって、私のお気に入りの一つになりました。

さて、本日の８カ所の道の駅を回り終え、これから今夜の宿泊地に向かいます。

今夜の宿泊は “ホテルリステル猪苗代” というリゾートホテルなのですが、これについては次回に詳しくお伝えしようと思います。

猪苗代湖を眼下に！“ホテルリステル猪苗代”

３日目の道の駅を回り終え、今夜の宿泊である
ホテルリステル猪苗代　へやってきました。

“道の駅ばんだい” からは一般道でも良かったのですが、磐越自動車道に乗り、１区間の “猪苗代磐梯高原ＩＣ” で下りれば３０分弱で到着できます。

ここは猪苗代温泉のエリアになりますが、１８階建ての高層ホテル “ウィングタワー” と 全室キッチン付きのコンドミニアムタイプの “本館” からなり、周囲に様々な施設を備えたリゾートホテルです。

全体の写真を撮っていないので、雑誌にあったＰＲページから全景を拝借しました。

到着したのが夜だったことと、あまりに敷地が広くて駐車場がいくつもあるので、しばらくうろうろしました。
私たちが泊ったのは、写真の正面にある白い、台形になった “ウィングタワー” です。

この写真の建物の真裏に正面玄関があります。

これが施設全体ですが、このほぼ中央に、本館並びにウィングタワーがあります。

この写真、本当は真っ暗なのですが、昼間のように見えますね。
ＩＳＯ3200、Ｆ３．５、シャッタースピード２分の１秒での撮影です。

朝出発時に写した写真はこちらです。

この１８階建ての１７階が私たちの部屋で、２連泊しました。
ちなみに最上階の１８階は、“エグゼクティブフロア” です。

さて、このホテルの最大の魅力はすべての部屋から、猪苗代湖と磐梯山が見える事です。

磐梯山の方は残念ながら雲に隠れていました。

猪苗代湖の写真は今月のブログスキンにも使っていますが、実に見事な景観を見せてくれました。
最初この景色を見て、水面から巨大な水柱が立っているのかと思いました。

よく見ると、山の影が映っているのですね。
湖面の途中で水面の色が変わっているので、このような情景になったのだと思います。

手前に見えている、弧を描いた２棟の建物がホテルリステルの “本館” です。
本館の先には “ハーブ園” も見えます。

全体で７０万平方メートルもの敷地を持ち、冬場はスキー場にもなるリゾート地です。
金曜と土曜に連泊しましたが、特に土曜日の夕食バイキングの人の多さには驚きました。

またいつか、泊ってみたいものです。

参考：ホテルリステル猪苗代ＨＰ

赤べこ発祥の地！“会津柳津”

４日目に入り、最初に訪れた先は
道の駅会津柳津（あいづやないづ）　です。

４日目の行程は、ホテルを出て “会津柳津” を皮切りに５カ所の道の駅を回り、時間の余裕があるので裏磐梯付近で観光し、再び同じホテルに戻って来るものです。

猪苗代磐梯高原ICから磐越自動車道にのり、会津坂下ICで下りると、まもなく到着です。
ホテルから４８ｋｍの距離でした。

今日のお天気も上々です。
道の駅の前の広場でこの日は何やらイベントがあるらしく、ステージや音響設備の設置作業が行われていました。

“柳津（やないつ）” は町の中心に “只見川” が流れ、昔は大切な舟運の動脈でした。
川岸に大きな３本の柳の木があり、そこが舟や筏の発着所であったことから、その意味の “津” をとったのが、“柳津” という地名の由来だと言われています。

柳津はまた、日本三大虚空蔵尊のひとつである “福満虚空蔵尊 圓蔵寺（ふくまんこくうぞうそん　えんぞうじ）” の門前町としても栄え、現在も年間１００万人の参拝客が訪れます。

「空蔵尊さまに年に３回お参りするとお金に不自由しない」 のだそうです。（笑）

福島を代表する郷土玩具といえばこの “赤べこ” です。

圓蔵寺建立の時の難工事に、どこからともなくふらりと現れた赤牛が、大変な活躍をしたのだそうです。
その赤牛を祀ったのが、この境内にある “撫牛（なでうし）” です。

この牛を撫でながら願い事をすると成就するのだそうです。
そして、これを子供の守り神として作ったのが、“赤べこ”の発祥なのだそうです。

ということで、私のスマホのストラップも、“赤べこ”です。（笑）

道の駅全体の配置がこれです。
美術館が隣に併設されていますが、こちらには行っていません。

そして手前にトイレがありますが、このなかに休憩室があり、道の駅スタンプはそこに置いてありました。

木陰で人々が休憩しています。

こちらが物産センターの入口です。
そして玄関先にあったのがこちらです。

う〜ん！こんなところにも　・・・・・　！
福島の人たちには最大の関心ごとかもしれませんね。

赤べこグッツが、たくさん並んでいました。（笑）

奥会津の玄関口！“尾瀬街道みしま宿”

国道２５２号を約９ｋｍ南下して
道の駅尾瀬街道みしま宿　へやってきました。

国道２５２号はほぼ “只見川” に沿って走っています。
柳津から山間部を走り、駒嶋瀬トンネルを抜けるとすぐ右手に道の駅はありました。

“大沼郡三島町” は自然豊かな奥会津の玄関口であり、道の駅はその三島町の入口に位置します。

“只見川” は尾瀬湿原を源流とした１級河川で、奥会津の森林地帯をゆったりと流れ、流域に潤いと恵みを与える大河です。

道の駅はこの只見川の流域にあり、徒歩１５分ほどの所には只見川とＪＲ只見線の鉄橋を一望できる絶景があって、多くのカメラマンが訪れるビューポイントなのだそうです。

道の駅の建物は周りの大自然にマッチした、ユニークだけど風情を感じるデザインです。

店内はすごく天井が高く、そして解放感があります。

“がんばろう福島” の文字があります。
ここもやはり、震災で大きな被害を受けたのでしょう。

店内の手前半分は吹き抜けですが、奥は２階建ての構造になっています。

森林地帯である三島は “桐” が特産で、桐ダンスを始めとする工芸品がこの２階には展示されています。

１階の奥はレストランですが、まだこの時間は準備中です。
ここの椅子とテーブルもなんだか、建物と同じようなイメージですね。

道の駅から１５分ほどの距離のところに、只見川を遊覧船で下る 「舟下り」 の乗り場があり、ちょうど今の季節は断崖絶壁を彩る紅葉が美しいだろうと思います。

赤べこが出迎え！“にしあいづ”

本日４か所目は３０分ほど走って
道の駅にしあいづ　へやってきました。

この道の駅の正門では、両側にいる“赤べこ”が迎えてくれます。

道の駅の建物は、“物産館”（上）と“トイレ・休憩所”（下）の二つの建物からなっています。

これがざっくりとした、敷地内の配置です。
この道の駅、右手前のところに水槽が３基埋めてあります。

道路の雪を流す為の施設で、我が九州では考えられない設備です。

物産館への連絡路の途中に、こんなキャラクターがいました。

この西会津町のイメージキャラクターは“こゆりちゃん”といいます。

霊峰飯豊山からの使者でオトメユリの妖精なんですが、西会津町で暮らすうちに町の人々を好きになり、居座っているのだそうです。

２０１２年度のゆるキャラグランプリにもエントリーして、出場者８８０名の中で、こゆりちゃんは１３５位の人気でしたね。

物産館の入口にもちゃんと両側に “赤べこ” がいます。

商工会女性部の方から贈られたようで、お花まで背負っています。

ここの売り場はなかなか広くて、いろんな会津の土産物が揃っています。
私が特に気に入ったのはこちらです。

なんだかほっこりとしますね！
私にぴったりの言葉が見つからなかったので買わなかったけど！(^▽^;)

代わりに赤べこのマスコットを買いました。

こんなＴシャツも福島や岩手なんかではよく見かけます。

なかなか魅力ある道の駅でした。

蔵とラーメンの街！“喜多の郷”

次はラーメンで全国的に有名な喜多方（きたかた）にある
道の駅喜多の郷　にやってきました。

地図でお分かりの通り、にしあいづの道の駅からは北東方面にあり、距離は３７ｋｍ、５０分ほどかかって到着しました。

先程まではずっと晴天だったのに、ご覧の通り空模様が怪しくなってきました。
いつ降りだしてもおかしくない雰囲気です。

ここ “喜多方市” は “蔵の町” として有名です。

喜多方市はかつては 「北方」 と呼ばれていて若松城下と米沢を結ぶ街道の町として栄えてきました。
江戸時代には物資の集積地として多くの蔵が建てられ、今でも喜多方市には４１００棟以上もの蔵が広く分布しています。

喜多方に多くの蔵が建てられたのには、いくつかの要因があります。

①物資の蓄えに必要だった。
②醸造業や漆器業に最適だった。
③明治１３年の大火でその耐火性が見直された。
④蔵を建てることは男の一生の夢だった。
⑤蔵造りの名工が数多くいた。

これらの理由で喜多方は、“蔵の町” と呼ばれるようになってきたのです。

もう一つ誰でも知っているのは “喜多方ラーメン” ですね！

喜多方ラーメンが日本三大ラーメンの一つといわれて四半世紀になるそうです。
日本三大ラーメンは、喜多方、札幌、福岡の３つです。
我が “福岡のとんこつラーメン” も入っていて良かった！(^▽^;)

喜多方ラーメンの歴史は大正末期から昭和初期にさかのぼります。
当時は市内にラーメン店は１軒もありませんでした。

中国から渡ってきた一人の青年が、チャルメラを吹きながら屋台を引いて支那そば（ラーメン）を売り歩いた、その手づくりの支那そばこそが、喜多方ラーメンの元祖なのだそうです。

喜多方ラーメンが何故これほどまでに有名になったかというと、“蔵のまち喜多方” の写真を撮りにやってくる観光客の口コミから全国に広がったと言われています。

これは道の駅で貰った喜多方ラーメンの食べ歩きガイドマップです。
このマル印がすべて喜多方ラーメンのお店ですが、市内には１００軒を超すラーメン屋さんがあるそうです。

ちなみにこのガイドマップには、この地図にある４５軒のラーメンの写真、特徴、だしの種類、麺の太さなどが細かく記されており、食べたラーメンにはチェックを入れるようになっています。

まるでスタンプブックさながらで、全店制覇を目指したいですね！（笑）

これが道の駅の全体の配置図ですが、③のＬ字型になった建物が “レストラン＆お土産” の “ふるさと亭” です。
その手前にある④が “観光案内所” になっていて、ここには常駐の職員さんがおられて色々と親切に教えてくれます。

この写真がふるさと亭の更に奥にある “①日帰り温泉 蔵の湯” です。
配置図で見ると奥がずいぶん広いのですね。

ふるさと亭と蔵の湯の中間にあるのが “②展示館 四季彩館” で、喜多方の歴史、文化、風土を伝えるインフォメーションセンターになっています。

ふるさと亭の入口には、“ラーメンバーガー” なるポスターが！！

実はこの道の駅のオリジナルメニューは、

●ラーメンバーガー
●ラーメンピザ
●ラーメン丼

なのです！（笑）

でも、お昼はここではなくて次の道の駅で食事したのです。

どんな味かレポートできずにすみません！m(__)mｺﾞﾒﾝﾅｻｲ!

やはりここも福島県！
こんな商品がたくさん並んでいました。

ここは赤べこだけではなくて、“絵ろうそく”も特産なんですね！
色とりどりの絵ろうそくがとっても奇麗でした！

磐梯朝日国立公園！“裏磐梯”

次はいよいよ磐梯朝日国立公園内の高原リゾート地にある
道の駅裏磐梯　です。

“北塩原村” は人口が３２００人ほどの農業と観光の村です。

明治２１年７月１５日の磐梯山大爆発により、多くの川がせき止められて桧原湖、五色沼などを始めとする約３００もの湖沼が誕生し、福島屈指の観光地である “裏磐梯高原” が作られました。

ここにはホテル・旅館・ペンション・民宿などが立ち並び、登山やキャンプ、野鳥の探鳥、秋の紅葉や冬のスキーやクロスカントリー、氷上のワカサギ釣りなど、一大高原リゾート地として年間３００万人もの観光客が訪れます。

ここは “磐梯朝日国立公園” に属しますが、１９コース、総延長８０ｋｍにも及ぶ探勝路が整備されていて、高原の大自然を心ゆくまで楽しむことができます。

この周辺の詳細地図ですが、道の駅は左上、桧原湖岸の国道４５９号沿いにあります。

私たちは西側の喜多方からやってきましたが、“磐梯山ゴールドライン” “磐梯吾妻レークライン” “母成グリーンライン” という３つの山岳有料道路があり、更に猪苗代湖からの道路もあるので、全部で５つのルートがあります。

ちなみにこれらの山岳有料道路は、私たちが行った時にはすべて無料開放されていました。

道の駅裏磐梯は、“物産展示販売施設” と “農産物直売施設” の２つの建物があります。

まずは物産展示販売施設の方に入ってみます。

ここには４００年の伝統のある会津漆器や、特産品である花豆、じゅんさい、山塩などが売られています。

店内をさらっと見て、私たちが向かったのは奥にあるレストランです。

食券を買ってセルフ方式ですが、私が注文したのは勿論これです。

喜多方ラーメンですね。(^▽^)

私が食べ慣れたこってりとした豚骨ラーメンに較べるとあっさりしていますが、これもなかなか旨いものです。

お腹を満たして満足し、外に出ると “森のアイス工房” なるスイーツの店があります。
ここの人気は “元祖そばソフト” なんだそうですが、次の予定があるのでここでのソフトはパス！

一番左にある建物が、“農産物直売所” です。

お気づきかと思いますが、ここへ来た時はまだどんよりとしていた空が、食事をしている間に晴れてきました。

ご覧のように、すっきりとした青空になりました。ヘ(゜∀゜*)ノ

今の時間は１３時半です。
ここで本日の予定した５か所の道の駅はすべて回り終えました。

折角東北を代表するリゾート地にやってきたのですから、これからの時間は “観光” です。
まずは “桧原湖” の景観を次回にお届けすることにします。

裏磐梯最大の湖！“桧原湖”

道の駅裏磐梯から五色沼に向かう途中、
桧原湖（ひばらこ）湖畔　に立ち寄りました。

道の駅を出るとまもなく、眼下に桧原湖の湖面が広がってきます。

明治２１年の磐梯山の大爆発で川がせき止められて誕生した約３００もの湖沼の中で、桧原湖は最大の面積です。
湖の周囲が３１．５ｋｍ、水深が３１ｍあります。

この美しい湖ですが、これが誕生した大噴火では５００名以上の方々が犠牲になっただけではなく、現在の湖の底にあった “桧原村” が水没し、地域社会がそっくり消滅しています。

今でも湖水位の変動により、当時の鳥居や墓石が顔を出す場所があるのだそうです。

そのような犠牲を出して誕生した湖も、現在では観光遊覧船が浮かび、キャンプ場やホテルができ、夏はバスフィッシング、冬は氷上のワカサギ釣りなど、四季を通じてのアウトドアレジャーの拠点となっています。

広い駐車場のあるこの遊覧船乗り場からは、１日に６～７便、約３５分間の遊覧を楽しむことができます。
私たちがいた間にも、遊覧を楽しんだ人々が大勢船から降りてこられました。

駐車場の周囲には土産物店や食事処、宿泊施設が立ち並んでいました。

このような美しい景観を作り上げ、多くの観光客が訪れるようになったということは、やはり磐梯山は “宝の山” なのかもしれません。

次は、今回一番の楽しみにしていた “五色沼” に向かいます。

さて、裏磐梯を代表する観光スポットといえば
“五色沼” だと思います。

先程道の駅裏磐梯、桧原湖遊覧船乗り場、と辿ってきましたが五色沼はこの地図の位置にあります。
五色沼の部分を更に拡大するとこのようになります。

“五色沼” は以前にも触れましたように、明治２１年の磐梯山の水蒸気爆発によって山体崩壊が起こり、その岩屑なだれで川が堰きとめられてできたものです。

堰きとめられてできた湖沼は全部で３００余りですが、五色沼周辺には数十があり、その内の９つ程の沼を結ぶ “五色沼自然探勝路” が整備されています。

この五色沼は 「遠藤現夢」 という人物が、、山体崩壊の土砂・岩によって荒れた地域を再生させようと私財を叩いて植林を始め、やがて探勝路が整備されて福島を代表する観光地に発展したものです。

五色沼の探勝は通常、地図の東側（右端）にある “五色沼入口” の無料駐車場に車を停め、７０分ほどをかけて西側（左端） “裏磐梯高原駅” まで歩き、そこからバスで五色沼入口の駐車場に戻ります。

私たちは駐車場に車を停め、バスの時間を調べてみると１時間に１本か２本、ちょっと時間が厳しいので半分の位置から引き返すことにしました。

駐車場には、この写真にある “裏磐梯ビジターセンター” があります。

ここの案内所で探勝路の歩き方をざっくりと教えて貰ってから出発です。

ビジターセンターの裏をしばらく歩くと、このハイキングコース入口に到着しました。
最初からここに車を停めればもっと早かったことになります。

ここには、こんな看板が！！(((゜д゜;)))

土産物屋を通り抜けると、そこには “五色沼展望台” があります。
ここが一つ目の “毘沙門沼” です。

毘沙門沼は９つの沼の中で最大の大きさで、ボートが浮かんでおり、鯉が泳いでいます。
ここには、ハート形の模様のある鯉がいるそうなんですが、発見できませんでした。

磐梯山は南側の “表磐梯” からはきれいな富士山の形をしていますが、北側 “裏磐梯” からはご覧のように山体崩壊により、荒々しい姿を見せます。

ここから探勝路がスタートしますが、さっそく岩だらけの歩きにくい山道に差し掛かります。
“毘沙門沼” が大きいのでしばらくはずっと毘沙門沼の淵を歩きます。

再びこんな看板が！

まあ、たくさん人が歩いていますから、こんな時にクマさんも遠慮して出てこないでしょう。(;^_^A

ところで皆さんは、“湖” と “沼” と “池” の違いはわかりますか？
国土地理院による区別は、ざっとこんなものです。

【湖】　約５ｍ以上の水深で、岸には植物がはえていますが、中央の深いところには植物がないもの

【沼】　湖より浅く（５ｍ未満程度）深いところにも植物がはえているもの

【池】　地面にできたくぼみに水のたまったところ。普通、湖沼より小さいもの。人工的に作られたもの

ただ、人工的に作られたダム湖などは “湖” と普通呼ばれますから一概には言えませんね。

一説によると、カッパの棲んでいるのが “沼” で、棲んでいないのが “池” ともいわれていますけど！（笑）

毘沙門沼の第二展望所です。
ずいぶん歩いたのに、まだ毘沙門沼か、とちょっとがっかり！

そしてようやく２番目の “赤沼” に到着！
でも、別に赤くはないぞ！（笑）

赤沼は夏は青緑色、冬や春先にかけては抹茶色と、季節によって色が変わるのだそうです。
強酸性の水質の為植物の根元に鉄分が付着し、沼の淵が赤く見えるのが名前の由来といわれています。

この探勝路は結構上り下りのある山道で、所によっては大きな岩がごろごろしていて歩きにくいものです。
そこを、小学生らしい集団が走って追い越して行きました。

早い者、遅い者がいるらしく、しばらくその流れは続いたのですが、先頭集団らしい折り返してきた小学生が私たちに、「頑張って下さい！この先にすごく景色のいいところがありますよ！」 と声を掛けてくれました。

小学生に励まされてちょっと驚いたのですが（笑）、その先には “深泥沼（みどろぬま）” がありました。

小学生が言ったとおり、それは美しいと思いました。

“深泥沼” は沼の西側と東側で水質が異なる為に、場所によって水の色や透明度が違うのだそうです。
手前が濁っていて奥に行くに従って徐々に水が澄んでくるので、このようなグラデーションになります。

浅いところに生えている植物の色がそれぞれ違って美しさを引き立てています。

ここが探勝路のほぼ半分の距離になります。
私たちは更に５分ほどの水場まで行って、そこから引き返すことにしました。

参考までに、残りの沼を紹介しておきましょう。

“弁天沼” 毘沙門沼に次いで大きな沼で、水際を背の高い水草がぐるりと囲んでいます。

“るり沼” 水底を覆っている苔が日光を反射するので、時間帯によって微妙に色が変わる。

“青沼” 深い青色が特徴。水質がカルシウムと硫酸イオンを含んでいて、水に浸かった植物が漂泊されている。

“柳沼” 透明な水なので周りの緑がそのまま映りこんでいる。

機会があれば、もう一度全部を歩いてみたいものです。

そして出発点に戻ったら、当然これです！

これは “五色沼ソフト” といって、五色沼の微妙な色を再現しているらしい！

でも、お味は嫁が注文した普通のバニラソフトの方が美味しかったような！？

ここから宿泊地の “ホテルリステル猪苗代” までは一般道を走れば早いのですが、私たちは遠回りして“磐梯山ゴールドライン” を走りました。

無料開放されているので、料金所はありますが無人です。

こうして４日目が終わり、いよいよ明日は最終日になりました。

峠のオアシス！“つちゆ”

いよいよ最終日、５日目になりました。

本日最初に向かうのは土湯温泉で有名な
道の駅つちゆ　です。

最終日の道の駅の訪問予定はわずか４か所です。

仙台空港からの福岡便は１９時２０分の出発で十分に時間に余裕があるので、この磐梯周辺、あるいは宮城、山形にまたがる蔵王周辺で観光しようと考えていました。

ところが、昨日からのニュースによると台風１７号が近付いていて、既に近畿や中部では飛行機の欠航が相次いでいます。

１９時２０分ということはもしかすると仙台空港も影響が出て、帰れなくなる可能性があります。
とにかく急いで４か所の道の駅を回り終えて、空港に問い合わせてみることにしました。

猪苗代湖近くのホテルを出発して山岳道路である国道１１５号を東へ向かい、４０分弱で道の駅つちゆに到着しました。

道の駅は９時のオープンですが到着は８時４０分、まだ閉まっていました。
ここは平成５年４月に福島県内で最初にできた道の駅です。

この道の駅、ご覧のように周辺を “安達太良連峰” を始めとする山々に囲まれており、標高が８００ｍあって非常に見晴らしのよい峠です。
“磐梯吾妻スカイライン” “磐梯吾妻レークライン” “母成グリーンライン” などを走るドライバー、ライダーたちの、ひと時の休憩を楽しむオアシスにもなっています。

更に、“土湯温泉” “野地温泉” “岳温泉” といった、歴史ある名だたる温泉が周辺には点在しています。

まだ開店前だというのに、随分多くのドライバーやライダーが集まっているのがわかりますね。
空が澄み切っていれば、福島市内が一望できるのだそうです。

道の駅には上の写真にもあったように広い公園があり、雄大な景色の中でゆったりとくつろげます。

屋外にもテラス席があって、なかなか気持ちが良いものです。

９時少し前に、ようやく開店しました。

ここには地域の特産品を販売する売店と、うどん、そばなどの軽食コーナーがありました。

お店の規模はそれ程大きくないけれども、周囲の美しい景観と澄んだ空気がなによりの道の駅といえます。

智恵子のふるさと！“安達”

最終日の２か所目は
道の駅安達　にやってきました。

道の駅安達は福島市と郡山市の中間にある “二本松市” （旧安達町）にあります。

国道４号の上り車線にある為、逆方向から走ってきた私たちは一旦通り過ぎ、しばらく先の陸橋を渡って引き返してきました。

ちょうど、自動車専用道路のサービスエリア、といったイメージの道の駅です。

ここ “安達” の地は、「智恵子抄」 で有名な詩人 “高村光太郎” の妻 “智恵子” のふるさとです。

「あれが阿多多羅山（安達太良山）、あの光るのが阿武隈川、ここはあなたの生まれたふるさと、あの白壁の点々があなたのうちの酒倉・・・・・・・」 というのが智恵子抄の一節です。

その安達太良山を西に仰ぎ、北東を阿武隈川が流れる位置に、この町はあります。

そして智恵子の言う 「本当の空」 がこの町にはあるのです。

建物群の一番左端に、ドーム型の建物がありました。
これは実は、トイレです。

これは “おもてなしトイレ” といって、過去に 「グッドトイレ１０賞」 の表彰を受けています。

道の駅を設計するときにもっとも大切な施設として議論されたのが、道の駅を訪れた人の約８割が利用するトイレです。
「道の駅にはきれいなトイレがあるといい」 という思想のもと、掃除し易さに重点をおいて設計され、常に奇麗に清潔に保って、お客様をもてなすことを第一と考えられてきました。

おもてなしトイレの隣は “ふれあい広場” があり、この日はテントを張っての物販が行われていました。

雨の日でも濡れない通路が周囲に巡らされています。

その先に “地域物産センター” の入った建物があります。

ここにはお土産物や軽食コーナーなどいくつものお店が入っていて、見て回るのがなかなか楽しいものです。

道の駅スタンプは３か所に置いてあり、コンビニの中にあるのは２４時間押すことができます。
この手作り感のある案内図もなかなか良いですね。

右端には “二本松市和紙伝承館” があります。

千年の伝統がある “手漉き創作和紙” が今日まで伝わっており、この伝承館では紙漉き体験もできるようになってます。

安達太良山、阿武隈川の雄大な自然環境を有し、充実した施設とお客様をもてなす心をあわせ持ったすばらしい道の駅だったと思います。

シルクの里！“川俣”

次にやってきたのは、国道１１４号沿いの
道の駅川俣　です。

道の駅川俣の位置関係はこのようになります。

今回の旅の２日目に南相馬から飯館村を経由してこのすぐ近くを通ったのですが、時間が厳しかったので立寄らなかったものです。

道の駅安達からは３０分ほどの道のりでした。

この大きなシンボルタワーが目につきます。

“伊達郡川俣町” は福島市からは２０ｋｍ、阿武隈山系の山あいにあって、人口１６０００名ほどの町です。
古くから養蚕が盛んで、福井、群馬と並んで “絹の里” として有名です。

このシンボルタワーは、おそらくその絹織り機をイメージしたのではないかと思います。

この道の駅も、その絹織物の産地としての伝統を後世に伝えるといった目的をもって作られており、敷地内に “おりもの展示館” や 織りと染めの体験施設である “からりこ館” が併設されています。

これが、おりもの展示館の建物です。
今回中には入りませんでしたが、織物の歴史、伝統技術、生活文化等を紹介する施設になっています。

道路側から入ると、まずトイレの建物があってその先に “かわまた銘品館 シルクピア” があります。
どうやらこれがメインの建物のようです。

普通の道の駅とちょっと様子が違うのは、玄関から入った正面がお肉屋さん（？）になっていることです。

ここは味の良さで定評のある “川俣シャモ” の産地ですから、その売場だったのかも知れません。

そしてそのすぐ横には、ネクタイ、スカーフといった絹織物の売り場があります。
肉類の売場、絹製品の売場、いずれもいつもの道の駅とは、ちょっと雰囲気が違うようです。

ここの２階がレストランになっています。

そして銘品館シルクピアの正面にあるのが農産物の直売所である “愛菜館” です。
ここでは、地元の取れたて野菜や加工品、季節の花などが販売されています。

銘品館シルクピアの横には公園があり、その右奥の不思議な形をした建造物が “からりこ館” です。
ここは絹織物の歴史、伝統技術の紹介に加え、機織り、染色に関する研修や体験学習のできる施設です。

“絹のまち川俣” のシンボルとして、伝統を受け継ぎ、守ってゆく目的を背負った道の駅といえます。

さてこれで福島県の道の駅をすべて回り終えました。
残るは、初日に回れなかった宮城県の１か所のみとなりました。

歴史と蔵の町！“村田”

いよいよ今回がシリーズ最終回になります。

５日目の最後に訪れたのは宮城県で１か所だけ残っていた
道の駅村田　です。

福島から東北自動車道を一気に北上し、村田ＩＣを下りるとすぐのところに道の駅はあります。
ここからだと仙台空港は近いのです。

インターチェンジを下りてすぐの標識です。
“蔵の町並み” という表示があります。

村田町はかつて、紅花の商いで栄えた町です。
その商いの為の蔵が立ち並び、その町並みは “紅花街道” と呼ばれていました。

豪華な土蔵や門構えはその頃の繁栄を物語り、“みちのくの小京都 「蔵の町村田」” とも称される地域なのです。

この道の駅もその “蔵の町” に相応しく、ご覧のような立派な門構えであり、建物も “蔵” をイメージしています。

この日は日曜日ともあってとくにお客が多く、数人のガードマンが忙しく車の誘導をされていました。

最初に目についたのはこの建物なのですが、こちらは “村田町歴史みらい館” という博物館でした。

みらい館の入口にあったこの銅像、村田町名誉町民である、オリンピック重量挙げ金メダリストの “三宅義信” 氏です。

銅メダルを獲得した三宅義行氏は弟、ロンドンオリンピック重量挙げ女子銀メダリストの三宅宏実は姪にあたります。

歴史みらい館と駐車場を挟んだ反対側にあるのが、道の駅本体である “村田町物産交流センター” です。

建物はまさに “蔵” のイメージですね。
この日はイベントでもあっていたのでしょうか、とても賑やかです。

無事にスタンプを押して宮城県を制覇、そしてこの駅をもって東北の道の駅すべてを回り終えました。
原発の影響で閉鎖中の “ならは” と、私が回ったあとにオープンした秋田県の “大館能代空港” は残りますが、これは仕方が無いですね。

ネットでニュースを確認すると、台風の影響で既に大阪空港と中部空港はほとんど欠航になっているようです。
仙台空港に問い合わせようと電話帳を探しましたが見つからず、とりあえず急いで空港に行ってみることにしました。

レンタカーを返却し、空港に到着したのが１３時２０分です。
ＡＮＡの窓口に行って、「19：20が欠航になると困るから、早い便に変更できないか？」 と相談しました。

考えてみると大阪伊丹空港や中部空港での乗り継ぎは使えない訳ですから、14：10発の直行便しかないことになります。

画面を確認していたＡＮＡの女性が、「14：10発が３０分ほど遅れていますが、最後尾の席で良かったらご用意できます」 と返事をくれました。

おかげでその日の１７時前には無事、福岡に戻って来ることができました。

今回の回った道の駅は２９カ所。
走行距離１３４８ｋｍでした。

福島・宮城の旅、永い間お付き合いいただき有難うございました。
次の遠征は来年３月を予定しています。

来年は、岐阜県、長野県をまわり、まず中部を制覇したいと思っています。

それまでの間は、九州や山口など日帰り圏内でまわれる道の駅を紹介する予定です。

福島県の新しい道の駅！“奥会津かねやま”

今日は新しいシリーズの第１回目です。

５月２１日から２５日までの５日間の旅ですが、回ったのは栃木県、茨城県、群馬県の北関東がメインで、それ以外に福島県と新潟県の新しい道の駅を訪問しました。
従って今回のシリーズは、「北関東の旅」 と名付けることにしました。

新潟空港に下りてレンタカーを借り、まず最初に福島県に新しくできた
道の駅奥会津かねやま　を目指しました。

福岡空港を７時４５分に飛び立ち、新潟空港に９時１５分に到着しました。
今回、北関東を回るのに新潟の発着としたのには、二つの理由があります。

一つは、羽田空港の発着にすると首都圏の高速を走らなければならなくなり、田舎者の私には苦手だからです。
二つ目は、折角ならルート上にある福島県と新潟県の新しくできた道の駅も一緒に回ってしまおうと考えたからです。
それに、福岡と新潟間は飛行機の時間帯の都合がよく、朝早く着いて帰りもゆっくりできるのです。

今回のレンタカーは、ＡＮＡの航空券とセットでオリックスレンタカーを使い、５日間で約25,000円と格安でした。
ちなみに航空料金は、４５日前予約で一人往復32,900円です。

今回の相棒は、マツダの “デミオ” でした。
このクルマ、最終的に計算するとリッター19.8ｋｍ走りましたから、なかなか経済的です。

新潟空港ＩＣから高速に乗り、磐越自動車道を一気に “会津坂下ＩＣ” まで走り、そこからは国道２５２号を辿ります。
途中、“道の駅会津柳津” や “道の駅尾瀬街道みしま宿” の前を通るので懐かしさが込み上げますが、立ち寄る時間の余裕はありません。

道の駅奥会津かねやまには、１１時４０分に到着しましたから、空港を出て２時間強かかったことになります。

この道の駅は、約１年前の２０１３年４月にオープンしました。
新しくできた道の駅をわざわざここだけ訪問することはできませんから、今回は良いチャンスだったと思います。

この付近の地図をパンフレットからお借りしました。
“福島県大沼郡金山町” というのは、奥会津の名の通り福島県のまさに西の奥に位置します。
尾瀬を源とする “只見川” が流れ、情緒ある日本の原風景の中を走る “ＪＲ只見線” の “会津中川駅” のそばにあります。

近くには、カルデラ湖の “沼沢湖” があり、越後山脈を挟んで新潟県と接しています。
緑豊かな山々に囲まれ、数多くの温泉が点在する自然豊かな町です。

道の駅の建物はご覧のようになっています。
Ｌ字型の建物に囲まれた部分が中庭です。

右奥の部分がレストランですね。
そしてこの敷地内にはこんな建物も！

これは、“旧五十島家住宅（いがしまけ）” といい、江戸時代に建てられたと推定される農家住宅で、県指定重要文化財になっています。

ここは配置図では “多目的ホール” ですが、商品が並べられています。

その一角にはこんなものが！
昔の通信設備なのでしょうか？

この写真の左手がレストランです。

“いわなのこつ酒” というのを見つけて思わずパチリ！
味わうわけにはいかないけれど、どんな味がするのでしょう、気になります。

さて次はいよいよ栃木県の道の駅に向かって走ります。

合戦場のしだれ桜！“さくらの郷”

いよいよ福島県に入り

道の駅さくらの郷 を目指しました。

袋田の滝を出発し、しばらくして県境を越えると福島県です。
福島空港近くで東北自動車道に乗り、郡山ＪＣＴを右方向に進路をとって磐越自動車道に入ります。

船引三春ＩＣで高速を下り、そこから約２０分一般道を北上します。

ここは国道３４９号と国道４５９号が交わる付近にあり、いわゆる“中通り”と呼ばれる地域です。
かつて震災の時に、“中通り”が震度***　“浜通り”が震度***　といった報道がされていましたね。

実は２０１２年９月に私が初めて福島県の道の駅を回った時、この道を通ったことがあります。
その時は福島原発事故の影響で海側の道路がほとんど通行禁止になり、この道を走って大きく迂回する必要があったのです。

ここから車で５分程の距離に“道の駅ふくしま東和”というのがあり、そこに立ち寄ったあと、ようやく復旧工事の終わった磐越自動車道、常磐自動車道を経由して太平洋側の“よつくら港”に向かいました。

一度通ったはずの道だけど、残念ながら風景などはよく覚えていません。

ご覧のようにこの周辺、雪が積もっています。
道路は全く問題ありませんが、３月中旬というのにこの雪景色、九州から来た私たちには驚きでした。

でもこの後、それよりはるかに雪国の凄さを思い知らされることになります。

道の駅さくらの郷は２０１３年の登録です。
ですから新しい道の駅のはずですが、建物自体は以前からあったような、やや古い印象を受けました。

“さくらの郷”という名称ですが、ここから約１ｋｍのところに“合戦場のしだれ桜”というのがあります。
「合戦場」というのは、その昔ここが八幡太郎義家と安倍貞任・宗任との合戦場であった、という言い伝えがあるからです。

ここに推定樹齢１７０年のしだれ桜があります。
「三春の滝桜」 という有名な桜がありますが、ここはその孫桜にあたり、ベニシダレザクラという種類です。

（ＨＰより参考画像としてお借りしました）

つい最近、テレビ番組でこの桜の事が報道されていたのですが、これは全くの個人の敷地内に咲く、個人の所有なのだそうです。
現在のご当主が年間を通して手入れをし、手前の敷地には菜の花を植え、開花時期には周囲に杭を打ってロープを巡らし、観光客に無償で開放されるのだそうです。

何の報酬も利益も無いのだけど、見知らぬ人たちが毎日大勢来て、「美しい」 と会話をしているのを聞くのが何より嬉しいのだそうです。

さて道の駅ですが、左と右の二つの建物があります。

どうやら左側（写真の上）が直売所で、右側（写真の下）が本来食事処とトイレのようですが、その右手の建物は何やら工事中の様子で、トイレしかありません。

道の駅スタンプは、その二つの建物の隙間に建てられたバラックのような部屋に置いてありました。

とりあえず直売所の建物に入ってみます。

ここには道の駅のパンフレットも無く、町を紹介する資料も見当たらなくて、やや特徴や個性に乏しい印象を受けました。
しだれ桜の開花時期には、もっと多くのお客さんで賑わうのかもしれませんね。

さてここから船引三春ＩＣまで戻って磐越自動車道に乗り、次は猪苗代湖近くの道の駅に向かいます。

磐梯山を仰ぎ見る！“猪苗代”

福島県の２カ所目は

道の駅猪苗代 に向かいました。

船引三春ＩＣから再び磐越自動車道に乗り、郡山ジャンクションを過ぎたあたりから天気が下り坂になり、とうとう雪が舞い始めました。
日中なのに、気温は２度くらいまで下がっています。

猪苗代湖湖畔に近い “猪苗代磐梯高原ＩＣ” で一般道に下りると、道の駅はすぐ目の前にありました。

雪が舞っているのが写真でお分かりでしょうか？
そして何より驚いたのはこの雪の量です。

３月中旬といえば九州では既に春先なのに、ここではこんなに雪が積み上げられていました。
そして周囲の山々も当然雪景色ですが、道の駅の北側に聳えるのがこの山です。

山頂付近は雲に覆われていますが、ご存知 “会津磐梯山” です。

この道の駅は南側に歩けば１０分足らずで “猪苗代湖” の湖畔に至り、北側はご覧の磐梯山と、絶好のロケーションです。

それ以外の方向も、ご覧のような雪山がぐるりと取り囲んでいます。

道の駅の前にうず高く積み上げられた雪は、おそらく駐車場を除雪したものだと思います。

だから駐車スペースや歩道はご覧のとおり綺麗です。

道の駅の施設概要をＨＰよりお借りしました。

この道の駅は、昨年（２０１６年）１１月にオープンしたばかりです。
ですから建物自体が新しく、内部もとってもお洒落な造りになっています。

道の駅の登録証の横に、ここでも 『重点道の駅』 の選定証がありました。

今回の旅では、「道の駅季楽里あさひ」　「道の駅ひたちおおた」　「道の駅常陸大宮」 に続いて４カ所目です。
この選定証をご覧いただくと、“（仮称）いなわしろ”とひらがなになっています。
オープン前の平成２６年度に選ばれたもので、その選定理由としては

・磐梯山の火山噴火などの災害リスクに対する総合防災拠点として整備
・緊急時は観光客や地域住民の避難所、ヘリポート、モータープール、情報発信基地としての機能
・平時は賑わいの創出と、災害時の食料確保

などが挙げられています。

磐梯山は有史以来４回の火山噴火があり、特に明治２１年の水蒸気爆発では山体崩壊が起こり、これにより川がせき止められて五色沼などが誕生しましたが、多くの犠牲者もでています。

普段は美しい山だけど、そういったリスクへの備えも日頃から必要だということですね。

この３枚の写真が“情報コーナー”で、観光案内の常駐の職員の方もおられます。
道の駅のパンフレットは見当たらなかったのですが、さすがに観光地らしく色んなパンフレットが並んでいます。

“耶麻郡猪苗代町”は、まさに会津観光の玄関口にあたり、猪苗代湖周遊や、少し足を延ばして鶴ヶ城見学、そして裏磐梯への観光拠点でもあります。
ここ猪苗代町が生んだ偉人、「野口英世」 の記念館もこのすぐ近くです。

情報コーナーの隣が “フードコート” で、ここにはラーメンの “猪屋” 、お好み焼きやコロッケの “磐梯スノードック” そして串団子などを売る “宝来堂” の３つのお店があります。

情報センターとフードコートの前はご覧のような廊下があり、その奥は物産コーナーとダイニングレストランになっています。
この廊下、天井は吹き抜けで明るく、木の温かみを感じる気持ちの良い空間です。

トイレはこの廊下の左手と、もう一カ所ありますが、これもとても綺麗です。
自慢のトイレがある道の駅というのは、それだけでも印象に残ると思います。

“物産コーナー” にはたくさんの猪苗代の特産品や土産物が並んでいます。
オープンしてまだ半年にもならない新しい道の駅ですが、施設も商品もとても魅力的だと思いました。

さて、今夜宿泊するホテルはここから７～８分で行ける距離なのですが、もう一カ所だけ新しい道の駅を訪問して、再びこの地に戻ってくることにします。

会津のへそ！“あいづ 湯川・会津坂下”

福島の旅二日目の最後に訪れたのは

道の駅あいづ 湯川・会津坂下（あいづばんげ）　です。

猪苗代の道の駅を出発し、“猪苗代磐梯高原ＩＣ” から再び磐越自動車道に乗り、新潟方面へ２つ目の “会津若松ＩＣ” で高速を下ります。
この区間、特に雪が多いのか、高速道路の両側の側面にはうず高く雪が積み上げられています。

帰りに再び同じ区間を戻ったのですが、その時は激しく雪が降りだし、『滑り止め規制』 が発令されてノーマルタイヤでは走れなくなってしまいました。
レンタカーをスタッドレスにしておいて、本当に良かったと胸をなでおろしました。

さて、会津若松のＩＣを下りて、一般道を１２～３分で道の駅に到着しました。

この道の駅、“あいづ 湯川・会津坂下” と長い名前がついています。

この道の駅の所在地は、“福島県河沼郡湯川村” です。
地図を見ると、このようになっています。

（地図画像はパンフレットより借用）

“湯川村” と “会津坂下町（あいづばんげまち）” が隣同士です。
ここは全国で唯一、２つの町と村で共同で整備された道の駅なのです。
だから道の駅の名前に二つの町村があるのですね！

そしてこの場所は会津盆地の真ん中に位置することから、“会津のへそ” と呼ばれています。

ここは２０１４年１０月にオープンしました。
建物もまだ新しいので期待がもてます。

まずパンフレットから、全体の配置図を見てみましょう。

中央の入り口から、“人のひろば” にまず入ってみましょう。

ここは情報センターも兼ねる休憩コーナーです。
オープンでゆったりした雰囲気です。

やはり新しい建物は気持ちが良いものです。

その右手の部屋が “あいづ物産館” です。

ここには湯川村、会津坂下町の特産品や工芸品の他、会津の土産物がなんでも並びます。
ここはディスプレーが上手だと思いました。

思わず手に取ってみたくなる、買いたくなるといった陳列がされています。
私たちも、ここがこの日の最後であることもあり、いくつもの土産を買いました。

一番奥が、“農家れすとらん くうべえる” というレストランです。

農家れすとらんの名前の通り、湯川村、会津坂下町の農家の方たちが丹精を込めて育てたお米や野菜などを使った、「野菜バイキング」 が人気メニューです。

ひとつ前に訪問した猪苗代の道の駅もそうでしたが、新しい道の駅というのは単に設備が良いだけでなく、いろんな工夫がなされていて、とっても魅力があると思いました。

さて、この日の予定を終え、今夜の宿 “ホテルリステル猪苗代” に向かいます。

九州ではあまり経験しない、「滑り止め規制」 の高速道路を走り、再び猪苗代磐梯高原ＩＣに戻って、
一般道を１０分弱の高台にホテルはあります。

写真は翌日の朝に撮ったものですが、前回２０１２年９月に福島県を回った時にも宿泊しています。
その時の印象が良かったので、今回もこのホテルを選んだものです。

ここはすぐ裏手がスキー場であり、私たちが泊まる“ウイングタワー”だけでなく、本館のコンドミニアムを含めいくつもの施設が周囲にありますが、この時期はスキー客が多いようです。

ホテルの部屋から見下ろしたのが、次の写真です。

スキー場ですから雪が多いのは当たり前ですね！

いつものビジネスホテルに比べると随分広い部屋です。
これで夕食のバイキングもついて、税込み１万円ぽっきりでしたから、随分リーズナブルだと思います。

これで、２日目が終わりました。
でも、翌日はまた『雪』に驚かされることになりました。

※２日目に走ったルート（google mapの自動記録）

３日目になり、最初に向かうのは

道の駅からむし織の里しょうわ です。

出発を前に、ホテルの窓からの風景をご覧いただきましょう。

湖が見えますが、これが “猪苗代湖” です。
前回、２０１２年９月に同じこのホテルリステル猪苗代に泊まった時の、同じ方向の写真が次です。

夏と冬で、全く雰囲気が変わりますね！
このホテル、山の中腹にありますから、とにかくロケーションが抜群です。

チェックアウトを済ませ、駐車場に行って驚きました。

私の乗ってきた車は、見事に雪に覆われていました。(￣□￣;)!!

ホテルの入り口には、車の雪かきをする道具がたくさん置いてあり、自由に使えます。
早速借りてきました。

生まれて初めての雪おろし、これがまた結構快感なのです！（笑）
でも、これを毎日やっているこの地方の方々は大変だと思います。

当初旅行を計画した時は、３月中旬なのでまさか雪が残っているとは考えませんでした。
でも、このホテルにはスキー場があることを思い出し、ホテルに問い合わせてノーマルタイヤでは危ないことを知ったのです。

レンタカー会社に電話をして、このスタッドレスを手配して貰って本当に良かったと思います。

無事に雪下ろしが終わり、出発してまもなく、とても見晴らしの良いところがありました。
車を路上に停めて、撮った “磐梯山” が次の写真です。

“猪苗代磐梯高原ＩＣ” から再び磐越道に乗り、“会津坂下ＩＣ” で一般道に下ります。

道の駅会津柳津の少し先から県道へ進路を変えると、それは山間部を通るいわゆる山越えです。

標高が上がるにつれ、道路両側の雪は高さを増してゆきます。
日が当たる場所は道路もきれいですが、山陰に入ると道路も雪道です。

さすがスタッドレス、と妙に感心しながら走り抜けました。

ホテルを出発して１時間５０分で、ようやく最初の目的地に到着です。
時間は１０時半になっていました。

この道の駅もご覧のように雪の中です。

ここは、“福島県大沼郡昭和村” です。
野尻川の流域に広がる昭和村は、湿原や渓谷などの大自然に恵まれ、日本の原風景が残る山峡の村です。
道の駅自体の標高も５００ｍを越えています。

ここは３つの建物で構成されているようです。
道の駅パンフレットで確かめてみましょう。

最初に “からむし工芸博物館” の建物に入ってみました。

昭和村は２６０年以上前から、からむしの栽培と、「からむし織」 の生産を脈々と続けてきました。
“からむし” というのは、別名 “苧麻（ちょま）” というイラクサ科の多年草です。
この植物からとった繊維は、強くて涼しく、高級衣料の素材になります。

できあがった反物は軽くてさらりとして感触が良く、夏物としては最上級の麻織物です。

昭和村に代々受け継がれてきた高度な技術と手間をかけてこの繊維は作られますが、それは昭和村で織られるからむし織だけでなく、例えば新潟県小千谷の “小千谷縮” などの材料にもなります。

これが工芸博物館の入り口です。

ここは右手が事務室、左手が展示室ですが、展示室に入るには入場料が必要です。
展示されているものの多くは、“国指定重要有形民俗文化財” なのだそうです。

そしてこのロビーにも、からむし織の説明などが掲示されています。

ご覧のように “まわし” があったのですが、これもからむし織で作られているそうです。
受付におられた学芸員さんに教えて頂きました。

さて、次はその向かい側にある “織姫交流館” です。

道の駅としては、どうやらこちらがメインの建物のようです。

まず建物の入り口を入った、左手半分がこの “販売コーナー” です。
農産物、食品、土産物、工芸品などが並んでいます。

九州ではあまり見かけない、何に使うのかよくわからないものも並んでいました。

販売コーナーと反対側には和室があり、おそらく “からむし織” と思われる作品が飾ってあります。

ご覧の、“からむし織体験” なる部屋もありました。

数百年の間伝統を受け継いできたからむし織の里である昭和村も、他の過疎地と同じく、課題は “高齢化と後継者不足” です。
昭和村では、平成６年から 『織姫制度』 をスタートし、からむし織に興味がある若者を全国から募集しています。
応募者は村内で共同生活をしながら約１１か月間、からむしの栽培から織までの研修を受け、その技術を学ぶものです。

既に研修を終え、そのまま村に留まってからむし織の技術後継者を目指す人材もでてきています。

最後の写真は３つ目の建物、“郷土食伝承館　苧麻庵（ちょまあん）” という食事処です。
ここでは地元産の原材料を使った、四季折々の郷土食が味わえます。

福島県の寒村である “昭和村” 、おそらく道の駅がなければ私は来る機会もなかったし、からむし織が何なのかも知らなかったと思います。
全国津々浦々に点在する道の駅をめぐることは、多少大げさに言えば “日本” を知ることにも繋がるな、と思います。

福島県の旅はここまでで、次回は栃木県に向かいます。

復興のシンボル！“いいたて村の道の駅”

本日より、９月１９日（火）～２３日（土）の５日間で回った東北地方の新駅巡りをレポートします。

いいたて村の道の駅までい館 が１カ所目の目的地です。

福岡空港を午前８時に離陸し、仙台空港には９時４５分に到着しました。
レンタカー会社で手続きし、案内された車はこちらです。

スバルのインプレッサです。

頼んでいたのはいつもと同じコンパクトカーである「Ｓクラス」なので、これは違いますよ、と係の方に言うと、「サービスでワンランク上のくるまにしておきました」とのこと！

おかげで５日間で25,700円という格安値段で、快適な旅を満喫することができました。
この車、ナンバーが「３３７３」だったので、嫁は早速「さざ波（3373）」と名付けました。（＾_＾）

仙台空港ＩＣから“常磐自動車道”に乗り、太平洋側を一気に南下して福島県に入ります。
南相馬ＩＣで下りて、内陸部の“飯館村”を目指します。

“飯館村（いいたてむら）”は覚えておられる方も多いのではないかと思いますが、東日本大震災にともなう福島第一原発の事故で、全村避難指示がでた村です。

私は震災の翌年、２０１２年９月にこの村を通りました。
その時点で避難指示は一部解除にはなっていたものの、商店はすべて閉まっており、通りにも学校にもまったく人影はなく、農地は荒れ果てて、正にゴーストタウンと化していました。

原発事故から６年半を経て村には少しづつ人が戻り、徐々に生活が再建されているように見えました。
その復興のシンボルとして、この道の駅は誕生しました。

まずその建物の立派さに驚きました。
通ってきた村の風景とは似つかわない、近代的なデザインの道の駅がそこにありました。
道の駅のオープンは、今年（２０１７年）８月１２日ですから、まだ１か月ちょっとしか経ちません。

飯館村は今年３月末に、避難指示が大半で解除されました。
しかし住民が戻ってくるにしても村には商店が不足しているため、生活必需品を購入できる施設として、更に村の復興拠点であり、帰還住民の憩いの場として、総事業費１３億７千万円かけて整備されました。

もうひとつ驚いたのはその人の多さです。
村には住民が戻っているとはいえ、それほどの人影は見かけませんでした。

でも道の駅には、この日が平日というのに、たくさんの人々が買い物や食事を楽しんでいます。
すべてが住民ではないにせよ、少なくともここには活気が満ちていました。

“までい館” という道の駅の名前ですが、“までい” は両手を意味する 「真手」 が語源で、ここから転じて “大切に” “丁寧に” “こころを込めて” といった意味で使われる飯舘村の方言です。

復興に向かう住民が心からくつろげる憩いの場にしたい、という願いが込められています。

これは道の駅に掲示されていた道の駅全体の案内図です。
敷地面積が１万５６００平方メートルあり、駐車場は５９台分です。

中央に “までい館” があり、右手に “イベント広場” 更に右手にあるのが “花卉栽培施設” です。
そして建物の裏手には公園が整備されています。

この写真が “花卉栽培施設” で、かなりでかい温室になっています。

さて、“までい館” の中に入ってみたいと思いますが、その前にパンフレットに記載された内部の案内

図を見てみましょう。

正面中央にはコンビニがありますから、住民の日常の買い物はここで済ませることができます。
車を持たない高齢者などは、今まで買いだめをしていたといいますから、便利になったと思います。

これは先ほどの案内図の入り口付近にあった “までいホール” と “軽食コーナー” です。
杉材をふんだんに使った建物内部には、天井から特殊な技術を使った生花が飾られています。

入り口付近にはこんな掲示板も！
“飯舘村はただいま復興中” という言葉がいいですね！

までいホールと、トイレのある “まちあいスペース” を繋ぐ通路は “物販・情報スペース” になっていて、地域の特産品、工芸品、土産物などが並んでいます。

その左手の上部にでっかい顔写真がずらりと並んでいるのがお分かりと思います。
これらはすべて、飯舘村村民の方たちの笑顔の顔写真だそうです。

こちらは２４時間利用できる “まちあいスペース” ですが、ここにも笑顔の写真がありますね！

しかし飯舘村によると、現在の帰還者は原発事故前の１割にも満たないのが現実だそうです。
この道の駅の維持費だけでも年間３０００万円かかるそうなので課題は残ります。

福島県は太平洋側の 「浜通り」 と内陸部の 「中通り」 に大別できますが、ここはその二つを繋ぐ交通の要所にもなっているので、この賑わいを是非続けて欲しいものだと思います。

道の駅のスタンプが見つからないので、直売ホールのレジの方に尋ねてみました。
「すみません、まだ出来上がってないのです。仮のスタンプをあそこに置いています」
と、気の毒そうにおっしゃいました。

その仮のスタンプがこれです。
直径、わずか３センチでした。(^▽^;)

東北最大級の道の駅！“国見あつかしの郷”

初日の２カ所目は、同じく福島県の

道の駅国見あつかしの郷 へやってきました。

この地図では近いように見えますが、距離で３８ｋｍ、５６分かかって到着しました。
ここは“伊達郡国見町”で、やはり６年半前の震災では甚大な被害を受け、その復興の一環として道の駅が整備されました。

福島県の北端に位置し、周囲を田園地帯に囲まれた、国道４号沿いにあります。
オープンは今年（２０１７年）５月３日なので、４か月半ほどしか経っていない真新しい道の駅です。

この道の駅、とにかく驚くほどでかいです！
それに、この屋根のユニークな曲線、これも素敵ですね。

この道の駅の名前“あつかしの郷”というのは、国見町のシンボルである“阿津賀志山”に因んでいますが、その山の曲線、二重堀の曲線、特産であるフルーツの滑らかな曲線、などがモチーフだそうです。

道の駅の全体を１枚の写真に収めることは困難で、これが精いっぱいです。
敷地面積は２万６０００平方メートルあり、駐車場も１８０台分のスペースがあります。

本日１カ所目のいいたて村の道の駅も大きかったけど、それでも１万５６００平方メートルでしたから、いかに広いかがわかります。

これが道の駅に掲示されていた「１階」部分の配置図です。
これに沿って、左手から紹介してゆきましょう。

ご覧のようにガラス板で仕切ったお洒落な入り口がこの道の駅にはいくつかあるのですが、一番左手のこの玄関には、「レストラン桃花亭」「ももたんカフェ」の名前があります。

ここでは国見町のお母さんの伝承メニューや和食、それに人気の国見バーガーなどが提供されます。
ちょうどお昼時でもあり、お客さんでいっぱいでした。

レストランの隣りには農産物直売所である「くにみ市場」と　「ファーストフード」の入口があります。
更にその隣が「歴史産業情報コーナー」ですが、もちろんそれらは中で繋がっています。

そしてこんな看板が！

５月３日のオープンからまだ４か月半程度だというのに、既に来場者が５０万人を突破しています。
情報コーナーの表示があったこの入り口から中に入ってみました。

中に観光案内のようなカウンターがあり、道の駅のスタンプはそこに置いてあります。
スタンプを押しながら、カウンターの女性に、「この道の駅のパンフレットはないのですか？」と尋ねてみました。

女性がさっと出してくれたのは、この冊子です。

じゃらんのフリーペーパーじゃないか！？（笑）
この冊子、表紙を除く全６ページで、そのうち２ページが道の駅の紹介記事でした。

その中の１ページがこれです。

一番下に道の駅の航空写真があり、ユニークな曲線の大屋根がよくわかりますね。
そこに、“東北最大級の道の駅”と書かれています。

東北地方には、特に秋田県を中心にでっかい道の駅が多いので、これが “最大” なのかどうかは分かりませんが、“最大級” ですから間違いはないでしょう。(^▽^)

この写真が道の駅のほぼ中央部分にある 「広場」 です。
広場といっても屋外ではなく、ちゃんと屋根があります。

大勢の人々が思い思いにくつろいでおられました。
たくさん並んだ生花も綺麗ですね。

広場から右手には、「道路情報コーナー」 「子供木育広場」 「コンビニ」 それにトイレがあります。

この部屋は 「道路情報コーナー」 ですが、ここも休憩室みたいなものです。
私達は直売所でお弁当を買って、ここで軽く昼食を済ませました。

最後にもう一つ紹介したいのは、２階です。

実際には上まで上がってはいないのですが、右手には３つの 「研修室」、左手には 「大広間」 と 「客室」 が４つあります。

ここは “１日４組限定” ですが、“泊まれる道の駅” なのです。
２名１室の場合、朝食付きで一人６８００円ですから、値段もリーズナブルです。

更にこの道の駅では、“道の駅deウェディング” というのもやっています。

かなりユニークな道の駅だと思います。
短期間で来場者が５０万人を突破したのも、なるほどとうなずけます。

最上川舟運で栄えた！“川のみなと長井”

友人たちとグループ旅行で台湾に行っていたので中断しましたが、今日から再開します。

道の駅川のみなと長井 が3カ所目に訪れた場所です。

国見の道の駅から目的の道の駅までへのルートは、道の駅七ケ宿を通る山側のルートと、一旦南へ下ってから国道13号～国道287号と辿るコースがあります。

ナビは後者を示したのでそれに従ったのですが、予定を大幅に上回る２時間以上もかかりました。

この道の駅は今年（２０１７年）４月２１日にオープンしましたから、約５か月目です。

“山形県長井市” は、“最上川発祥のまち” と呼ばれます。
吾妻連峰を源流とする松川（現在は最上川）と、飯豊連峰を源流とする白川がこの長井市で合流し、大きな最上川となって遠く日本海まで流れます。

かつては、ここから先が最上川と呼ばれており、この地が “最上川のはじまり” だったのです。

長井のまちは 「最上川舟運（しゅううん）」 の港町として栄え、米沢藩の物資を舟に積んで最上川を下り、日本海側の酒田港から京都、大阪へ運びました。

従ってこのまちには陣屋や物資を保管する蔵が立ち並び、荷の積み下ろしなどに多くの人々が生き生きと働き、多くの商人が活躍し、活気あふれる港町として繁栄しました。

“川のみなと長井” というこの道の駅の名前は、そのような歴史に由来しています。

道の駅は長井市の象徴である最上川のすぐ近くに建っていますが、最上川との間には “最上川堤防” があり、“千本桜” が有名です。

道の駅を紹介する前に、いつものようにパンフレットから配置図を見て頂きます。

（道の駅パンフレットより配置図借用）

道の駅は “コの字型” をしており、中央の玄関を入ると正面に観光案内所があります。

長井の玄関口にあたるこの道の駅は、「賑わいの交流拠点」 として、ここを起点にまちを散策してもらうために様々な工夫を凝らしています。
その一つがレンタサイクルで、電動アシスト付きを含む自転車が、“無料” で貸し出されています。

土日祝日限定ではありますが、やまがた長井観光局が運行する 「まわるん」 とよぶ循環バスが、観光スポット、秘境スポットを回り、これも “無料” です。

そしてまちを散策するためのツールとしては、エリアごとの “ながいまち歩き地図” があります。

これは私が貰ってきた４種類のうちのひとつですが、エリアごとに見どころを写真入りで紹介し、自由に散策できるように分かり易い地図がつけられています。

道の駅の向かって左側は、“まちづくり紹介コーナー” です。
ここの左手前、一番端の部屋にあったのが、次の写真です。

これは約４００年前に始まったと伝わる獅子踊りで使われる “黒獅子” で、“八尺” 書かれていますから

、約２．４ｍあるのだと思います。

通常の大きさの獅子頭もまわりに並んでいますが、これら漆黒の獅子頭は「蛇頭」と呼ばれ、この地方特有のものです。

店内にも、ご覧のように土産用の獅子頭が販売されていました。
でも、随分高価ですね！

店舗の天井から下がったポスターにも獅子踊りの祭りの写真があります。

この写真は先ほど紹介した“まちづくり紹介コーナー”の一部で、この一番奥に獅子頭があります。
ここはフードコーナーも兼ねる、休憩スペースです。

最後に、写真はありませんがもう一つだけ紹介したいのは“けん玉”です。
長井市は競技用のけん玉の生産量が日本一であり、“けん玉のふるさと”ともいわれます。

平成２６年からは“長井けん玉のふるさとプロジェクト”がスタートし、「けん玉広場」が作られ、けん玉教室やけん玉大会、更に級・段位の検定など、地域づくりのひとつとして推進されています。

山形県長井市は、私もほとんど聞いたことのない地方でしたが、道の駅の誕生を契機にさまざまな地方活性化に取り組んでおられることに感心しました。

初日の最後は同じ山形県にある

道の駅あさひまち にやってきました。

川のみなと長井から北上し、途中 “白鷹ヤナ公園” という道の駅の前を通ります。

ここは最上川に日本一の大きさの “常設ヤナ場” が仕掛けられて、アユを手掴みする体験ができます。
本当はここも立ち寄りたかったけど、既に１７時に近く、時間がないので素通りします。

既に夕暮れに近い空模様ですね。
この道の駅は、２０１５年１０月１日にオープンしました。

この日回った４カ所はすべて初めての道の駅なのですが、他の３カ所に較べると規模は小さく、こじんまりとした道の駅にみえます。

道の駅はご覧のように円形です。
正確には正八角形なのですが、これはここ “山形県朝日町” の特産である、“りんご” の形です。

道の駅の航空写真をＨＰよりお借りしました。
りんごの形なのがわかりますね。

その左の楕円形がトイレの建物で、これはリンゴの木の葉っぱを表わしています。

道の駅の愛称は 「りんごの森」 なのですが、朝日町は “無袋（むたい）りんご発祥の地” です。

それまでのりんご栽培は、害虫を防ぐために一つ一つのりんごに袋をかけるのが当たり前に時代に、昭和４５年、全国に先がけて袋を使わない 「無袋ふじ」 に取り組みました。

現在では糖度が高く蜜がたっぷり入った「日本一の蜜入りふじ」として高評価を得ています。

朝日町は、このりんごと、それにワインが有名な街です。

朝日町の名所の一つとして、“りんご温泉”というのがあります。
ここは文字通り、湯船にたくさんのりんごを浮かべて入ることで知られています。

朝日町のワインは、ワインコンクールに於いて金賞をはじめたくさんの銘柄が入賞しています。
２０１６年に開催された“Ｇ７伊勢湾サミット”では、ここ朝日町のワインが首脳陣に提供されています。

ところで、ここ「山形県」の形は、人の横顔によく似ていることをご存知ですか？

（朝日町パンフレットから画像借用）

なるほど、確かに口を開いた横顔に似ていますね。
その頬っぺたの部分に、朝日町はあります。

さて、店内を紹介する前に、いつものように道の駅パンフレットから配置図をご覧頂きましょう。

ごくシンプルです。
そしてトイレの部分は、確かに葉っぱの形ですね。

先の３か所があまりに大きくて豪華だったので若干見劣りはしますが、朝日町の農産物や特産品が並び、地域に根差した憩いの場になっています。

２階にはギャラリーもありますが、今回は見ておりません。

さて、初日は４か所の新しい道の駅を巡り、現在１７時２０分になりました。
これから２４ｋｍ離れた “天童市” まで走り、道の駅天童温泉のすぐ近くにある “ルートイン天童” に宿泊します。

ホテルのテレビで見た天気予報によると、明日は北日本に強い低気圧が近づいており、午後から豪雨、雷、突風の警報がでているので、ちょっと心配です。

※１日目に走ったルート（google mapの自動記録）
この日の走行距離：２５４ｋｍ

山形県に現れた韓国村！“とざわ”

２日目になりました。

道の駅とざわ が、この日の最初の訪問地です。

宿泊したのは、この地図の右下 「天童温泉」 と書いてある付近です。
山形県の新しい道の駅として残っているのは、 「しょうない」 ですが、ここへ至るルートの途中には、 「むらやま」 「尾花沢」 「とざわ」 という３つの道の駅があります。

全部立ち寄る時間は無いので、この中で一番特徴のある “道の駅とざわ” を立ち寄り先にしました。

ここは国道４７号沿いですが、道路のすぐ向こう側は “最上川” で、ご覧の通り蛇行しているので特に流れの早い場所です。
最上川は、“日本三大急流” のひとつですね。

ここから車でわずか２分の場所に、最上川芭蕉ラインの舟下り乗場があります。

そして目を転じると、突然ご覧のような “韓国村” が出現します。

ここ “山形県戸沢村” は人口が４７００人ほどですが、この村と韓国との交流は今から３０年以上前の、昭和６０年頃に遡ります。
戸沢村で農業を営む若者たちがアジア農業指導者養成専門学校の留学生と交流をはじめ、その後農業技術交流を主とした相互訪問がスタートしました。

更に農業の後継者対策として国際結婚を推進するようになり、多くの韓国出身の女性たちが戸沢村に住むようになったのです。

その幅広い韓国との交流の中、韓国の文化・歴史を再現し日韓友好の証として造られたのが、ここ “モモカミの里高麗館” です。

これが道の駅の全体図です。
右手前の六角形の建物が道の駅の本体になります。

この建物は１階部分はトイレになっており、階段を上がって２階部分に上ると情報コーナーのように、チラシなどが並んでいます。
道の駅登録証やスタンプはここにありますが、道の駅自体のパンフレットや戸沢村を紹介する資料などは残念ながら何にも見当たりませんでした。

一旦ここを出て、他の建物に向かいます。
ここの一番のメインの建物は “物産館” だと思います。

この物産館の建物へは、下から立派な長い階段があります。

この左右の階段の間には、立派な龍の彫り物があります。
韓国ドラマなどでよく登場しますね。

かなり本格的に作られているようです。
以前ここへ来た時には、物産館の中に入らなかったので、今回は是非見ておこうと中に入りました。

ほぼすべて韓国グッツや韓国食品などですが、なぜかラーメンばかりが目立ちます。(^▽^;)

今回レストランには入っていませんが、本格的な韓国料理を味わえるようです。

遠い異国から嫁いできた韓国の花嫁にとっては、ここは故郷を感じる唯一の場所なのかもしれません。

道の駅とざわから２０ｋｍほど走って

道の駅しょうない にやってきました。

この日、午後からは強い低気圧が近づき、豪雨、雷、突風の警報が出ているのですが、午前中はご覧の通りの晴天で、天気が崩れるようには全く見えません。

“山形県庄内町” は人口２万１７００人程で、出羽三山（羽黒山・湯殿山・月山）の主峰であり、山岳宗教の聖地である 「霊峰月山（がっさん）」 の山頂のある町として知られてます。

ここは地名として庄内町ですが、隣接する２大都市 “鶴岡市” “酒田市” それにいくつかの周辺の町を含む “庄内平野” 全域を、“庄内地方” と呼びます。

山形県北西部の日本海に面する “庄内地方” は、特に米どころとして農業が盛んで、３０万人ほどの人々が暮らしています。

“道の駅しょうない” は、昨年（２０１６年）１０月８日にオープンしましたから、丁度これを書いている今日（１０月８日）が１年目ということになります。

ただ、正確に言うと、この農作物直売所や農家レストランは、２００１年（平成１３年）に設立されたもので、これをリニューアルし、災害時の防災拠点としての機能も整備されて、道の駅となったものです。

この道の駅の特徴は、ご覧のように周辺に風力発電用の風車が林立していることです。
普通、このような風車は山の上や海岸沿いが多いですが、このように平地にあるのは珍しいものです。

ここ “庄内町立川地区” は昔から、日本三大地風のひとつである “清川ダシ” に苦しめられてきました。
この風を逆に利用して、平成５年に全国の自治体で初めてとなる、本格的な風力発電施設を設置するなど、「風を活かした町づくり」 に全国に先駆けて取り組んだ町なのです。

経済産業省とＮＥＤＯ（新エネルギー・産業技術総合開発機構）が選ぶ “新エネ百選” にこの庄内町は、
“エネルギーの地産地消「庄内町モデル」を目指すまちづくり” が評価され、認定されています。

“風車市場” というネーミングは、この周囲の風車群に因んだもので、道の駅を拠点にレンタサイクルで風車を見て回ることができます。

道の駅の配置図はご覧の通りで、大きく２つの建物がくっついた形をしています。

こちらがその右半分で、イベント広場、情報コーナー、トイレがあります。
中に入ってみましょう。

ここには道の駅スタンプやパンフレットなどがあり、休憩室を兼ねています。
イベント広場は音楽イベントや出張販売などを行いますが、この日は特に何もあっていませんでした。

こちらが左半分の、レストランと産直風車市場の入った建物です。
その入り口に、面白いものがいました。

河童の夫婦でしょうか！？
“河童開運” と書かれています。

「河童の頭の皿は、天空のエネルギーを吸収して開運に変えて発信しているので、頭の皿を手でなでると運が開ける！」　のだそうです。(*^▽^*)

では、風車市場の中に入ってみます。

“おいしいお米の町” らしく、いろんな銘柄のお米が、 「３００グラムパック」 で並んでいました。
これだと何種類も買って食べ比べてみることができますから、面白いアイデアだと思います。

産直市場の隣りが、“風車の見える主婦レストラン いろどり” です。
この日はまだ 「準備中」 でしたが、田園風景の中の風車を眺めながら食事ができます。

先ほどの案内図にはありませんが、ご覧のようなラーメンショップも同じ敷地内にあります。
では次は、秋田県との県境に近い、道の駅鳥海を目指します。

みちのく旅２日目：鳥海山の麓のまち！“鳥海”

この日の３カ所目は秋田県との県境に近い

道の駅鳥海 に立ち寄りました。

先ほどまで明るかった空は、天気予報通り次第に雲が厚くなり、時折雨がぱらつくようになりました。
この道の駅にも、駐車場に水たまりができています。

ここ “山形県遊佐町（ゆざ）” は、秋田県との県境までわずかな位置にあります。

日本百名山の一つで出羽富士とも呼ばれる “鳥海山” は山形県、秋田県にまたがっていますが、その山頂は山形県遊佐町です。

（遊佐町パンフレットより地図画像借用）

標高２２３６ｍの鳥海山には登山者も多いですが、このすぐ近くを起点とする “鳥海ブルーライン” を使えば、標高１１５０ｍ、５合目にある “鉾立” まで車で行くことができます。

今回の当初の計画では、この５合目まで行って付近を散策する予定にしていました。
しかしお天気は下り坂で、鳥海山はもとより付近の山は雲に覆われて全く姿がありません。

上っても展望が期待できないばかりか、おそらく深い霧で山道も危ないと判断し、鳥海山観光は中止して次の道の駅象潟でゆっくりすることにしました。

ちなみに今回は鳥海山の姿が全く見れなかったので、７年前に行った時の写真をご覧頂きます。

（2010-6-24象潟より撮影）

さて道の駅ですが、全体の配置は次のようになっています。

（道の駅ＨＰより案内図の画像を借用）

いつもだと道の駅パンフレットか、店内に掲載された配置図を紹介するのですが、ここにはそのどちらも見当たらなかったので、ＨＰからお借りしたものです。

ご覧のように建物は“Ｌ字型”になっており、駐車場の奥にはラーメン店などがあります。

これが駐車場側で、右手奥に“ラーメン「味の駅」”と“ベーカリー工房「ほっほ」”があります。
その左手、道の駅本体の部分は、“ファーストフードコーナー”と“トイレ”があります。

私たちは次の道の駅で昼食をとる予定ですが、ちょっとだけ覗いてみました。

うどん、そばをはじめ、たこ焼きやイカ焼き、串焼きなど旨そうなのもが並んでいます。
この手前にも“食堂「ふらっと」”がありますから、この道の駅、飲食関係が４店舗にもなります。

国道側の入口から入ると、そこは農産物や鮮魚類の直売所です。

これが農産物の直売所です。
遊佐町は片方が日本海、もう一方が山なので、山の幸、海の幸ともに恵まれています。

こちらは“特産品販売コーナー”で山形の様々な土産物が並んでいます。
道の駅登録証やスタンプはここにありました。

このコーナーで見つけた遊佐町のパンフレットです。

これによると、昔は鳥海山の標高は「２２３７ｍ」だったのが、誰かが１ｍの岩を持って降りたらしく、今では「２２３６ｍ」に変わったのだそうです。（笑）

ですから、昔の人は「夫婦で見な」（２２３７）と覚えていたけど、今は「夫婦で見ろ」（２２３６）に変わってしまったそうな！
それに“出羽富士”という別名もありますから、「富士山麓」（２２３６）という覚え方もあるそうです。

鳥海ブルーラインで５合目を経由して秋田に至るルートは見どころがいっぱいだったようで、今回お天気の悪化で断念したのは実に残念です。

奥の細道 最北の地！“象潟” 前編

国道７号で県境を越えて秋田県に入り、道の駅鳥海から２５分ほどで

道の駅象潟（きさかた）　にやってきました。

象潟には２時間近く滞在し写真も多いので、前編、後編の２回に分けてレポートします。

“象潟” は “きさかた” と読みますが、おそらく地元以外の方には読めないでしょうね！

ここは東北の道の駅の中で特に気に入った場所であり、是非もう一度来たいと思っていました。
天候の悪化で鳥海山での観光を断念したので時間に余裕ができ、ここでは昼食でもたべてゆっくりするつもりです。

この時点で空は厚い雲に覆われているものの、たまに小雨がぱらつく程度です。

道の駅のメインの建物はこの６階建てのビルで、看板の中に 「東北最大級」 といった言葉も見えます。
道の駅は周囲の施設まであわせると２万坪にもなりますが、それは順次紹介しましょう。

道の駅の話の前に、玄関先にあったこのパネルのことを説明しておきたいと思います。

これは “奥の細道” を書いた “松尾芭蕉” とその同行者であった “河合曾良” のパネルなのですが、彼らと象潟とは深い縁があります。

松尾芭蕉は今から３２０年以上前の１６８９年（元禄２年）に江戸を立ち、みちのくを旅しています。
その目的に 「松島」 と 「象潟」 を見てみたい、という憧れがあり、象潟が最北の目的地だったのです。

全行程６００里（約２４００ｋｍ）を旅して江戸にもどり、 「奥の細道」 を発表しますが、これは日本を代表する古典の紀行文学となり、それ以来象潟の知名度が上がって多くの文人墨客が訪れるよう

になります。

実は、松尾芭蕉が訪れた頃の象潟と、現在の象潟は、全く違ったものでした。
次の、道の駅パンフレットの表紙をご覧ください。

ここの道の駅付近の航空写真がありますが、水田の中に小さな島のようなものがたくさん見えます。

この地域の現在の地名は“秋田県にかほ市象潟”ですが、そのにかほ市の観光パンフレットからもう一枚写真を見て頂きましょう。

水田の中の小さな島のように見えるのを、“九十九島”といいます。

芭蕉がこの地を訪れた時代は、この付近は無数の小島が浮かぶ“潟湖”でした。
これを“九十九島・八十八潟”と呼んだのですが、１８０４年の地震で地面が２．４ｍ隆起し、潟湖は水がなくなり、今のような地形に変わったのです。

さて、話を道の駅に戻しましょう。
上の写真は案内板にあっ道の駅全体の配置図です。

右端の“道の駅象潟「ねむの丘」”と書かれた部分が、先ほどの６階建ての建物です。
その裏手は日本海であり、海岸沿いに“夕陽百選散歩道”というのがあります。

７年前の２０１０年６月に初めて来た時は見ていなかったので、今回は裏手に回ってみました。

メインの６階建てのビルと右隣の休憩施設の建物の間に、“海岸夕日道”への矢印がありました。
そこを入って行くと正面に階段があり、一段高い位置に“ふれあい広場”があります。

広場から振り返ると、道の駅の建物のちょうど２階部分と高さが同じになります。

この道の駅の建物は、次のような内容になっています。

１階：　特産品・土産販売、観光情報センター
２階：　展望レストラン、大広間、個室３室
３階：　カラオケルーム、大ホール、個室６室
４階：　展望温泉「眺海の湯」、サウナ
６階：　展望室

丁度２階の高さなので、レストランで食事をされている方たちや、個室らしい和室の部屋でなにやら宴会をされている姿が見えました。

ふれあい広場の端の、海に近い場所に、こんなものが建っていました。

これは“西施像”といいます。

中国の春秋末期時代に生きた“西施（せいし）”は中国の四大美女のひとりといわれます。
呉越が争う国難の時代に、敵国に身を捧げ祖国を救った悲劇の美女です。

松尾芭蕉がこの地で詠った『象潟や　雨に西施が　ねぶの花』　という句が、像の由来です。
この句が縁で、西施の故郷中国浙江省の市と象潟は友好交流を深めています。

ちなみに“ねぶの花”とは、合歓の木の花のことです。
この道の駅の愛称も“ねむの丘”でしたね。

この先には海水浴場もありますが、海岸線に沿って遊歩道が整備されており、これらは“日本の渚・夕陽百選”　“日本の遊歩百選”などにも選ばれています。

さて、前編はこのくらいにして、次回後編では道の駅自体を詳しくご紹介します。

奥の細道 最北の地！“象潟” 後編

前回に引き続き

道の駅象潟　の後編をレポート致します。

前編では道の駅の周辺や地域に関することを重点に紹介したので、後編は道の駅本体についてです。
ここは、大きく２つの施設で構成されています。

前回紹介した道の駅の案内図の中から、建物の部分を拡大してみました。
右側の “象潟「ねむの丘」” が前回も紹介した６階建てのビルですが、もうひとつ左手に “にかほっと” というのがあります。

実はこの “にかほっと” というのは昨年（２０１６年）４月にオープンしたもので、７年前に私がこの道の駅に初めて来た時にはありませんでした。
その当時の写真を紹介しましょう。

（2010-6-24撮影）

ご覧のような “農林水産物直売施設” がここにはあったのですが、それが取り壊され、新しい施設が建てられていたのです。

そのレポートはあとにして、先に６階建ての “象潟「ねむの丘」” を紹介します。
尚、この建物は実質的には４階建てですが、展望塔まで入れて６階という意味です。

道の駅登録証の横に、“重点「道の駅」選定証”も掲示されていました。

重点道の駅というのは過去のいくつかの記事でも紹介していますが、国土交通省が、「地方創世の核となる特に優れた取組」を“重点「道の駅」”として選定するものです。

道の駅象潟は１９９８年（平成１０年）のオープンでかなり古い方ですが、２０１６年度に全国で３５か所が選定された重点道の駅のひとつになりました。

店内の写真をずらりと並べてみましたが、一部吹き抜けになっていて明るいし、ディスプレイにもセンスや工夫が見られます。

それに何より、随分と広いのです。
秋田の土産なら何でも揃う、という印象です。

ここから２階にエスカレーターで上がれば展望レストランです。
新しくできた“にかほっと”でも食事ができるようなので、私たちはそちらに行ってみることにしました。

これが “にかほ市観光拠点センター「にかほっと」” の正面玄関です。
先ほども紹介したように２０１６年４月のオープンなので、なかなか洒落た建物です。

にかほっとはご覧のような形をしていますが、玄関の手前、左手には以前の場所から移転した、 “農林水産物直売所” があります。

そしてその逆の右手方向には、 “観光情報コーナー” がありますが、実際入ってみると観光情報だけでなく、いくつかのテイクアウトの飲食店がはいっていました。

さて、正面から中に入ってみましょう。

ご覧の通り、中央は “フードコート” になっており、かなりの広いスペースに８０席のテーブル、椅子のセットが並べられています。

その周囲には、バラエティに富んだ１５店舗がそれを囲んでおり、そこに注文してテーブルで頂きます。

私たちはそれらの店舗を見て回り、ひとつのお店で注文しました。
注文をして、貰った番号札をテーブルに立てておくと、出来上がった料理が運ばれる仕組みです。

普段私たちは道の駅でゆっくり昼食をとることはめったにないのですが、今日は時間に余裕があります。
食事のあと、もうひとつ行きたい場所がありました。

それがこちらです。
これは、無料の足湯 “フットスパあしほっと” です。

私たちは一旦車に戻ってタオルを用意し、足湯の建物に入ってみました。

ここは中央と両サイドに湯船があり、かなりの人数が同時に入れます。
源泉かけ流しで、源泉に近い場所は 「熱めの湯」　離れた場所は 「ぬるめの湯」 と書かれています。

私たちは久しぶりに一つの道の駅でゆっくりし、ここで２時間近くを過ごしました。
そのことが、ある大きなハプニングに遭遇することに繋がります。

このあと、予定では “道の駅にかほ” と “道の駅うご” を回って横手市内のホテルに入るつもりでした。
道の駅では時々小雨がぱらつく程度だった空は、この道の駅を出発する時間になると、それを待っていたかのように本格的に降り始めました。

このあとのいきさつは、次回にてお話ししたいと思います。

最大の危機に遭遇！

本格的な雨が降り出した中、象潟の道の駅を出て

道の駅にしめ に向かいました。

道の駅にしめは同じ国道７号沿いにあり、象潟からは約２０ｋｍ、３０分かからず到着しました。
でも雨脚は益々ひどくなり、車から降りても写真すら撮りづらい状況です。

もともとこの道の駅に立ち寄る計画をした理由は、ここからの鳥海山の姿がとっても印象的だったからで、この日のお天気ではそれも見えないので意味がありません。
駐車場に入ったものの、ここはスルーして次の “道の駅うご” に向かうことにしました。

※2010-6-24に来た時の、道の駅にしめからの鳥海山

最初の地図でお分かりのように、ここから目的地に向かうには、国道１０７号を東へ進み、道の駅東由利の前を通って国道３９８号経由で向かいます。

ちょうどその、道の駅東由利の前を通り、「ここが道の駅東由利だよ」 と話している時でした。
突然、激しい雨と突風が車の前面と側面に叩きつけました。

前方が良く見えないほどの激しい雨、というのはたまに遭遇しますが、これは突然大波をかぶったような印象で、一瞬なにが起こったか分かりませんでした。

驚いた嫁は、「道の駅に入って停めよう！」 と叫んだのですが、既に入り口は通り過ぎているし、状況がよく把握できないまま、そのまま進んでしまいました。

前方を走っていたはずの２～３台はいつのまにかいなくなり、私が先頭、すぐ後ろに大型トラック、そのあとに何台か続いているようです。
ワイパーを最大で動かしても周囲はおろか、走っている道路自体さえよく見えないのです。
片側１車線の狭い道路で停車するわけにもゆかず、最徐行で進みました。

道路の水嵩も増し、ゆっくり走っているのに大きく水を跳ね上げます。
テレビのニュースなどで見た、道路で水没している車の姿が浮かび、初めて恐怖を感じました。

どの位走ったのかよく覚えていませんが、ようやくパーキングスペースを見つけ避難しました。
そこは道路から少し下がっていて水が溜まっていましたが、更にそれより下に田んぼがあり、ここが水没することはない、と判断したものです。

しばらく雨脚が収まるのを待ち、道の駅うごへ行くのは中止、時間は早いけどまっすぐ横手市内のホテルに向かい、４時前にチェックインしました。

ホテルでテレビを見ていると、横手市内では建物の被害なども出ていました。
その後の報道によると、これは『ダウンバースト』という現象だったのだそうです。

これは積乱雲から爆発的に吹き降ろされた気流のことで、それが地面にぶつかり水平方向に噴き出す破壊的な突風のことです。

竜巻の場合は渦巻による漏斗雲が見られ、これは上昇気流ですから同じ積乱雲が発端とはいえ、ダウンバーストとは逆の現象です。

その時のニュース記事を紹介しておきましょう。

『横手市で２０日午後３時２０分ごろ、強い下降気流「ダウンバースト」が発生した可能性が高いと発表した。風速は約６５メートルと推定され、突風の強さを示す「日本版改良藤田スケール」に照らすと、６段階で下から３番目のＪＥＦ２に該当する。
　気象台によると、横手市周辺で当時、活発な積乱雲が確認された上、被害が面的に広がっていたこと、竜巻を示唆する情報がなかったことからダウンバーストと判断した。
　市によると、被害は広範囲に及んでおり、２２日午後５時現在のまとめで、屋根が飛ぶなどして住宅１７棟、小屋や車庫３５棟の計５２棟が一部損壊した。倒木や停電も相次いだ。』

私が遭遇したのは正確には「由利本荘市」になりますが、横手市とはすぐ隣です。
発生が　「２０日午後３時２０分」ですから、まさにその時間です。

もし私が道の駅象潟で２時間もゆっくりしていなかったら、この経験はなかったかもしれません。
逆に、道の駅うごのあとは高速を走る予定でしたから、高速道路上で遭遇していたら事故に繋がったかもしれません。
いずれにせよ無事でしたから良かったのだと思います。

こうして２日目は、当初の計画とはかなり違う形で終了しました。

※２日目に走ったルート（google mapの自動記録）
この日の走行距離：２１７ｋｍ

３日目の朝を迎え、昨日のダウンバースト遭遇により中止した

道の駅うご へ最初に向かいました。

朝起きると、昨日の豪雨が嘘のように空は晴れていました。
でも、天気予報では、秋田県南部では午前中雨が残っているようです。

泊まったのは秋田自動車道の “横手ＩＣ” のすぐそばですが、ここからジャンクションを経由して “湯沢横手道路” に進路をとり、“湯沢ＩＣ” で下りて１０分ほどの場所です。

横手では晴れていた空ですが、南に下るに従って雲が多くなり、道の駅近くでは雨が降り出しました。

ご覧のような本降りで、４０分ほどの距離でこんなにお天気が違うのかと驚きです。

ご覧の通り、手前のどす黒い雲の向こうには青空があり、はっきりと天気の境目が見えます。
まるでこの道の駅の上空だけ厚い雨雲が留まっているかのようです。

ここへ到着したのが８時５０分、９時の開店まで少し待たねばなりません。

少し小降りになったので写真を撮りましたが、駐車場の水たまりに道の駅がはっきり写っています。

ここは、“秋田県羽後町西馬音内（うごまち にしもない）” という地名です。
この道の駅に隣接した場所に、羽後町役場があります。

この町で毎年盆の時期に開催される “西馬音内盆踊り” が有名で、“国指定重要無形民俗文化財” に指定されています。

さて、９時になり道の駅がオープンしました。

入口を入ったすぐのところに、先ほど紹介した“西馬音内盆踊り”の大きなパネルがあります。

この道の駅は昨年（２０１６年）７月１日にオープンしましたから、まだ１年ほどです。
新しい道の駅はやはりどこも気持ちが良いものです。

外から入ると一旦このような通路（？）みたいなのがあり、更に売り場への入口があります。
野菜などはここにも並べられています。

道の駅の中の配置図がどこにも見当たらないので、フロアに表示された矢印を掲載します。
ご覧のように入り口を入って左手に“総合窓口”と“直売所”右手には飲食関係が３店あります。

そして珍しいのは、直進方向で、２４時間利用できる“シャワー室”があることです。
これは他の道の駅であんまり見たことがないように思います。

これが“農産物直売所”で、１３０組の生産者で構成する「羽後町産直会」が、朝どれ野菜などの農作物、お米、秘伝レシピの総菜、お菓子などを供給します。

こちらの写真が 名物の「冷やがけそば」や「ぶっかけうどん」「肉玉うどん」それに郷土料理、家庭料理の総菜などが自慢の“端縫いダイニング”です。

同じく、喫茶コーナーの“Ｂｏｎ Ｃａｆｅ”、本格ジェラートの“うご・じぇら”の店舗もあります。

（道の駅パンフレットより画像借用）

先ほどの直売所の一角に、“総合窓口（インフォメーション）”があります。
そこで道の駅スタンプを押し、道の駅パンフレットなどを見ていると、係の方が声をかけてきました。

私たちが九州から来たことを知るとえらく感激され、奥からあれこれと町のパンフレットを持ってこられ、それらを入れる立派なプラスチックのケースまでいただきました。

本当は昨日来るつもりだったけど、途中恐ろしい目にあってホテルに避難したという話もしました。
やはりこの地域もお天気はひどかったようです。

この道の駅は 「端縫いの郷」 という愛称がついていますが、それについても説明して頂きました。

“端縫い（はぬい）”というのは、大小の絹布の端切れを配色や配置に工夫をしながら継ぎ合わせて作った服のことで、最初の紹介した“西馬音内（にしもない）盆踊り”などで着られます。

この端縫いには一定のルールがあり、袖口や裾などには同じ柄の布を使い、布の配置は左右対称にするそうで、布を継ぎ合わせることから“接ぎ衣装（はぎいしょう）”ともかつては言われました。

総合窓口の上に飾ってあるこの衣装がその“端縫い”です。
この地では手絞りの藍染も盛んで、 「藍染と端縫いの郷」 と呼ばれます。

それらの布は、道の駅の天井にたくさん飾ってありました。

いつもは店内の写真を撮る時には、なるべく目立たないようにこっそり写すのですが、ここでは 「自由に何でも撮ってください」 とお墨付きを貰ったので、たくさん写真を撮りました。(^▽^;)

さて、本来なら昨日来ていたはずの道の駅に片道４０分かかってやってきましたから、この日の予定も当初の計画から変更せざるを得ません。

とりあえずこのあとは秋田自動車道を一気に北上して、秋田県北部の“秋田港”を目指します。

地上１００ｍからの絶景！“あきた港”

秋田県の最南部から一気に１００ｋｍ以上を北上し

道の駅あきた港 に向かいました。

道の駅うごでは雨が降っていましたが、高速に乗って５分も走ると嘘のような青空になりました。

昨夜泊まった横手市のジャンクションで秋田自動車道に合流し、一気に秋田北ＩＣまで走ります。
出発して１時間５０分ほどで到着しました。

この写真は到着する少し手前で写したものですが、このガラス張りのタワーが道の駅です。
ここには、是非とももう一度来なければならない理由があったのです。

この道の駅に前回来たのは、２０１０年６月２４日です。
実はその時点ではまだ道の駅になっておらず、７月３１日に正式オープンしたのです。
従って、道の駅スタンプも取得していなかったのです。(;´･ω･)

※その時の記事　→　秋田の旅：地上１００ｍの眺望！“あきた港”

ですから、今回はその時のリベンジという訳です。

これらが、駐車場から撮った写真です。

このタワーは正式には“ポートタワー・セリオン”といい、高さは１４３ｍあります。
道の駅になったのは先ほど書いたように２０１０年７月ですが、タワー自体は１９９４年４月に完成し、「秋田ポートタワー」と呼ばれていました。

全体を６２７２枚の強化ガラスで覆われており、空を写してとっても美しい姿です。
夜になるとこれが色とりどりにライトアップされ、秋田市のシンボルタワーとなっています。

“セリオン” という名前は、海＝SEAと展示館＝PAVILIONの合成語なのだそうで、全国から応募された６３００件の候補の中から選ばれた名前です。

付近の配置図を示す案内板がありました。

左手の三角形が “ポートタワー・セリオン” ですが、他に “セリオン・リスタ” “セリオン・プラザ” という全部で３つの施設で道の駅は構成されています。

そしてここは “秋田港” の敷地内ですから、周囲にはこんな船が停泊しています。

海上保安庁の巡視艇 「でわ」 ですが、他にも同じような巡視艇が何隻か停泊していました。

これらは “セリオン・リスタ” の建物ですが、内部は後ほど紹介しましょう。
まずは、タワーに入ってみます。

入口の看板にも書かれている様に、ここは道の駅としてだけでなく、“みなとオアシスあきた港” としての登録もあります。

“みなとオアシス” も国土交通省が認定するもので、全国で現在１００か所あります。
“海の駅” というのも同じく国土交通省の認可なので混同しがちですが、海の駅は 「国土交通省により登録された船舶係留施設」 で全国に現在１６０か所です。

****

■海の駅：
「海から、誰でも、いつでも、気軽に、安心して立ち寄り、利用でき、憩える」ことを標榜している

■みなとオアシス：
地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設

****

つまり、海の駅は海からの利用が基本、みなとオアシスは「みなと」を中心とした、地域住民や観光の振興のための施設、といった違いでしょうか？

さて、折角ですからタワーの展望室まで上がってみることにします。

これはエレベーターの中にあった案内板です。

“ポートタワー・セリオン” は１階に物産館やレストランがあり、２階はイベントホールなどがあります。
一気に９３ｍまで上がった３階が “展望ホール” で、ここでは部屋を貸し切ってパーティ、展示会、個展などを開催することができます。

４階が地上９６ｍのカフェで、５階が地上１００ｍ、展望室になります。

エレベーターはご覧のように外が丸見えです。
高所恐怖症の嫁は、ずっと目をふさいでいました。(^_^;)

地上１００ｍの展望室からは、私たちが停めた駐車場が真下に見えます。
写っている２隻の船はいずれも巡視艇です。

ここからは周囲３６０度がぐるっと見渡せます。

如何でしょうか、絶景ですね。
日によっては、鳥海山まで見えることがあるのだそうです。

さて、１階に下りて物産館に入ってみました。

物産館は正式には “セリオンガーデン” といい、レストランが “セリオンキッチン” で、喫茶室は “セリオンカフェ” です。

この１階は、タワーの真下ではなく横に付随している建物のようで、この物産館も随分広いです。
私たちもここで、秋田の名物 「いぶりがっこ」 など、いくつかのお土産を買いました。

※いぶりがっことは？
大根を囲炉裏の天井につるし、燻煙乾燥という独特の乾燥法で燻製にしてから糠漬けにした漬け物

さて、タワーを出て隣の “セリオン・リスタ” を覗いてみます。

ここは “室内緑地公園” です。
ここもタワーと同じく全面ガラス張りで、温室のようなイメージです。

子供が遊べる遊具や砂場もあり、お天気に関係なく遊べます。
うどんの自動販売機なども備えられていて、市民の憩いの場、というところでしょう。

尚、今回紹介しませんでしたが、もう一つの建物 “セリオン・プラザ” というのは、「秋田港振興センター」 として、多目的ホール、大小の会議室、研修室などがあります。
多目的ホールは５００名収容でき、スポーツイベント、各種展示会、発表会などで使用されます。

この道の駅は “男鹿半島（おがはんとう）” の付け根あたりに位置します。
７年前に秋田県に来た時に男鹿半島を回っていないので、今回はその観光を組込んでいました。

でも昨日行けなかった道の駅を今朝一番に回ったために、現在２時間ほど予定がずれています。
結局男鹿半島の観光は断念し、次の目的の道の駅にまっすぐ向かうことにしました。

空港自体が道の駅！“大館能代空港”

当初予定していた男鹿半島の観光を断念し、

道の駅大館能代空港（おおだてのしろくうこう）　へ向かいました。

“秋田北ＩＣ”から秋田自動車道に乗って北上し、能代市を通り過ぎて“二ツ井白神ＩＣ”で下ります。
途中、道の駅ふたついの前を通りますが、これはスルー！

１時間２０分で到着しました。

ここは、空港そのものが道の駅という、全国でも珍しい場所です。
他にもう１か所、石川県の能登半島にある、“能登空港”が同じように道の駅になっています。

空港が道の駅なのは全国でこの２か所ですが、鉄道駅と隣接した道の駅はたくさんあります。
ただ、隣接ではなく、ＪＲ駅そのものが道の駅というのは北海道の“道の駅わっかない”です。

空港の入口にちゃんと道の駅の看板があるし、駐車場もご覧のように空港と道の駅の共用になります。
駐車料金は無料で７日間まではＯＫ、それ以上の長期間になる場合は事前に届を出します。

ここは“大館能代空港”という名前ですが、空港自体の所在地は“北秋田市”です。
北秋田市に隣接して西側が“能代市”東側が“大館市”ですから、その中間ということでこの名称になったのでしょうか？

ここから１時間ほどで世界自然遺産の“白神山地”に行けますし、“十和田湖”も約１時間、男鹿半島や田沢湖などの方面にもアクセスが便利ですから、観光やビジネスで多くの方に利用されます。

駐車場の中にこんな像が建っていました。
詳しくは分からないけど、なにかの女神像なのでしょう。

出発ゲートからターミナルに入ってみると、そこには普通に航空会社のカウンターがあります。

売店の店員さんに「ここって、道の駅なんですか？」と聞いてみると、「この空港全体が道の駅なんです。道の駅スタンプは、向こう側の到着ロビーの方にありますよ」と教えて頂きました。

空港内に誰も人影がないのは、羽田空港との間を朝夕２往復しかないためです。
到着ロビーの方へ歩いてゆく途中、こんなものがありました。

“なまはげ”でした。

今回、悪天候による予定変更で男鹿半島の観光を断念し、なまはげを見ることができなかったのだけど、こんなところで会うことができました。(*^▽^*)

更に、こんなものも！

“秋田犬”の親子ですね！

秋田犬は隣の“大館市”が発祥の地です。
“忠犬ハチ公”で有名ですが、秋田犬は「国指定天然記念物」にもなっています。
そういえば、ロシアのプーチン大統領にも１匹贈られましたね。

床には“足跡”までついていました。（笑）

スタンプは押したけど道の駅登録証が見当たらないので探していると、こんな表示がありました。

道の駅に関連するものが全部一覧で書いてあります。
ここに置いてあった道の駅パンフレットにも、フロアガイドがありました。

道の駅登録証は２階にあるようなのでエスカレーターで上がってみました。

この２階に特産品を紹介するようなコーナーがあり、そのガラス戸の中に登録証はありました。

案内板によると、１３時４０分に到着する便があるようです。
もうすぐなので、到着された乗客で混雑する前に、退散することにしました。

次は、ここからすぐ近くにある “道の駅たかのす” です。
ここも、楽しみにしていることがあります。

大太鼓を叩く快感！“たかのす”

大館能代空港から10分ちょっと走って

道の駅たかのす へやってきました。

ここも空港と同じく “北秋田市” になりますが、その中の “綴子（つづれこ）地区” といいます。
ここには東北地方で最も古い八幡宮といわれる “綴子神社” があります。

綴子神社では、７００年の歴史をもつ “八幡宮綴子神社例大祭” が毎年７月１４・１５日に開催されますが、そこにある巨大なものが登場します。

それが直径３ｍを超える 「大太鼓」 であり、その現物がこの道の駅にあるのです。

これが “大太鼓の館” という建物で、国内で唯一の大太鼓の博物館です。

道の駅の本体の建物はここではないのですが、私が一番楽しみにしていたので、こちらを先に紹介させていただきます。

この施設は有料で、大人は４２０円です。
受付で 「写真は撮っても良いのですか？」 と尋ねると、自由に撮って構いません、という返事でした。

これはロビーに置いてあったタイの太鼓で、“クローンエー” といいます。

タイ北部の寺院などで主に使われ、例えばお寺での会合や儀式、それに食事の時間を僧侶たちに知らせる時に叩かれます。
あとからも紹介しますが、ここには世界４０か国から１４０個あまりの太鼓が集められています。

最初の部屋は真っ暗で、映像で祭りの様子を紹介しており、丁度始まったところでした。

これが最初に紹介した、７００年の歴史をもつ“八幡宮綴子神社例大祭”の様子です。
巨大な太鼓の上に人が乗って、下向きにバチを使って叩いているのがわかりますね！

映像を見終わって次の部屋に進むと、そこに祭りで使われていた大太鼓の現物がありました。

ここには直径が２ｍを超える大太鼓が６基あり、その最大のものは直径３．８ｍ、胴の長さが４．５２ｍ、重さが３．５トンあります。

２番目に大きいのが直径３．７１ｍなのですが、こちらの方は平成元年に「牛の一枚皮使った世界一の和太鼓」ということで、ギネスブックに認定されました。

これがギネス記録の大太鼓です。
直径３．７１ｍと書いてありますね！

この世界一の大太鼓、叩いてみたいと思ったのですが、さすがにそれは禁止されていました。σ(^_^;)
でも、それよりもう少し小さな、この太鼓があったのです。

これでも随分大きいのですが、ここには「自由にたたいて下さい」と書かれて、バチもあります。
思い切り、叩いてきました。:*:・(￣∀￣)・:*:

映像で聞いた大太鼓の音よりも、こちらの方がずしんとお腹に響いてきます。
太鼓の音は昔から好きなのでいつか自分で叩きたいと思っていたけど、夢が叶いました。(⌒▽⌒)

北九州の小倉祇園太鼓のリズムで叩いてみたりしたけど、あんまりうまくはできない！
自分が叩いている勇壮な（笑）姿を写真に撮ってなかったのが心残りです。

ここにはご覧のような、昔の衣装も展示されています。
そして更に奥へ進むと、そこが “世界の太鼓” の展示室です。

本当に不思議な太鼓が世界にはたくさんあるし、一部はスピーカーから太鼓の音が流れるものや、自分で叩いても構わないものも展示されていました。

さて次は、道の駅の本体を紹介しましょう。

これがメインとなる “大太鼓の里ぶっさん館” です。
道の駅スタンプはここにありましたが、いつも写真に撮る登録証は見当たりませんでした。

店の奥に “太鼓まんじゅう実演販売中” の文字が見えますが、この道の駅の名物です。
そして反対側の奥が “レストラン「どんどん」 ” です。

この物産館の他に、別の建物がもう一つありました。

ＪＡの産直市場です。
これは私が７年前に来た時には無かったものです。

道の駅に置いてあったチラシに配置図が描かれていたのですが、今紹介した施設の他に、“情報プラザ” というのが物産館の裏側にあったようです。

気が付かずに行ってないけど、道の駅登録証はそこにあったのかもしれません。

たかのすから更に東へ進み、この日の最後の訪問地である

道の駅こさか七滝 にやってきました。

この道の駅、前回来たのは２０１０年６月２４日です。
実はその時、突貫工事の真っ最中でまだ全部の建物は出来上がっていなかったのです。

正式オープンはその１０日後でしたから、事実上は今回が初訪問ということになります。

この道の駅がどこにあるかをまずご説明しておきましょう。

秋田県と青森県の境にある “十和田湖” をご存知だと思いますが、その十和田湖と東北自動車道の小阪ＩＣを結ぶ “樹海ライン” というのがあります。

その樹海ラインの途中、十和田湖から車で約２５分の位置にあります。
樹海ラインはその名の通り自然そのままの森林を走り抜けてゆくルートで、この道の駅もその大自然の真っただ中にあります。

“秋田県鹿角郡小坂町（かづのぐんこさかまち）” は、かつて “小坂鉱山” で栄えた町です。

江戸時代末期に発見されたこの鉱山は、明治後期には栃木県の足尾銅山、愛媛県の別子銅山に並ぶ日本三大銅山の一つとして、日本の産業発展に貢献しました。

のちに日立鉱山を経て日立製作所を創業した “小平浪平” も、元々は小坂鉱山で活躍した人物です。
現在の小坂町には、“明治の近代化産業遺産” に指定された “小坂鉱山事務所” が残っています。

道の駅のパンフレットからこの付近の地図のイラストをお借りしました。
十和田湖方面に向かって左側に、３つの施設があります。

一番手前が道の駅の本体となる“休憩所・トイレ”の建物です。
外観もこれだけ大きいのですから、中は広々としています。

畳のスペースもあって、ゆっくり休めるようになっています。

そしてその隣には、産直センターである“ハートランドマーケット”と、 食事処＆土産店の“滝の茶屋 孫左衛門”という２つの建物が並んでいます。

小さな産直センターの建物に“ハートランドマーケット”というネーミングは不釣り合いな気がします。
中の様子が次の写真です。

そして一番右端には、食事処と土産店の建物があります。

“滝の茶屋 孫左衛門”という名前は、この道の駅のシンボルである“七滝”にまつわる伝説に登場する、昔この地に住んでいた大地主の名前です。

土産コーナーの写真だけですが、この奥が食事処です。
一通り回った後、産直センターのおばさんに、「七滝って、どこにあるのですか？」と尋ねてみました。

人のよさそうなおばさんは、「ほら、この道の向こう側ですよ、見に行ってごらん！」と指さしま

した。
「七滝っていうのはね、滝が７段になって落ちているからですよ」 とも教えて頂きました。

私はてっきり、７つの滝があるのかと思っていたけど違っていました。

樹海ラインの道路を渡ると、そこは広い公園になっています。
この標識にあるように、落差は６０ｍあって、“日本の滝百選” にも選ばれているようです。

滝の手前には、ご覧のような水車小屋がありました。
その先に鳥居があり、それをくぐって橋を渡ると、七滝の真下に出ます。

この滝、７段になって落ちてくるのでそれだけ水しぶきも激しく、迫力があります。

この激しい滝を昔の人は “龍の化身” と考えました。
先ほどの食事処の名前にもなっている “孫左衛門” という大地主は、龍の逆鱗に触れ病の床につくのですが、その後反省し、滝のそばに神社を建て、自分の罪を償いました。

それがこの、滝のそばにある “七滝神社” です。
今も地元の人たちによって大切に守られています。

さて、３日目の予定はこれで終了しました。
明日以降は、岩手県を回ります。

東北自動車道の小坂ＩＣまで戻り、ここから一気に花巻市まで南下します。
その距離は１４５ｋｍ、１時間５０分かかって、既に暗くなった１８時１５分にホテルに到着しました。

※３日目に走ったルート（google mapの自動記録）

この日の走行距離：４２１ｋｍ

みちのく旅の４日目は

道の駅遠野風の丘 からスタートです。

前日は “いわて花巻空港” 付近のホテルに宿泊しましたが、４日目の今日は、まず岩手県を横断して太平洋側の “三陸海岸” に出ます。
それを海岸沿いに南下して宮城県に至るルートです。

この三陸海岸のルートは、６年前の東日本大震災で甚大な被害を受けた被災地です。
私は震災の翌年にこの付近を回って、その悲惨な爪痕を直に見ていますので、それがどこまで復興したのか確かめたい、という思いもあります。

花巻から太平洋側の釜石までには途中３カ所ほどの道の駅がありますが、ここ “遠野風の丘” は是非もう一度見てみたいと思い、立ち寄ったものです。

駐車場の端に、この道の駅のシンボルともいえる風車が回っています。
でも、この風車、普段見るものと少し形が違いますね！

羽根の部分を拡大してみましょう。

これは “スパイラル マグナス風車” といい、全国に３つしかない次世代型風力発電装置です。

羽根の形がねじ巻き棒になっており、この形状によって回転するのだそうで、その安全性、効率性は米国ＮＡＳＡの風洞実験で実証済みです。

この道の駅の “風の丘” という名前の通り、この遠野地区は “寒風（さむかぜ）” といって、とても風が強い場所です。
この風車で一般家庭の９戸分の電力を生み出しますので、道の駅の施設の照明や冷暖房を、この風力発電で賄っています。

道の駅全体はご覧のような配置ですが、建物はとっても大きいので一度に写真に撮れません。
道の駅のパンフレットから、全体のイラストをお借りしましょう。

（道の駅パンフレットよりイラスト借用）

ご覧のようにいくつもの建物の集合体になっています。
道の駅のパンフレットにも写真があるように、この道の駅、たくさんのお花が並んでいます。

お花の量が凄いです。
これは切り花ですが、玄関前の広場には鉢植えのお花や苗が所狭しと並んでいます。

先ほどと逆の方向から写した写真ですが、下の大漁旗のある建物は、“漁師の魚屋”といって三陸の大船渡で水揚げした魚介類を直売するお店です。

では、建物内に入ってみることにしましょう。

道の駅登録証の他に、ご覧の『全国モデル「道の駅」』の選定証がありました。

国土交通省が選定する『重点「道の駅」』　というのは２６年度に３５か所、２７年度に３８か所選ばれていますが、この『モデル道の駅』というのは全国に６か所しかありません。

■全国モデル「道の駅」
①「遠野風の丘」（岩手県　遠野市）
②「もてぎ」（栃木県　茂木町）
③「川場田園プラザ」（群馬県　川場村）

④「とみうら」（千葉県　南房総市）
⑤「萩しーまーと」（山口県　萩市）
⑥「内子フレッシュパークからり」（愛媛県　内子町）

ですから、全国１１１７か所（１０月現在）の道の駅のなかの、トップクラスといえると思います。

先ほどの写真の左下に『ＴＯＰ３０』というパネルがありますが、これはトリップアドバイザーが主催した　『口コミで選ぶ“行って良かった”道の駅』で、トップ３０位までに入ったというものです。

この写真は道の駅の正面玄関から入った“エントランスホール”で、この右手に“産直・物産ホール”があり、左手は“レストラン風車”です。

先に物産ホールをちょっとだけ覗いてみましょう。

ここには河童のぬいぐるみがたくさん並んでおり、河童に纏わるＴシャツ、靴下、タオル、小銭入れ、お菓子などと、何でも河童づくしになっています。

この“遠野地区”は、柳田圀男氏がこの地方の民話や伝説をもとに編纂した“遠野物語”の舞台です。
その遠野物語に登場する、河童、座敷童子、天狗などが遠野地区の主役なのです。

５年前に私がここで買ったものあります。

“カッパ捕獲許可証”です。（笑）
でも、有効期限が１年なので、もう使えません！

さて、この道の駅で私が見たいものがもうひとつあります。
道の駅の裏手に“展望デッキ”があるのですが、前回来た時は知らずに見ていないのです。

（道の駅ＨＰより、施設案内図の画像を借用）

インフォメーションにおられた女性に尋ねると、エントランスホールの奥に“休憩ホール”があり、そこから外の展望デッキに出られるということでした。

道の駅自体が少し小高い丘の上にありますから、そこからは遠野地区の田園風景が広がります。

遠くに川が見えるのは “猿ケ石川” です。

道の駅のすぐ下には、道路に沿って “ＪＲ釜石線” の線路が走っています。
この線路を土日祝日だけ通るものがあります。

それがこの “ＳＬ銀河” です。
道の駅の展望デッキは、このＳＬ銀河を眺めたり写真を撮るのにうってつけの場所です。

民話のふるさと遠野の田園風景を背景に、ＳＬが煙を吐いて走る姿を見てみたい気がしました。

明治の産業革命遺産！“釜石仙人峠”

遠野から三陸海岸方面に４０分ほど走り

道の駅釜石仙人峠 にやってきました。

ここは釜石自動車道（仙人峠道路）の “釜石西ＩＣ” を下りて国道２８３号と交差する角にあります。
今年（２０１７年）４月にオープンしたばかりの新しい道の駅です。

“岩手県釜石市” は、新日鐵住金の釜石製鐵所がある、“鉄のまち” として有名です。

この道の駅、意外と小さいです。
道の駅パンフレットから案内図を見てみます。

ご覧のように、売店食堂の建物と、トイレだけのシンプルなものです。

“仙人峠” というのは、釜石市と遠野市の境にあり、新緑や紅葉の名所として知られています。
私が走ってきた釜石自動車道も、この付近は “仙人峠道路” と呼ばれます。

道の駅の玄関を入ると、フロアマットはラグビーのイラストでした。
釜石といえば、やっぱり “新日鉄釜石ラグビー部” ですよね！

釜石市民の誇りなのだと思います。

入口にはハロウィンの飾り付けが・・・・！

狭いスペースですが、こじんまりと纏まっています。
食事処では、特に “釜石ラーメン” が人気なのだそうです。

道の駅の前に、こんな看板がありました。
「橋野鉄鉱山」　の紹介です。

釜石は “近代製鉄発祥の地” といわれます。
江戸末期の安政４年（１８５８年）にこの地に洋式高炉を建設し、磁鉄鉱の精錬に成功したのが近代化のはじまりです。

その後、橋野鉄鉱山の経営がスタートし、以来 「日本製鐵」　「富士製鐵」　「新日鉄」　「新日鉄住金」　と会社名は変わるけど、“鉄のまち”　としての歴史を繋いできました。

創業期の “橋野鉄鉱山” の跡地は 「現存する日本最古の洋式高炉跡」 などが評価され、２０１５年７月に　“明治日本の産業革命遺産” の構成資産の一つとしてユネスコ世界文化遺産に登録されました。

釜石には、それらを紹介する “鉄の歴史館” があり、旧釜石鉱山事務所などの史跡も残っています。

さて、次はいよいよ太平洋側に出て、三陸海岸を南下します。

三陸海岸復興中！“さんりく”

次は三陸海岸に出て

道の駅さんりく　に向かいます。

釜石仙人峠の道の駅をでて市街地に入ると、新日鉄住金釜石のでっかい工場が並びます。
それを過ぎ、まもなく海が見えてきて三陸海岸に出ますが、ここからはリアス式海岸を横目に見ながら、国道４５号を南下します。

この付近は現在、“三陸復興国立公園” になっています。

私は震災の翌年、２０１２年６月にこの辺りを回りました。
本当はその前年、２０１１年４月に行く予定で、既に航空機、ホテルなどすべての予約が済んでいたのですが、１か月前に震災が起き、キャンセルしたのです。

その時に泊まる予定だった、宮古市の “浄土ヶ浜パークホテル” も甚大な被害を受けましたが、約１年後にリニューアルオープンを果たしています。

この “道の駅さんりく” は、５年前来た時も、あまり大きな被害はなく普通に営業をしていました。
この道の駅は、標高が１７０ｍありますから、津波もここまでは及ばなかったようです。

５年前にこの三陸海岸を走った時は、建物の土台だけが延々と果てしなく続き、至る所にがれきの山が築かれ、まだ手付かずの破壊された鉄筋の建物もたくさん残っていました。

それはさすがに今回はほとんどありません。
代わりに、道路沿いに建つ、真新しい大型店舗が目立ちました。

もう一つ気が付くのは、とにかく工事用トラックの往来が多い！
確実に復興に向かって進んでいるのだと実感しました。

この道の駅は比較的シンプルです。
この日は、外のトイレの改修とかで、工事用の車両が何台も停まっていました。

ご覧の通り、建物としては 「海の恵み体験施設」 の一つだけです。

ここ “大船渡市三陸町” は、アワビ、ホタテ、ワカメ、牡蠣など魚介類の一大産地です。
特に “キッピン（吉浜）アワビ” は世界的なブランドとして知られています。

そして三陸のお土産といえばこれです。

“かもめの玉子” というお菓子なのですが、５年前にこの道の駅で買って帰ったらとっても美味しかったし、土産としても喜ばれたので、今回も買い込みました。（＾▽＾）

次は、前回来た時に津波で完全に破壊されたままになっていた、“高田松原” が今どうなっているかを見に行きます。

東日本大震災の遺構として残る！“高田松原”

次は震災で大きな被害を受けていた

道の駅高田松原　の現在の様子を見に行きました。

私が５年前にこの被災地付近を回った時、最も強いショックを受けたのがこの道の駅でした。
鉄筋コンクリートでできた、このでっかい道の駅の建物が完全に破壊されたままだったからです。

そして周辺には同じように破壊されたホテルもあり、この道の駅から宿泊の気仙沼に行く途中には、
テレビのニュースでは見たことのある、あの巨大な船舶が道路の横に残されたままでした。

※その時の記事　→　岩手・宮城の旅：無残な廃墟！“高田松原”

その道の駅が、今はどうなっていたかというと　・・・・・・

正に、５年前と同じ、つまりは津波を受けた時のそのままの状態で残されていました。
道の駅の敷地への入口には、こんな看板が立っていました。

この真ん中にあるように、「旧道の駅高田松原タピックス４５」 は、“震災遺構”として、建て直しも撤去もせず、津波の恐ろしさを後世に伝える為、そのままの状態で残すことが決まったのです。

道の駅高田松原は平成３年に整備され、敷地面積が４ｈａにも及ぶ東北有数の道の駅でした。
この建物自体が、「津波避難施設」 としての役割も担っていたのです。

駐車場では地域の祭りなどのイベントも開催され、夏場は日本百景 「高田松原」 を訪れる海水浴客で特に賑わっていました。

２０１１年３月１１日に発生した津波は１４．５ｍに達し、建物の上部をわずかに残して水没しました。

３名の方が屋上に駆け上がって、かろうじて難を逃れたのだそうです。
幸いなことに、この建物にいた人の中からは、一人の犠牲者もでていません。

建物の外壁は残ったものの、内部は先ほども写真を見て頂いた通りです。

コンクリートのがれきの手前、斜めに走っているのは何かお分かりでしょうか？
流れ込んできたマツの巨木です。

先ほどの看板に書いてあったように、ここにはこの “震災遺構” だけでなく、“追悼施設” と “復興まちづくり情報館” があります。
この二つは、５年前には無かったものです。

これが “東日本大震災追悼施設” で、中に慰霊碑があります。
私たちもここで手を合わせてきました。

その横には、ご覧のような石碑が並んでいます。
更にその奥にあるのが、“陸前高田復興まちづくり情報館” です。

ここは無人なのですが、自由に入って見学することができます。
中は、被災の様子などがパネルや映像で見れるようになっています。

そこの中央に展示されていたものがこれです。

高田松原に７万本あったマツは、奇跡の１本を残してすべて消失しました。
その “根株” の一つを掘り起こしたものがこれで、これは逆さに展示されています。

高田松原のマツは、これから長い時間をかけて再生してゆく予定なのだそうです。

そしてもうひとつ展示されていたものがこちらです。

こちらは、“復興計画” に基づく、復興後の町の姿です。

今回、三陸海岸の中間地点、釜石からずっと走ってきて、道路沿いはほぼ整備が終わっていて工事中の箇所はあんまり見かけませんでした。
でも、この陸前高田付近は、正に復興工事の真っ最中、といったイメージを持ちました。

大きな重機が動き回り、土砂などを満載したトラックが頻繁に入って行きます。
先ほどの模型にあるような、災害に強い町づくりが今、正に進んでいるということです。

道の駅の海側には、５年前には無かった、巨大な防波堤が出来上がっていました。
震災から６年半、時間はかかるけど、確実に町の復興は進んでいると実感しました。

次も津波で大きな被害に遭った

道の駅大谷海岸（おおやかいがん）　のレポートです。

６年前の東日本大震災で大きく被災した道の駅は、全部で６カ所ありました。

岩手県の「みやこ」　「高田松原」　、宮城県の　「大谷海岸」　、福島県の「よつくら港」が津波被害を受け、福島県の　「ならは」　「南相馬」は原発事故による被害です。

この内、前回ご紹介した「高田松原」と「ならは」が今も再開できず、「休館中」となっています。
それ以外の４か所は既に通常営業を行っていますが、ここ大谷海岸もそのひとつです。

上が店舗、下はトイレの建物ですが、店舗は元々「農林水産物直売センター」として道の駅の本体とは別にあったものです。

その本体であった「はまなすステーション」は、ＪＲ気仙沼線の「大谷海岸駅」を兼ねていました。
そのステーションの、５年前に来た時の写真が次の２枚です。

前回ご紹介した「道の駅高田松原」と同様、建物の内部は完全に破壊されていました。
この場所で、１５ｍの津波が襲ったのだそうです。

その建物が今回どうなっていたかというと、全く跡形もなく撤去されていました。
その跡地には、３体の地蔵様が祀られていました。

ここに書いてあるように、国道を挟んだ高台には慰霊碑があり、お参りする人の姿が見えました。

この地にはかつて “はまなす公園” があり、夏場は “大谷海水浴場” で泳ぐ人たちで賑わい、大谷海岸駅は 「日本一海水浴場に近い駅」 と言われてきました。

その駅は、今もまだ復興していませんでした。

代替の交通手段としては、ＪＲバスが運行しているようです。

そして道の駅から見える海岸線の風景も、５年前とほとんど変わっていません。

浚渫などをしているようですが、海岸の手前には、黒い土嚢が積み上げられています。
松原も砂丘も消失してしまったからなのだそうです。

道の駅には頻繁に車が停まって人が出入りし、活気がありました。
それが何よりもの救いだと思いました。

次回はこれら被災地を外れますので、この三陸海岸沿いの道路で頻繁に見かけたものを、最後にご紹介しておきたいと思います。

これは海抜が一定の高さを下回ると表示されるのだと思います。

低くなると　「Start」　の看板が出て、戻れば「End」が表示されます。

これがあれば他地域から来た人にもわかりますから、とても良い取り組みだと思います。

４日目の最後に訪れた場所は

道の駅三滝堂（みたきどう）　です。

三陸海岸を離れて内陸部に入り、道の駅大谷海岸から５０分ほどで到着しました。

ここは“宮城県登米市（とめし）”になりますが、道の駅は今年（２０１７年）４月１日にオープンした、宮城県で最も新しい道の駅です。

道の駅はご覧のような農村地帯にあり、道の駅へのアプローチも新しく作られた道を通ります。
今年オープンなのでナビにも情報はなく、住所で登録したら手前で細い道に誘導されてしまいました。

農作業をしていたお婆さんに道を尋ねると、“どこから来たの？”と逆に質問され、九州からだと話すと、随分感激されてしまいました。

そのお婆さんの的確な説明で無事に到着！

ここは“三陸縦貫自動車道”の“三滝堂インターチェンジ”に隣接しており、木材を組み合わせこの道の駅のシンボルの裏にインターへの案内板が見えます。

そのシンボルタワーの向こう側に、金網のフェンスが見えると思います。

それがこの“ドッグラン”で、大型犬用と小型犬用に分かれています。

道の駅の敷地はとっても広くて、このようなドッグランとか、緑地広場、イベント広場などがあります。

ここで面白いのを見つけました。

ワンちゃん用の水飲み場のようです。
至れり尽くせり、ですね！

そしてもう一つ、ここで特徴的な施設として、“ＲＶパーク”が備わっています。

道の駅には８１台分の駐車スペースがありますが、その一角に「キャンピングカー等滞在施設」としてのＲＶパークが、６台分作られています。

通常の駐車スペースよりかなり広く、それぞれに“電源”のコンセントが備わっています。
この日は泊まっている車はありませんでしたが、時代の先端をゆく道の駅かな？と思いました。

これが、ＲＶパークのスペースから見た道の駅の外観です。

道の駅にあったチラシから、まず配置図をご覧頂きます。

文字の部分は見えにくかったので加筆しています。
左から、コンビニ、フードコート、物産販売コーナーと並んでいます。

では、中に入ってみましょう。

ご覧の写真が“フードコート”です。
宮城県らしく、“牛タン丼”などの定番メニューが旨そうです！

これらの建物の隣りにあるのが、“情報提供施設” で、こちらは休憩室やトイレを兼ねています。

休憩室というより、駅や空港の待合室のような雰囲気です。

三陸海岸は離れましたが、ここ登米市もやはり震災の被災地です。
その時に被害に遭った品物が、ガラスの陳列に保管されていました。

壊れた国道の標識があり、時計は 「１４時４５分」 で止まっています。
他にも色んなパネルが貼ってあります。

最後にもう一つ、ここのトイレはとっても綺麗です。

入口にはご覧のような、日本庭園風の飾りつけもあります。
トイレを済ませて一度出たけど、カメラを持って、もう一度写真を撮りに戻りました。（笑）

これで４日目が終わり、いよいよ明日は最終日です。
平泉の新しい道の駅が残っているので、そこに近い “一関インター” 近くにこの日は泊まりました。

※４日目に走ったルート（google mapの自動記録）
この日の走行距離：２５４ｋｍ

大渓谷の迫力！“厳美渓”

いよいよ最終日となり、宿泊した“岩手県一関市”の同じ市内にある

道の駅厳美渓（げんびけい）

に最初に立ち寄りました。

市内にあるホテルを出て、わずか１０分で道の駅に到着しました。

この道の駅の最大の特徴は、歩いて５～６分程度の場所に岩手県の有名な観光スポットの一つである“厳美渓”があることです。
ここも２回目ですが、再度立ち寄った理由は、厳美渓をもう一度じっくり見たかったからです。

道の駅本体は以前にもレポートしていますので、それはざっくりと紹介するだけにしたいと思います。

手前の建物が“おみやげ・民芸品・休憩コーナー”で、奥が“産直野菜・レストラン”の建物です。

最初にお見せした道の駅標識に“もちと湯の郷”という文字がありましたが、一関市には３００種類を超える日本一のもち食メニューがあり、ここのレストランではその中の選りすぐりを提供しています。

では、土産コーナーに入ってみます。

ごく簡単ですけど道の駅の紹介はこの位にして、車を道の駅に停めたまま厳美渓まで歩きます。

道の駅に隣接して博物館がありますが、その先の信号を左折すると厳美渓はすぐです。

ではまず、その渓谷の迫力ある流れを最初に見て頂きましょう。

この川は“磐井川（いわいがわ）”といい、北上川支流の１級河川で栗駒山を水源とします。

その栗駒山の噴火によって堆積した岩石を磐井川の急流が浸食し、このような奇岩、瀑布、深淵が誕生したもので、この約２ｋｍの厳美渓は「国の名勝及び天然記念物」に指定されています。

これが厳美渓に建っていた案内看板で、右上に道の駅があります。
渓谷には３本の橋が架かっており、一番下流（右端）の橋は吊り橋です。

これらを巡る遊歩道が整備されていて、３０分周遊コースや７０分周遊コースがあります。
私たちも、ちょっとだけ歩いてみました。

所々に休憩用のベンチもあり、また途中で厳美渓の激しい流れを覗き込むこともできます。
それから、もう一つだけ紹介しておきたいものがあります。

岩盤の上に休憩用の東屋が建てられています。

そのすぐ向こうが渓谷の急流なのですが、対岸の少し高いところにある建物との間に、ワイヤーが架かっているのが見えますでしょうか？

これが実は、“空飛ぶ団子”いいます。

ワイヤーに籠がぶら下がっているのがお分かりかと思います。
籠にお金を入れ合図の板を叩くと、対岸のお店がワイヤーを引っ張り、団子とお茶が戻ってくるのです。

団子はあん、ごま、みたらしの３本セットで、団子の数はそれぞれ５個です。
対岸にあるこのお店は “かっこう屋” という茶屋さんで、空飛ぶ団子は正確には “郭公（かっこう）団子” といいます。

この販売方式を考案した初代店主 「千葉酉吉」 がカッコウの鳴きまねが上手だったことが名前の由来といわれています。

５年前に来た時は時間がなくて車のなかから渓谷を見ただけだったので、今回はリベンジができました。

黄金花咲く理想郷！“平泉”

次は、今回の旅で最後の目的地である

道の駅平泉　にやってきました。

道の駅平泉は、今年（２０１７年）４月２７日にオープンしました。

“岩手県平泉町” はご存知のように “中尊寺” や “毛越寺” などのある世界遺産の町です。
奥州藤原三代による黄金文化で栄えた町であり、道の駅にも 「黄金花咲く理想郷」 という愛称がつけられています。

道の駅はその中尊寺まで３ｋｍ、毛越寺までは２ｋｍという、正に世界遺産に囲まれた場所にあります。
厳美渓からもわずか１５分ほどで到着しましたから、恵まれた立地にあると思います。

これは駐車場から見た道の駅の正面です。
でも、これを横から見ると、ちょっと形がいびつです。

これは、左側面からの写真ですが、随分細長いですね。
この中央付近にも、別の入り口があります。

建物の全景がどんな形をしているのか、パンフレットの配置図を見てみましょう。

なんと、上から見ると “鋭角三角形” になっていました。
この三角の長辺に沿って、国道４号が走っているからなのです。

私たちは正面ではなく、この裏側の玄関から中に入ってみました。

これが “エントランスホール” なのですが、天井が高くて とっても開放感があります。
それに新しいだけあって、いろんなものがお洒落です。

天井からぶら下がったこの和傘が素敵です。
私はトイレには入らなかったのですが、嫁によるとすごくきれいだったと感心していました。

災害時には、道の駅全体が防災拠点、物資集積・輸送拠点、交通拠点として機能するように設計されており、災害用トイレとして使う “防災広場” も用意されています。

ここのインフォメーションには、さすが観光地だけあって世界遺産に関する資料が揃っています。
大型モニターが２台あってそれぞれ道路情報や気象情報が流れています。

更に、写真の右手にちょっと見えていますが、ここでは “ペッパーくん” が案内をしてくれます。

私のような “オジサン” はペッパー君に話しかける勇気がないのですが、やはり若い人には抵抗がないらしく、普通にロボットとおしゃべりをしています。

いずれ歳をとったら、ロボットが介護をしてくれるかも知れないから、今のうちに慣れる必要があるのかもしれないですね！(;^_^A

物産館で少しだけ買い物をしました。

さて、これで今回の旅の、目的の道の駅は回り終えました。
飛行機の時間まではまだしばらくあるので、いくつか名所を回って仙台空港に向かうことにします。

※さすがに黄金郷らしく、このスタンプは “金色” のインクでした。

ちょっとだけ観光！その①“毛越寺”

次は、観光として立ち寄った

毛越寺（もうつうじ）　の紹介です。

“平泉”を代表する観光スポットといえば、“中尊寺”と“毛越寺”があり、いずれも世界文化遺産です。
道の駅からの位置関係は、次の地図のようになります。

道の駅平泉からだと、毛越寺が約２ｋｍ、中尊寺が約３ｋｍほどの距離です。
当初はこの２か所を観光で巡る予定でしたが、時間がちょっと厳しいようです。

私は道の駅巡りを始める少し前に、観光で両方とも行ったことがあります。
その時に特に印象に残った“毛越寺”をもう一度訪れることにしました。

これが毛越寺の入口に設置してあった案内図ですが、この図の右手が駐車場です。
案内図の右上に「入り口」があります。

ここで拝観料を払って門をくぐります。

これが門をくぐってすぐの写真ですが、正面に見えるのが“本堂”です。

写真には写っていませんが、このすぐ左手に“宝物館”があり、毛越寺に伝わる平安期の仏像や、書籍、工芸品、発掘遺品、調査資料などが保管、陳列されています。

本堂でお参りをしたあと右手に進むと、毛越寺の最大のシンボルともいえる“大泉が池（おおいずみがいけ）”に出ます。
先ほどの案内図でも、中心に大きな池がありましたね。

毛越寺は“もうつうじ”と読みます。
普通、“越”は“つう”とは読みませんね！

“越”は慣用音で“おつ”と読み、“もうおつじ”が 年月を経て“もうつうじ”と変化したのだそうです。

池の周囲を歩いてゆくと、いくつかの建物があります。
この建物は　“常行堂（じょうぎょうどう）”といい、１７３２年に再建されたものです。

その途中には、“〇〇寺跡”　とか　“〇〇堂跡”というのがいくつもあります。

毛越寺は奥州藤原家の二代基衡（もとひら）公から三代秀衡（ひでひら）公の時代に多くの伽藍が造営され、往時には堂塔４０、僧坊５００を数え、中尊寺をしのぐ規模と華麗さを誇りました。

奥州藤原氏の滅亡後、度重なる災禍ですべての建物が焼失しましたが、現在大泉が池を中心とする“浄土庭園”と 平安時代の伽藍遺構がほぼ完全な状態で保存されています。

この鐘は“鐘楼堂（しょうろうどう）”といいます。
昭和５０年に、人間国宝である香取正彦氏によって造られたそうです。

“鐘つき祈願受付所”というのが横にあり、５００円の祈願料で鐘がつけるようになっているようです。

池の中に大きな岩があります。
これは“池中立石（ちちゅうたていし）”　といい、荒磯の風情を表現しているのだそうです。

毛越寺には４０分ほど滞在したあと、一気に仙台市内まで走り、次は“青葉城跡”で最後の時間調整をして仙台空港に向かいます。

ちょっとだけ観光！その②“青葉城跡”

みちのく旅も今回が最終回です。仙台市内の

青葉城跡 にちょっとだけ立ち寄りました。

平泉から一関ＩＣを経て、仙台市内まで東北自動車道を一気に走ってきました。
私は東北方面を旅する時、何度か仙台空港を利用していますが、仙台市内はほとんど知りません。

ですから今回は、最後の時間調整を兼ねて“青葉城跡”を見てみようと思ったものです。

青葉城址といってもご覧のように随分と広いのですが、私はよくわからなかったので、とりあえず“青葉城本丸会館駐車場”というのを目指しました。

上の地図で見ると、一番南側になりますね！

（青葉城本丸会館ＨＰより略図を借用）

これがその「本丸会館」周辺の案内図です。
有料駐車場に停め、入り口にあった鳥居をくぐります。

正面にあったこの神社は“宮城縣護國神社”です。
宮城縣護國神社は、かつて青葉城の本丸があった場所に、明治３７年に建てられました。

そこでお参りを済ませ、人の流れについてゆくと、随分と広い公園に出ました。

それがこの“仙台城跡”です。

仙台城、すなわち“青葉城”は、慶長年間に伊達政宗が築城し、その後約２７０年間、伊達家代々の居城として仙台藩の政治の中心として存在してきました。

明治から大正にかけ、建造物の大半が火災などにより焼失し、現在では石垣と再建された脇櫓などし

か残っていません。
もともと青葉城には天守閣が無く、それは将軍家康の警戒を避けるためだったそうです。

この仙台城跡のシンボルといえば、やはりこちらです。

“伊達政宗騎馬像” です。
これは写真などで見たことがありますが、そばに立つとさすがに威圧感があります。

この城跡がある “青葉山” は、標高が約１３０ｍほどあります。
従ってここからは、仙台平野、仙台市内を見下ろすことができます。

この公園の駐車場は夕方になると無料になります。
ここからの仙台市街の夜景を楽しむ市民たちが、大勢訪れるのだそうです。

これらの写真は、“本丸北壁石垣” と “詰の門跡” です。
これら城跡を含む青葉山公園は、全体で４１ｈａという広大なものですが、今回私たちはそのほんの一部だけを見て回りました。

でもここからの景色は本当に素晴らしかったと思います。
結局ここでは４０分ほどを過ごして仙台空港に向かい、福岡への帰路につきました。

今回の５日間の旅で訪れた道の駅は２１か所、その内の１０か所が初めての道の駅です。
これからも、新しい道の駅がある程度たまった地域に新駅制覇を兼ね、印象に残っているもう一度ゆきたい道の駅を訪ねて、旅を続けてゆきます。

■次回以降について

私は例年、冬場については地元九州を除いて道の駅巡りはしていません。
従いまして、その間は特定ののテーマに沿った道の駅の紹介をしてゆこうと考えています。
準備ができるまで、しばらくお待ちください。

※５日目に走ったルート（google mapの自動記録）

この日の走行距離：１４２ｋｍ

５日間の累計走行距離：１２８８ｋｍ

あとがき

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

私は全国制覇を目指して道の駅巡りを続けていますが、その過程をブログとＨＰで公開しています。

●ブログ「全国の “道の駅” 完全制覇の夢」：http://ameblo.jp/rs-trip/

●ホームページ「全国を巡る！道の駅紀行」：http://www.rs-trip.com/

この本はそのブログの記事を再編集したもので、この「東北夕日ライン編」が書籍化の第一号です。
これから制覇済みの地域を順に出版して参ります。

私は九州に住んでいるのに、何故最初に九州版を出さないのか、と思われそうですが
九州は最初に制覇した地域なので当時はブログを書くなどの意識もなく、写真が少ないのです。
ですから、もう一度全部の道の駅を回りなおしてレポートを作りなおそうと思っていますので、少しあとになりそうです。

ちなみに今回の 「東北夕日ライン編」 は、以下の時期に回ったものです。

青森の旅：２０１０年５月２６日～５月３０日（４泊５日）
秋田の旅：２０１０年６月２３日～６月２７日（４泊５日）
山形の旅：２０１０年９月２０日～９月２１日（１泊２日）

全国の“道の駅”完全制覇の旅　［東北編］

http://p.booklog.jp/book/18611

著者：よしだやすお
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/rs-trip/profile

発行所：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/18611

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/18611